

第17図 TH68住居跡出土土器実測図(1)



第18図 T H68住居跡出土土器実測図(2)

て堅緻である。また胴部中央辺に数条の平行叩き目が残り下方はヘラナデの調整がタテまたは横方向に認められる。

石器 16～18、16は砥石で3面に使用痕が残されている。17・18は遺構に伴ったものとは思われないが一応共伴遺物として参考までに図示した。両者は不定形石器の類で横長の剥片を利用して刃部を作り出し両面からの剥離調整を行っている。材質は頁岩である。

(2) 遺構と遺物に関する問題点

遺構

検出された遺構は竪穴住居跡2棟であるが、これら両住居遺構の相互間にみられる異同及び他遺跡の住居跡遺構との比較等をおして若干の問題点を指摘したい。

両住居跡のプランは隅丸長方形を呈しているが長軸方向に差異がみられT H68住は東西、Y D 56住は南北に傾いている。柱穴はY D 56住は4本が想定されこのうち1本だけが対角線上にのり他はやゝずれる傾向をみせている。またT H68住では主柱穴と想定されるものは発見できない。

当地域における一般的住居構造では支柱穴のうち2本が方形プランの対再線上にのることを通例とすれば若干の問題を提起することになる。カマドは夫々の住居跡に付帯されるがT H 68住では3基、Y D 56住では2基検出されこれらは時期差をもつものと推測される。T H 68住における3基の新旧関係は、北カマド→南カマド→東カマドの順であろう。またY D 56住は南カマド→東カマドへの移行と想定できる。以上からカマド付設の位置が、北または南が古く最終的には東カマドへの定着が普遍化されるものと思われる。さらにカマド位置が夫々の壁の中央に構築されず偏在する共通性をみせている。このような類例は県内に多く、土器製作にロクロ技術が定着した段階の住居構造といえる。次にT H 68住の東カマドにみられる3個の小形ピットの性格は不明であるがこれについては今後の課題として問題提起だけにとどめる。

出土遺物

出土遺物は土器を主体とし他に数点の石器がある。これらの遺物は堆積土内及び床面、カマドからの出土である。

坏は土師器、須恵器、赤焼き土器の三類である。個体数、破片数とも多いのが赤焼き土器で土師器と須恵器はほぼ同数である。土師器は内面だけに調整があり内黒処理を施こしている。また器形は内彎気味に外傾し器高もやや高い、底部は回転糸切りで二次調整は認められない。この類例は相去遺跡の坏形土器A₂類に相当するものである。須恵器はやや軟質のものが目立ち色調に白黄色または灰白色のものがある。これらは全てロクロ成形により底部は回転糸切りの切り離しに終るものである。赤焼き土器は数的に最も多いものであるがいずれもロクロ成作で内外面の調整は認められずまた黒色処理もない。

甕は小形と中形のものでほとんど占められ、成形にロクロ未使用のものが割合多く巻き上げ技法によっている。小形甕には木葉底のもの1点が含まれている。しかし甕類の時期については年代間に幅があり即答はできない。ここでは出土事例を掲げ今後の土師器甕類の編年作業の進行の中で位置づけてほしい。各住居跡の所属時期は、T H 68住が9世紀中葉、Y D 56住が10世紀中葉ごろと一応想定しておく。

土 器 破 片 数

T H 68 住 居 跡			Y D 56 住 居 跡		
種類	器 種	破 片 数	種類	器 種	破 片 数
土 師 器	坏	10	土 師 器	坏	8
	甕 (小形)	23		甕 (小形)	8
	甕 (大形)	268		甕 (大形)	85
須 恵 器	坏	7	須 恵 器	坏	4
	甕 (大形)	7		甕 (大形)	3
赤 土 焼 器	坏	24	赤 土 焼 器	坏	5

北 部 地 区

土層注記表

(I) 土色

基本土 混入土		黒 視 色			暗 視 色		視にふい黄視色			黄明黄視色		
		10Y R 2/2	10Y R 2/3	10Y R 3/2	10Y R 3/3	10Y R 3/4	10Y R 4/3 10Y R 4/4	10Y R 4/6	10Y R 5/3 10Y R 5/4	10Y R 5/6	10Y R 5/8	10Y R 6/6 10Y R 6/8
黒 視 色	極少 (1~4%)	1	14	27	40	53	66	79	92	105	118	131
	小 (5~10%)				41	54	67	80	93	106	119	132
	中 (11~25%)				42	55	68	81	94	107	120	133
	多 (26~49%)				43	56	69	82	95	108	121	134
暗 視 色	極少	2	15	28	44	57	70	83	96	109	122	135
	小	3	16	29			71	84	97	110	123	136
	中	4	17	30			72	85	98	111	124	137
	多	5	18	31			73	86	99	112	125	138
視に ふい 黄視 色	極少	6	19	32	45	58	74	87	100	113	126	139
	小	7	20	33	46	59				114	127	140
	中	8	21	34	47	60				115	128	141
	多	9	22	35	48	61				116	129	142
黄明 黄視 色	極少	10	23	36	49	62	75	88	101	117	130	143
	小	11	24	37	50	63	76	89	102			
	中	12	25	38	51	64	77	90	103			
	多	13	26	39	52	65	78	91	104			

(II) 土性

シルト質壤土: SiL — a
 シルト質埴壤土: SiCL — b
 シルト質埴土: SiC — c
 砂 壤 土: SL — d
 砂質埴壤土: SCL — e
 砂質埴土: SC — f
 砂 土: S — g
 重 埴 土: HC — h

(III) しまり

密(Tight) — T
 やや密 — T'
 中(Middle) — M
 やや疎 — C'
 疎(Coarse) — C

(IV) 堆積土の状況

粉状(極小粒状)堆積土 — P owdary soil
 粒状(小・中・大粒状)堆積土 — G ranular soil
 塊状(ブロック状)堆積土 — A ngular soil

(V) 混入物

焼土(Baked soil) — B 微量 — 1
 木炭(Charcoal) — C 少量 — 2
 その他 普通 — 3
 無し 多量 — 4

(VI) 層の形成

自然堆積: Natural accumulation — N
 人為堆積: Artificial accumulation — A

注 第19図~第40図の注記は以下の順で表示してある。

層No・層位・(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)・(VI)

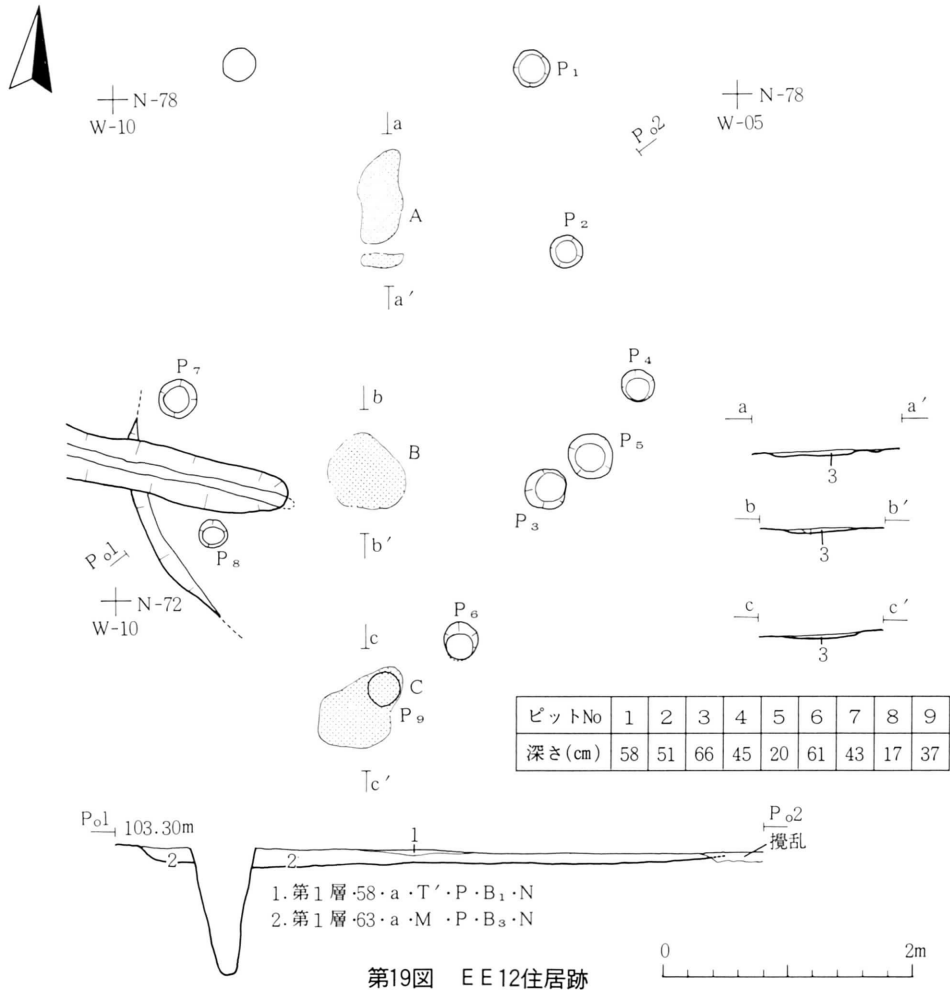
北部地区

〔 I 〕 縄文時代の遺構

1 竪穴住居跡

EE 12住居跡 (第19図)

〔遺構の確認〕 E区の中央やや西寄りに位置しており、地山面上より焼面を検出して遺構の存



在を確認した。なお、住居の平面形・規模・柱穴等は不明である。

〔重複〕 EE 091・EE 092・EE 122・EE 095・EG 121の5個の貯蔵穴状ピットと重複し、それらのピットよりも新しい。また、EF 12陥し穴状土壌とも重複し、それよりは古い。

〔堆積土〕 最下層のみ確認されており、暗褐色シルトの自然堆積層である。

〔床〕 壁は南北辺の1部でしか確認されていない。現存値で約10cmの壁高をもち、床面からの立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 11個の柱穴状ピットが検出されているが、配置形からみて明確に柱穴とすることのできるピットはみあたらない。

〔炉〕 焼面が3箇所(A・B・C)で確認されている。大きさはAが34×91cm、Bが61×60cm、Cが57×72cmの広がりをもつ。

EE 21住居跡(第20図)

〔遺構の確認〕 調査区の北端、E区のはぼ中央部に位置し、住居跡の一部は、調査区西端外に延びる。第IIa層の上面より遺構の存在を確認している。

〔重複〕 FE 151フラスコ状ピットと重複関係にあり、住居跡はそれを切って構築されている。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長9.90m、短軸長7.54mの整った楕円形を呈する。長軸方向はN-41°-Wである。また、住居内面積は約57.6㎡である。

〔堆積土〕 壁穴内の堆積土は3層に細分されるが、基本的には2層に大別される。第1層を自然堆積層、第2層を人為的堆積層(生活層)として認定した。

〔床面〕 地山まで掘り込んで床面としている。床面は南側から北側にかけてやや傾斜しているが凸凹はみられずほぼ平坦である。比較的堅い。

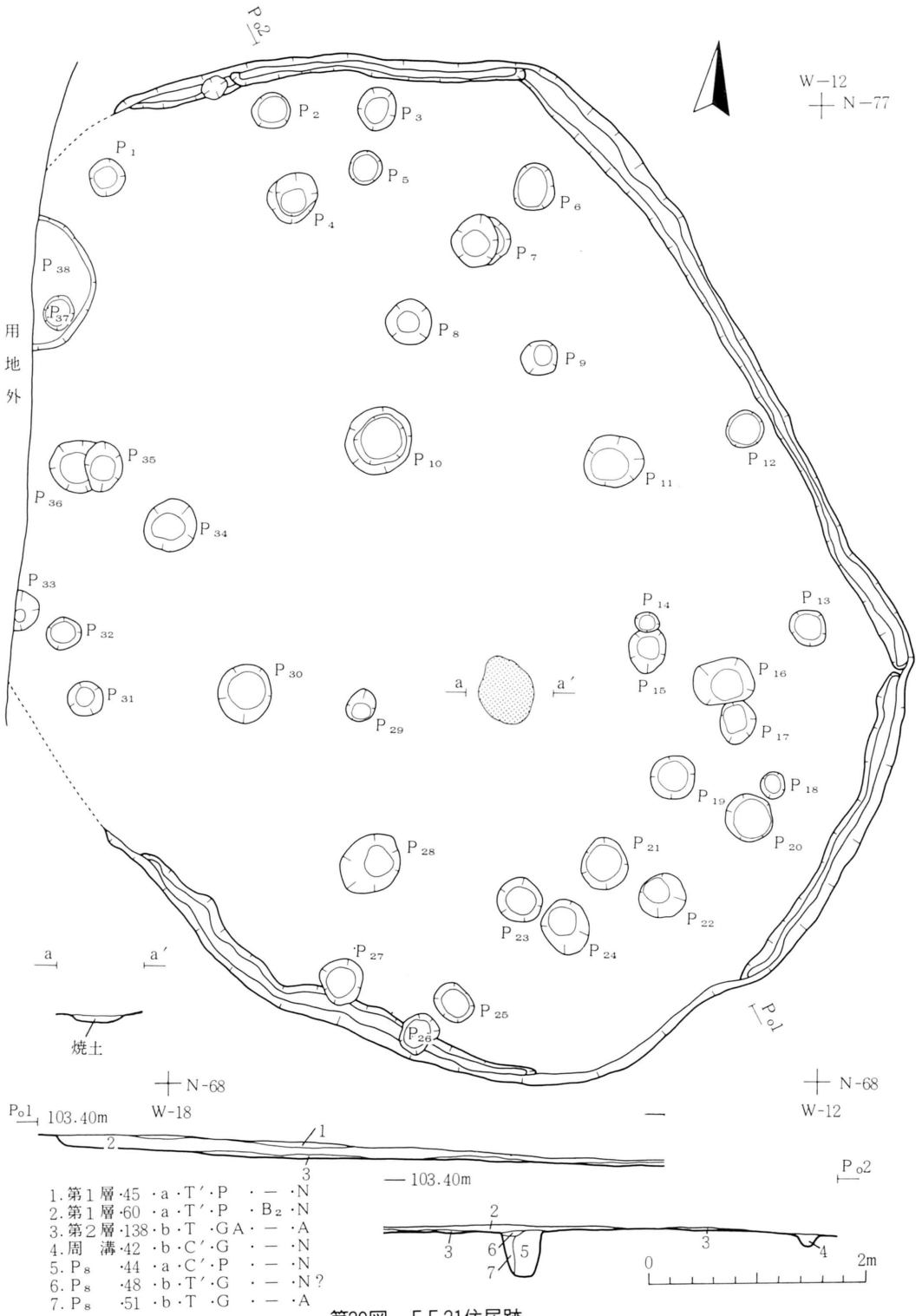
〔壁〕 地山と第Ic層を壁としている。壁は南壁のみ遺存し、その最大高は約15cmである。立ち上がり角度は比較的ゆるい。

〔周溝〕 南壁の一部を除いてほぼ全周している。幅12~28cm、深さ5~13cmを計り、断面は「U」字形を呈する。なお、周溝内からピットは検出されていない。

〔柱穴〕 床面上より合計37個のピットが検出されている。ピットの形状・規模・堆積土等から、

ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
深さ(cm)	28	44	14	95	9	4	66	43	46	95	91	8	6	21	16	92	42	6	34
ピットNo.	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
深さ(cm)	14	31	89	31	103	18	12	30	102	32	97	23	13	37	35	98	56	15	12



— 西田遺跡 —

P₄・P₇・P₁₁・P₁₆・P₂₄・P₂₈・P₃₀・P₃₅の8個が柱穴と考えられる。これらのピットは、長軸方向を対称軸として東側と西側に3個ずつ配置され、短辺中央の2個は短辺側柱より張り出して位置する。

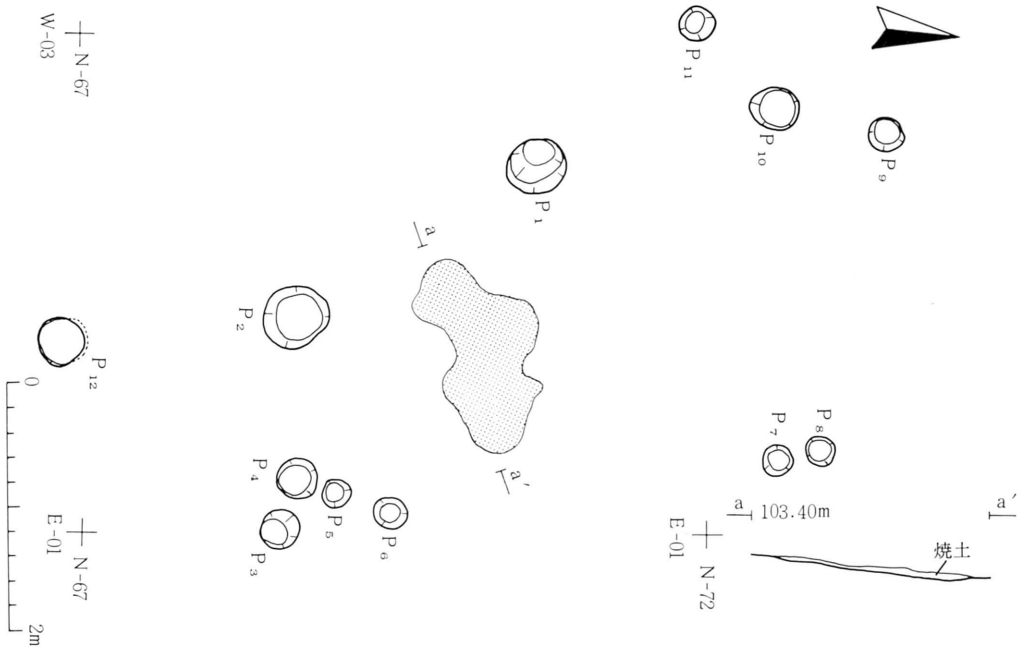
〔炉〕 床面の1ヶ所から焼面（地床炉）が検出されている。床面の中央部からは南にずれており、住居の長軸上に位置する。規模は約55×51cmである。

E F 03住居跡 (第21図)

〔遺構の確認〕 E区の中央に位置し、地山面より焼面や柱穴状ピットを検出して遺構の存在を確認した。なお、住居跡の平面形・規模・堆積土・壁・周溝・柱穴等は不明である。

〔重複〕 E F 031・E F 032・E G 034・E G 035・E H 031などの貯蔵穴状ピットと重複関係にあり、当住居跡はそれらのピットよりも新しい。

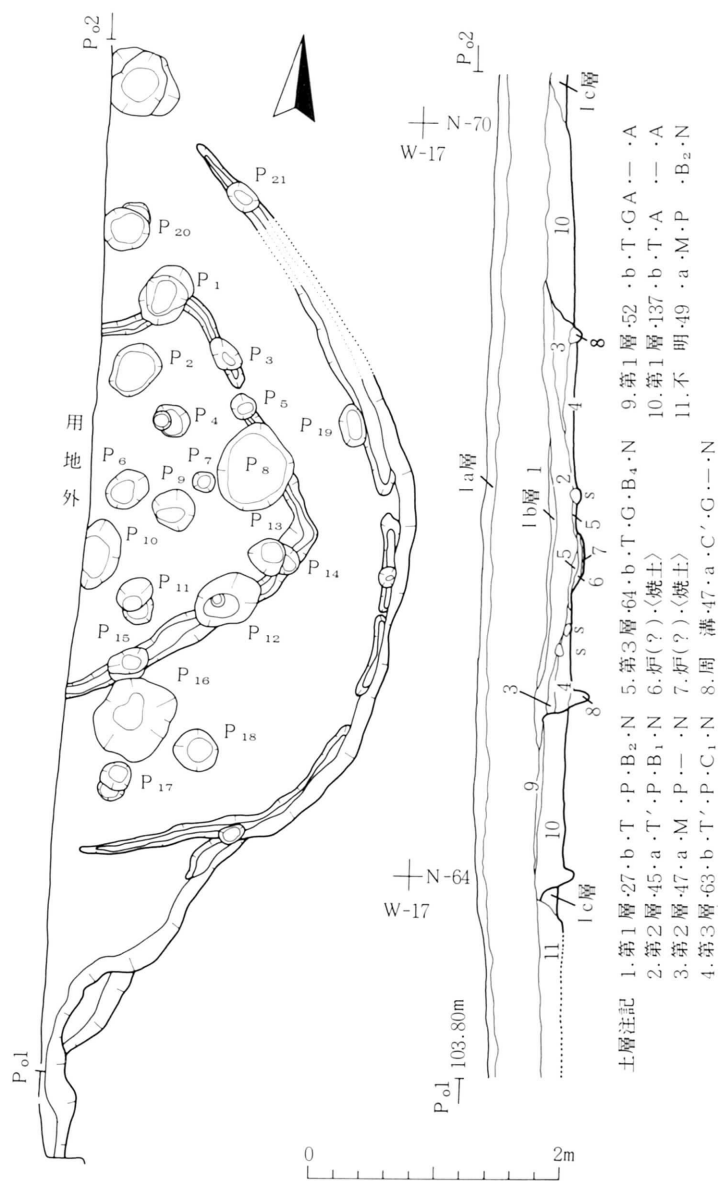
〔床〕 焼面が検出された周囲では床面がそのまま遺存しているものと思われる。床面の遺存部



ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ (cm)	76	?	94	55	38	16	20	23	68	42	?	?

第21図 E F 03住居跡



分（焼面周囲の狭範囲）の観察によれば、床面はかなり凹凸がみられ、比較的柔かい。

〔柱穴〕 かなりの柱穴状ピットが検出されているが、大きさ・深さ・堆積土・配置形などから検討したが明確に柱穴とすることのできるピットは確認されていない。

〔炉〕 焼面が1ヶ所検出されている。比較的堅く焼けており、162×71cmの広がりをもつ。

EG21住居跡（第22図）

〔遺構の確認〕 G区中央西端に位置し、第1c層中より遺構の存在を確認した。住居の大半が調査区外に延びるため平面形・規模・柱穴・炉などは不明である。

〔重複〕 EH21住居跡と重複関係にあり、中央部がそれによって切られている。

〔平面形・規模〕 とともに不明であるが、平面形は南北に長い楕円形を呈する可能性が強い。

ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	72	21	9	75	51	12	64	73	16	11	38
ピットNo.	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
深さ(cm)	64	58	49	43	16	70	90	17	50	7	32

第22図 EG21・EH21住居跡

－ 西 田 遺 跡 －

〔堆積土〕 住居内堆積土は単層となり、人為的堆積層と思われる塊状混合土である。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で比較的堅い。

〔壁〕 第Ic層と地山を壁としている。住居の全体プランは地山面上で検出したため壁はほとんど残存しない。東辺の遺存部分、および埋土断面の観察によれば壁高は20cm弱になる。壁の立ち上がり角度は極端にゆるい。

〔周溝〕 調査区内に限ればほぼ全周している。幅約10～22cm、深さ約3～7cmとなり、断面形は「U」字形を呈する。周溝内からは4個のピットが検出されている。

〔柱穴〕 床面上には、E H 21住居跡のそれと合わせて多数のピットが検出されているものの柱穴と断定できるものはみあたらない。配置形が不明のためいずれも柱穴と断定できない。

〔炉〕 調査区内には炉が検出されていない。

E H 21住居跡（第22図）

〔遺構の確認〕 E区中央西端に位置し、第Ic層中より遺構の存在を確認した。なお、住居の大半が調査区外に入るため、平面形・規模・炉・柱穴等は不明である。

〔重複〕 E G 21住居跡と重複関係にあり、当住居跡はそれを切って構築されている。

〔平面形・規模〕 周溝の平面形が方形を呈することからみて、住居跡のプランは正方形を呈する可能性が高い。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凹凸がみられ、比較的堅い。

〔壁〕 E G 21住居跡の堆積土を壁としている。調査時に削平しており、ほとんど遺存しない。埋土断面の観察によれば、20cm内外の壁高をもち、壁の立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 調査区内に限れば全周している。幅約10～22cm、深さ約3～15cmを計り、断面形は「U」字形を呈する。なお、周溝内からは8個のピットが検出されている。

〔柱穴〕 床面上からは合計15個のピットが検出されている。大半が調査区外に入るため、柱穴の配置形は明確にできないが規模・堆積土などからみて、P₁・P₁₄・P₁₅が柱穴となる可能性をもつ。

〔炉〕 炉と想定される施設は発見されていない。ただ、P₁₀の底部に焼面がみられ、その周囲に礫が検出されている。炉となる可能性もある。

E H 15住居跡 (第23図)

〔遺構の確認〕 調査区北部の西方に位置し、第Ic層の下部より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E I 15住居跡・E I 121ピット・E H 151ピット・E J 122ピットと重複関係にあり、前者2遺構より新しく、後者の2遺構より古い。

〔増改築〕 柱穴の配置・複数の炉の存在などからみれば、住居の拡張が行われた可能性が強い。

〔平面形・規模〕 長軸長 6.46 m、短軸長 4.41 mの楕円形を呈する。長軸方向はN-50°30' - Wである。また住居内面積は約21.8㎡となる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は3層に分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山まで掘りこんで床面としている。とくに叩きしめられた痕跡もなく比較的柔かい。

〔壁〕 第Ic層と地山を壁としている。残存する壁高は約10～19cmであり、壁は床面よりかなり急角度で立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は確認されていない。

〔柱穴〕 床面上には合計32個のピットが検出されているが、このなかのP₃₀・P₃₁・P₃₂はE I 15住居跡に伴うものである。配列の規則性・規模からみて、P₂₂・P₁₄・P₂₀・P₁₉・P₂₅・P₂₄の6個、およびP₁₀・P₁₄・P₂₀・P₁₆・P₃・P₂₃の6個の2通りの組み合わせが考えられ、P₁₄・P₂₀の2個は併用されている。前者と後者の新旧関係は明確にできないが、後者の柱穴列が住居廃絶時の平面形と対応しており、住居の拡張に伴って前者から後者への建て替えが行われたことを窮わらせている。

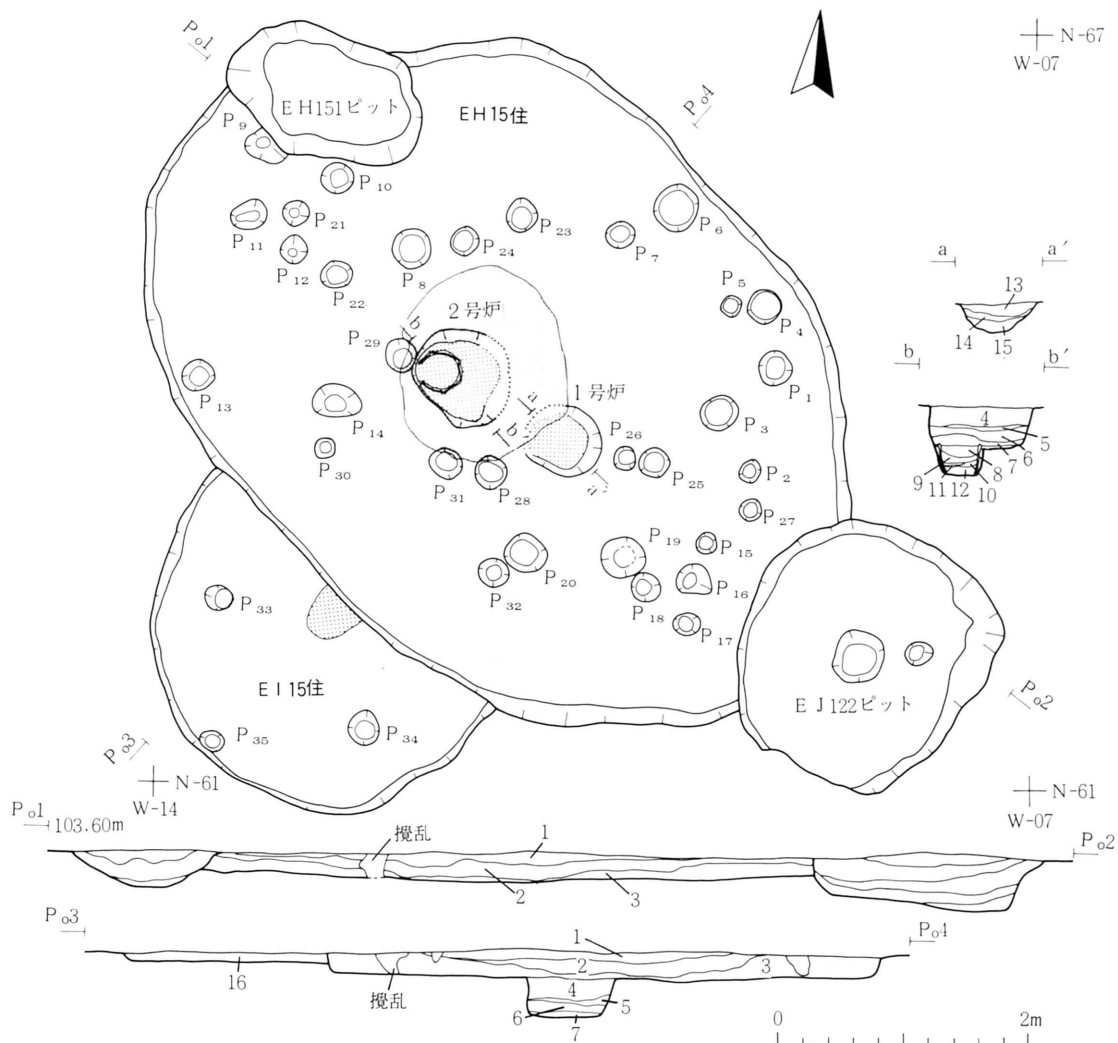
〔炉〕 住居跡内床面上に2基の炉が検出されている。それぞれ形態が異なり、次のように分類される。

〈1号炉〉 床面を掘りくぼめ、掘り込み部の底面を炉床としたものである。付属施設は全く認められない。大きさは、62×54cmで深さは約15cmである。かなり良く焼けており、焼土の厚さは最大で10cmを計る。

〈2号炉〉 床面を掘りくぼめ、掘り込み部の底面に直立埋設土器を伴うものである。土器以外の付属施設はもたない。土器は深鉢形縄文土器の口縁部～体部片で、高さ約23cmを計り、内部に焼土・木炭が充填する。周囲の炉床も良く焼けている。掘り込み部の大きさは82×70cmで、炉床までの深さは約32cm(掘り方底部までは約55cm)になる。上面は固化されている。

1号炉は住居廃色時まで使用されたもので、2号炉は住居の拡張以前に使用されていたものと推定される。ともに、住居の長軸線上に乗り、床面のほぼ中央に位置する。

— 西田遺跡 —



- 1. 第1層・29・b・T'・P ·B₁・N 6. 2号炉・64・a・T'・P・B₂ ·N 11. 2号炉・〈木炭〉
- 2. 第2層・45・a・M ·P ·B₁・N 7. 2号炉・63・a・M ·G・B₄C₃・N 12. 2号炉・123・b・M・G ·—・A
- 3. 第3層・60・a・T'・P ·— ·N 8. 2号炉・〈焼土〉 13. 1号炉・62・a・T'・P ·— ·N
- 4. 2号炉・136・b・T'・G・A・B₃・A 9. 2号炉・50・b・C'・G・B₃C₃・A? 14. 1号炉・61・a・T'・G・B₃・N
- 5. 2号炉・〈焼土〉 10. 2号炉・〈焼土〉 15. 1号炉・〈焼土〉
- 16. 第1層・121・b・T'・A・G ·— ·A

ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
深さ (cm)	12	9	34	14	17	14	25	26	22	58	25	35	33	49	5	28	27	27	44
ピットNo.	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35			
深さ (cm)	56	46	37	36	47	69	23	18	12	9	45	39	58	57	?	56			

第23図 EH15・EI15住居跡

E I 15 住居跡 (第23図)

〔遺構の確認〕 調査区北部の西方に位置し、第1b層の下部より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E H 15住居跡、E J 152ピットと重複関係にあり、E J 152ピットより新しく、E H 15住居跡より古い。増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 E H 15住居跡によって破壊されているため、規模は不明であるが平面形は楕円形を呈するものと思われる。長軸方向は $N-38^{\circ}30'-E$ である。

〔堆積土〕 堆積土は黒褐色土と黄褐色土との塊状混合土であり、人為的堆積層と思われる。

〔床面〕 地山まで掘り込んで床面としている。床面は平坦で比較的柔い。

〔壁〕 地山を壁としている。残存する壁高は約3～11cmであり、ほとんど残っていない。床面からの立ちあがり角度はゆるやかである。

〔柱穴〕 柱穴には $P_{30} \sim P_{36}$ の6本があてられる。いずれも規模が一致し整った配置形を呈する。

〔炉〕 床面上の1ヶ所に焼面(地床炉)が検出されている。住居の長軸線上に乗っているが、床面上の位置は明確にできない。規模は $(36) \times 40$ cmを計る。

E I 21-1 住居跡 (第24図)

〔遺構の確認〕 E区南部、調査区西端に位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E I 21-2住居跡・E J 21住居跡・E G 21住居跡、およびE J 181フラスコ状ピットと重複関係にある。当住居跡はE J 181フラスコ状ピットを切って構築されているが、ほかの3棟の住居跡には壁の一部を切られている。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長約3.07m、短軸長2.64mの楕円形を呈する。長軸方向は $N-49^{\circ}30'-W$ である。なお、住居内面積は約6.21㎡になる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的には2層に大別される。上層は人為的堆積層、下層は自然堆積層として認定した。

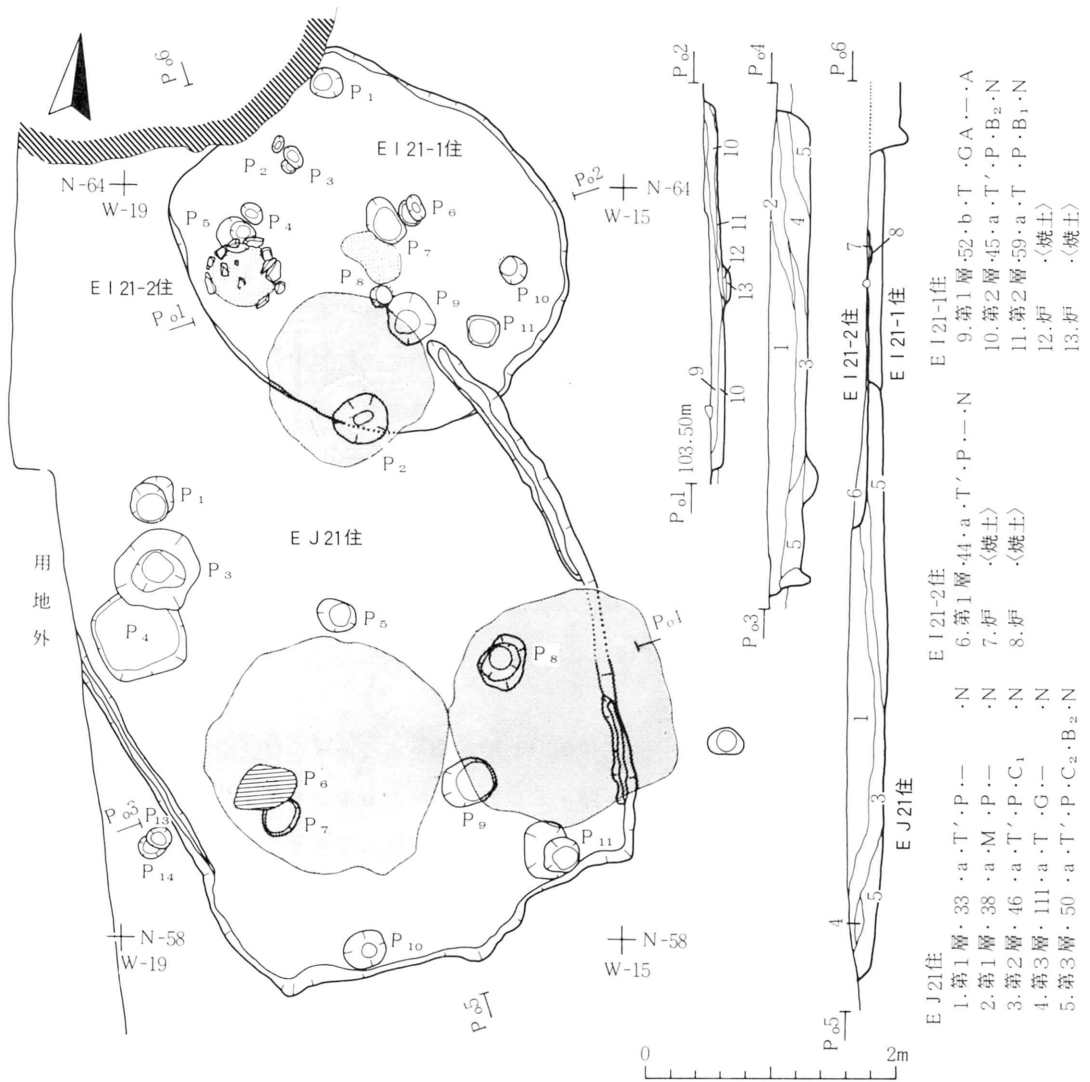
〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は西に向かってやや低くなっているが、ほぼ平坦で比較的柔かい。

〔壁〕 第1c層と地山を壁としている。東壁以外は3棟の住居跡によって削平を受けており、壁高は残存値で1～12cmを計る。床面から立ちあがり角度は比較的きつい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上からは合計11個のピットが検出されている。このなかにはE I 21-2住居跡に伴うピットも含まれているものと思われるが、配列が不規則で柱穴として明らかにできるものは認められなかった。

— 西田遺跡 —



ピット一覧表 (E I 21-2住、E J 21住)

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
深さ (cm)	26	50	62	12	29	26	?	75	72.5	37	54	41	18	11

ピット一覧表 (E I 21-1住)

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ (cm)	34	10	55	48	45	39	48	38	100	87	8

第24図 E I 21-1・E I 21-2・E J 21住居跡

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が検出されている。下部は浅いピット状になっており、床面のレベルに合わせて埋め戻されている。住居のほぼ中央に位置する。

E I 21-2 住居跡（第24図）

〔遺構の確認〕 G区南部、調査区西端に位置する。E I 21-1 住居跡の精査中に炉が検出されたことによって遺構の存在を確認している。埋土断面によれば、第Ic層のほぼ上面を床面としており、周囲の遺構に比べて極端に高くなっている。したがって調査中にはほぼ削平してしまい、平面形・規模・壁・周溝、柱穴等は不明である。

〔重複〕 E J 21住居跡・E I 21-2 住居跡と重複関係にあり、当住居跡はこれら2棟の住居跡を切って構築している。また、E G 21住居跡との切り合い関係は確認できなかったが、確実に重複している。

〔堆積土〕 最下層の埋土しか確認されていない。自然堆積した暗褐色のシルト層である。

〔床面〕 堆積土の断面観察によれば、第Ic層のほぼ上面を床面としている。

〔炉〕 床面を若干掘り凹め、周囲に礫を横位の状態で円形に配置した石囲炉である。使用痕跡はあまりみられず、小範囲の薄い焼土が分布するのみである。

E J 21住居跡（第24図）

〔遺構の確認〕 E区南部、調査区西端に位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E I 21-1 住居跡・E I 21-2 住居跡、およびF J 181・E J 182・E J 185 フラスコ状ピットと重複関係にあり、E I 21-2 住居跡に北壁の一部を切られているほかは、すべての遺構を切って構築している。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長約 4.45 m、短軸長 3.67 mの長方形を呈する。長軸方向はN-31°-Wである。住居内面積は推定で 15.26 m²となる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に大別される。典型的なレンズ状の堆積を示している。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦で堅い。

〔壁〕 第Ic層と地山を壁としている。壁の残存値は0~21cmで、北壁はまったく遺存しない。埋土断面の観察によれば27cm内外の壁高をもつ。壁は床面よりゆるく立ちあがる。

〔周溝〕 東壁と西壁で検出されており、北壁と南壁では認められない。幅約10~22cm、深さ約3~10cmで、断面形は「U」字形を呈する。周溝内からピットは検出されていない。

〔柱穴〕 床面上には11個のピットが検出されている。このなかで配置形からみて柱穴と想定されるものにはP₁・P₂・P₁₀・P₁₁の4個があり、P₆・P₈がそれに加わる可能性をもつ。

〔炉〕 炉と想定される施設は検出されていない。

F J 18住居跡 (第25図)

〔遺構の確認〕 F区南部、調査区の西端に位置し、Ic層中より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 大小多くの柱穴状ピットと重複関係にあり、当住居跡はそれらのピットを削平して構築している。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 約3.37×3.40cmのやや歪んだ円形を呈する。長軸方向は東西にとって、N-97°-Eである。住居内面積は約8.16㎡である。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に大別される。第1層・第2層を自然堆積層、第3層を人為的堆積層(生活層)として認定した。

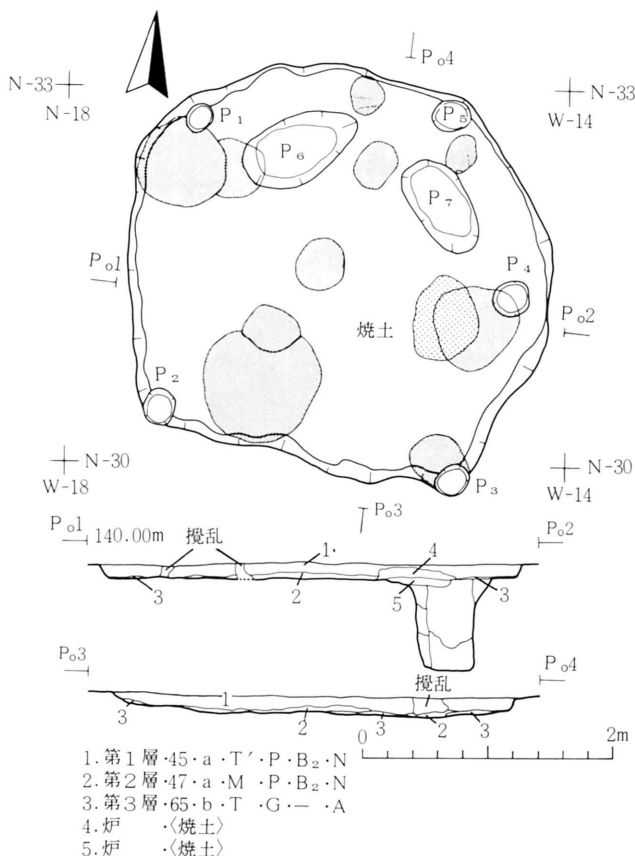
〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凸凹がみられ、比較的柔かい。

〔壁〕 第1c層と地山を壁としている。壁高は約8~12cmを計り、壁の立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面下のピットを除き、当住居跡に伴うものと想定されるピットは合計7個検出されている。このうち柱穴状のピットはP₁・P₂・P₃・P₄・P₅の5個を数え、当住居跡の支柱穴にはこの5個のピットがあてられるものと思われる。すべて壁際に配置されており、それらを結んだ線はほぼ整った五角形を呈する。

〔炉〕 床面上に焼面(地床炉)が1ヶ所検出されている。床面中央の東寄りに位置し、住居の中軸線上に乗る。約68×54cmの広がりをもつ。



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7
ピット名	P-3	P-4	F J - 159	F J - 157	P-2	P-5	F J - 1515
深さ(cm)	26	27	32	26	27	13	11

第25図 E J 18住居跡

F B 53—1 住居跡 (第26図)

〔遺構の確認〕 F区の北部中央やや東寄りに位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 F B 53—2 住居跡、F B 531・F C 561 フラスコ状ピットの3遺構と重複関係にあり、そのいずれよりも新しい。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長 4.51 m、短軸長 3.30 m の隅丸長方形を呈する。長軸方向は N—72°30′—W である。住居内面面積は約 11.9 m² である。

〔堆積土〕 住居内堆積土は3層に分けられ、いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は中央で低く、壁際でやや高くなっているが凸凹はみられずほぼ平坦である。比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。残存する壁高は約15～25cmでかなり深い。床面よりの立ちあがり角度は比較的ゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上に検出された14個のピットのうち、柱穴には P₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₈・P₁₁ の8個があてられ、そのいずれにも柱痕が確認されている。このほか P₁₀ が柱穴となる可能性をもつが、炉と考えられる焼土面の下より検出されている。これらのピットは住居の長短辺に沿って3個ずつ配置されており、配列に規則性が認められる。

〔炉〕 炉は地床炉で床面の中央に焼面が検出されている。かなり規模が大きく、長軸方向に長くなっている。161×53cmを計る。

F B 53—2 住居跡 (第26図)

〔遺構の確認〕 F区の北部中央やや東寄りに位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 F C 561・F C 563 ピット・F B 53—1 住居跡・F B 56土壌と重複関係にあり、前者2遺構より新しく、後者の2遺構より古い。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長 6.69 m、短軸長 4.93 m の楕円形を呈する。長軸方向は N—6°30′—E である。住居内面積 26.2 m² を計る。

〔堆積土〕 基本的には2層に分けられ、上面の厚い堆積層は人為的堆積層として認定した。

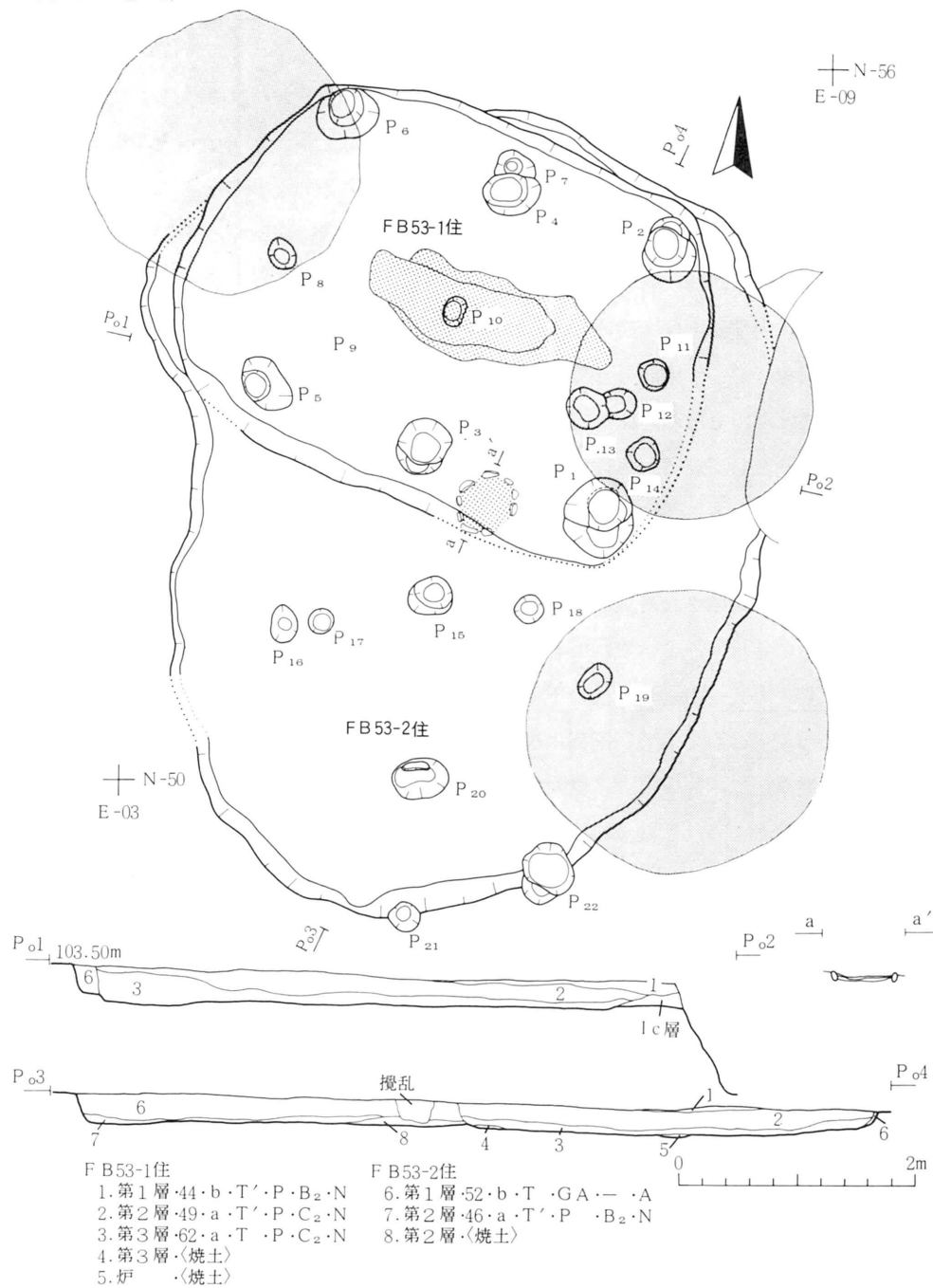
〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は部分的に凸凹がみられるもののほぼ平坦になっている。とくに叩きしめられた痕跡もなく比較的柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。残存する壁高は約13～23cmでかなり高くなっている。床面よりかなり急角度で立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上に検出された20個のピットのうち、当住居の柱穴となる可能性をもつものには、

一 西 田 遺 跡 一



ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	87	70	88	83	66	73	78	119	?	?	?
ピットNo.	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
深さ(cm)	7	19	?	22	62	28	9	59	31	9	28

第26図 FB53-1・FB53-2住居跡

P₇・P₉・P₁₁・P₁₆・P₁₉・P₂₀ の6個があてられる。これらのピットは規模がほぼ一致するが、P₉は未調査のため深さが不明である。また、P₁₁はF B 53-1 住居跡の柱穴となることが考えられ、やや疑問が残る。

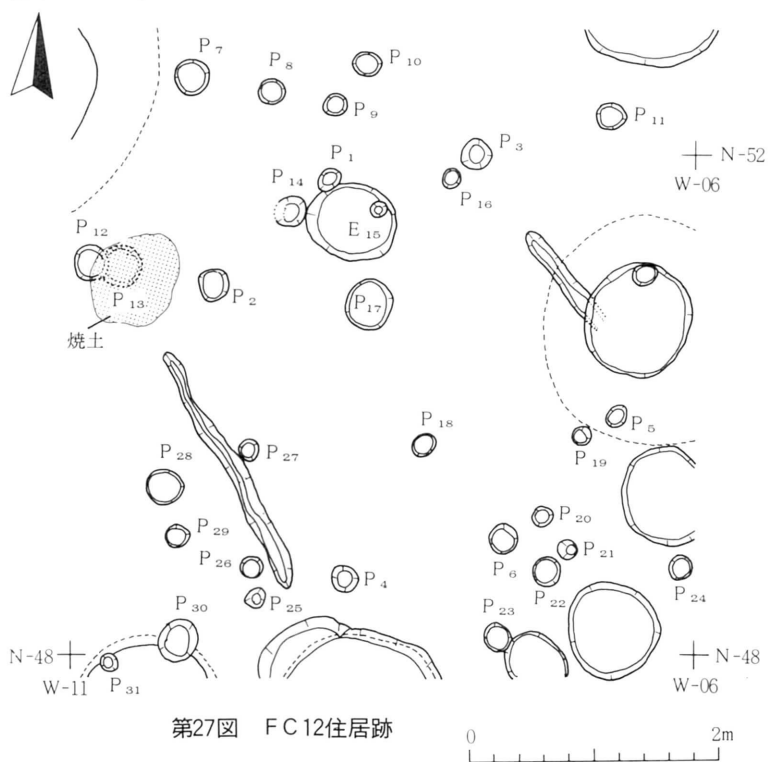
〔炉〕 住居内ほぼ中央に設置されている。床面をわずかに掘りくぼめ、周縁に小礫を横位の状態で円形に配置した石組炉である。ほぼ全域がF B 53-1 住居跡の床面になっており、石の上部が若干露出しているものにもかかわらず破壊をまぬがれている。規模は54×52cmを計る。

FC 12住居跡 (第27図)

〔遺構の確認〕 F区北部やや西寄りに位置しており、周溝の一部と柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁等は不明である。

〔重複〕 FC 091・F E 121の2基のフラスコ状ピットをはじめとし、多くの柱穴状ピットと重複関係にある。新旧関係は明確にできないが、フラスコ状ピットより新しくなる可能性が強い。

〔平面形〕 平面形は不明であるが、柱穴の配置形、および周溝の形状からみて楕円形を



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
ピット名	FC-098	FD-123	FC-099	FD-091.4	FD-095	FD-097	FC-123	FC-124	FC-125	FC-096	FC-094	FC-126	FC-127	FC-122	FC-097	
深さ(cm)	?	32	37	44	32	47	46	54	27	17	20	18	15	38	?	
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
FC-094	FD-094	FC-091	FD-096	FD-098	FD-099	FD-0910	FD-0912	FD-0913	FD-126	FD-125	FD-129	FD-121	FD-1210	FD-128	FD-127	
	11	50	4	15	9	11	18	28	9	15	9	9	45	8.5	59	?

呈するものと考えられる。長軸方向は推定でN-32°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。南側から北側に向かってやや低くなっているもののはほぼ平坦である。

〔周溝〕 東辺と西辺の一部で検出されている。幅約7~14cm、深さ5~9cmを計る。

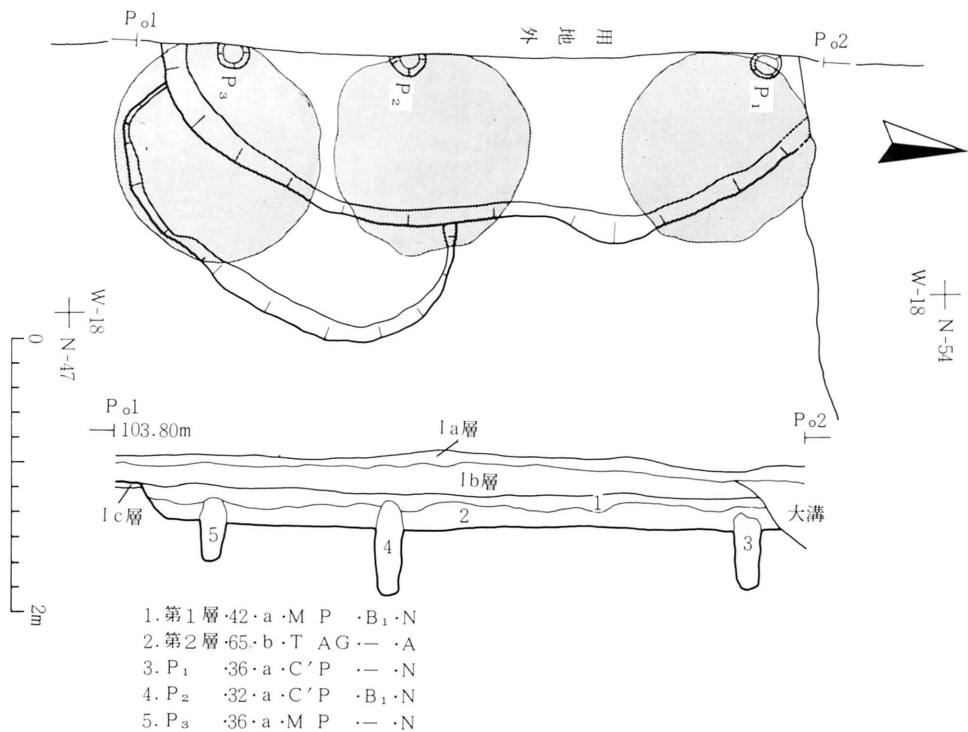
〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットにはP₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆の6個があげられる。これらのピットを結んだ線は整った六角形を呈し、規模、深さともほぼ一定している。

〔炉〕 周溝および柱穴列の内部からは炉と思われる施設はまったく検出されていない。西辺周溝の北側に焼面が一ヶ所認められるが当住居跡に伴うものとは考えにくい。

FC 21住居跡(第28図)

〔遺構の確認〕 F区北部の西端に位置し、第Ic層中より遺構の存在を確認した。住居の大半は調査区外に延び、平面形・規模などは不明である。

〔重複〕 FC 212・FD 211・FD 212の3ピット、および北大溝と重複関係にある。フラスコ状ピット3遺構よりも新しく、大溝より古い。また、東壁外に竪穴状の張り出しが検出されており、当住居跡に付随するものか、重複する他の遺構となるかを明確にできなかった。重複関係にあるとすれば、当住居跡のほうが新しい。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。



第28図 FC 21住居跡

〔平面形・規模〕 ともに不明であるが、平面形は南北に長い楕円形を呈する可能性が強い。

〔堆積土〕 住居内堆積土は2層に分けられるが、下層は人為的堆積層、上層は自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦であるが比較的柔い。

〔壁〕 地山を壁としている。壁高はかなり高く、残存値で約17～21cmを計る。壁は床面からゆるやかに立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔炉〕 炉は調査範囲内の床面上からは検出されなかった。

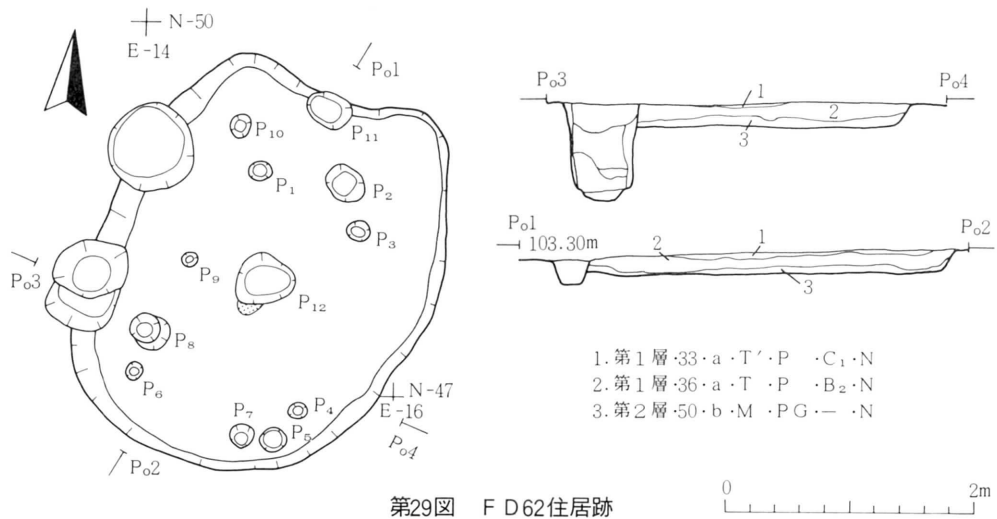
F D 62住居跡

〔遺構の確認〕 F区中央の東端に位置し、第Ⅱa層（地山）上面より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 F D 625・F D 626・F D 627ピットと重複関係にある。住居の西壁がこれらのピットに切られており、そのいずれよりも古い。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長3.21m、短軸長2.71mの楕円形を呈する。長軸方向はN-24°-Eである。住居内面積は約6.28㎡を計る。

〔堆積土〕 堆積土は基本的には2層に分けられる。すべて自然堆積層として認定した。



第29図 F D 62住居跡

ピット一覧表

ピット No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ (cm)	38	36	45	29	7	39	42	9	11	20	16

— 西田遺跡 —

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦で比較的柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。遺存する壁高は10～22cmで、かなり深い。床面からの立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上からは合計12個のピットが検出されている。このうち、 P_{11} ・ P_{12} は住居廃絶後に掘り込まれたもので、壁および炉を破壊している。配列の規則性から柱穴と想定できるものには P_1 ・ P_3 ・ P_6 ・ P_7 の4個があり、これらを結んだ線は整った長方形を呈する。

〔炉〕 床面上の1ヶ所から焼面（地床炉）が検出されている。 P_{12} に破壊されているため規模は不明であるが、住居のほぼ中央に位置する。

F E 18住居跡（第30図）

〔遺構の確認〕 F区中央の西端に位置し、第IIa層（地山面）上面より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 住居跡内には多数のピットが掘られている。これらのピットは当住居跡と重複関係をもつものが多くみられ、上端のプランのみを図化したものは当住居より古い。残りのピットのなかにも当住居跡廃絶後に掘り込まれたものも存在すると思われるが明確にできなかった。またF E 21住居跡とも重複するが、切り合い部分が攪乱を受けているためその新旧関係は不明である。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長約5.23m、短軸長3.51mの長方形を呈する。長軸方向は $N-39^{\circ}30'-W$ である。なお住居内面積は約16.73㎡を計る。

〔堆積土〕 遺構内堆積土は基本的に3層に分けられる。すべて自然堆積層として認定した。

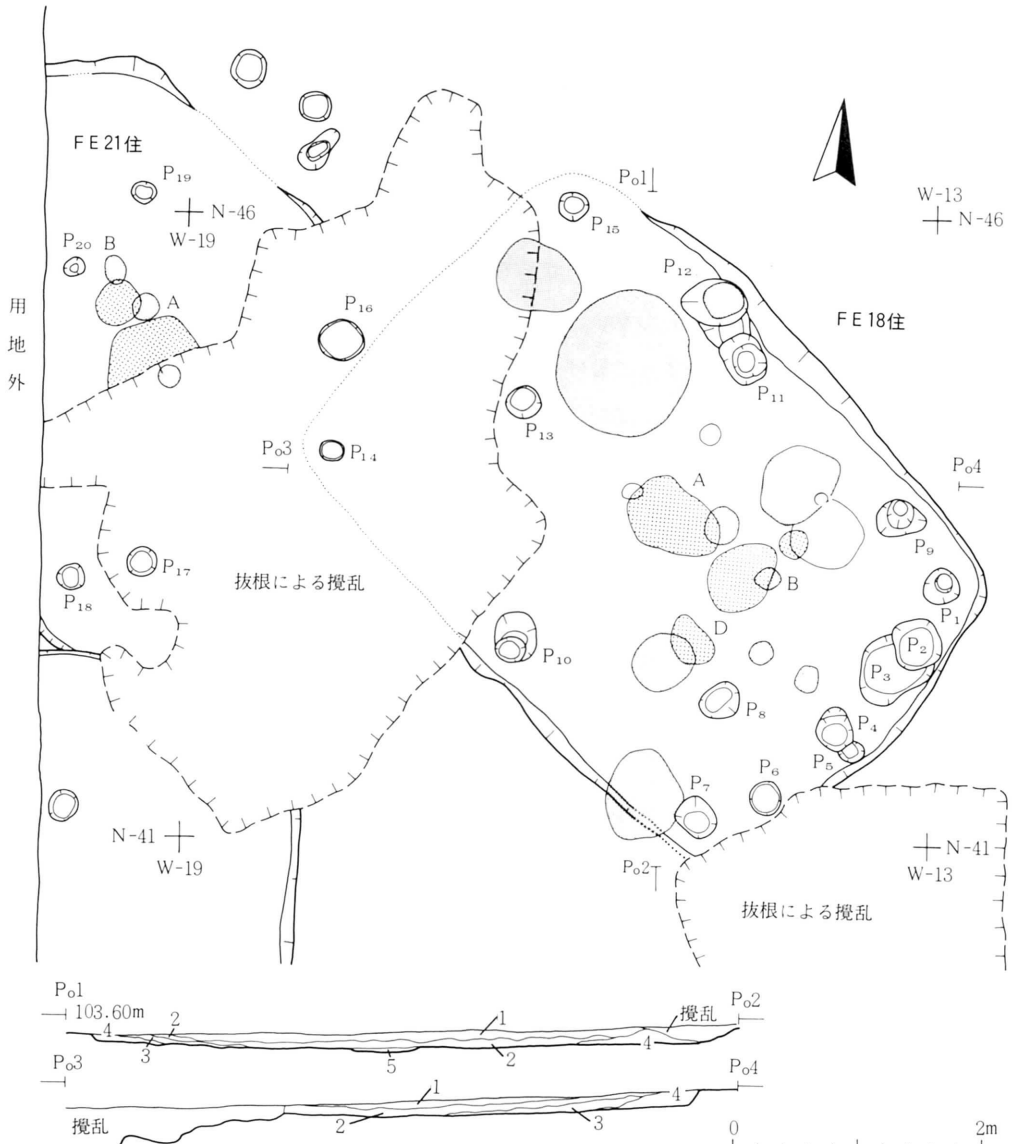
〔床面〕 地山をそのまま床面とし、床面の一部は抜根の攪乱によって破壊されている。部分的に凸凹がみられ、中央がやや低くなっている。とくに叩きしめられた痕跡もなく柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。攪乱部分が多く遺存状況は不良である。残存する部分で4～15cmを計り、壁の立ち上がり角度は比較的ゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 当住居跡に伴うものと思われるピット15個のうち、柱穴と断定できるものには P_1 ・ P_7 ・ P_{10} ・ P_{11} ・ P_{14} ・ P_{15} の6個があり、 P_4 がそれに含まれる可能性をもつ。 P_4 が柱穴となるならば、 P_{14} と P_{15} の間にもう1個のピットが必要となるが検出されていない。抜根による削損を受けたものと推定される。

〔炉〕 床面上に焼面が4（A～D）ヶ所検出されている。A・Bの規模が大きく、C・Dのそれは小さい。A・Bは住居の長軸線上に乗り、Aは床面のほぼ中央に位置する。C・DはBと並びその両脇に位置する。Aは約78×55cm、Bは約51×65cm、Cは29×23cm、Dは29×42cmである。



1. 第1層・46・a・T'P・B₁C₂・N 4. 第3層・60・a・T・P・B₂C₂・N
 2. 第2層・49・a・M・P・B₂・N 5. 炉 (焼土)
 3. 第3層・62・a・T'G・B₁C₁・N

第30図 FE 18・FE 21住居跡

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ピット名	FF-154	FF-155	FF-156	FE-18住	FG-158	FG-159	P-3	FF-1514	P-1	P-4
深さ(cm)	78	46	39	74	10	39	74	16	58	57
ピットNo	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ピット名	P-5	FE-152	FF-182	P-7	P-6		—	FF-212	FE-214	FE-215
深さ(cm)	76	53	36	48	62	15	82	24	27	14

F E 21住居跡(第31図)

〔遺構の確認〕 F区中央の西端に位置し、一部は調査区外に入る。地山面(Ⅱa層)上より遺構の存在を確認した。なお、中央部が抜根による破壊をうけていること、西端が調査区外に延びることなどから住居の平面形・規模は不明である。遺構の増改築の痕跡は認められない。

〔重複〕 F G 21住居跡・F E 18住居跡と重複関係にある。当住居跡はF G 21住居跡に切られているが、F E 18住居跡との重複関係は不明である。

〔平面形・規模〕 ともに不明であるが、平面形は楕円形を呈する可能性が高い。

〔堆積土〕 堆積土は基本的に3層に分けられ、そのいずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。破壊を免がれている部分では平坦で比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。ほとんどの個所が破壊されており、壁高は2～12cmを計る。壁の立ちあがり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 住居に伴うピットは床面上より5個検出されている。規模からみればP₁₆・P₁₇が柱穴となる可能性をもつが、配置等に規則性がみられず明らかにできなかった。

〔炉〕 床面上に焼面が2ヶ所(A・B)検出されている。Aは破壊されているが規模は大きく(48)×79cmを計る。Bは約36×34cmである。

F G 21住居跡

〔遺構の確認〕 F区はやや南寄り、調査区の西端に位置しており、炉と思われる焼面と柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等是不明である。

〔重複〕 平安時代の堅穴住居跡(F G 21住)と重複し、それによって切られている。また、住居跡の柱穴列には2通りが考えられ、それぞれで重複ないしは拡張の関係にある可能性も残されている。

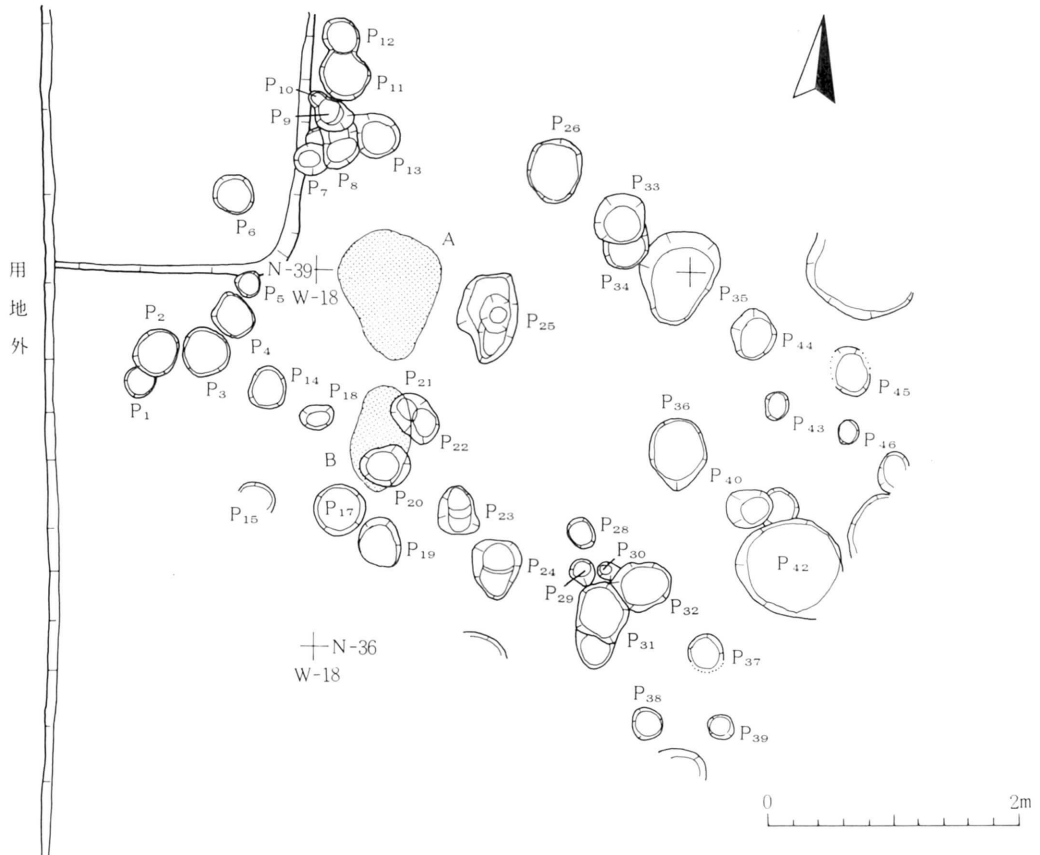
〔平面形〕 平面形は明確にできないが、柱穴の配置形からみて東西に長い長方形を呈することが予想される。長軸方向はN-66°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で堅くなっている。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットには2通りの配置列が考えられる。P₂・P₆・P₁₁・P₂₃・P₃₃・P₃₇・P₄₁・P₄₅の8個と、P₃・P₆・P₁₂・P₂₀・P₂₆・P₃₁・P₄₀・P₄₄の8個とが考えられ、後者の配置列を構成するP₂₀は焼面Bに上部を覆われている。もし焼面Bが当住居跡に伴うもので、当住居が重複ないしは拡張が認められるものとするならば、後者の柱穴列から前者のそれへの移行が予想される。

〔炉〕 柱穴列の内部からは焼面(地床炉)が2ヶ所検出されている。焼面Aは住居中央長軸線

上に乗り、そのやや西寄りに位置し、焼面Bは長軸線の南に偏し、南側柱穴列と近接する。規模は焼面Aが104×84cm、焼面Bが85×46cmを計る。



ビット一覧表

ビットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
ビット名	FH-218	FH-217	FH-216	FH-215	FH-214	FG-211	FG-183	FG-182	FG-185	FG-184	FG-186	
深さ(cm)	17	53	54	21	19	32+15	33	22	34		54	
ビットNo	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
ビット名	FG-187	FG-181	FH-213	FH-212	FH-211	FH-189	FH-219	FH-188	FH-1815	FH-1814	FH-1813	
深さ(cm)	55	42	40	35	平面図欠	32	20	55	42		55	
ビットNo	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
ビット名	FH-186	FH-185	FH-1811	FG-1810	FH-187	FH-181			FH-182	FH-183	FG-189	FG-188
深さ(cm)	25	26	26	36	平面図欠	56			56	47	59	48
ビットNo	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
ビット名	FH-1810	FH-1812	FI-153	FI-183	FI-154	FH-156	FH-157	FH-153	FH-158	FH-1511	FH-1510	FH-159
深さ(cm)	36	55	39	29	20	46	32	81	26	63	39	21

第31図 FG21住居跡

GA 21住居跡 (第32図)

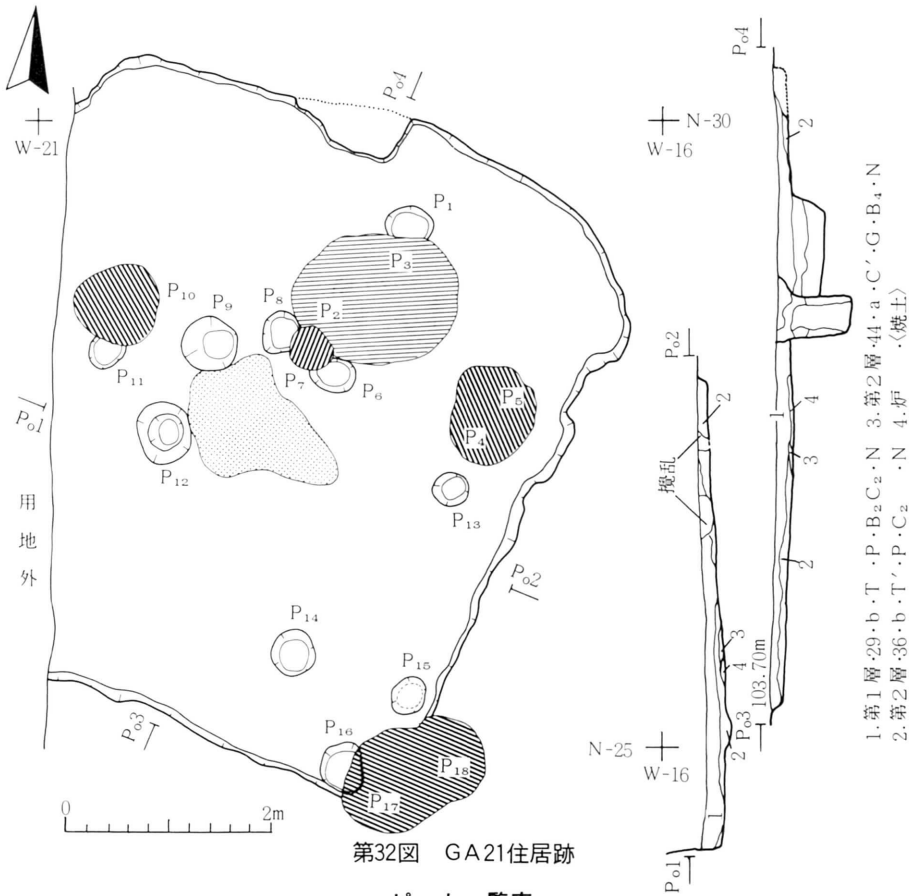
〔遺構の確認〕 G区北部西端に位置し、第Ic層中より遺構の存在を確認している。

〔重複〕 最底4個のピットと重複関係にあり、そのいずれのピットよりも古い。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 住居跡西側の一部が調査区外に入るため全体のプランは不明であるが、長軸長5.16 m、短軸長約4.69 mのやや南北に長い長方形を呈すものと推定される。長軸方向はN-16°-Eである。住居内面積は約22.4 m²である。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に2層に分けられ、いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。南西部がやや低くなっているがほぼ平坦で堅い。



第32図 GA21住居跡

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ピット名	GA-184	GA-183	GA-181	GA-188	GA-182	GA-186	GA-185	GA-2113	GA-2111
深さ(cm)	23	30	46	51	67	42	37	17	64
ピットNo	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ピット名	GA-211	GA-2114	GA-2112	GA-187	GB-216	GB-1810	GB-188	GB-187	GB-189
深さ(cm)	68	51	33	32	18	1.5	45	49.5	53.8

〔壁〕 地山を壁としている。壁高は残存値で約8～11cmになり、壁の立ちあがり角度はきつい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 当住居跡に伴うものと思われるピットは、床面上に11個検出されている。これらのピットのうち、規模・堆積土・配列などからみて柱穴の可能性をもつものとしてP₁・P₁₁・P₁₃・P₁₆の4個があげられる。最底もう1個のピットが必要となるが、これは調査区外に入るものと推定される。ただ、本遺跡にみられる柱穴の配置形からみればやや特異な形状を示している。

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が1ヶ所検出されている。住居内のほぼ中央に位置しており、規模は約139×102cmを計る大形のものである。

G F 21—1 住居跡（第33図）

〔遺構の確認〕 G区中央の西端に位置し、地山面（Ⅱa層）上より遺構の存在を確認した。住居跡の一部は調査区外に延びる。

〔重複〕 住居の床面上からは多数のピットが検出されているが、そのほとんどは当住居跡より古いものである。また、G F 21—2 住居跡・G F 18陥し穴状土壙とも重複しており、それよりも新しい。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長約4.41m、短軸長3.21mの長方形を呈する。長軸方向はN—32°—Wである。住居内面積は約13.31㎡を計る。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に2層に分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面上はかなり凸凹がみられ、しかも柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。壁の遺存状態は不良で、まったく遺存しない箇所もある。残存値で約2～5cmを計る。壁の立ちあがり角度はゆるい。

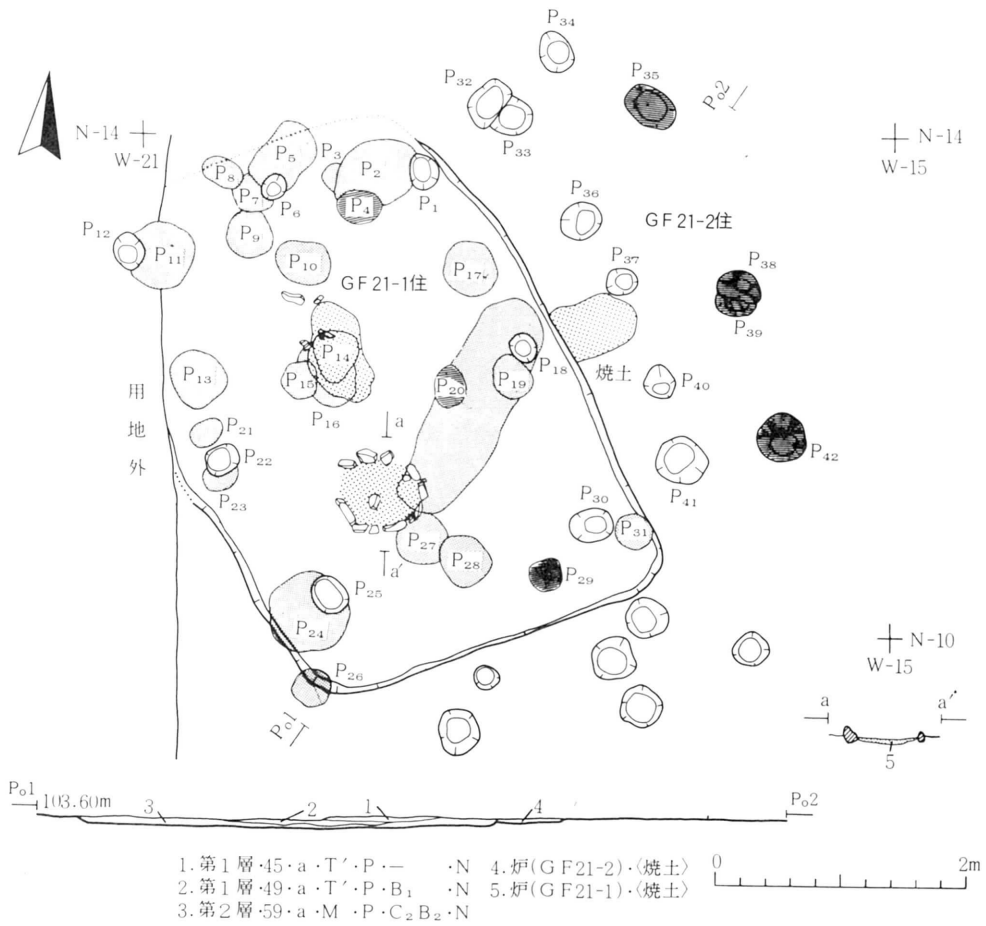
〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上からは合計31個のピットと1個の陥し穴状土壙が検出されているが、当住居跡に確実に伴うものは9個ほどに限定される。このなかで、柱穴と想定しうるピットには、P₁・P₁₂・P₁₈・P₂₂・P₂₅・P₃₀の6個があげられ、P₆・P₂₈がそれに加わる可能性をもつ。6個のピットを結んだ線は住居の平面形とほぼ相似形を呈し、やや菱形に近い長方形になる。

〔炉〕 炉は2基検出されている。1基は石組炉で、他は地床炉である。

<1号炉> 床面をわずかに掘り凹め、周縁に礫を横位の状態で円形に配置した石組炉である。住居中央より南西にずれて位置し、規模は外径で約72×68cmを計る。

<2号炉> 床面上の焼面として検出されている。住居中央よりやや北にずれて位置し、長軸線上に乗る。規模は85×46cmを計り、南北に長くなっている。



ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8
ピット名	柱穴 2	GF-215		GG-217	GF-212	GF-216	GF-213	GF-211
深さ(cm)	47	44	22	?	34	23	22	24
ピットNo.	9	10	11	12	13	14	15	16
ピット名	GF-214	GF-218	GF-2110	柱穴 1	GF-2111	GF-2112	GF-2191	GF-2113
深さ(cm)	26	29	38	44	28	35	42	24
ピットNo.	17	18	19	20	21	22	23	24
ピット名	GF-189	CF-1811	GF-1810	GF-189	GG-213	GG-214	GG-215	GG-216
深さ(cm)	22	?	?	?	12	40	16	46
ピットNo.	25	26	27	28	29	30	31	
ピット名	柱穴 3	GF-217	GG-1810	GG-189	GG-1813	GG-1811	柱穴 4	
深さ(cm)	?	?	21	37	15	36	41	

第33図 GF 21-1・GF 21-2住居跡

G F 21—2 住居跡 (第33図)

〔遺構の確認〕 G区中央西端に位置し、地山面上において炉の一部を検出して遺構を確認した。住居跡の大部分が削平されているため、平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 G F 21—1 住居跡と重複関係にあり、当住居の西半分が切られている。

〔床面〕 地山をそのまま床面としており、ほぼ平坦で比較的堅い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットには P₄・P₂₀・P₂₉・P₃₅・P₃₈・P₄₂ の 6 個があり、それらを結んだ線は南北に長い長方形を呈する。

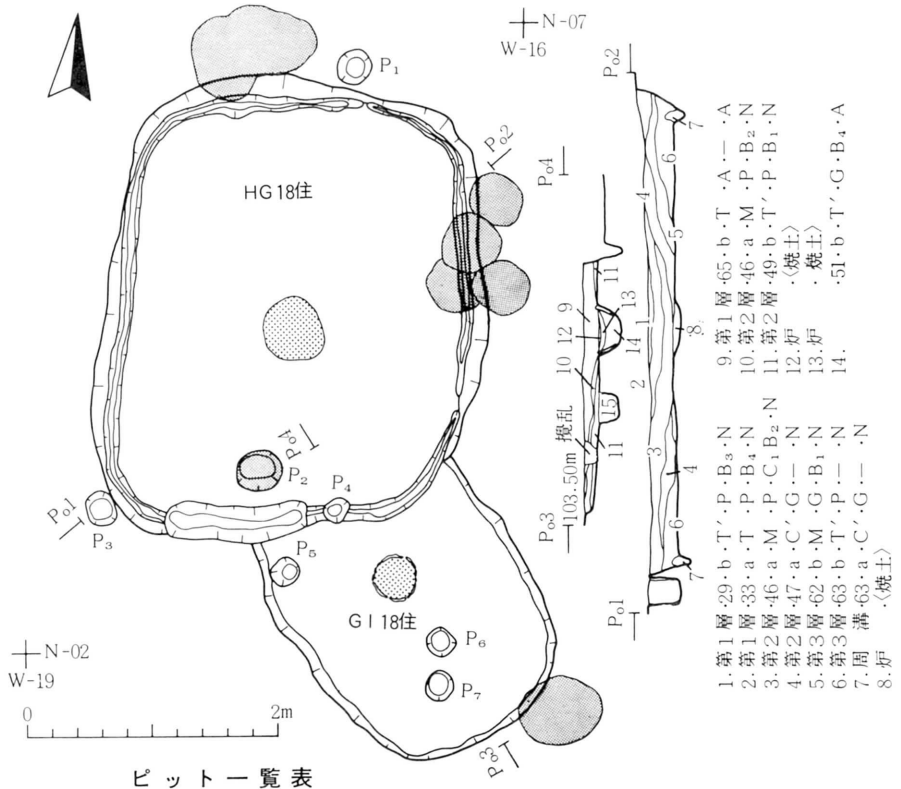
〔炉〕 床面上に焼面 (地床炉) が 1 個所検出されている。柱穴配列のほぼ中央に位置し、東西にやや長い楕円形を呈する。規模は (61)×45cm を計る。

G H 18 住居跡 (第34図)

〔遺構の確認〕 G区南の西端に位置し、第Ⅱa層 (地山) 上面より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 G I 18 住居跡と重複関係にあり、当住居跡の方が新しい。また、東壁・北壁の一部は数個のピットを破壊してつくられる。住居の増改築は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長 3.42 m、短軸長 2.71 m の隅丸長方形を呈



ピット No	1	2	3	4	5	6	7
ピット名	GH-185	GI-182	GI-211	GI-187	GJ-183	GJ-182	GJ-181
深さ (cm)	45	34	29	16	48	18	23

第34図 GH18, GI18住居跡

— 西 田 遺 跡 —

する。長軸方向はN-1°30'-Wである。なお、住居内面積は約8.27㎡を計る。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に分けられる。典型的なレンズ状の自然堆積の状態を示しており、全層とも自然的な営力による堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。遺存状態は良好で、残存値で約21～25cmを計る。床面からの立ちあがり角度はゆるい。

〔周溝〕 全域で確認されている。幅約6～12cm、深さ約8～12cmを計り、断面形は「U」字状を呈する。なお、周溝内から1個のピットが検出されている。

〔柱穴〕 床面上からは柱穴状のピットがまったく検出されていない。

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が1ヶ所確認されている。住居内ほぼ中央に位置し良く焼けている。規模は約52×50cmを計る。

G I 18 住居跡（第34図）

〔遺構の確認〕 G区南の西端に位置し、第IIa層（地山）上面より遺構の在石を確認している。

〔重複〕 GH18住居跡と重複し、それよりも古い。また、南壁の一部がピットによって切られている。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸長方形を呈す。短軸長1.89mを計るが長軸長は不明である。長軸方向はN-38°-Wとなる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に2層に分けられる。第1層を人為的堆積層、第2層を自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。壁の残存値は約3～8cmとなり、床面よりなだらかに立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は確認されていない。

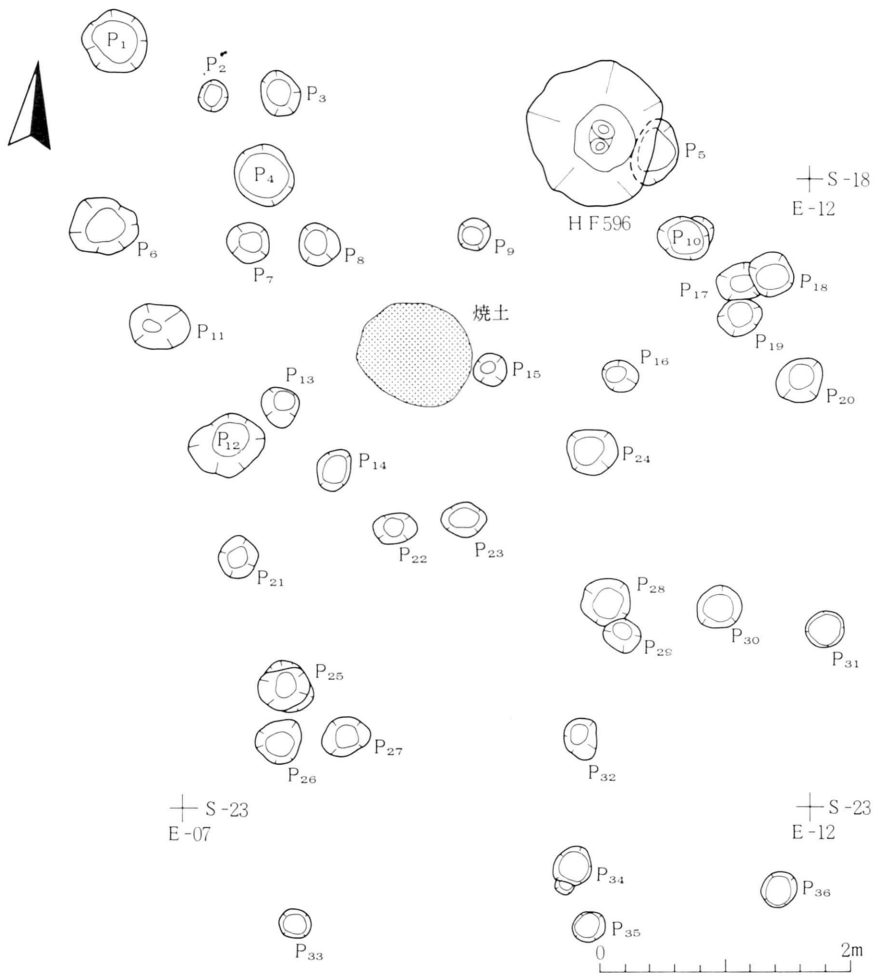
〔柱穴〕 床面上より3個のピットが検出されているがいずれも柱穴とする根拠に欠ける。

〔炉〕 土器（浅鉢）埋設炉である。床面を土器の形状にあわせて掘り凹め、土器は底部を欠いて直立に設置している。炉床は床面より若干低くなっており、固い焼土面をもつ。

H F 56 住居跡（第35図）

〔遺構の確認〕 H区の中央やや東寄りに位置し、地山面上より焼面を検出して遺構の存在を確認した。なお、住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 各種ピット類と重複するが、明確な切り合いを示す遺構はHF596ピットのみで当住居跡はそれを切って構築されている。住居の増改築の痕跡は認められない。



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ピット名	HF-566	HF-567	HF-568	HF-569	HF-598	HG-569	HF-561	HG-562	HG-591
深さ(cm)	32	12	31	19	39	35	18	38	22
ピットNo	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ピット名	HG-596	HG-563	HG-565	HG-564	HG-566	HG-592	HG-595	HG-5910	HG-597
深さ(cm)	32	8	15	36	33	23	21	13	36
ピットNo	19	20	21	22	23	24	25	26	27
ピット名	HG-598	HG-599	HG-568	HG-567	HG-593	HG-594	HH-566	HH-562	HH-563
深さ(cm)	16	16	12	13	21	32	34	12	17
ピットNo	28	29	30	31	32	33	34	35	36
ピット名	HH-591	HH-592	HH-594	HH-594	HH-593	HH-594	HH-594	HH-597	HH-598
深さ(cm)	11	36	19	21	20	20	17	17	13

第35図 HF56住居跡

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦で比較的堅い。

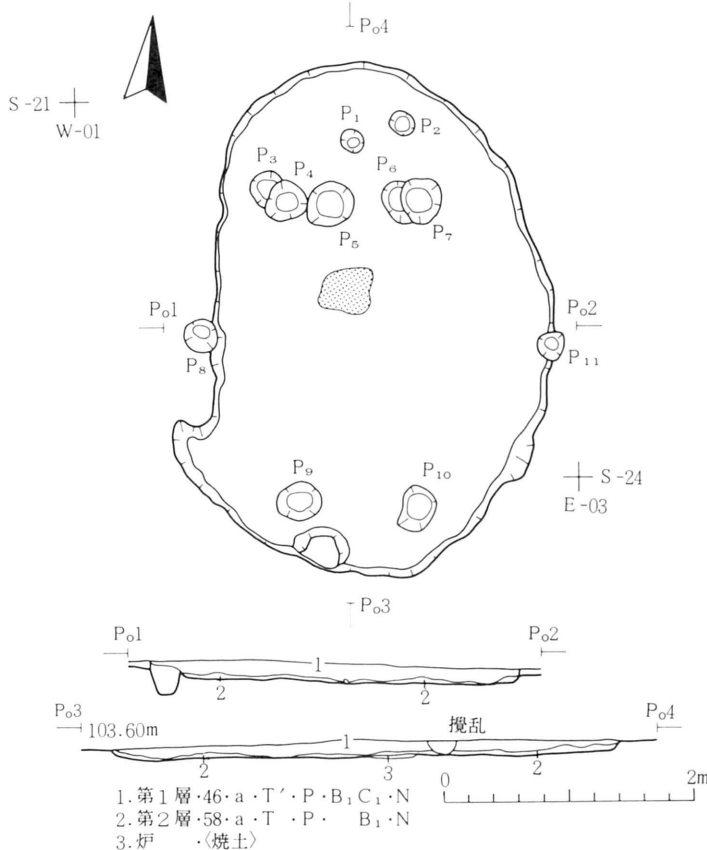
〔柱穴〕 大きさ、深さからみて、柱穴となる可能性をもつピットには、P₃・P₅・P₈・P₁₀・P₁₅・P₁₆・P₂₄・P₂₅・P₂₉・P₃₀・P₃₂などがあげられる。これらのピットを、柱穴配列の一定の規則性から吟味した場合、P₃・P₅・P₁₃・P₁₆・P₂₅・P₂₉の6個が当住居跡の柱穴と想定される。ただ、これと異なる配列も考えられ、積極的な根拠に欠ける。

〔炉〕 上記で想定した柱穴列の中央やや北寄りの部分に焼面（地床炉）が検出されている。約93×83cmの広がりをもつ。

H G 50 住居跡 (第36図)

〔遺構の確認〕 調査区の南端H区の中央部に位置し、第Ic層中より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 当住居跡と重複する遺構はなく、住居の増改築も認められない。



〔平面形・規模〕 長軸長4.11 m、短軸長2.72 mの楕円形を呈する。長軸方向はN-6°-Wである。また、住居跡内面積は8.44㎡である。

〔堆積土〕 2層に分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山まで掘り込んで床面としている。床面上はかなり凸凹しており、部分的に攪乱をうけている個所もみられる。とくにたたきしめられた痕跡はみられず、比較的柔かい。

〔壁〕 地山と第Ic層を壁としている。遺存する壁

ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	13	9	32	37	10	28	37	16	41	35	7

第36図 HG50住居跡

高は3～8 cmであり、その立ちあがり角度は比較的きつい。

〔周溝〕 周溝は確認されていない。

〔柱穴〕 床面上より検出された7個のピットのほか、東西の壁内にそれぞれ1個ずつ検出されている。これらのピットのうち、柱穴と断定できるものにはP₄・P₇・P₉・P₁₀があり、それらを結んだ線は整った長方形を呈する。また、壁内のP₈・P₁₁も柱穴となる可能性もっている。

〔炉〕 床面の1ヶ所から焼面（地床炉）が検出されている。床面の中央部からは北にずれており、住居の長軸上に位置する。規模は約42×37 cmである。

〔その他の施設〕 南壁に接して小さな段がついている。大きさは約31×44 cmを計り、性格は不明である。

H I 15住居跡（第37図）

〔遺構の確認〕 H区の南部、やや西寄りに位置しており、第Ic層中より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 I A 091 陥し穴状遺構と重複し、それよりも新しい。なお、多数の柱穴状ピットが検出されていることからみて、増改築の可能性もあるが明確にできなかった。

〔平面形・規模〕 長軸長6.38 m、短軸長約5.38 mの楕円形を呈する。長軸方向はN-17°-Eである。住居内面積は約27.61 m²を計る。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に分けられる。第1層を自然堆積層、第2層・第3層を人為的堆積層として認定した。（第3層は生活層）

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は南に向かってやや低くなっているもののほぼ平坦で比較的堅い。

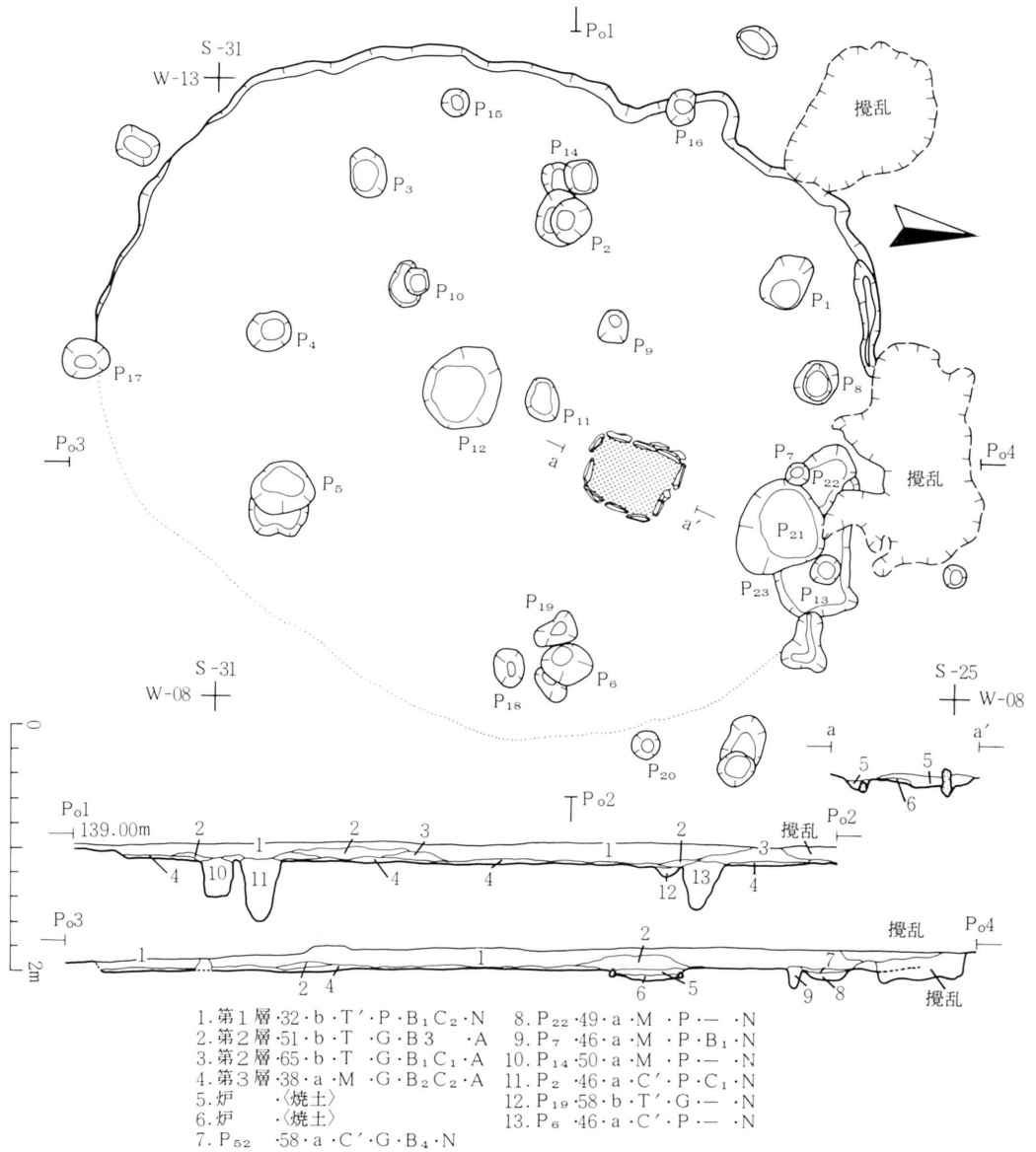
〔壁〕 第Ic層と地山を壁としている。壁は西辺と南辺で確認されているが、北辺と東辺では削平を受けている。壁高は現存値で約4～8 cmを計る。床面からの立ちあがり角度はゆるい。

〔周溝〕 北辺の一部で確認されており、幅約15 cm、深さ約13 cmを計る。

〔柱穴〕 床面上からは合計23個のピットが検出されており、大きさ、深さから柱穴たりうるものにはP₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₈・P₉・P₁₀・P₁₃・P₁₄の11個があげられる。これらの柱穴状ピットを柱穴配置の規則性から検討した場合、P₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₁₃の7個が主柱穴となる可能性が強い。

〔炉〕 床面を若干掘り凹め、周縁を長方形に石囲いした石組炉である。石は横位の状態で据えられており、炉底には石、土器等による施設は認められない。床面中央の北寄りに位置し、住居の長軸線上に乗る。

— 西田遺跡 —



ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ(cm)	49	48	40	30	44	35	22	39	44	38.5	11	37
ピットNo.	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
深さ(cm)	30	28	14	6	10.5	11	17	10.5	16	10	5	

第37図 HH15住居跡

H F 06 住居跡 (第38図)

〔遺構の確認〕 H区の中央に位置し、地山面上より焼土(地床炉)を検出して遺構の存在を確認した。規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔重複〕 多数のピットが検出されているが、遺構間の重複関係を示すピットは発見されていない。ただ、平面的にはH G 06住居跡・H G 09住居跡・H F 03住居跡と重複関係にある。

〔平面形〕 柱穴の推定配置形からは長方形を呈するものと思われる。規模は不明であるが、長軸方向はN-3°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。床面はかなり凸凹がみられるものの比較的堅い。

〔柱穴〕 多数のピットのうち、柱穴と想定されるものにP₆・P₇・P₁₀・P₁₇・P₂₃・P₂₇・P₂₉・P₃₃の8個があげられる。これらのピットは規模・堆積土・配置列に規則性がみられ、柱穴となる可能性が極めて強い。

〔炉〕 床面上に焼面(地床炉)が1箇所検出されている。柱穴配置列の中央やや北寄りに位置し、長軸線上に乗る。規模は約6.4×4.1cmを計る。

H H 06 住居跡 (第38図)

〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区やや西寄りに位置しており、明確な柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H G 06住居跡と重複関係にあり、それよりも新しい。また、平面的にはH I 15住居跡、H G 09住居跡と重複している。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形〕 平面形は不明であるが、柱穴の配置形および北辺に検出された周溝の形状からみれば、南北に長い長方形を呈する可能性が強い。長軸方向はN-15°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。床面は南側に向かってやや低くなっているもののほぼ平坦で比較的堅い。

〔周溝〕 北辺の一部で検出されている。H G 06住居跡の床面を削ってつくられ、幅約15cm、深さ4~8cmを計る。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットにはP₄₅・P₄₆・P₅₂・P₅₅・P₅₉・P₆₉・P₇₂・P₇₆の8個があげられる。これらのピットの配置形はH G 06住居跡のそれと相似形を呈し、柱穴列の幅が北に広くて南に狭いという特徴をもっている。

〔炉〕 柱穴列内に焼面が3ヶ所(A・B・C)検出されている。AはH G 06住居跡のものとも考えられるが、当住居跡に伴うものとなる可能性が強い。これらの焼面は南北4個の柱穴の間に等距離で配置されており、中央軸から東に偏して位置する。焼面Aは78×116cm、Bは55×62cm、Cは39×91cmの広がりをもつ。

H G 06住居跡（第38図）

〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区やや西寄りに位置しており、明確な柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H F 06住居跡・H G 09住居跡・H H 06住居跡の3棟の住居跡と重複するが、H H 06住居跡より旧くなるほかは新旧関係は不明である。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形〕 平面形は不明であるが、柱穴の配置形からみれば南北に長い長方形を呈する可能性が強い。長軸方向はN-1°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。床面はかなり凸凹がみられ、比較的柔かい。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットには、P₃₀・P₃₈・P₄₇・P₄₈・P₆₀・P₆₂・P₇₅・P₈₀の8個があげられる。これらのピットは深さはほぼ一定するものの、大きさはほかの柱穴状のピットよりやや大きくなる。配列には規規性がみられ、4個づつ直線状に縦にならび、幅は北側で広くて南側で狭くなるという特徴をもつ。

〔炉〕 柱穴列内に3個の焼面（A・B・C）が検出されている。焼面BとCはH H 06住居跡に伴うものと考えられ、当住居に伴う可能性をもつものは焼面Aのみである。ただ、焼面AもH H 06住居跡に属することも想定されうるもので、当住居の地床炉とする積極的な根拠に欠ける。焼面Aは柱穴列中央やや北寄りに位置し、住居の長軸線上に乗る。規模は約78×116cmを計る。

H G 09住居跡（第38図）

〔遺構の確認〕 H区中央やや西寄りに位置し、地山面上より明確な柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・床面・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H G 06住居跡・H I 06住居跡と重複するがそれらとの新旧関係は不明である。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形〕 柱穴の配置列から推定すれば、南北に長い長方形か楕円形を呈するものと見られる。長軸方向はN-11°-Wである。

〔床面〕 柱穴列内部の床面に相当する部分はかなり柔かく、きれいな地山面が露出している。検出時に床面を掘り下げてしまった可能性が強い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットには、P₁₉・P₈₂・P₃₉・P₈₃・P₅₀・P₈₅の6個があてられる。これらのピットは大きさ、規模ともほぼ一定しており、配列にも規規性がみられる。

〔炉〕 炉と見られる施設は検出されていない。



ピットNo ピット名 深さ(cm)	1 HF-062 32	2 HF-065 35	3 HF-039 11	4 HF-032 14	5 HF-012 25	6 HF-066 43	7 58	8 HF-037 54	9 HF-034 19	10 33	11 11	12 34	13 HF-038 33	14 HG-063 15	15 HG-032 8
16 HG-504 ?	17 HG-064 24	18 HG-069 13	19 HG-068 29	20 HG-065 12	21 HG-034 9	22 HG-038 9	23 HG-039 24	24 HG-036 31	25 HG-503 30	26 HG-062 33	27 HG-067 35	28 HG-011 ?	29 HH-032 17	30 HH-030 43	31 HH-033 37
32 HG-031 16	33 HH-031 24	34 HG-508 10	35 HH-501 30	36 HH-035 16	37 HH-036 22	38 HG-061 52	39 HH-063 46	40 HH-062 18	41 HH-034 21	42 HH-037 23	43 HH-038 11.5	44 HH-038 15	45 HH-066 29	46 HH-030 37	47 HH-011 54
48 HH-061 55	49 HI-033 10	50 HH-095 60	51 HI-066 46	52 HI-063 55	53 HI-062 17	54 HI-061 ?	55 HI-061 49	56 HI-034 16	57 HI-091 30	58 HI-092 15	59 HI-093 32	60 HI-065 54	61 HI-036 21	62 HI-037 57	63 HI-035 9.5
64 HI-038 25	65 HJ-093 11	66 HJ-064 15	67 HJ-063 19	68 HJ-062 16	69 HJ-067 50	70 13	71 HJ-061 37	72 HJ-092 31	73 HJ-091 32	74 P ₁₇ 6	75 HJ-066 33	76 HJ-065 54	77 HJ-034 8	78 HJ-031 18	79 HJ-032 23
80 HJ-033 68	81 HG-061 42	82 HG-091 44	83 HH-093 53	84 HH-092 21	85 HH-091 57	86 HH-094 30									

第38図 HF06・HH06・HG06・HG09住居跡

H E 15 住居跡 (第39図)

〔遺構の確認〕 H区中央西端に位置し、地山面より周溝・焼面を検出して遺構の存在を確認している。遺構内堆積土・壁は確認できなかった。

〔重複〕 H F 18住居跡と重複関係にあり、当住居跡の炉がH F 18住居跡の柱穴・周溝によって切られている。なお、増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長 4.72 m、短軸長 3.83 mの長方形を呈し、長軸方向はN-14°30'-Eである。住居内面積は約 15.23 m²となる。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で堅い。

〔周溝〕 ほぼ全周している。幅約 9~28 cm、深さ約 8~16 cmで、断面形は「U」字形を呈する。

〔柱穴〕 床面上には合計20個のピットが検出されている。このうち、規模がほぼ一致するP₁・P₃・P₅・P₁₃・P₁₄・P₁₆・P₁₇・P₁₉の8個が柱穴と考えられる。これらのピットは周溝際ないしは周溝と交錯して位置し、その配列には規則性がみられる。

〔炉〕 床面上から1ヶ所の焼面(地床炉)が検出されている。P₈・P₉・P₁₀および周溝によって破壊されている。床面の中央部からやや北東にずれて位置し、その規模は約 101 × 74 cmである。

H F 18 住居跡 (第39図)

〔遺構の確認〕 H区中央西端に位置し、地山面より周溝・焼面を検出して遺構の存在を確認している。遺構内堆積土・壁は確認できなかった。

〔重複〕 H E 15住居跡重複関係にあり、H E 15住居跡の西南部を切って構築されている。また、西辺の一部を後世の土壌によって破壊されている。

〔改築〕 柱穴の配置、一部で重複する周溝、および炉の形状などからみて改築が行われた可能性が強い。その場合、縮少となる。

〔平面形・規模〕 長軸長約 5.82 m、短軸長 3.87 mの長方形を呈する。長軸の方向はN-7°30'-Eである。また、住居内面積は約 18.82 m²となる。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で堅い。

〔周溝〕 北辺を除きほぼ全域で検出されている。東辺の北側では二重になっており、内側(西側)の溝が新しい。幅約 8~19 cm、深さ約 3~11 cmを計り、断面形は「U」字形を呈する。

〔柱穴〕 床面上からは合計28個のピットが検出されている。これらのなかにはH E 15住居跡に伴うピットも含まれている。当住居跡の柱穴には2通りの組み合わせが考えられ、それぞれに配列の規則性が認められる。一つの組み合わせはP₉・P₁₁・P₁₈・P₂₃・P₂₈・P₃₄・P₃₉・P₄₂の8本、もう一つには、P₁₀・P₁₂・P₂₂・P₂₀・P₂₉・P₃₃・P₃₈・P₄₀の8本が考えられる。ピットの重複関係から、前者の柱穴列から後者の柱穴列への建て替えが行われている。

— 西 田 遺 跡 —

〔炉〕 床面上から1ヶ所の焼土面（地床炉）が検出されている。その形状はやや歪んだ「く」の字状を呈し、明確な区分線は認められなかったものの二度に亘って使用されたものと思われる。床面の中央部から北東にずれて位置し、その規模は77×98cmを計る。

H H 21—1 住居跡（第39図）

〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区の西端に位置し、床面上より焼面（地床炉）を検出して遺構の存在を確認した。住居跡の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H H 21—2 住居跡（？）と重複するが、新旧関係は明らかにできなかった。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形〕 平面形は不明であるが柱穴の推定配置列からみれば、南北に長い楕円形を呈するものと思われる。また、同様に住穴配置列からみた長軸方向はN—3°30′—Eである。

〔床穴〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凸凹がみられるものの比較的堅い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるものにP₅₂・P₅₄・P₆₁・P₆₂・P₆₇・P₆₈の6個があげられる。これらのピットは大きさ、深さとも一定しており、その配置形にも一定の規則性がみられる。

〔炉〕 周囲より焼面が3箇所（A・B・C）検出されている。これらのなかでCは確実に当住居跡に伴ない、Bがその可能性をもつ。Cは105×138cm、Bは95×124cmの広がりをもつ。とものかなり規模が大きい。

H H 21—2 住居跡（第39図）

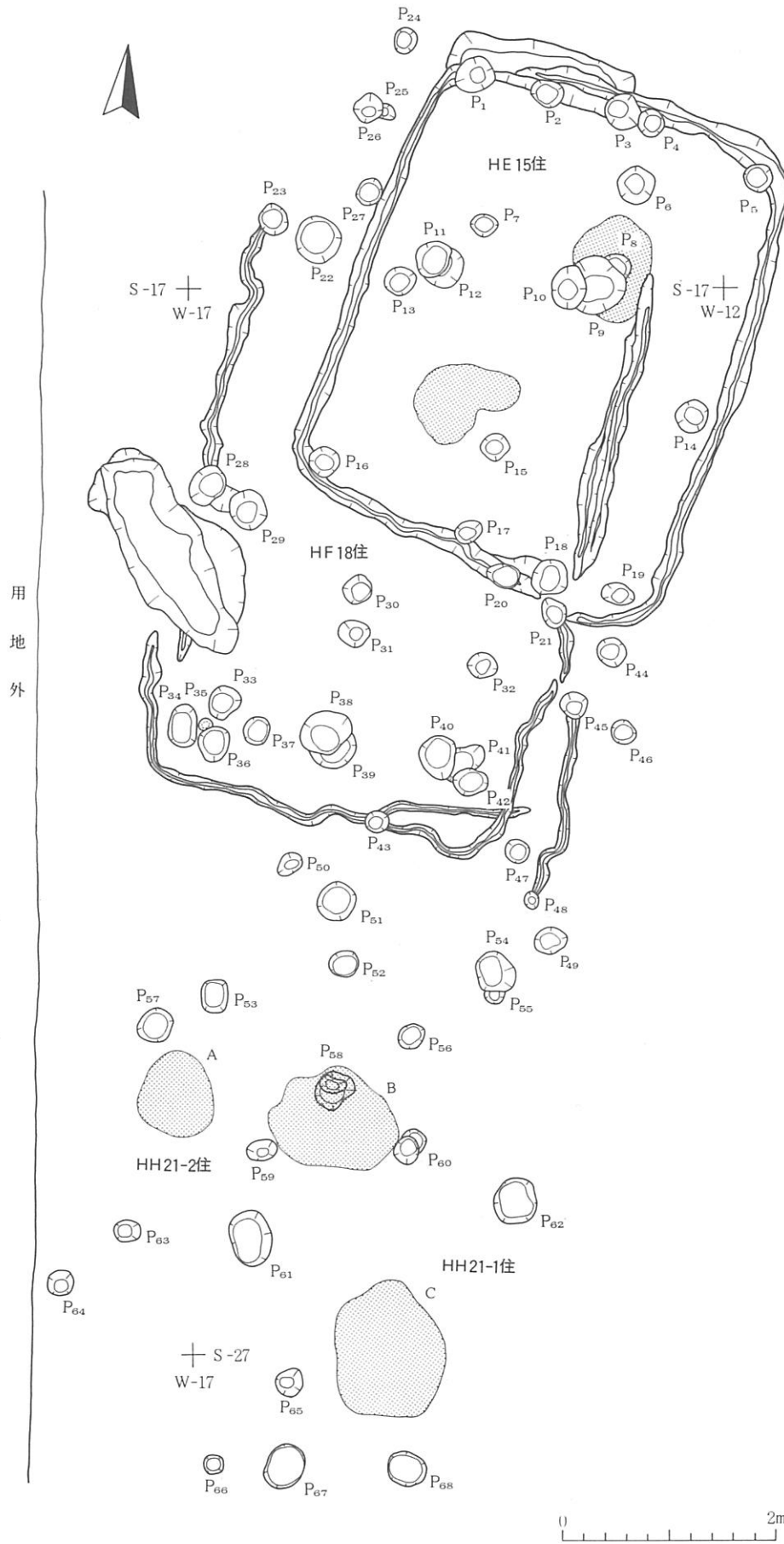
〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区の西端に位置し、床面より焼面を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H H 21—1 住居跡と重複するが新旧関係は明らかにできなかった。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凸凹がみられるものの比較的堅い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるものには、P₅₇・P₆₀・P₆₄・P₆₅の4個があり、P₅₀・P₅₅がそれに加わる可能性をもつ。

〔炉〕 焼面Aが当住居跡に伴う地床炉と思われる。焼面BはH H 21—1 住居跡と当住居跡とのどちらに伴うものか不明である。焼面Aは69×77cmの広がりをもつ。



ピットNo ピット名 深さ(cm)	1 HE-153 45.5	2 HF-159 14	3 HF-156 64	4 HF-158 17	5 HF-1211 55	6 HF-153 22	7 HF-155 18	8 HF-154 21	9 HF-152 44	10 HF-151 70	11 HF-157 67	12 HF-1510 67	13 HF-188 59.7	14 HG-154 55	15 HG-155 18	
	16 HG-182 42	17 HG-156 48	18 HG-158 35	19 HG-157 58	20 HG-159 88	21 HF-1510 23	22 HF-184 62	23 HF-185 50	24 HE-181 27	25 HF-186 10	26 HF-181 20	27 HF-182 26	28 HG-184 54	29 HG-183 58	30 HG-186 20.5	31 HG-188 41
	32 HG-1512 28	33 HG-189 56	34 HG-1810 13	35 HG-1811 31	36 HH-184 11	37 HH-182 22	38 HG-1812 63	39 HH-1813 54	40 HH-153 55	41 HH-155 30	42 HH-154 42	43 HH-189 14	44 HG-151 20	45 HG-1511 3	46 HH-151 16	47 HH-152 22
	48 HH-159 ?	49 HH-157 15	50 HH-185 24	51 HH-186 18	52 HH-1811 46	53 HH-187 47	54 HH-158 57	55 HH-156 24	56 HH-1810 25	57 HH-188 29	58 HI-184 14	59 HI-183 5	60 HI-185 35	61 HI-182 62	63 HI-151 39	63 HI-181 13
	64 HI-211 30	65 HJ-181 22	66 HJ-182 10	67 HJ-183 63.5	68 HJ-184 49											

第39図 HE 15・HF 18・HH 21-1・HH 21-2住居跡

GG03 竪穴状遺構 (第40図)

〔遺構の確認〕 G区の中央付近に位置しており、地山面上(Ⅱa層上面)より暗褐色土の落ち込みを検出して遺構の存在を確認した。

〔重複〕 7個の柱穴状ピットと重複し、そのすべてのピットに切られている。

〔平面形・規模〕 長軸長 3.96 m、短軸長 1.59 mの縦長の長方形を呈する。長軸方向はN-53.5°-Wである。また、竪穴内の床面積は約 5.32 m²を計る。

〔堆積土〕 遺構内堆積土は2層に大別されるが、双方とも自然堆積層として認定した。上層は黒褐色土の粉状堆積土で、下層は黄褐色土を基本とする粒状の緻密な堆積土である。

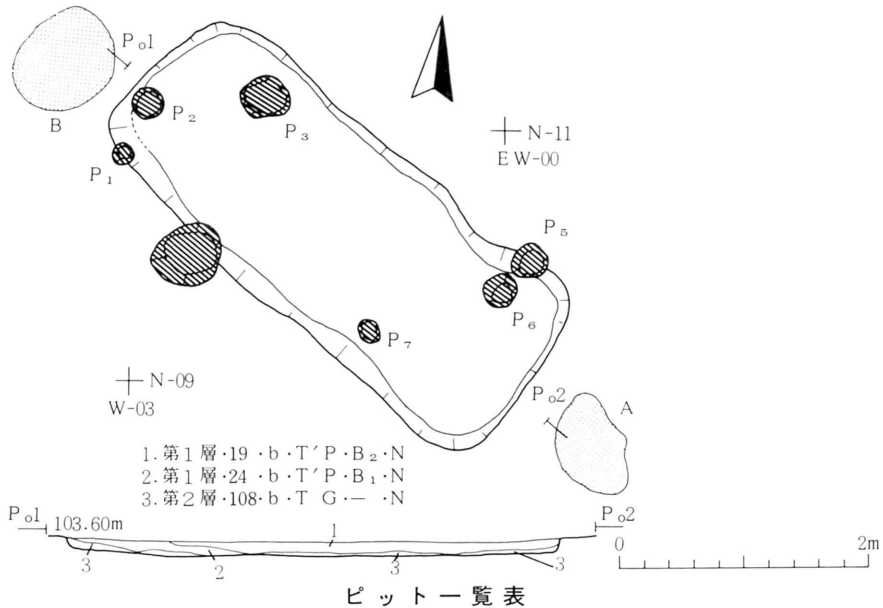
〔床〕 地山をそのまま床としている。床面はかなり凸凹がみられ、比較的柔かい。

〔壁〕 地山を壁としているが、遺存状況はあまり良くなく、現存値で約 8~12cmの壁高をもつ。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上および壁にまたがって7個のピットが検出されているが、そのいずれも当遺構廃絶後に掘り込まれたものである。柱穴と想定されるピットは検出されていない。

〔炉〕 竪穴両短辺の外側に焼面が検出されているが、当竪穴に伴うものとなるかは不明である。東辺外側の焼面Aが79×55cm、西辺外側の焼面Bが85×70cmを計る。



ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7
ピット名	GG-036	GG-033	GG-034	GG-035	GG-507	GG-508	GG-036
深さ(cm)	10	13	17	45	10	18	13

第40図 GG03竪穴状遺構

2 墓壙—舟底状土壙群—

平面形が小判形で、断面形が舟底状を呈する土壙が193基検出されている。これらは、既調査の他遺跡で墓壙として認定されたものと形態・規模とも極めて類似しており、墓壙としての機能が考えられるものである。

GB 657ピット<a類>：GA 683・GB 658の2ピットと重複し、GA 683を切っているが、GB 658に切られている。長軸方向はN-79°-Eを計り、規模は長軸長が遺存値で99cm、短軸長50cm±となる。壙底のレベルは長軸の外方がやや高くなっている。

GB 655ピット<a₃類>：長軸方向はN-69°-Eを計り、長軸長104cm±、短軸長64cm±、深さ8cm±の規模をもつ。壙底のレベルは長軸の外方がかなり高くなっている。

GB 656ピット<a₄類>：長軸方向はN-79°-Eを計り、長軸長120cm±、短軸長74cm±、深さ14cm±の規模をもつ。壙底のレベルは長軸の外方がやや高くなっている。

GB 681ピット<a類>：約半分が調査区外に入る。長軸方向はN-71°-Eを計り、短軸長68cm±、深さ18cm±の規模をもつ。

GB 682ピット<a類>：約半分が調査区外に入り、GB 682ピットによって切られている。長軸方向はN-72°-Eを計り、短軸長84cm±、深さ18cm±の規模をもつ。

GC 681ピット<a類>：長軸の外方の一部が調査区外に入り、N-77°-Eの長軸方向をもつ。規模は短軸長104cm±、深さ18cm±を計る。

GD 681ピット<b₄類>：長軸方向はN-74°-Eを計り、長軸長124cm±、短軸長84cm±、深さ36cm±の規模をもつ。壙底のレベルは長軸の外方がやや高くなっている。

FI 658ピット<a₃類>：FI 657ピットと重複し、それよりも古い。長軸方向はN-43°-Eを計り、長軸長114cm±、短軸長62cm±、深さ16cm±の規模をもつ。

FJ 621ピット<a₅類>：長軸方向はN-41°-Eを計り、長軸長174cm±、短軸長94cm±、深さ13cm±の規模をもつ。壙底のレベルはほぼ水平になっている。

FJ 622ピット<a₃類>：長軸方向はN-42°-Eを計り、長軸長104cm±、短軸長80cm±、深さ14cm±の規模をもつ。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

FJ 624ピット<a₄類>：N-45°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長136cm±、短軸長80cm±、深さ8cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

FJ 651ピット<a₃類>：N-40°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長100cm±、短軸長60cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

FJ 652ピット<a₂類>：FJ 653ピットと重複するが、新旧関係は不明である。N-40°-

Eの長軸方位をもち、規模は長軸長86cm±、短軸長68cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 653ピット<b₃類>：F J 652・F J 657ピットと重複し、F J 657ピットを切って構築しているが、F J 652ピットとの新旧関係は不明である。N-42°-Eの長軸方位をもち、規模は104cm±、短軸長72cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平である。

F J 654ピット<a₁類>：N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長48cm±、短軸長28cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平である。

F J 655ピット<b₄類>：N-44°-Eの長軸方位をもち、長軸長124cm±、短軸長68cm±、深さ21cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 657ピット<a類>：F J 653ピットによって大半が破壊されている。N-40°-Eの長軸方位をもち、規模は短軸長60cm±、深さ14cm±を計る。

F J 681ピット<b₄類>：N-43°-Eの長軸方位をもち、長軸長132cm±、短軸長64cm±、深さ36cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 621ピット<b₄類>：N-38°-Eの長軸方位をもち、長軸長136cm±、短軸長88cm±、深さ23cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 622ピット<b₄類>：N-37°-Eの長軸方位をもち、長軸長132cm±、短軸長74cm±、深さ34cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 651ピット<a₄類>：N-36°-Eの長軸方位をもち、長軸長116cm±、短軸長68cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっており、外側の壁には3箇の礫が貼り付いている。

G A 652ピット<a₃類>：N-37°-Eの長軸方位をもち、長軸長112cm±、短軸長82cm±、深さ20cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 653ピット<a₄類>：N-41°-Eの長軸方位をもち、長軸長132cm±、短軸長64cm±、深さ18cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 654ピット<a₅類>：G A 656ピットと重複し、それを切って構築している。N-56°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長146cm±、短軸長82cm±、深さ20cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

G A 655ピット<a₃類>：N-44°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長108cm±、短軸長54cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 656ピット<b₃類>：G A 654ピットと重複し、それに切られている。N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長100cm±、短軸長60cm±、深さ30cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GA 681ピット<a類>：約半分が調査区外に入る。N-50°-Eの長軸方位をもち、規模は短軸長60cm±、深さ12cm±を計る。

GA 682ピット<a類>：約半分が調査区外に入る。N-57°-Eの長軸方位をもち、規模は短軸長66cm、深さ16cm±を計る。

GA 683ピット<a₂類>：GB 657・GB 658の2ピットと重複し、その双方に切られている。N-48°-Eの長軸方位をもち、長軸長94cm、短軸長50cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 621ピット<b₄類>：N-38°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長120cm±、短軸長66cm±、深さ28cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GB 622ピット<b₄類>：N-37°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長149cm±、短軸長60cm±、深さ36cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 651ピット<b₅類>：GB 652ピットと重複し、それを切ってつくられている。N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長158cm±、短軸長72cm±、深さ26cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GB 652ピット<b₅類>：GB 651・GB 653の2ピットと重複し、GB 651ピットによって切られるが、GB 653ピットを切ってつくられる。N-56°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長156cm±、短軸長74cm±、深さ30cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平である。

GB 653ピット<b₅類>：GB 652・GB 654の2ピットと重複し、その双方のピットによって切られている。N-56°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長154cm、短軸長が不明、深さ32cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 654ピット<b₄類>：GB 653ピットを切ってつくられる。N-39°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長136cm±、短軸長74cm±、深さ34cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 658ピット<c₃類>：GA 683・GB 657・GB 682の3ピットと重複し、そのいずれも切ってつくられている。N-40°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長108cm±、短軸長92cm±、深さ28cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

FH 566ピット<a₃類>：N-2°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長104cm±、短軸長56cm±、深さ18cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはやや高くなっている。

FH 651ピット<a₃類>：N-4°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長114cm±、短軸長52cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

FI 562ピット<a₃類>：N-4°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長110cm±、短軸長54cm±、深さ17cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 563ピット< a_3 類>: N-9°-Eの軸方位をもち、規模は長軸長114 cm±、短軸長48 cm±、深さ17 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 564ピット< b_4 類>: N-10°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長118 cm±、短軸長76 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 565ピット< b_3 類>: N-4°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長102 cm±、短軸長70 cm±、深さ24 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 591ピット< a_4 類>: N-6°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長132 cm±、短軸長64 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 621ピット< a_4 類>: N-19°-Eの長軸方位をもち、長軸長126 cm±、短軸長64 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 622ピット< b_4 類>: N-21°-Eの長軸方位をもち、長軸長126 cm±、短軸長80 cm±、深さ28 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 623ピット< a_4 類>: N-18°-Eの長軸方位をもち、長軸長120 cm±、短軸長68 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F I 624ピット< a_2 類>: N-25°-Eの長軸方位をもち、長軸長94 cm±、短軸長64 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 625ピット< a_4 類>: N-6°-Wの長軸方位をもち、長軸長118 cm±、短軸長62 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 656ピット< b_4 類>: N-21°-Eの長軸方位をもち、長軸長128 cm±、短軸長76 cm±、深さ28 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 657ピット< a_4 類>: F I 658 ピットと重複し、それを切ってつくられる。N-10°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長134 cm±、短軸長72 cm±、深さ20 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 561ピット< a_3 類>: F J 562 ピットと重複し、それを切ってつくられる。N-11°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm、短軸長64 cm、深さ18 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 562ピット< a_4 類>: F J 561 ピットと重複し、それによって切られている。N-13°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長130 cm±、短軸長88 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 563ピット< a_4 類>: N-14°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長128 cm、短軸長52 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 591ピット< b_4 類>: N-13°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長118 cm±、短軸長

53cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F J 592ピット<a₃類>: N-25°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長114cm±、短軸長88cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F J 593ピット<b₄類>: N-21°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長140cm±、短軸長78cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 594ピット<b₅類>: N-8°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長152cm±、短軸長70cm±、深さ28cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 561ピット<a₅類>: N-21°-Eの長軸方位をもち、長軸長156cm±、短軸長76cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での壙底の高さはほぼ水平になっている。

G A 591ピット<a₃類>: N-20°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長100cm±、短軸長72cm±、深さ4cmを計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 592ピット<a₄類>: N-20°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長124cm±、短軸長82cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F H 503ピット<a₄類>: N-20°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長120cm±、短軸長72cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 037ピット<b₄類>: N-32°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長138cm±、短軸長82cm±、深さ30cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 039ピット<a₄類>: N-41°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長122cm±、短軸長70cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 069ピット<b₅類>: F J 062ピットを切ってつくられる。N-37°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長146cm、短軸長68cm±、深さ24cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 501ピット<a₄類>: N-24°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長120cm±、短軸長88cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 502ピット<a₄類>: F H 503ピットによって切られている。N-19°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長136cm±、短軸長96cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

F I 503ピット<a₃類>: F I 504ピットによって切られている。N-22°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長102cm±、短軸長74cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 504ピット<b₃類>: F I 503・F I 505・F I 509の3ピットと重複し、そのすべてのピットを切ってつくられている。N-29°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長106cm±、短

軸長70cm±、深さ26cm±を計る。長軸方向でのレベルはほぼ水平になっている。

F I 505ピット<a₅類>: F I 504・F I 509 の2ピットと重複し、F I 504 ピットには切られるが、F I 509 ピットを切ってつくられる。N-41°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長172 cm±、短軸長104 cm±、深さ19cm±を計る。長軸方向での壙底レベルは外側がやや高くなる。

F I 509ピット<a₅類>: F I 504・F I 505 の2ピットと重複し、その双方に切られている。N-31°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長160 cm±、短軸長が不明、深さ16cm±を計る。

F I 532ピット<b₄類>: F I 535 ピットと重複し、それを切ってつくられる。N-19°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長132 cm±、短軸長52cm±、深さ26cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 533ピット<b₄類>: N-18°-Wの主軸方位をもち、長軸長118 cm、短軸長54cm±、深さ24cm±を計る長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 535ピット<a₄類>: F I 532 ピットと重複し、これによって切られている。N-19°-Wの長軸方位をもち、長軸長126 cm±、短軸長74cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 536ピット<a₂類>: N-21°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長78cm、短軸長40cm、深さ6 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 537ピット<a₄類>: F I 539 ピットを切ってつくられる。N-47°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長134 cm±、短軸長58cm±、深さ15cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 539ピット<a₃類>: F I 537 ピットによって切られている。N-36°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm±、短軸長が不明、深さ15cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 062ピット<a類>: F J 063・F I 069 の2ピットと重複し、その双方のピットによって切られている。N-42°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長66cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 063ピット<a₄類>: F J 062 ピットを切ってつくられる。N-42°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長124 cm±、短軸長64cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 0313ピット<a類>: N-43°-Wの主軸方位をもち、深さが7 cm±を計るほかは規模は不明である。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 501ピット<a₄類>: N-32°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長117 cm±、短軸長72cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 533ピット< b_5 類>: N-18°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長 156 cm±、短軸長 82 cm±、深さ 21 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはやや外側が高くなっている。

F J 534ピット< a_4 類>: N-4°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長 132 cm±、短軸長 74 cm±、深さ 16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 032ピット< a_4 類>: G A 033 ピットを切ってつくられる。N-44°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm±、短軸長 86 cm±、深さ 8 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 033ピット< a_5 類>: G A 033 ピットによって切られている。N-38°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 148 cm±、短軸長 74 cm±、深さ 14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 034ピット< b_4 類>: G A 034 ピットを切ってつくられる。N-45°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm±、短軸長 80 cm±、深さ 22 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 095ピット< a_2 類>: N-52°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 90 cm±、短軸長 46 cm±、深さ 8 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 0910ピット< a_3 類>: G A 0912 ピットを切ってつくられる。N-43°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 101 cm±、短軸長 74 cm±、深さ 14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 0912ピット< a_4 類>: G A 0910・G A 061・G A 062 の 3 ピットと重複しており、そのすべてのピットによって切られている。N-44°-Wの長軸方位をもち、長軸長 120 cm±、短軸長 84 cm±、深さ 12 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 061ピット< a 類>: G A 0912 ピットを切ってつくられるが、G A 062 ピットによって切られている。N-46°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長 46 cm±、深さ 16 cm±を計る。

G A 062ピット< b_5 類>: G A 0912・G A 061 の 2 ピットと重複し、その双方のピットを切ってつくられる。また、G A 063 溝状土壙をも切っている。N-42°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 150 cm±、短軸長 82 cm±、深さ 28 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 501ピット< a_4 類>: N-52°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 140 cm±、短軸長 80 cm±、深さ 11 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 031ピット< a_4 類>: N-69°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長 118 cm±、短軸長 74 cm±、深さ 14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 065ピット< a_5 類>: N-85°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長160 cm±、短軸長80 cm±、深さ8 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G B 1518ピット< a_5 類>: N-83°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長156 cm±、短軸長92 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 122ピット< b_5 類>: G B 124 ピットによって切られている。N-83°-Wの長軸方位をもち規模は長軸長146 cm±、短軸長94 cm±、深さ28 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G B 124ピット< a_4 類>: G B 122 ピットを切ってつくられている。N-84°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長135 cm±、短軸長119 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 125ピット< b_4 類>: N-77°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長134 cm±、短軸長90 cm±、深さ23 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 094ピット< a 類>: G B 063・G B 095 の2ピットと重複し、その双方に切られている。N-71°-Wの主軸方位をもち、規模は深さが10 cm±を計るほかは不明である。

G B 095ピット< a_4 類>: G B 094・G B 097 の2ピットと重複し、その双方を切ってつくられる。N-73°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長122 cm±、短軸長66 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G B 097ピット< b_5 類>: G B 095 ピットによって切られている。N-76°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長150 cm±、短軸長90 cm±、深さ24 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 062ピット< a_3 類>: N-70°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm±、短軸長80 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 063ピット< b_5 類>: G B 066・G B 094 の2ピットと重複し、G B 066 ピットによって切られるが、G B 094 ピットを切ってつくられる。N-77°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長166 cm、短軸長92 cm±、深さ30 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G B 066ピット< c_2 類>: G B 063 ピットを切ってつくられる。N-71°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長84 cm±、短軸長70 cm±、深さ22 cm±を計る。

G B 031ピット< c_3 類>: N-77°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長99 cm±、短軸長70 cm±、深さ22 cm±を計る。

G C 1511ピット< c_3 類>: N-79°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長96 cm±、短軸長82 cm±、深さ34 cm±を計る。

G C 121ピット<a₄ 類>: N-75°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 142 cm±、短軸長 80 cm±、深さ 10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G C 091ピット<a₄ 類>: N-80°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 132 cm±、短軸長 80 cm±、深さ 12 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 093ピット<a₄ 類>: N-82°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 124 cm±、短軸長 80 cm±、深さ 10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G C 095ピット<b₃ 類>: N-81°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 99 cm±、短軸長 56 cm±、深さ 21 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 061ピット<a₄ 類>: N-78°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 120 cm±、短軸長 82 cm±、深さ 14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 064ピット<a₄ 類>: N-83°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 132 cm±、短軸長 68 cm±、深さ 13 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 065ピット<a₃ 類>: N-80°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 108 cm±、短軸長 64 cm±、深さ 17 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 031ピット<b₄ 類>: N-82°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 128 cm±、短軸長 82 cm±、深さ 22 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

G D 123ピット<b₄ 類>: G D 125 ピットを切ってつくられる。N-77°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 144 cm±、短軸長 70 cm±、深さ 22 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G D 125ピット<a₄ 類>: G D 123 ピットによって切られている。N-75°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 120 cm±、短軸長 64 cm±、深さ 14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 091ピット<a₃ 類>: N-69°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 108 cm±、短軸長 50 cm±、深さ 8 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G D 092ピット<a₄ 類>: N-74°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 126 cm±、短軸長 74 cm±、深さ 16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 062ピット<a₄ 類>: N-67°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 128 cm±、短軸長 80 cm±、深さ 10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 063ピット<a₄ 類>: N-72°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 124 cm±、短軸長 80 cm±、深さ 16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

G D 031ピット<a₄ 類>: N-70°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm±、短軸長 96 cm±、深さ 18 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 123ピット< b_4 類>: GD 125 ピットを切ってつくられる。N-67°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長118 cm±、短軸長70 cm±、深さ21 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 091ピット< a_3 類>: N-67°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長112 cm±、短軸長78 cm±、深さ18 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 092ピット< a_4 類>: N-67°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長130 cm±、短軸長60 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GD 064ピット< a_4 類>: N-50°-Eの長軸方位をもち、長軸長130 cm±、短軸長80 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 061ピット< a_2 類>: N-54°-Eの長軸方位をもち、長軸長90 cm±、短軸長54 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 062ピット< b_4 類>: N-52°-Eの長軸方位をもち、長軸長128 cm、短軸長62 cm±、深さ26 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 063ピット< b_3 類>: GE 064 ピットによって切られている。N-43°-Eの長軸方位をもち、長軸長110 cm±、短軸長74 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 064ピット< b_4 類>: GE 063・GE 032 の2ピットと重複し、GE 063 ピットを切ってつくられるが、GE 032 ピットとの新旧関係は不明である。N-47°-Eの長軸方位をもち、規模は、長軸長136 cm±、短軸長70 cm±、深さ28 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 031ピット< a_3 類>: N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長114 cm±、短軸長84 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 032ピット< a_4 類>: GE 064・GF 064 の2ピットと重複し、GF 064 ピットによって切られるがGE 064 ピットとの新旧関係は不明である。N-35°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長136 cm±、短軸長80 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 033ピット< a_3 類>: N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長114 cm±、短軸長76 cm±、深さ18 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 034ピット< a_4 類>: N-48°-Eの長軸方位をもち、長軸長134 cm±、短軸長74 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 035ピット< a_2 類>: N-37°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長78 cm±、短軸長40 cm±、深さ8 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

— 西 田 遺 跡 —

GE 501ピット< b_5 類>: $N-34^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長170 cm±、短軸長102 cm±、深さ26 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 502ピット< a_4 類>: $N-54^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長138 cm±、短軸長78 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 503ピット< a_2 類>: $N-29^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長82 cm±、短軸長70 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 504ピット< b_4 類>: $N-30^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長120 cm±、短軸長72 cm±、深さ21 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 505ピット< a_3 類>: $N-29^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長114 cm±、短軸長76 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 061ピット< b_4 類>: $N-51^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長120 cm±、短軸長70 cm±、深さ26 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GF 064ピット< b_5 類>: **GE 032**ピットを切ってつくられる。 $N-42^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長154 cm±、短軸長80 cm±、深さ30 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 031ピット< a_3 類>: $N-34^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm±、短軸長64 cm±、深さ17 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 033ピット< a_2 類>: $N-35^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長80 cm±、短軸長54 cm±、深さ8 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

GF 034ピット< a_3 類>: $N-47^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長115 cm±、短軸長54 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 035ピット< a_5 類>: $N-25^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長154 cm±、短軸長86 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 036ピット< a_3 類>: $N-33^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長115 cm±、短軸長74 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 502ピット< a_3 類>: $N-0^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長108 cm±、短軸長82 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GF 503ピット< a_4 類>: $N-28^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長136 cm±、短軸長76 cm±、深さ18 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 504ピット< b_4 類>: $N-33^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長140 cm±、短軸長72 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 531ピット< a_4 類>: $N-1^\circ-W$ の長軸方位をもち、規模は長軸長128 cm±、短軸長

78cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 561ピット<a₅ 類>: N-2°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長176cm±、短軸長80cm±、深さ15cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 531ピット<a₄ 類>: N-1°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長128cm±、短軸長78cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 532ピット<b₄ 類>: N-7°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長144cm±、短軸長70cm±、深さ32cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 561ピット<b₅ 類>: N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長176cm±、短軸長80cm±、深さ23cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。ヒスイの垂飾りが出土している。

GF 562ピット<b₄ 類>: N-7°-Wの長軸方位をもち、長軸長120cm±、短軸長70cm±、深さ21cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 563ピット<a₄ 類>: N-6°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長128cm±、短軸長84cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 564ピット<a₂ 類>: N-9°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長92cm±、短軸長46cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GF 591ピット<b類>: N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長84cm±、深さ32cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 592ピット<b₃ 類>: N-9°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長112cm±、短軸長66cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 593ピット<b₄ 類>: N-9°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長142cm±、短軸長80cm±、深さ28cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっており、外側の上部には石が据えられている。

GF 594ピット<a₄ 類>: N-9°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長144cm±、短軸長110cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 621ピット<b₄ 類>: GF 624ピットを切ってつくられる。N-12°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長124cm±、短軸長70cm±、深さ24cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 624ピット<a類>: GF 621ピットによって切られている。N-17°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長が64cm±、深さ15cm±を計る。

GG 561ピット<b₄ 類>: N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長130cm±、短軸長74cm±、深さ26cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

— 西田遺跡 —

GG 562ピット< b_5 類>：上部は木根による攪乱をうけている。N-6°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長150 cm±、短軸長100 cm±、深さ38cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GG 625ピット< a_3 類>：N-14°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm±、短軸長68cm±、深さ18cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 621ピット< b_5 類>：N-37°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長154 cm±、短軸長80cm±、深さ36cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GE 622ピット< a_4 類>：N-36°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長128 cm±、短軸長66cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 623ピット< b_2 類>：N-24°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長90cm±、短軸長68 cm±、深さ24 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 651ピット< b_4 類>：N-49°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長124 cm±、短軸長74cm±、深さ25cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 652ピット< c_2 類>：GF 654 ピットを切ってつくられる。N-21°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長84cm±、短軸長60cm±、深さ21cm±を計る。

GE 682ピット< a_4 類>：N-47°-Wの長軸方位をもち、長軸長120 cm±、短軸長80cm±、深さ17cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 622ピット< a_4 類>：GF 651 ピットによって切られている。N-40°-Wの長軸方位をもち、長軸長140 cm±、短軸長80cm±、深さ18cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 623ピット< a_3 類>：N-33°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm±、短軸長58cm±、深さ19cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 651ピット< a_2 類>：GF 622 ピットを切ってつくられる。N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は92cm±、短軸長52 cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 652ピット< a_3 類>：N-24°-Wの長軸方位をもち、長軸長102 cm±、短軸長60cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 653ピット< a_2 類>：N-26°-Wの長軸方位をもち、長軸長78cm±、短軸長52 cm±、深さ13cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 654ピット< a 類>：GE 652 ピットによって切られている。N-21°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長76cm±、深さ8 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはやや外側が高くなっている。

GF 655ピット< b_3 類>: $N-38^\circ-W$ の長軸方位をもち、規模は長軸長106 cm±、短軸長76 cm±、深さ26 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは外側がやや高くなっている。

GA 562ピット< a_2 類>: $N-45^\circ-W$ の長軸方位をもち、規模は長軸長88 cm±、短軸長58 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GA 563ピット< a_2 類>: $N-61^\circ-W$ の長軸方位をもち、規模は長軸長90 cm±、短軸長62 cm±、深さ7 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 561ピット< b_3 類>: $N-31^\circ-W$ の長軸方位をもち、規模は長軸長110 cm±、短軸長78 cm±、深さ32 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

GB 562ピット< a_5 類>: $N-56^\circ-W$ の長軸方位をもち、規模は長軸長202 cm±、短軸長94 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 563ピット< a_2 類>: **GB 532**ピットを切ってつくられる。 $N-46^\circ-W$ の長軸方位をもち、規模は長軸長90 cm±、短軸長50 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 532ピット< b_4 類>: **GB 563**ピットによって切られている。 $N-72^\circ-W$ の長軸方位をもち、規模は長軸長138 cm±、短軸長102 cm±、深さ31 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

GB 591ピット< a_3 類>: $N-5^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長114 cm±、短軸長92 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がかなり高くなっている。

GB 592ピット< a_2 類>: $N-49^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長80 cm±、短軸長56 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 593ピット< b_4 類>: $N-56^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長128 cm±、短軸長74 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GC 563ピット< a_3 類>: $N-27^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長112 cm±、短軸長88 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルはほぼ水平になっている。

GC 562ピット< b_5 類>: $N-7^\circ-E$ の長軸方位をもち、規模は長軸長156 cm±、短軸長86 cm±、深さ42 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がかなり高くなっている。

GC 591ピット< b_4 類>: $N-8^\circ-E$ の長軸方位をもち、長軸長134 cm±、短軸長60 cm±、深さ26 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がかなり高くなっている。

GC 592ピット< b_3 類>: **GC 593**ピットを切ってつくられる。 $N-86^\circ-W$ の長軸方位をもち、長軸長102 cm±、短軸長64 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での壙底のレベルは内側がやや高くなっている。

GC 593ピット< a 類>: **GC 592**ピットによって切られている。 $N-82^\circ-W$ の長軸方位をもち、規模は長軸長・短軸長とも不明、深さ6 cm±を計る。

第 3 表 墓 塚 観 察 一 覧 表

群	遺 構 名	重 複 関 係	タイプ 分 類	長軸方向	長軸長	短軸長	深 さ	
A	GB 657	GA 683、GB 658 と重複し、GA 683 より新しく GB 658 より古い。	a	N-E79°	不明	50	10	
	655		a ₃	N-E69°	104	64	8	
	656		a ₄	N-E79°	120	74	14	
	681		a	N-E71°	不明	68	18	
	682	GB 658 と重複し、それよりも古い。	a	N-E72°	不明	84	10	
	GC 681		a	N-E77°	不明	104	18	
	GD 681		b ₄	N-E74°	124	84	36	
B	FI 658	FI 657 と重複し、それより古い。	a ₃	N-E43°	114	62	16	
	FJ 621	円形ピットである FJ 623 と重複し、それより古い。	a ₅	N-E41°	174	94	13	
			a ₂	N-E42°	104	80	14	
			a ₄	N-E45°	136	80	8	
			a ₃	N-E40°	100	60	14	
	651	FJ 653 と重複するが新旧関係不明。	a ₂	N-E40°	86	68	12	
	652		FJ 652、FJ 657 と重複し、FJ 657 より新しいが、FJ 652 との新旧関係は不明。	b ₃	N-E42°	104	72	22
	653			a ₁	N-E49°	48	28	10
	654			b ₄	N-E44°	124	68	21
	655		FJ 653 と重複し、それより古い。	a	N-E40°	不明	60	14
	657			b ₄	N-E43°	132	64	36
	681			b ₄	N-E38°	136	88	23
	GA 621	622	GA 656 と重複し、それより新しい。	b ₄	N-E37°	132	74	34
		651		a ₄	N-E36°	116	68	12
		652		a ₃	N-E37°	112	82	20
		653		a ₄	N-E41°	132	64	18
		654		a ₅	N-E56°	146	82	20
		655		a ₃	N-E44°	108	54	14
		656		GA 654 と重複し、それより古い。	b ₃	N-E49°	100	60
	681	a	N-E50°		不明	60	12	
	682	a	N-E57°		不明	66	16	
	GB 621	683	GB 657、GB 658 と重複し、そのいずれよりも古い。	a ₂	N-E48°	94	50	10
		622		b ₄	N-E38°	120	66	28
			b ₄	N-E37°	149	60	36	

群	遺構名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	探さ
B	GB 651	GB 652と重複し、それより新しい。	b ₅	N-E49°	158	72	26
	652	GB 651、GB 653と重複し、GB 651より旧く、GB 653より新しい。	b ₅	N-E56°	156	74	30
	653	GB 652、GB 654と重複し、そのいずれよりも古い。	b ₅	N-E56°	154	不明	32
	654	GB 653と重複し、それよりは新しい。	b ₄	N-E39°	136	74	34
	658	GA 683、GB 657、GB 682と重複し、そのいずれよりも新しい。	c ₃	N-E40°	108	92	28
C	FH 566		a ₃	N-E2°	104	56	18
	651		a ₃	N-W4°	114	52	12
	FI 562		a ₃	N-E4°	110	54	17
	563		a ₃	N-E9°	114	48	17
	564		b ₄	N-E10°	118	76	22
	565		b ₃	N-E4°	102	70	24
	591		a ₄	N-W6°	132	64	16
	621		a ₄	N-E19°	126	64	16
	622		b ₄	N-E21°	126	80	28
	623		a ₄	N-E18°	120	68	14
	624		a ₂	N-E25°	94	64	10
	625		a ₄	N-W6°	118	62	10
	656		b ₄	N-E21°	128	76	28
	657	FI 658と重複し、それより新しい。	a ₄	N-E10°	134	72	20
	FJ 561	FJ 562と重複し、それより新しい。	a ₃	N-E11°	104	64	18
	562	FJ 561と重複し、それより古い。	a ₄	N-E13°	130	88	16
	563		a ₄	N-E14°	128	52	12
	591		b ₄	N-E13°	118	53	22
	592		a ₃	N-E25°	114	88	10
	593		b ₄	N-E21°	140	78	22
594		b ₅	N-E8°	152	70	28	
GA 561		a ₅	N-E21°	156	76	16	
591		a ₃	N-E20°	100	72	4	
592		a ₄	N-E20°	124	82	12	
D	FH 503		a ₄	N-W20°	120	72	12
	FI 037		b ₄	N-W32°	138	82	30
	039		a ₄	N-W41°	122	70	16

— 西 田 遺 跡 —

群	遺構名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ	
D	F I 069	F J 062 と重複し、それより新しい。	b ₅	N-W37°	146	68	24	
	501		a ₄	N-W24°	120	88	10	
	502	F H 503 と重複し、それより古い。	a ₄	N-W19°	136	96	16	
	503	F I 504 と重複し、それより古い。	a ₃	N-W22°	102	74	12	
	504	F I 505、F I 503、F I 509 と重複し、そのいずれよりも新しい。	b ₃	N-W29°	106	70	26	
	505	F I 504、F I 509 と重複し、F I 504 より古い、F I 509 より新しい。	a ₅	N-W41°	172	104	19	
	509	F I 504、F I 505 と重複するがそのいずれより古い。	a ₅	N-W31°	160	不明	16	
	532	F I 535 と重複し、それより新しい。	b ₄	N-W19°	132	52	26	
	533		b ₄	N-W18°	118	54	24	
	535	F I 532 と重複し、それより古い。	a ₄	N-W19°	126	74	10	
	536		a ₂	N-W21°	78	40	6	
	537	F I 539 と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W47°	134	58	15	
	539	F I 537 と重複し、それより古い。	a ₃	N-W36°	104	不明	15	
	F J	062	F J 063、F I 069 と重複し、そのいずれより古い。	a	N-W42°	不明	66	12
		063	F J 062 と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W42°	124	64	14
		0313		a	N-W43°	不明	不明	7
		501		a ₄	N-W32°	117	72	16
		533		b ₅	N-W18°	156	82	21
	G A	534		a ₄	N-E 4°	132	74	16
		032	G A 033 と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W44°	138	86	8
033		G A 032 と重複し、それより古い。	a ₅	N-W38°	148	74	14	
034		G A 033 と重複し、それより新しい。	b ₄	N-W45°	138	80	22	
095			a ₂	N-W52°	90	46	8	
0910		G A 0912 と重複し、それより新しい。	a ₃	N-W43°	101	74	14	
0912		G A 0910、G A 061、G A 062 と重複し、そのいずれよりも古い。	a ₄	N-W44°	120	84	12	
061		G A 0912、G A 062 と重複し、G A 0912 より新しく、G A 062 より古い。	a	N-W46°	不明	46	16	
062		G A 0912、G A 061 と重複し、そのいずれよりも新しい。	b ₅	N-W42°	150	82	28	
501		a ₄	N-W52°	140	80	11		
E	G A 031		a ₄	N-W69°	118	74	14	
	065		a ₅	N-W85°	160	80	8	
	G B 1518		a ₅	N-W83°	156	92	16	
	122	G B 124 と重複し、それより古い。	b ₅	N-W83°	146	94	28	

群	遺構名	重 複 関 係	タイプ 分 類	長軸方向	長軸長	短軸長	深 さ	
E	GB 124	GB 122 と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W84°	135	119	16	
	125		b ₄	N-W77°	134	90	23	
	094	GB 063、GB 095 と重複し、双方に切られる。	a	N-W71°	不明	不明	10	
	095		a ₄	N-W73°	122	66	14	
	097	GB 095 と重複し、それより古い。	b ₅	N-W76°	150	90	24	
	062		a ₃	N-W70°	104	80	16	
	063	GB 066、GB 095 と重複し、GB 066 より 旧く、GB 094 より新しい。	b ₅	N-W77°	166	92	30	
	066		c ₂	N-W71°	84	70	22	
	031	GB 063 と重複し、それより新しい。	c ₃	N-W77°	99	70	22	
	GC 1511		c ₃	N-W79°	96	82	34	
	121	GC 1511	a ₄	N-W75°	142	80	10	
	091		a ₄	N-E80°	132	80	12	
	093		a ₄	N-E82°	124	80	10	
	095		b ₃	N-E81°	99	56	21	
	061		a ₄	N-E78°	120	82	14	
	064		a ₄	N-E83°	132	68	13	
	065		a ₃	N-E80°	108	64	17	
	031		b ₄	N-E82°	128	82	22	
	GD 123		GD 125 と重複し、それより新しい。	b ₄	N-E77°	144	70	22
	125			GD 123、GE 123 と重複し、そのいずれより も古い。	a ₄	N-E75°	120	64
	091	a ₃			N-E69°	108	50	8
	092	a ₄		N-E74°	126	74	16	
	062	a ₄		N-E67°	128	80	10	
	063	a ₄		N-E72°	124	80	16	
	031	a ₄		N-E70°	138	96	18	
	GE 123	GD 125 と重複し、それよりも新しい。	b ₄	N-E67°	118	70	21	
091	a ₃		N-E67°	112	78	18		
092	a ₄		N-E67°	130	60	10		
F	GD 064		a ₄	N-E50°	130	80	10	
	GE 061		a ₂	N-E54°	90	54	14	
	062		b ₄	N-E52°	128	62	26	
	063		b ₃	N-E43°	110	74	22	

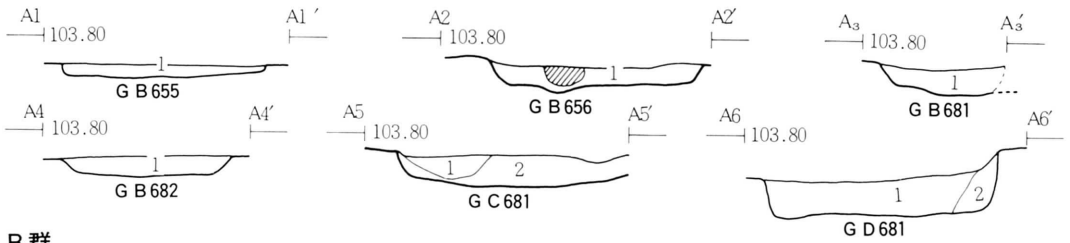
— 西 田 遺 跡 —

群	遺構名	重 複 関 係	タイプ 分 類	長軸方向	長軸長	短軸長	深 さ	
F	GE 064	GE 063、GE 032と重複し、GE 063より新しいが、GE 032とは新旧関係不明。	b ₄	N-E47°	136	70	28	
	031		a ₃	N-E49°	114	84	14	
	032		GE 064、GF 064と重複し、GF 064より旧いが、GF 064との新旧関係不明。	a ₄	N-E35°	136	80	14
	033			a ₃	N-E49°	114	76	18
	034			a ₄	N-E48°	134	74	10
	035			a ₂	N-E37°	78	40	8
	501			b ₅	N-E34°	170	102	26
	502			a ₄	N-E54°	138	78	16
	503			a ₂	N-E29°	82	70	10
	504			b ₄	N-E30°	120	72	21
	505			a ₃	N-E29°	114	76	12
	GF 061	GE 032と重複し、それより新しい。		b ₄	N-E51°	120	70	26
	064		b ₅	N-E42°	154	80	30	
	031		a ₃	N-E34°	104	64	17	
	033		a ₂	N-E35°	80	54	8	
	034		a ₃	N-E47°	115	54	12	
	035		a ₅	N-E25°	154	86	16	
	036		a ₃	N-E33°	115	74	16	
	502		a ₃	N-E0°	108	82	10	
	503		a ₄	N-E28°	136	76	18	
	504		b ₄	N-E33°	140	72	22	
	G		GE 531		a ₄	N-W1°	128	78
561		a ₅	N-E2°		176	80	15	
GF 531		a ₄	N-E1°		128	78	14	
532		b ₄	N-W7°		144	70	32	
561		b ₅	N-W8°		176	80	23	
562		b ₄	N-W7°		120	70	21	
563		a ₄	N-W6°		128	84	14	
564		a ₂	N-E9°		92	46	16	
591		b	N-W8°		不明	84	32	
592		b ₃	N-W9°		112	66	22	
593		b ₄	N-W9°		142	80	28	

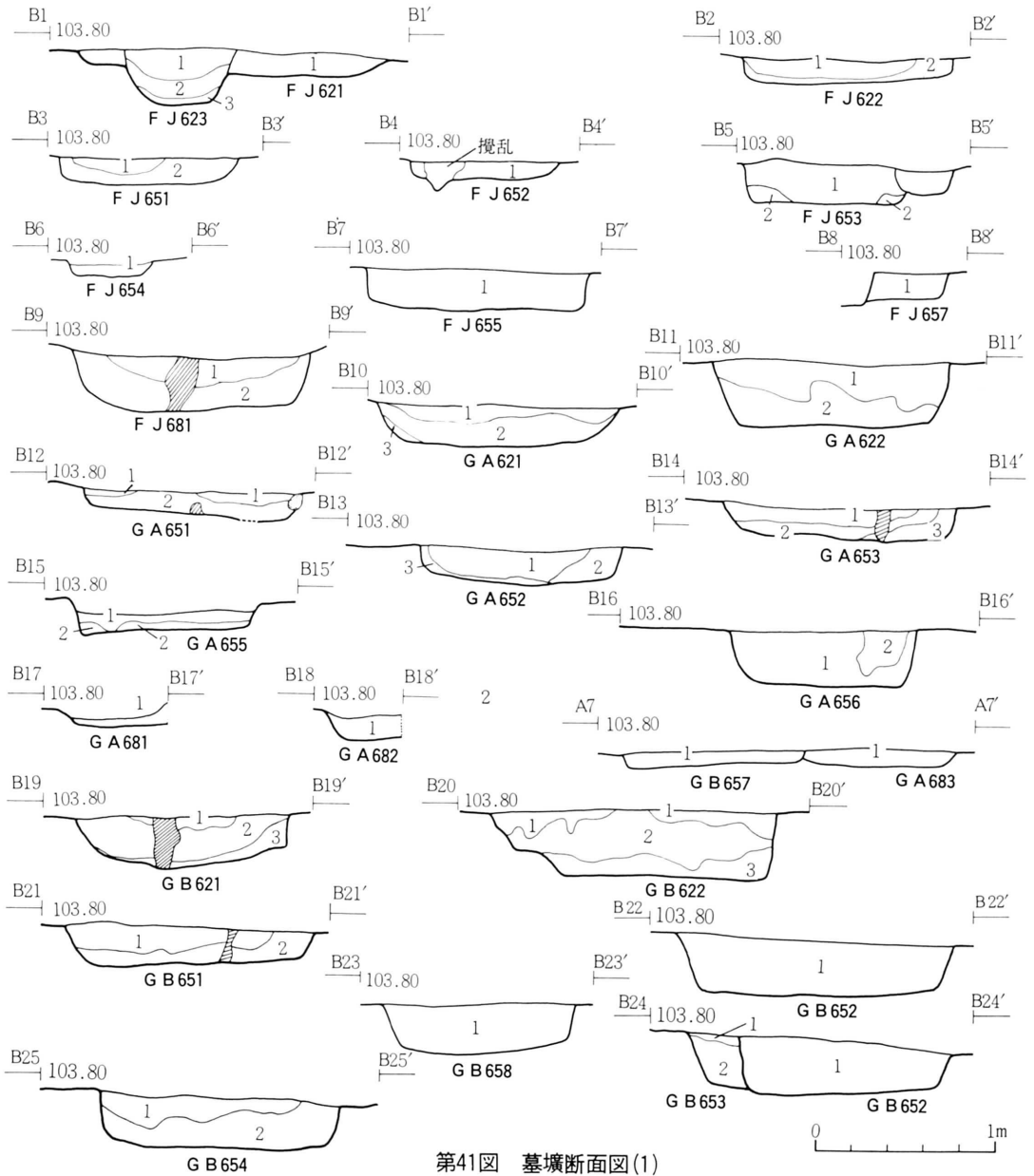
群	遺 構 名	重 複 関 係	タイプ 分 類	長軸方向	長軸長	短軸長	深 さ
G	G F 594		a ₄	N-W9°	144	110	14
	621	G F 624 と重複し、それより新しい。	b ₄	N-W12°	124	70	24
	624	G F 621 と重複し、それより古い。	a	N-W17°	不明	64	15
	G G 561		b ₄	N-W8°	130	74	26
	562		b ₅	N-W6°	150	100	38
	625		a ₃	N-W14°	104	68	18
H	G E 621		b ₅	N-W37°	154	80	36
	622		a ₄	N-W36°	128	66	12
	623		b ₂	N-W24°	90	68	24
	651		b ₄	N-W49°	124	74	25
	652	G F 654 と重複し、それより新しい。	c ₂	N-W21°	84	60	21
	682		a ₄	N-W47°	120	80	17
	G F 622	G F 651 と重複し、それより古い。	a ₄	N-W40°	140	80	18
	623		a ₃	N-W33°	104	58	19
	651	G F 622 と重複し、それより新しい。	a ₂	N-W8°	92	52	16
	652		a ₃	N-W24°	102	60	14
	653		a ₂	N-W26°	78	52	13
	G F 654	G E 652 と重複し、それより古い。	a	N-W21°	不明	76	8
	655		b ₃	N-W38°	106	76	26
(D)	G A 562		a ₂	N-W45°	94	58	12
	563		a ₂	N-W61°	90	62	7
	G B 561		b ₃	N-W31°	110	78	32
	562		a ₅	N-W56°	202	94	16
	563	G B 532 と重複し、それよりも新しい。	a ₂	N-W46°	90	50	12
(E)	532	G B 563 と重複し、それより古い。	b ₄	N-W72°	138	102	31
(C)	591		a ₃	N-E5°	114	92	12
(B)	592		a ₂	N-E49°	80	56	16
	593		b ₄	N-E56°	128	74	22
(F)	G C 563		a ₃	N-E27°	112	88	10
(G)	G C 562		b ₅	N-E7°	156	86	42
	591		b ₄	N-E8°	134	60	26
(A)	592	G C 593 と重複し、それよりも新しい。	b ₃	N-W86°	102	64	22
	593	G C 592 と重複し、それよりも古い。	a	N-W82°	不明	不明	6

— 西田遺跡 —

A群

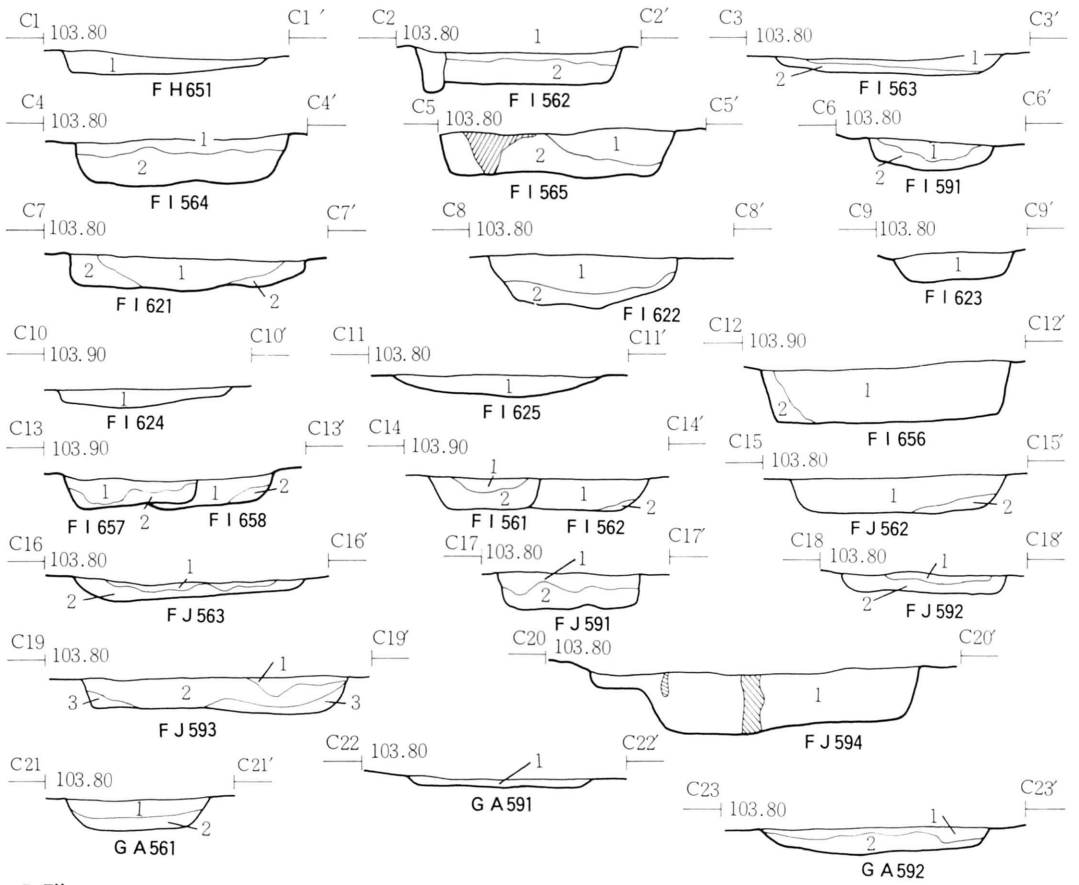


B群

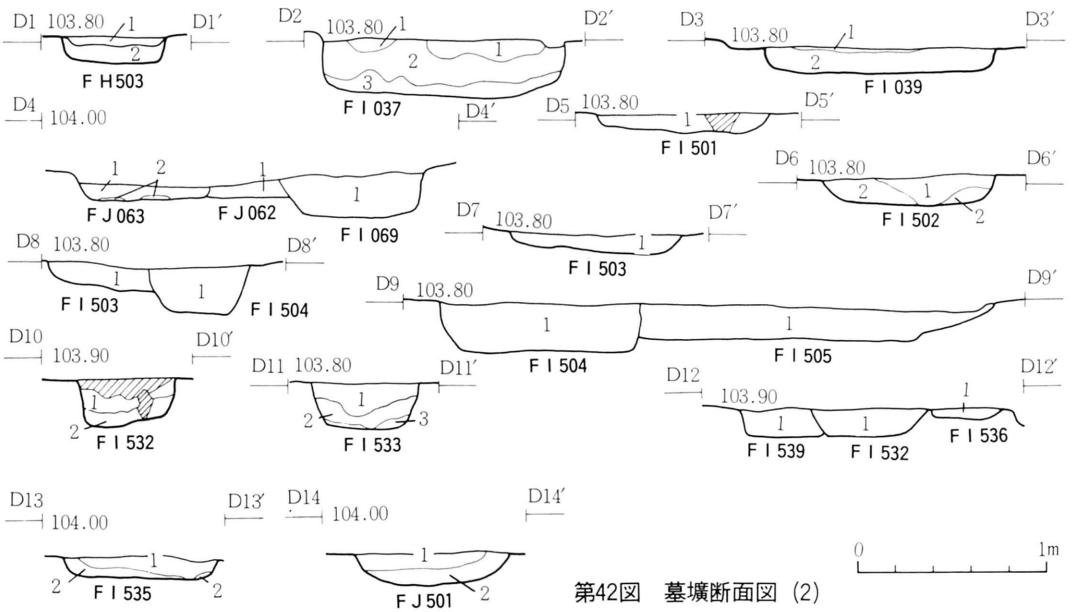


第41図 墓壇断面図(1)

C群

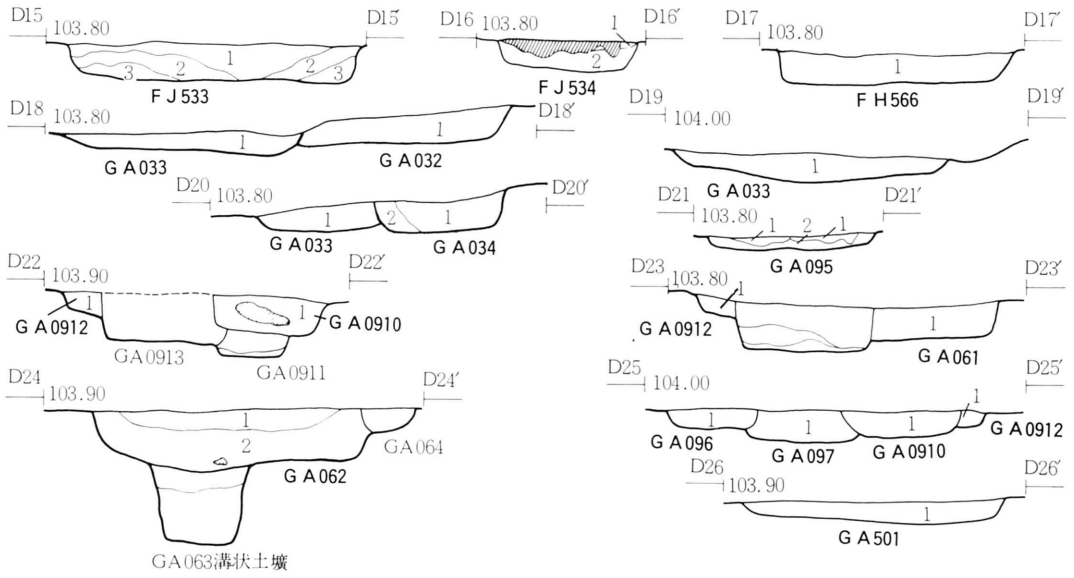


D群

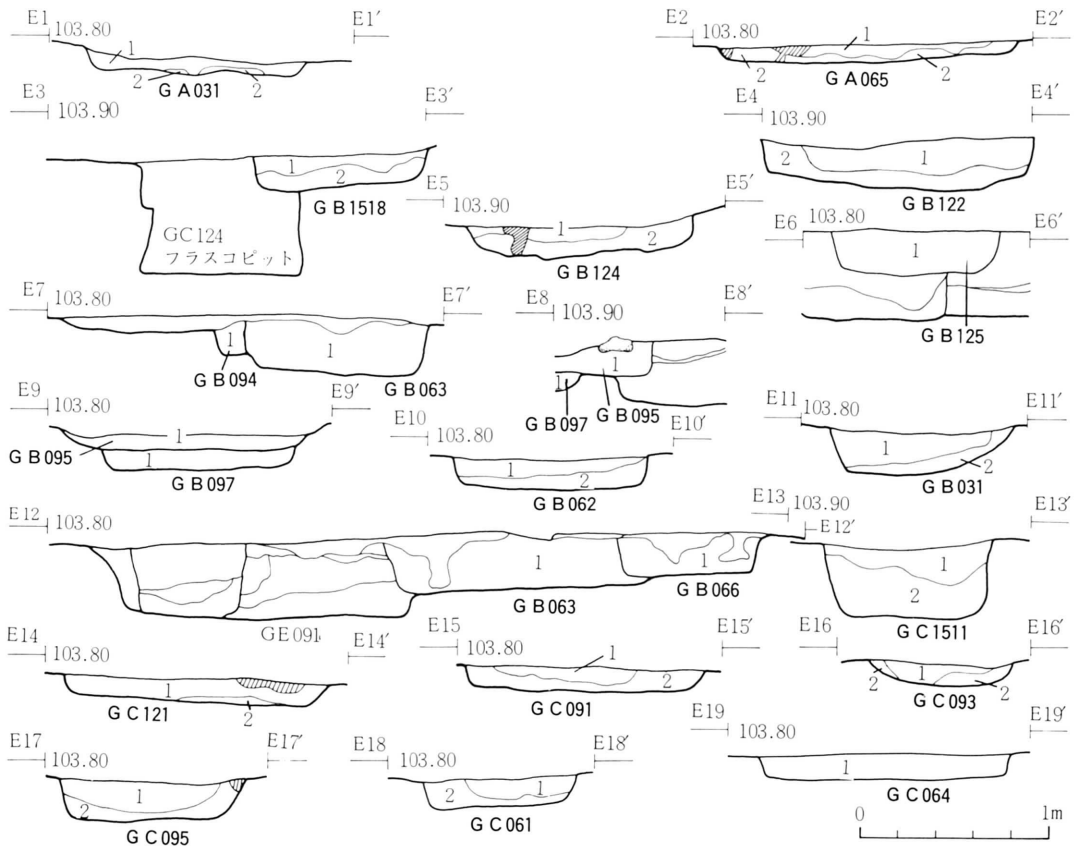


第42図 墓壙断面図 (2)

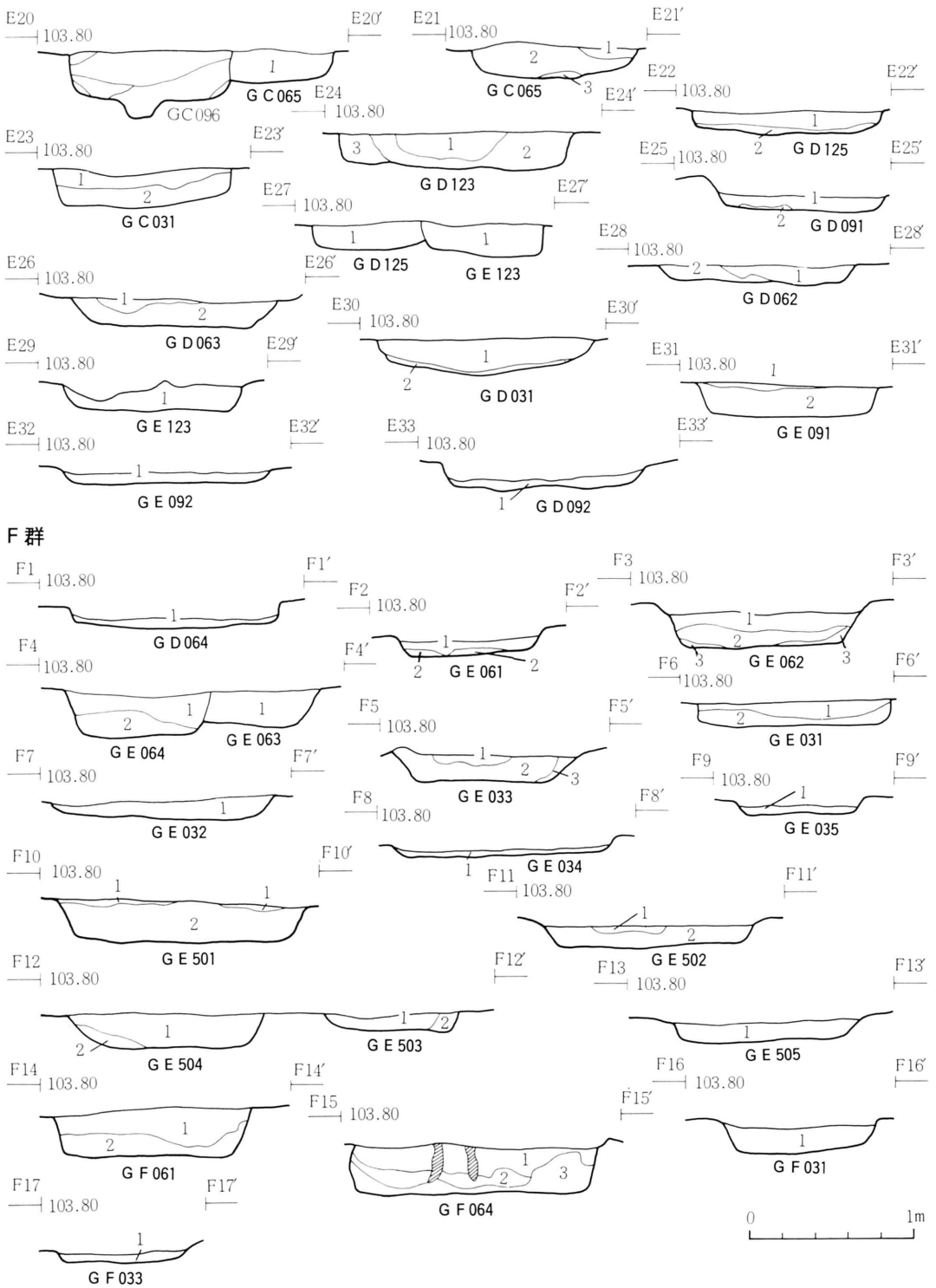
— 西田遺跡 —



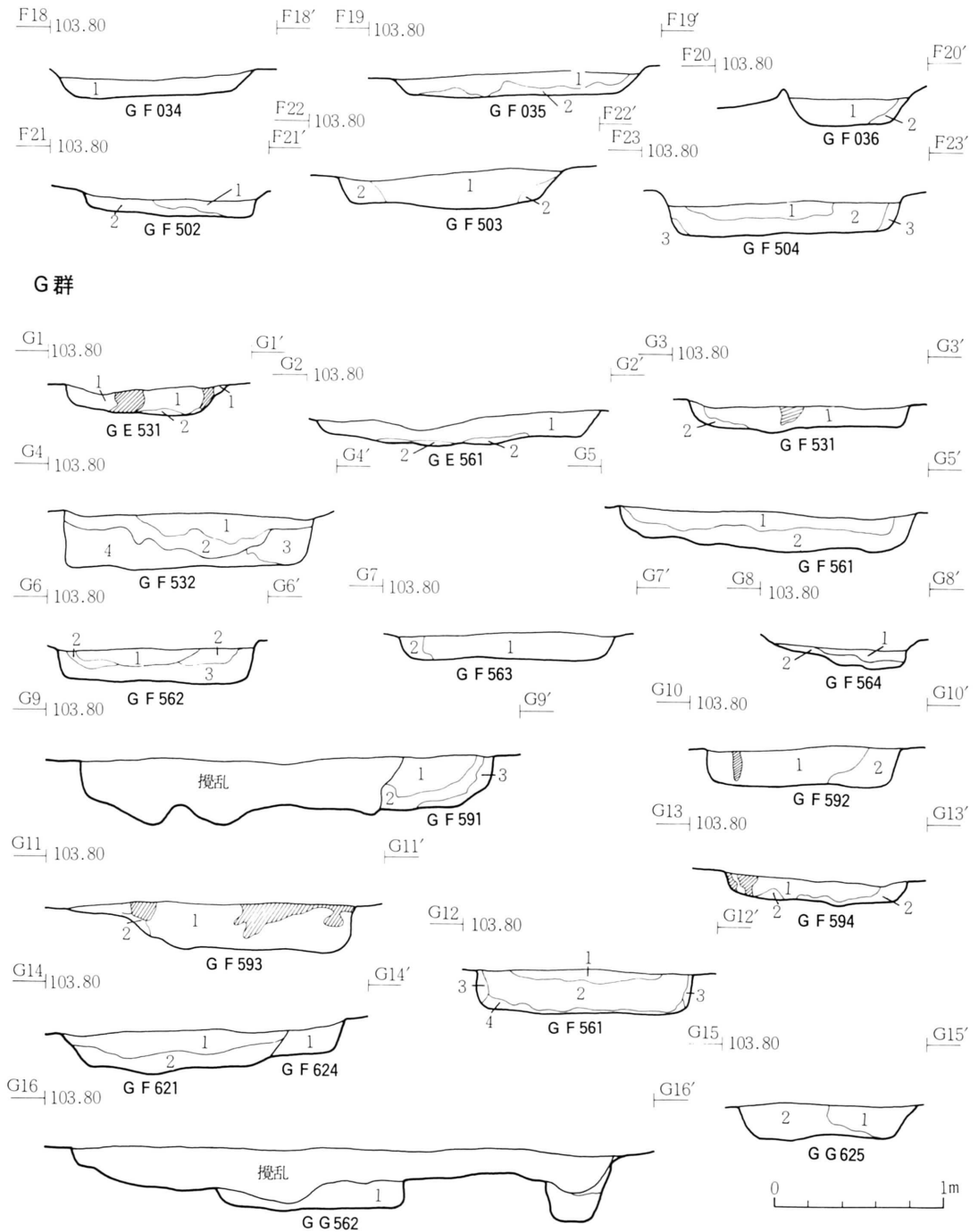
E 群



第43図 墓墳断面図 (3)

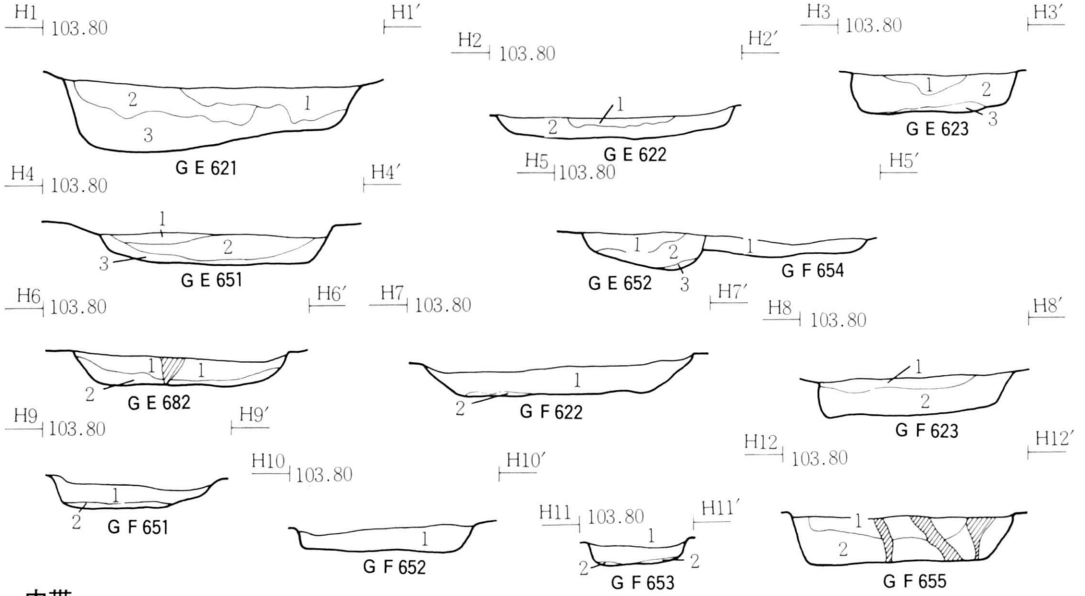


第44図 墓墳断面図 (4)

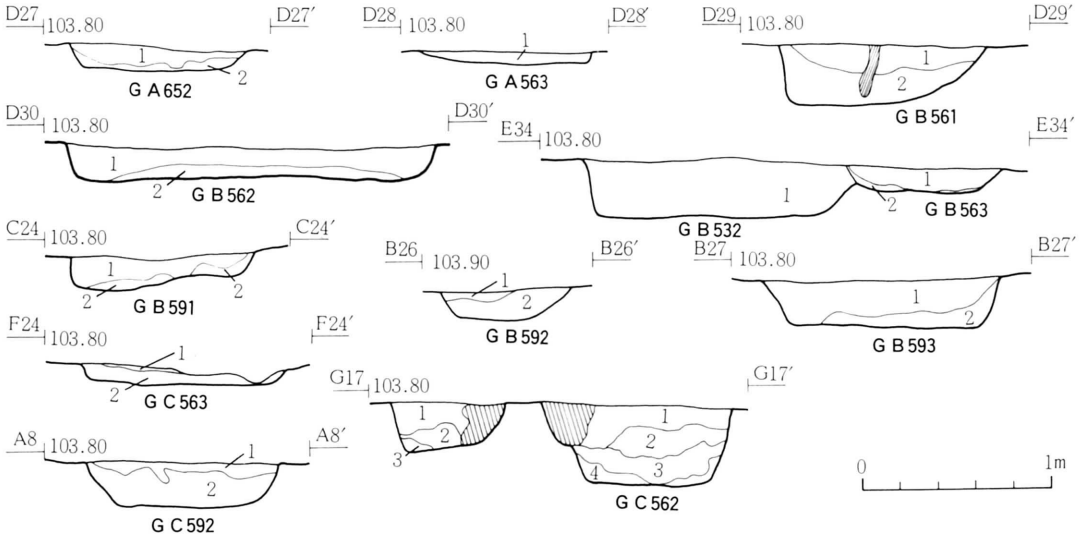


第45図 墓墳断面図 (5)

H群



内帯



第46図 墓壇断面図 (6)

第 4 表 墓 壙 埋 土 観 察 表

遺構名	層No	土色	土性	しまり	堆積土の状況	混入物	層の形成	遺構名	層No	土色	土性	しまり	堆積土の状況	混入物	層の形成				
CB	657	116	b	T'	A	C ₁	A		1	5	b	T	A	—	A				
	655	115	b	T'	A	C ₁	A					7	a	T'	G	—	A		
	656	65	a	M	A・G	C ₁	A					4	a	C'	G・A	C ₁	A		
GC	681	101	a	T'	A・G	—	A	622	2	109	a	M	A	C ₁	A				
	682	117	a	T'	A・G	C ₁	A					1	59	c	C	G	—	A	
	681	45	a	M	A・G	C ₁	A					2	61	c	M	A	—	A	
GD	681	47	a	T	A・G	C ₁	A	652	1	63	a	T	G・A	C ₁	A				
	681	79	b	T'	A	—	A					2	59	a	M	A	—	A	
		76	b	C	A・G	—	A					3	117	a	T	A	—	A	
FI	658	65	a	T'	A・G	C ₂	A	GA	1	57	b	M	P・G	—	N				
FJ	621	126	a	T'	A	C ₁	A	653	2	81	a	T	A	—	A				
	623	45	c	M	A・G	—	A					2	81	a	T	A	—	A	
		46	c	M	P・G	—	A					3	90	b	T	A	—	A	
FJ	622	86	a	M	P	—	N	654	1	102	a	M	A・G	C ₁	A				
	624	74	b	T	P	—	N					2	109	a	T'	A	—	A	
		86	a	M	G	—	A					?	85	a	T	A	C ₁	A	
FJ	621	117	a	T	A	C ₁	A	656	2	50	a	M	A	C ₁	A				
	651	127	a	M	A	—	A					1	77	a	T'	A・G	C ₁	A	
		78	a	M	A	—	A					1	76	a	T'	A・G	C ₁	A	
FJ	652	104	a	M	A	—	A	683	1	77	a	T	A・G	—	N?				
	653	51	a	T	A・G	C ₁	A					1	74	b	M	G	—	N?	
		60	b	T	A・G	—	A					2	64	b	M	A・G	C ₁	A	
FJ	654	58	b	C'	A	—	A	621	3	111	b	T	A	—	A				
	655	72	a	M	A・G	—	A					?	1	23	a	M	G	C ₁	A
		90	a	T	A	—	A					2	118	a	T	A	C ₁	A	
FJ	657	123	a	T	A	—	A	651	3	104	a	T'	A	C ₁	A				
	681	75	a	T'	G	—	A					?	1	100	c	T'	A	C ₁	A
		64	a	M	A・G	—	A					?	2	103	c	T	A	—	A
GA	621	58	b	M	P	C ₁	N	652	1	124	b	T	A	C ₁	A				

653	1	57	a	M	P	C ₂	N ?	563	1	51	a	T'	G · A	—	A
654	2	123	a	T	A	—	A	591	2	101	a	T	A	C ₁	A
658	1	71	a	M	G	—	A ?	592	1	76	a	T'	A · G	—	A
566	2	26	a	T'	A	—	A	593	2	63	a	M	A · G	C ₁	A
651	1	68	a	T'	A · G	—	A		1	24	a	M	G	—	A ?
562	1	77	a	T'	A	C ₁	A		2	117	a	T'	A	C ₁	A
563	1	124	a	T'	A	—	A		1	66	a	M	G	C ₁	N ?
564	2	76	a	M	G	—	N ?		2	77	a	T'	A	C ₁	A
565	2	139	a	T'	A	—	A		3	114	a	T'	A	C ₁	A
591	1	137	a	T	A	—	A	GA	1	77	a	T'	A	—	A
621	2	65	a	T'	A	—	A		2	115	a	T	A	—	A
622	1	88	a	T'	G	C ₁	A ?	591	1	76	a	T'	G	C ₁	A ?
623	2	65	a	T'	A · G	C ₁	A	592	1	51	a	M	A · G	C ₂	A
624	1	113	a	T'	A	C ₁	A		2	24	a	T'	A · G	C ₁	A
625	2	64	a	T'	A · G	C ₁	A	FH	1	74	a	T'	G	—	N ?
656	1	38	a	C'	G · A	—	A		2	77	a	T	A · G	—	A
657	2	77	a	T'	A	C ₁	A	FI	1	87	a	T'	G	C ₁	A ?
561	1	50	b	T	A	—	A		2	51	a	T'	A	C ₁	A
562	2	47	b	T	A · G	—	A		3	77	a	M	A	—	A
561	1	51	a	T	A	—	A	039	1	74	a	T'	G	C ₂	N ?
562	2	46	a	T	A · G	C ₁	A		2	113	a	T'	A	C ₁	A
561	1	51	a	M	A · G	C ₁	A	069	1	51	a	T'	A · G	C ₁	A
561	1	52	a	T'	A	—	A	501	1	76	a	M	A · G	C ₁	A
561	1	94	a	C'	G	C ₁	A ?	502	1	88	a	T'	A · G	C ₁	A
561	2	116	a	C'	A	C ₁	A		2	114	a	T'	A	C ₁	A
561	1	143	b	T	A	C ₂	A	503	1	81	a	M	A · G	C ₁	A
561	2	65	a	T'	A · G	C ₂	A	504	1	47	a	T'	A	C ₁	A
561	1	126	a	T'	A	C ₁	A	505	1	46	a	T'	A · G	—	A
561	2	64	a	T'	G · A	C ₁	A ?	FI	1	509	a	T'	A · G	—	A
562	1	124	a	T	A	—	A	532	1	64	a	T'	A · G	—	A
562	2	125	a	T	A	C ₁	A		2	47	a	T	G · A	—	A
562	1	63	a	T'	G	—	A	533	1	64	a	T'	A · G	—	A

遺構名	層No	土色	土性	しまり	堆積土の状況	混入物	層の形成	遺構名	層No	土色	土性	しまり	堆積土の状況	混入物	層の形成		
FI	533	48	a	T	A	—	A	CB1518	031	72	a	T'	A	—	A		
	535	64	a	T'	G	—	A ?		065	45	a	a	M	G	—	A ?	
FJ	536	33	a	M	A・G	C ₁	A	GC1511	1	71	a	T'	A・G	—	A		
	537	113	a	T'	A	C ₁	A		2	38	a	a	T'	G	—	A ?	
	539	114	a	T'	A	—	A		2	112	b	b	T	A・G	—	A	
	062	127	a	T	A	—	A		1	76	b	b	T'	A	B ₁	A	
	063	89	a	T'	A	C ₁	A		2	140	b	b	T	A・G	C ₁ ・B ₁	A	
	0313	501	101	a	M	G・A	C ₁		A	1	50	a	a	M	G・A	—	A
		533	100	a	T'	A・G	C ₁		A	2	52	b	b	T'	A	—	A
	534	032	114	a	T'	A	C ₁		A	1	64	a	a	T	A	C ₁	A
		033	100	a	M	G・A	—		A	1	76	b	b	T'	A・G	B ₁	A
	GA	501	102	a	T'	A	—		A	1	75	a	a	T'	G・A	B ₁	A
031		64	a	T'	A・G	—	A	1	76	a	a	T	A	C ₁	A		
034	64	a	a	T'	A・G	—	A	1	75	a	a	T'	G・A	—	A		
	095	111	a	T	A	—	A	2	75	a	a	T'	G・A	—	A		
0910	63	a	a	M	A・G	—	A	1	63	a	a	M	A	—	A		
	0912	74	a	T'	G	—	N ?	1	66	a	a	M	A	C ₁ ・B ₁	A		
061	64	a	a	T	A・G	—	A	1	63	a	a	M	G	C ₁	A ?		
	062	50	a	T'	A・G	C ₁	A	2	90	a	a	T'	A	C ₁	A		
062	77	a	a	C	A・G	—	A ?	1	63	a	a	T'	G・A	—	A		
	095	76	a	T	G	—	A	2	57	a	a	C'	G	—	N ?		
0910	135	c	c	T	A	—	A	1	50	a	a	M	G・A	—	A		
	0912	65	a	T'	A	C ₁	A	2	64	a	a	T'	A	—	A		
061	116	b	b	T	A	—	A	1	47	a	a	T'	G・A	C ₁	A		
	062	50	a	T'	G・A	C ₁	A	2	97	a	a	T'	A	—	A		
501	49	a	a	T'	G	C ₁ ・B ₁	N ?	1	77	a	a	M	A	C ₁	A		
	031	77	a	T	A	—	A	2	76	b	b	T'	A・G	C ₁	A		
031	64	b	b	T'	A・G	C ₁	A	1	71	a	a	M	G	C ₁	A ?		
	47	a	a	M	G	—	A	2	76	b	b	T'	A	—	A		

064	1	77	a	T	A	—	A	031	1	64	a	T'	A · G	—	A
065	1	71	a	T'	G · A	—	A		2	123	a	T	A	C ₁	A ?
	2	63	a	T'	G · A	C ₁	A	032	1	63	a	T'	G · A	—	A ?
	3	58	a	M	G	C ₁	N ?	033	1	62	a	M	G	—	N ?
031	1	76	a	T'	A	—	A		2	64	a	T'	A · G	—	A
	2	73	a	M	A · G	B ₁	A		3	71	a	T'	A	—	A
GD 123	1	76	a	T'	A	C ₁	A	034	1	59	a	T'	G · A	C ₁	A ?
	2	64	a	T	A · G	C ₁	A	035	1	63	a	T'	G · A	C ₁	A ?
	3	78	a	T'	A	—	A	501	1	62	a	M	G	—	N ?
125	1	71	a	M	G · A	—	A		2	124	b	T	A	—	A
	2	89	a	T'	A · G	—	A	502	1	58	a	C	G	—	N ?
091	1	76	a	T'	G · A	C ₁	A		2	101	a	T'	A	—	A
	2	27	b	T	A	C ₁	A	503	1	60	a	T'	G	—	A ?
092	1	77	a	T'	A · G	C ₁	A		2	117	a	T	A	C ₁	A
062	1	77	a	T	A	—	A	504	1	76	a	T'	A	C ₁	A
	2	72	a	T'	A · G	—	A		2	140	b	T	A	—	A
063	1	58	a	T'	G	C ₁ · B ₁	N ?	505	1	126	a	T'	A	C ₁	A
	2	72	a	T'	A	—	A	GF 061	1	63	a	M	G · A	C ₁	A
031	1	97	a	T	A	—	A	064	2	65	a	A	A	—	A
	2	62	a	C'	G	C ₁	N ?		1	76	a	M	G	—	A ?
GE 123	1	77	a	T	A	C ₁	A		2	113	a	T'	A · G	—	A
091	1	64	a	T'	A · G	—	A	031	1	77	a	T'	A	C ₁	A
092	1	64	a	T	G · A	C ₁	A	033	1	93	a	T	A · G	—	A
GD 064	1	122	b	T'	A	—	A	034	1	63	a	T'	G · A	C ₁	A
GE 061	1	100	a	T'	A	—	A	035	1	59	a	M	A · G	C ₁	A
	2	117	a	T	A	C ₁	A		2	109	a	T'	A	C ₁	A
062	1	83	a	M	G · A	C ₁	A ?	036	1	64	a	T'	G · A	C ₁	A
	2	90	a	T'	A	C ₁	A		2	111	a	T'	A	—	A
063	1	76	a	T'	A · G	—	A	502	1	60	a	C'	G · A	C ₁	A
064	1	75	a	M	G · A	—	A ?		2	109	a	T'	A	—	A
	2	126	b	T'	A	—	A	503	1	60	a	T'	G · G	C ₁	A

一 西田遺跡 一

遺構名	層No	土色	土性	しまり	堆積上の状況	混入物	層の形成	遺構名	層No	土色	土性	しまり	堆積上の状況	混入物	層の形成
GF 503	2	130	a	T'	A	C ₂	A	594	1	77	a	T'	A	C ₁	A
	3	76	a	T'	A	C ₁	A		2	114	b	T	A		A
504	1	77	b	T	A		A	621	1	76	a	T	G		A ?
	2	75	a	M			A		2	110	a	T'	A		A
	3	85	a	T'	A		A	624	1	77	a	T'	A		A
GE 531	1	123	a	T'	A		A	GG 561	1	62	b	M	P	C ₁	N ?
	2	117	a	T'	A		A		2	64	b	T'	G・A	C ₁	A ?
561	1	76	a	T'	A		A		3	60	b	C'	G	C ₁	A ?
	2	87	a	T	G		A ?		4	78	b	T	G		A
GF 531	1	76	a	M	A		A	562	1	77	b	T'	A		A
	2	89	a	T'	G・A		A	625	1	60	a	M	G・A		A
532	1	88	a	M	G		A ?		2	72	b	T'	A・G		A
	2	76	a	M	G・A		A	GE 621	1	63	a	C'	G・A		A
	3	130	a	T	A		A		2	130	a	T'	A		A
	4	89	b	T'	A		A	622	3	117	a	T'	A		A ?
561	1	77	a	T'	A		A		1	63	a	M	G		A
	2	63	a	M	G・A		A	623	2	117	b	T'	A		A
562	1	143	c	T	A		A		1	117	b	T'	A		A
	2	64	a	M	A・G		A		2	113	a	T	A		A
	3	77	b	T'	A		A	651	3	130	b	M	A・G	C ₁	A
563	1	64	a	M	A・G		A		1	117	b	M	A		A
	2	60	a	C'	G		A		2	64	a	T'	A・G	C ₁	A
564	1	63	a	M	G		A ?	652	3	100	b	M	G・A	C ₁	A
	2	143	c	T'	A		A		1	63	a	M'	G・A		A
591	1	115	a	T'	A		A		2	117	b	T	A		A
	2	63	a	M	G・A		A	682	3	112	b	T'	A・G		A
	3	77	a	T'	A		A		1	77	a	T	A		A
592	1	77	a	T'	A		A		2	112	b	T'	A		A
	2	117	a	T	A		A	GF 622	1	64	a	T	A・G		A
593	1	76	a	T'	A		A		2	117	b	T'	A		A
	2	102	a	T'	A		A	623	1	76	a	M	G・A		A

651	2	77	b	T'	A • G	—	A	2	64	a	T'	A • G	—	A
652	1	50	a	T'	A • G	—	A	3	113	a	T	A	—	A
653	2	78	a	T'	A	—	A	1	58	a	M	G	C ₁	A ?
654	1	77	a	T'	A	C ₁	A	2	64	a	T'	A	C ₁	A
655	1	76	a	M	G • A	—	A	592						
	2	114	a	T	A	—	A							
	1	77	a	T'	A	C ₁	A							
	1	114	b	T'	A	C ₁	A							
	2	109	b	T	A	C ₁	A							
GA	1	37	a	M	G	C ₁	A							
	2	118	b	T'	A	—	A							
	1	110	a	T'	A	—	A							
	1	102	a	T	A	C ₁	A							
GB	1	77	a	T'	A	C ₁	A							
	2	77	a	T'	A	C ₁	A							
	1	77	a	T'	A • G	C ₁	A							
	2	63	a	M	G • A	—	A							
	1	75	a	M	G • A	C ₁	A							
	2	113	b	T'	A	—	A							
	1	114	b	T'	A	—	A							
532	1	64	a	M	G • A	C ₂	A							
591	1	110	b	T'	A	C ₁	A							
	2	63	a	M	G	—	A ?							
592	1	63	a	M	G	—	A							
	2	111	b	T'	A	—	A							
593	1	76	a	M	G • A	C ₂	A							
	2	58	a	M	G	C ₁	A ?							
563	1	50	a	T'	G • A	C ₁	A							
	2	64	a	M	A • G	C ₂	A							
GC	1	110	a	T	A	—	A							
	2	74	a	T'	A • G	—	A							
	3	60	a	M	A • G	—	A							
	4	114	a	T	A	C ₁	A							
591	1	59	a	M	A • G	C ₁	A							

3 柱穴状ピット群（長方形柱穴列群）

遺跡中央に占地する土壌墓の四周には掘立柱状柱穴列を中心とする大小のピット群が環状に回る。これらの柱穴群は墓壙群と同心円的な関連をもっており、土壌墓の“群”と対応する占地形態を示している。この柱穴状ピット環状帯の規模は、墓域内帯心よりの半径が外側で約26～30 m、内側で約15～20 mを計り、環状帯の幅は約12～15 mになっている。

これらの柱穴状ピットは、主に長方形を基調とする柱穴列（構造物）にかかわるものであり、その配置形態（軸方向—長軸ないしは短軸方向）の類似性によって、A～Jの10群に大別してある。東側に調査区外を含むため柱穴列の実体は明確にできないが、本来は16群に分けられていたことが予想される。以下、A～J群の柱穴列の内容を略述する。

〔柱穴状ピットA群〕 約135個のピットがこの群に含まれ、このなかから4単位の掘立柱状柱穴列が確認されている。

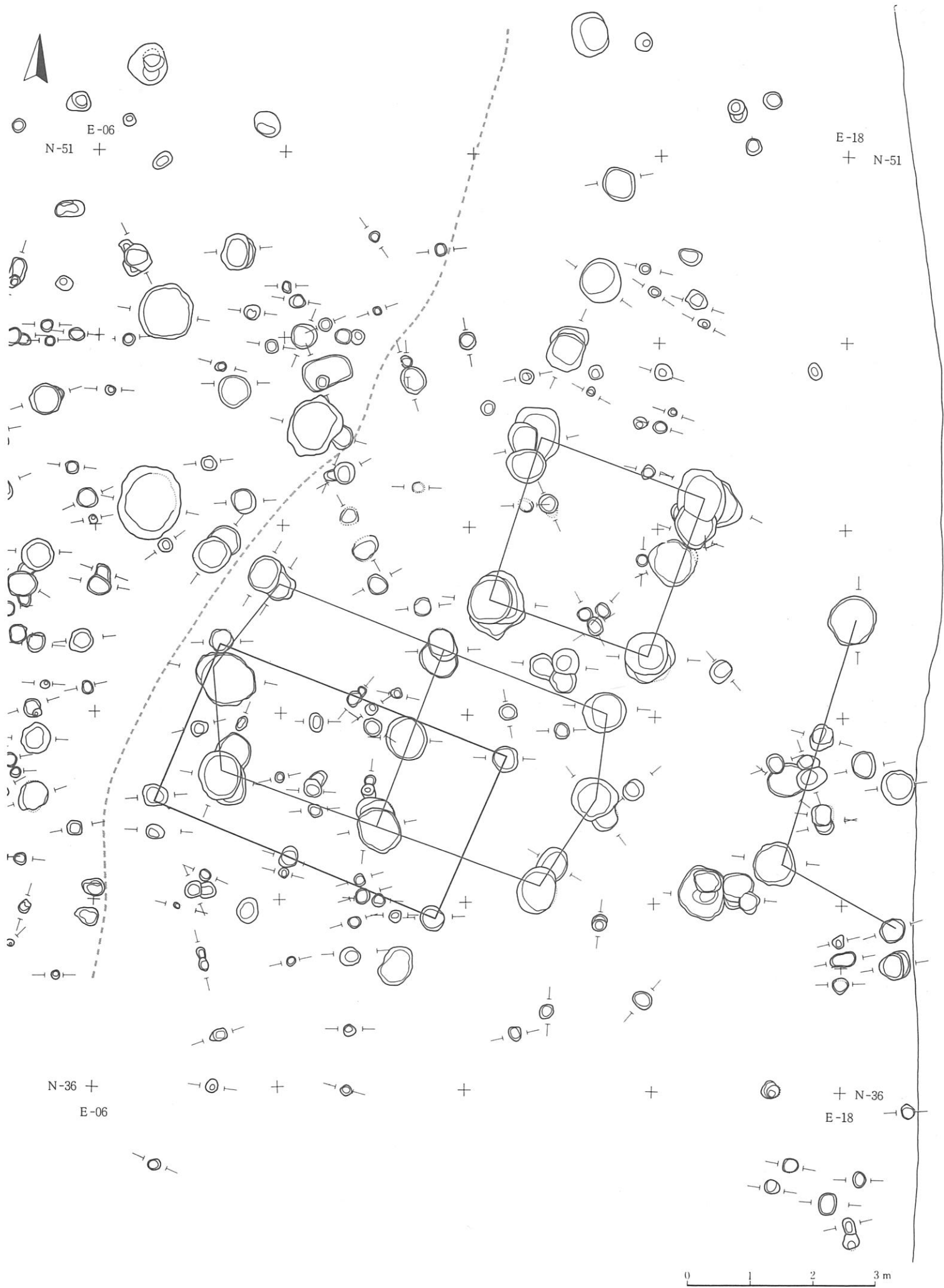
A-1号：F E 621 ・ F E 651 ・ F F 593 ・ F F 621 の4個のピットで構成される。辺長3.5 mの正方形を呈し、N-77°-Wの主軸方位をもつ。4個のピットそれぞれが切り合っており、建て替えられたものである可能性が強い。4個のピットのうち3個から柱痕が確認されている。

A-2号：F F 569 ・ F F 599 ・ F F 622 ・ F F 562 ・ F G 592 ・ F G 622 ・ F G 561 ・ F G 593 ・ F G 623 の9個のピットで構成される総柱状の構造物である。各辺とも3個のピットをもつが、短辺中央のピットは張り出して配置されている。規模は長辺長6.3 m、短辺長3.8 m、張り出し部の軸長7.2 mを計り、N-78°-Wの主（長）軸方位をもつ。南辺の3個のピットには方位が一定した切り合いがみられる。9個のピットのうち6個のピットで柱痕が確認されている。

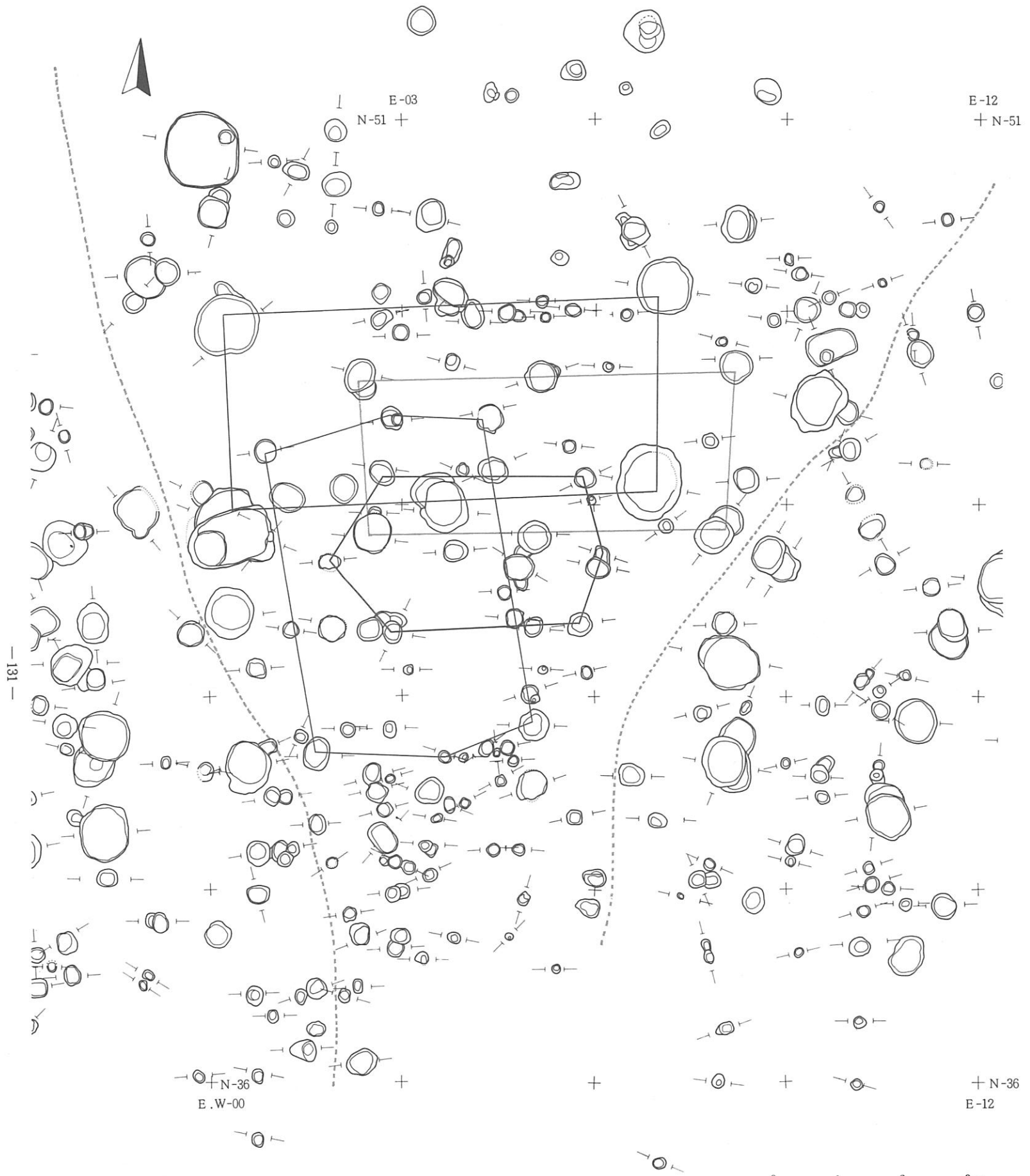
A-3号：F F 563 ・ F F 597 ・ F G 621 ・ F G 562 ・ F G 5615 ・ F H 596 の6個のピットで構成される。長辺長5.4 m、短辺長3.2 mの長方形を呈し、N-74°-Wの主（長）軸方位をもつ。A-2号と平面的には重複するが、ピット間の切り合いがないため新旧関係は不明である。他の柱穴列に比べてピットの規模が小さく、柱痕も2個のピットでしか確認されていない。

A-4号：F F 681 ・ F G 655 ・ F G 651 の3個のピットで長辺の一边を構成するもので、F H 681ピットが短辺の張り出し部に加わる。本来は8個のピットで柱穴列を構成するものと思われる、他のピットは東側用地外に延びる。長辺長が5.0 mを計るほかは規模は不明で、N-12°-Eの主（長）軸方位をもつ。

小結：A群内で確認された4単位の柱穴列は、その軸方位をN-74°-WからN-78°-Wの間にもつ。重複関係からみれば、A-2号とA-3号が平面的に重複するのみで、新旧関係は不明である。



第47図 長方形柱穴列配置図 (A群)



第48図 長方形柱穴列配置図 (B群)

0 1 2 3 m

〔柱穴状ピットB群〕 約 150 個のピットがこの群に含まれ、このなかから 4 単位の柱穴列が確認されている。

B-1号：F E 501 ・ F E 531 ・ F E 564 ・ F F 501 ・ F F 531 ・ F F 566 の 6 個のピットで構成される。長辺長 6.1 m、短辺長 3.0 m の長方形を呈し、N-84°-E の主(長)軸方位をもつ。F E 564 ピットを除く 5 つのピットで柱痕が確認されている。

B-2号：F D 036 ・ F D 531 ・ F D 562 ・ F F 0310 ・ F E 532 ・ F E 563 の 6 個のピットで構成される。長辺長 7.8 m、短辺長 4.1 m の長方形を呈し、N-77°-E の主(長)軸方位をもつ。F D 036 ・ F F 0310 の 2 個のピットを除き、6 個のピットで柱痕が確認されている。

B-3号：F E 503 ・ F E 5314 ・ F F 504 ・ F F 536 ・ F F 508 ・ F F 538 の 6 個のピットで構成されるもので、短辺中央のピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長 3.6 m、短辺長 2.8 m、張り出し部の軸長 4.6 m を計り、N-82°-E の主(長)軸方位をもつ。柱痕は F F 504 ・ F F 536 の 2 個のピットで確認されている。

B-4号：F E 504 ・ F F 5010 ・ F G 502 ・ F E 537 ・ F F 539 ・ F G 531 ・ F E 502 ・ F G 534 の 8 個のピットで構成され、短辺中央の F E 502 ・ F G 534 ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長 5.2 m、短辺長 3.9 m、張り出し部の軸長 5.6 m を計り、N-14°-W の主(長)軸方位をもつ。F G 502 ・ F G 531 ・ F E 502 の 3 個のピットで柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピットB群内からは 4 単位の柱穴列が確認され、それぞれの軸方位は N-76°-E から N-84°-E の間に入る。重複関係からみれば B-1号から B-4号までのすべての柱穴列が平面的に重複するもののピット相互の切り合いが認められないため新旧関係は不明である。ただ B-1号が F E 561 ピットと重複し、それを切ってつくられる。

〔柱穴状ピットC群〕 約 209 個のピットがC群に含まれ、このなかから 4 単位の柱穴列が確認されている。

C-1号：F F 095 ・ F G 068 ・ F G 032 ・ F F 0614 の 4 個のピットで構成される。規模は長辺長 5.0 m、短辺長 4.0 m の長方形を呈し、N-59°-E の主(長)軸方位をもつ。F E 062 フラスコ状ピットと重複するが新旧関係は不明である。すべてのピットで柱痕が確認されている。

C-2号：F G 091 ・ F F 066 ・ F F 0611 ・ F F 031 ・ F H 063 ・ F H 061 ・ F G 036 ・ F G 5012 の 8 個のピットで構成される。短辺は 2 本のピットをもち、その中央に位置する F F 038 ・ F G 095 の 2 個のピットがこの単位構成に加わる可能性をもつものの深さが浅いことから除外してある。規模は長辺長 8.5 m、短辺長 5.2 m の長方形を呈し、N-57°-E の主(長)軸方位をもつ。8 個のピットのうち 4 個のピットで柱痕が確認されている。

C-3号：F F 092 ・ F G 062 ・ F G 0610 ・ F F 0617 ・ F F 063 ・ F G 033 の 6 個のピットで構成される。規模は長辺長 5.3 m、短辺長 3.0 m 長方形を呈し、N-36°-W の主(長)軸方位

をもつ。C-1号と重複し、それを切ってつくられる。3個のピットで柱痕が確認されている。

C-4号：F E 127 ・ F F 094 ・ F D 093 ・ F F 061 の4個のピットで方形を企画し、短辺中央に張り出してF F 0913ピットが配置される可能性が強い。この場合、対応するもう1個のピットはF E 121ピットによって破壊(?)されているものと思われる。張り出し部の軸長を除いて、規模は長辺長4.2m、短辺長3.8mを計り、N-36°-Wの主(長)軸方位をもつ。柱痕は3個のピットで確認されている。

・**小結**：柱穴状ピットC群内からは4単位の柱穴列が確認されており、それぞれの軸方向はN-54°-EからN-59°-Eの間に入る。重複関係からみればC-4号を除く3単位は平面的に重複しており、C-1号とC-3号と間にはピット相互の切り合いがみられる。C-3号はC-1号より新しく、C-1号、C-2号はF E 062 フラスコ形ピットと接するが新旧関係は不明である。C-4号はF E 121 フラスコ形ピットと重複するが、F E 125ピットによって破壊されているためその切り合いが明確ではない。C-4号の方が新しくなる可能性が強い。

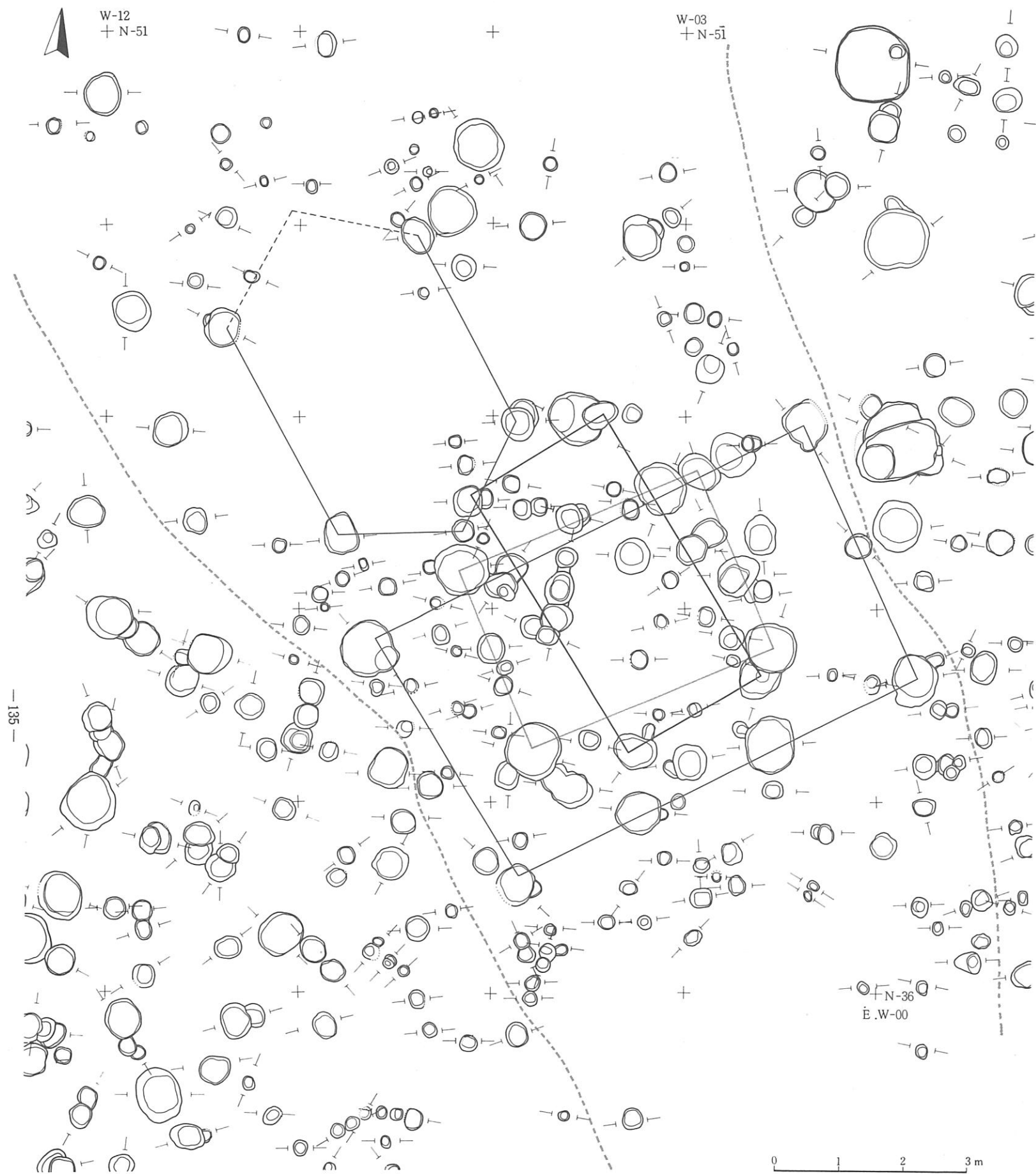
〔柱穴状ピットD群〕 D群内からは約234個のピットが検出されており、このなかから7単位の柱穴列が確認されている。

D₁-1号：F G 121 ・ F G 151 ・ F H 153 ・ F G 094 ・ F H 123 ・ F I 129 ・ F G 128 ・ F I 152 の8個のピットで構成される。長短辺とも3個のピットをもつが、短辺中央のF G 128 ・ F I 152 の2ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長7.0m、短辺長4.4m、張り出し部の軸長7.8mを計り、N-32°-Eの主(長)軸方位をもつ。8個全部のピットから柱痕が確認されている。

D₁-2号：F G 122 ・ F H 128 ・ F H 155 ・ F H 091 ・ F H 099 ・ F I 123 ・ F G 0910 ・ F I 127 の8個のピットで構成される。長短辺とも3個のピットをもつが、短辺中央のF G 0910 ・ F I 127 の2ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長5.4m、短辺長3.4m、張り出し部の軸長5.9mを計り、N-32°-Eの主(長)軸方位をもつ。6個のピットのうち5個から柱痕が確認されている。

D₁-3号：F E 181 ・ F F 157 ・ F G 1212 ・ F G 152 ・ F G 1812 ・ F E 183 ・ F G 154 の7個のピットが確認されているが、F F 21グリッド内の攪乱部分にもう1個のピットがあったものと推定される。長短辺とも3個のピットで構成されるが、短辺中央のF E 183 ・ F G 154 の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長7.1m、短辺長4.2m、張り出し部の軸長8.2mを計り、N-58°-Wの主(長)軸方位をもつ。F E 183ピットを除くすべてのピットから柱痕が確認されている。

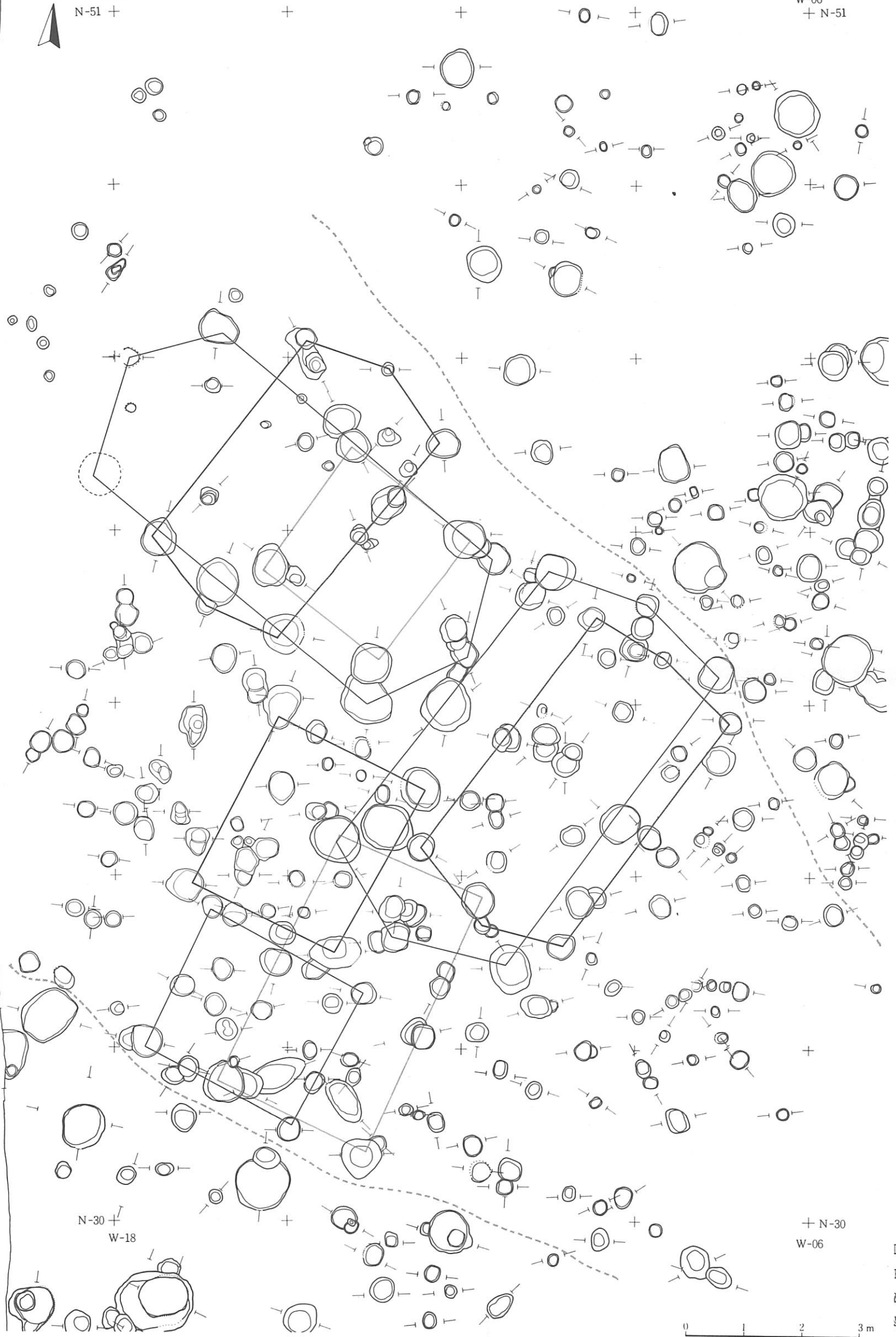
D₁-4号：F E 152 ・ F F 181 ・ F F 151 ・ F F 153 ・ F F 1815 ・ F G 1811 の6個のピットで構成される。長辺が2個、短辺が3個のピットをもつが、短辺中央のF F 153 ・ F G 1811 の2ピ



第49図 長方形柱穴列配置図 (C群)

W-18
N-51 +

W-06
+ N-51



-137-

第50図 長方形柱穴列配置図 (D群)

— 西田遺跡 —

ットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長 5.0 m、短辺長 3.5 m、張り出し部の軸長 5.5 m を計り、N-31°-E の主（長）軸方位をもつ。4 個のピットで柱痕が確認されている。

D₁-5 号：F F 158 ・ F G 1816 ・ F F 152 ・ F G 153 の 4 個のピットで構成される。長辺長 3.7 m、短辺長 3.3 m の長方形を呈し、N-33°-E の主（長）軸方位をもつ。F G 153 ピットを除く 3 ピットから柱痕が確認されている。

D₂-1 号：F I 182 ・ F J 182 ・ F I 127 ・ F I 1512 ・ F J 156 の 5 個のピットが確認されており、これらと対になるもう 1 個のピットは F H 153 ピット（D₁-1 号）によって破壊されたものと思われる。また、短辺中央の張り出し部のピットとして E H 155 ・ F J 188 の 2 ピットが加わる可能性をもつが、他の柱穴列とピットが共有されるため一応除外してある。規模は長辺長 5.5 m、短辺長 3.4 m の長方形を呈し、N-19°-E の主（長）軸方位をもつ。検出されたすべてのピットで柱痕が確認されている。

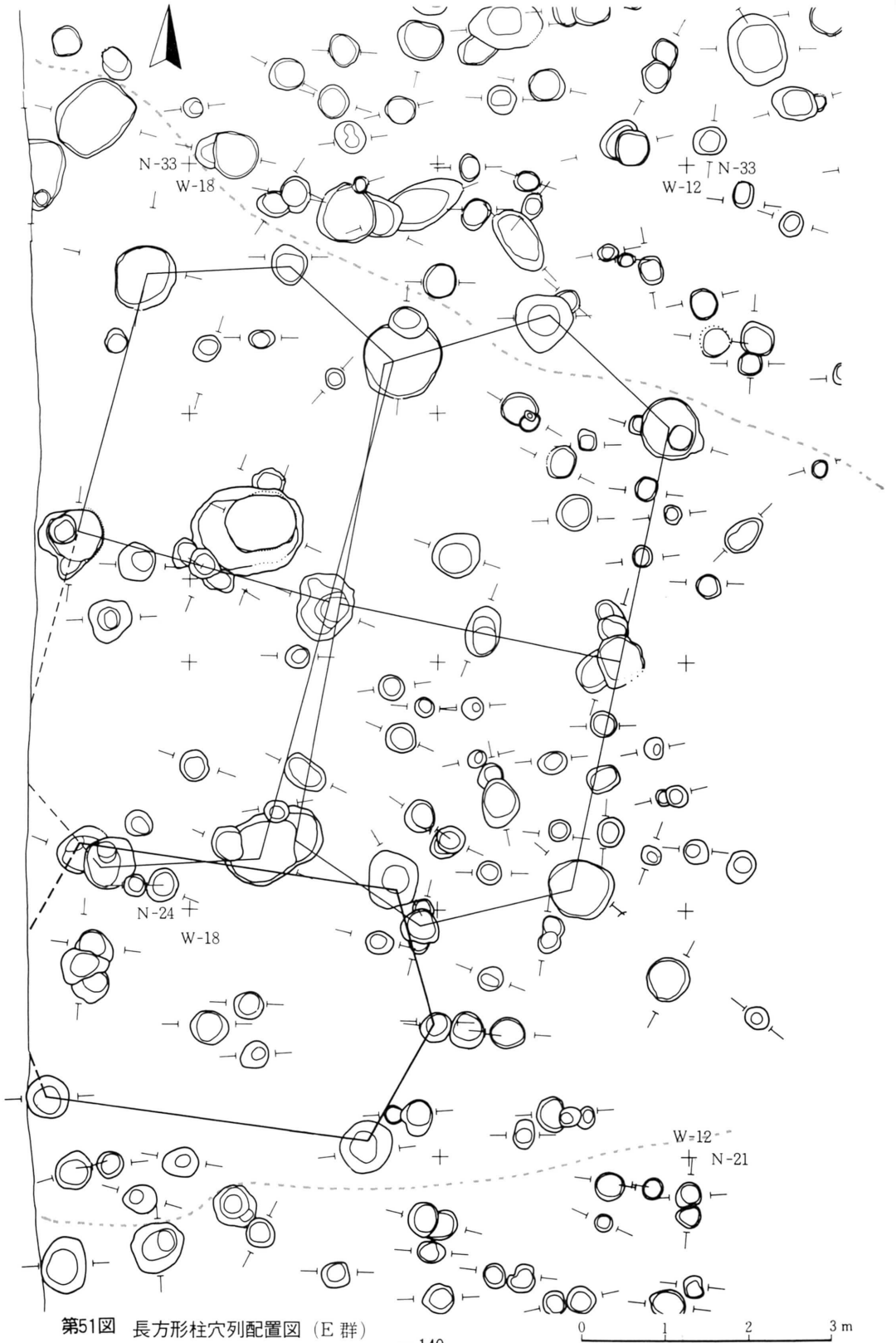
D₂-2 号：F H 1810 ・ F H 187 ・ F H 151 ・ F I 158 の 4 個のピットで構成される。長辺長 4.2 m、短辺長 3.4 m の長方形を呈し、N-22°-E の主（長）軸方位をもつ。2 個のピットで柱痕が確認されている。

D₂-3 号：F I 188 ・ F I 1810 ・ F I 1511 ・ F J 188 の 4 個のピットで構成される。長辺長 3.4 m、短辺長 3.1 m の長方形を呈し、N-66°-W の主（長）軸方位をもつ。3 個のピットで柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピット D 群内からは 8 単位の柱穴列が確認されている。軸方向の共通性からみれば、D₁-1 号から D₁-5 号までと D₂-1 号から D₂-3 号までとの間にはやはずれがみられる。前者は N-31°-E から N-33°-E の間に軸方位をもち、後者は N-19°-E から N-24°-E の間に入る。各柱穴列の重複関係は次のようになる。平面的な関係からみれば、D₁-1 号、D₁-2 号、D₂-1 号、D₂-2 号の 4 単位、D₁-3 号、D₁-4 号、D₁-5 号の 3 単位、D₂-1 号、D₂-2 号、D₂-3 号の 3 単位がそれぞれ重複している。これらのうち、ピット相互間の切り合いがみられる D₁-1 号と D₂-1 号の新旧関係は D₁-1 号の方が新しく、D₁-3 号は D₁-5 号より旧くて D₁-4 号より新しい。また、種類の異なる遺構とも重複し、D₁-3 号、D₁-4 号、D₁-5 号の 3 単位は F E 18 住居跡によって破壊され、D₁-5 号は F G 157 フラスコ形ピットを切ってつくられる。D₂-2 号は F G 18 住居跡と重複するが、ピットの切り合いがみられず、新旧関係は不明である。D₂-1 号、D₂-3 号は F J 18 住居跡と重複し、双方とも住居跡に切られている。

〔柱穴状ピット E 群〕 約 100 個のピットが E 群に含まれ、このなかから 3 単位の柱穴列が確認されている。

E-1 号：F J 211 ・ G A 211 ・ F J 1810 ・ G A 182 ・ G B 187 の 5 個のピットと用地外に入るもう 1 個のピットからなる 6 個のピットが基本となり、短辺中軸線上に F J 184 ・ G A 185 ・



第51図 長方形柱穴列配置図 (E 群)

GB214の3個のピットが加わる総柱の構造物である。短辺中央のF J 184・G B 214の2ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長7.1m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長8.3mを計り、N-10°-Eの主(長)軸方位をもつ。8個のピットすべてから柱痕が検出されている。E-2号と重複し、それを切ってつくられる。

E-2号：F J 153・G A 152・G B 1515・G B 189・G A 188・F J 1810の6個と短辺中軸線上のF J 156・G A 1516・G C 182の3個とで構成される総柱状の構造物である。短辺中央のF J 156・G C 182の2ピットは短辺側柱から張り出して位置する。F J 1810・G A 182の2個のピットはE-1号のそれと重なり、当柱穴列に伴なう部分はほとんど遺存しない。また、F J 156ピットはD-6号と共有している。規模は長辺長6.5m、短辺長4.2m、張り出し部の軸長8.2mを計り、N-7°-Eの主(長)軸方位をもつ。ほぼ、完全に遺存する5個のピットのうち4個のピットから柱痕が確認されている。

E-3号：G B 186・G B 215・G C 189・G C 213の4個のピットに短辺中軸線上に乗るG C 184と用地外のもう1個のピットとが加わるものと思われ、本来は6個のピットで構成されるものと推定される。規模は長辺長が4.5m、短辺長が3.9mを計るが、張り出し部の軸長は不明である。主(長)軸方位はN-88°-Wとなり、3個のピットで柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピットE群では3単位の柱穴列が確認されており、それぞれの軸方向はN-2°-EからN-10°-Eの間に入る。重複関係からみれば、E-1号が一番新しくE-2号、E-3号を切っている。E-3号は平面的には重複するもののピットの切り合いがみられないため新旧関係は不明である。種類の異なる遺構との切り合いもみられ、E-1号、E-2号はF J 18住居跡および平安期のF I 21住居跡より旧く、G A 21住居跡より新しい。また、E-2号はG B 1516フラスコ形ピットを切っているがG B 15溝状土壌には切られている。

〔柱穴状ピットF群〕 F群内には約101個のピットが含まれ、このなかから3単位の柱穴列が確認されている。

F-1号：G D 215・G E 213・G E 215・G D 182・G D 188・G E 185の6個のピットで構成される。規模は長辺長5.6m、短辺長4.1mの長方形を呈し、N-14°-Wの主(長)軸方位をもつ。すべてのピットで柱痕が確認されている。

F-2号：G D 216・G E 214・G F 215の3個のピットで長辺の一边が構成されるもので、残りの最底3個のピットは用地外に入るものと思われる。また、棟持ち柱としてG F 2111ピットが加わる可能性をもつが断定できないため除外してある。長辺長が6.9mを計るほかは規模は不明であり、N-20°-Wの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

F-3号：G F 2110・G G 216の2個のピットだけが確認されており、柱穴列を構成する残りのピットは用地外に入る。規模・長軸方向とも不明であるが、2個のピットを結んだ軸方位はN



第52図 長方形柱穴列配置図 (F群) — 142 —

—27°—Wとなる。1個のピットに柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピットF群内からは4単位の柱穴列が確認されており、N—14°—EからN—27°—Eの間に軸方位をもつ。柱穴列相互の新旧関係はピットの切り合いがみられないため不明である。ただ、F—2号はGF21—1住居跡およびGF21—2住居跡によって切られ、F—3号はGF21—1住居跡によって切られている。

〔柱穴状ピットG群〕 G群内からは約183個のピットが検出されており、そのなかから9単位の柱穴列が確認されている。

G—1号：GH121・GI151・GI155・GI091・GI1211・GJ121の6ピットと短辺中軸線上に重るGH091・GI126・GJ153の3ピットとを合わせた9個で構成される総柱状の構造物である。短辺中央のGH091・GJ153の2ピットは短辺側柱よりやや張り出して配置されている。規模は長辺長6.5m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長7.3mを計り、N—34°—Eの主（長）軸方位をもつ。9個のピットのうち8個のピットで柱痕が確認されている。

G—2号：GG123・GH152・GI183・GH092・GI122・GJ151の6ピットと短辺中軸線上に乗るGG097・GH122・GI156の3ピットとを合わせた9個のピットで構成される総柱状の構造物である。短辺中央のGG097・GI156の2ピットは短辺側柱から張り出して配置される。規模は長辺長7.5m、短辺長4.3m、張り出し部の軸長8.8mを計り、N—40°—Eの主（長）軸方位をもつ。9個のピットのうち8個のピットから柱痕が確認されている。

G—3号：GG127・GH155・GH184・GH095・GH123・GI153・GG125・GI184の8個のピットで構成され、短辺中央に位置するGG125・GI184の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長6.3m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長7.9mを計り、N—43°—Eの主（長）軸方位をもつ。8個のピットのうち6個で柱痕が確認されている。

G—4号：GH151・GI186・GI182・GH123・GI1510・GJ154の6個のピットで構成され、GH123ピットはG—3号と重複して使用されている。長辺長6.2m、短辺長3.6mの長方形を呈し、N—34°—Eの主（長）軸方位をもつ。3個のピットで柱痕が確認されている。

G—5号：GG158・GH155・GI123・GH187・GI1513・GJ123の6個と短辺中軸線上に乗るGH182・GI152・GJ122の3個とを合わせた9個のピットで構成される。短辺中央に位置するGH182・GJ122の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長8.3m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長10.0mを計り、N—50°—Wの主（長）軸方位をもつ。6個のピットから柱痕が確認されている。

G—6号：GF151・GG124・GG183・GH153・GG181・GH127の6個のピットで構成され、短辺中央に位置するGG181・GH127の2ピットは短辺側柱より張り出して配置さ

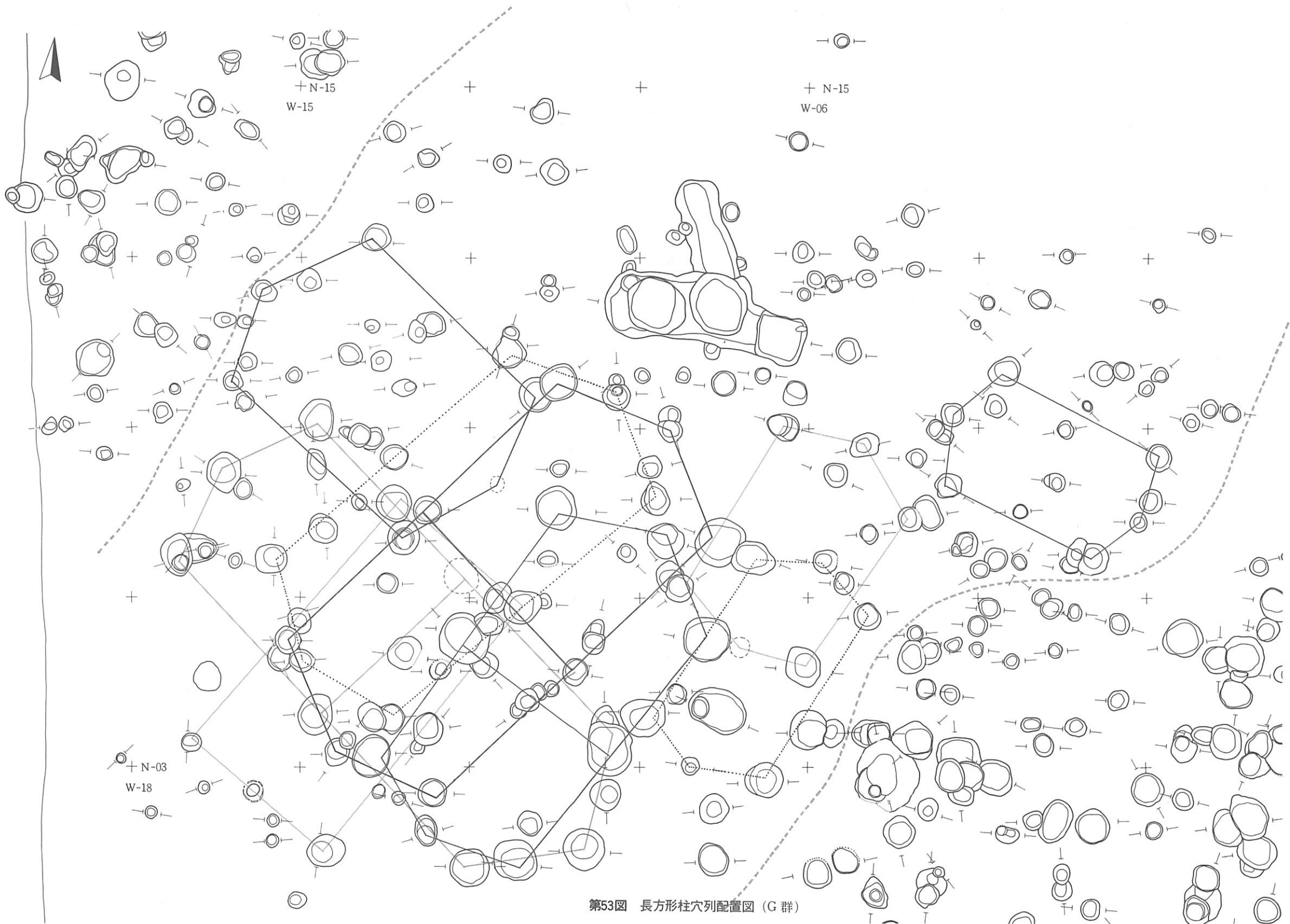
れている。規模は長辺長 4.6 m、短辺長 4.1 m、張り出し部の軸長 4.5 mを計り、N-52°-Wの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

G-7号：G G 094・G H 098・G H 062・G I 092・G H 067・G I 097 の6個のピットで構成され、短辺中央のG H 067・G I 097 の2ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長 3.8 m、短辺長 3.3 m、張り出し部の軸長 4.5 mを計り、N-28°-Eの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

G-8号：G H 093・G I 1210・G I 0615・G J 091・G H 066・G I 095 の6個のピットで構成され、短辺中央に位置するG H 066・G I 095 の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長 4.1 m、短辺長 3.1 m、張り出し部の軸長 4.7 mを計り、N-27°-Eの主(長)軸方位をもつ。5個のピットで柱痕が確認されている。

G-9号：G G 035・G H 039・G H 0614・G H 032・G G 063・G H 037 の6個のピットで構成され、短辺中央のG G 063・G H 037 の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長 3.6 m、短辺長 2.7 m、張り出し部の軸長 4.2 mを計り、N-66°-Wの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピットG群内からは9単位の柱穴列が確認されている。それらの軸方位はN-24°-EからN-43°-Eまでかなりの広がりを見せ、東側に位置するG-7からG-9号はH群に含まれる可能性をもつ。この3単位の柱穴列を除けばその軸方位はN-34°-EからN-43°-Eの間に入る。9単位の柱穴列の重複関係は次のようになる。平面的にみれば、G-1号はG-2号、G-3号、G-4号、G-5号、G-7号、G-8号と重複するが、ピット相互の切り合いがみられるものはG-5号との間だけでありG-5号を切ってつくられる。G-2号はG-1号、G-3号、G-4号、G-5号、G-6号、G-7号、G-8号と重複し、ピットの切り合いからG-6号より新しく、G-8号より古い。また、G-3号のG H 123ピットとも重複するが、G H 123ピットがG-4号に属す可能性をもつため新旧関係を明らかにできなかった。G-3号はG-1号、G-2号、G-4号、G-5号、G-6号と重複し、G-4号と1個のピットを共有するが新旧は不明である。G-4号はG-1号、G-2号、G-3号、G-5号、G-6号と重複するが、G-3号と1個のピットを共有するほかはピットの切り合いがみられない。G-5号はG-1号に切られるほか、G-2号、G-3号、G-4号、G-6号と平面的に重複する。G-6号はG-2号に切られるほか、G-3号、G-4号、G-5号と平面的に重複する。G-7号はG-2号、G-8号と重複するがピットの切り合いがみられないため新旧関係は不明である。G-8号はG-2号に切られるほか、G-1号、G-7号と重複する。そのほか、住居跡とも切り合いがみられ、G-2号がG H 18住居跡に、G-4号がG H 18住居跡とG I 15住居跡に上部を破壊されている。



第53図 長方形柱穴列配置図 (G 群)

〔柱穴状ピットH群〕 H群内には約62個のピットが含まれ、このなかから3単位の柱穴列が確認されている。

H-1号：HA 063・HB 061・HA 032・HB 064・HA 061・HC 061の6個のピットで構成されるもので、短辺中央のHA 061・HC 061の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長3.2m、短辺長3.0m、張り出し部の軸長4.9mを計り、N-9°-Eの主（長）軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

H-2号：GI 068・GJ 061・GJ 032・HA 031・GJ 062・GJ 037の6個のピットで構成されるもので、長辺中央に位置するGJ 062・GJ 037の2ピットは長辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長3.6m、短辺長3.2m、張り出し部の軸長4.1mを計り、N-15°-Eの主（長）軸方位をもつ。5個のピットで柱痕が検出されている。

H-3号：GI 0611・GJ 065・GI 034・GJ 0310・GI 038・HA 062の6個のピットで構成されるもので、短辺中央に位置するGI 038・HA 062の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長4.1m、短辺長3.0m、張り出し部の軸長6.2mを計り、N-9°-Eの主（長）軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

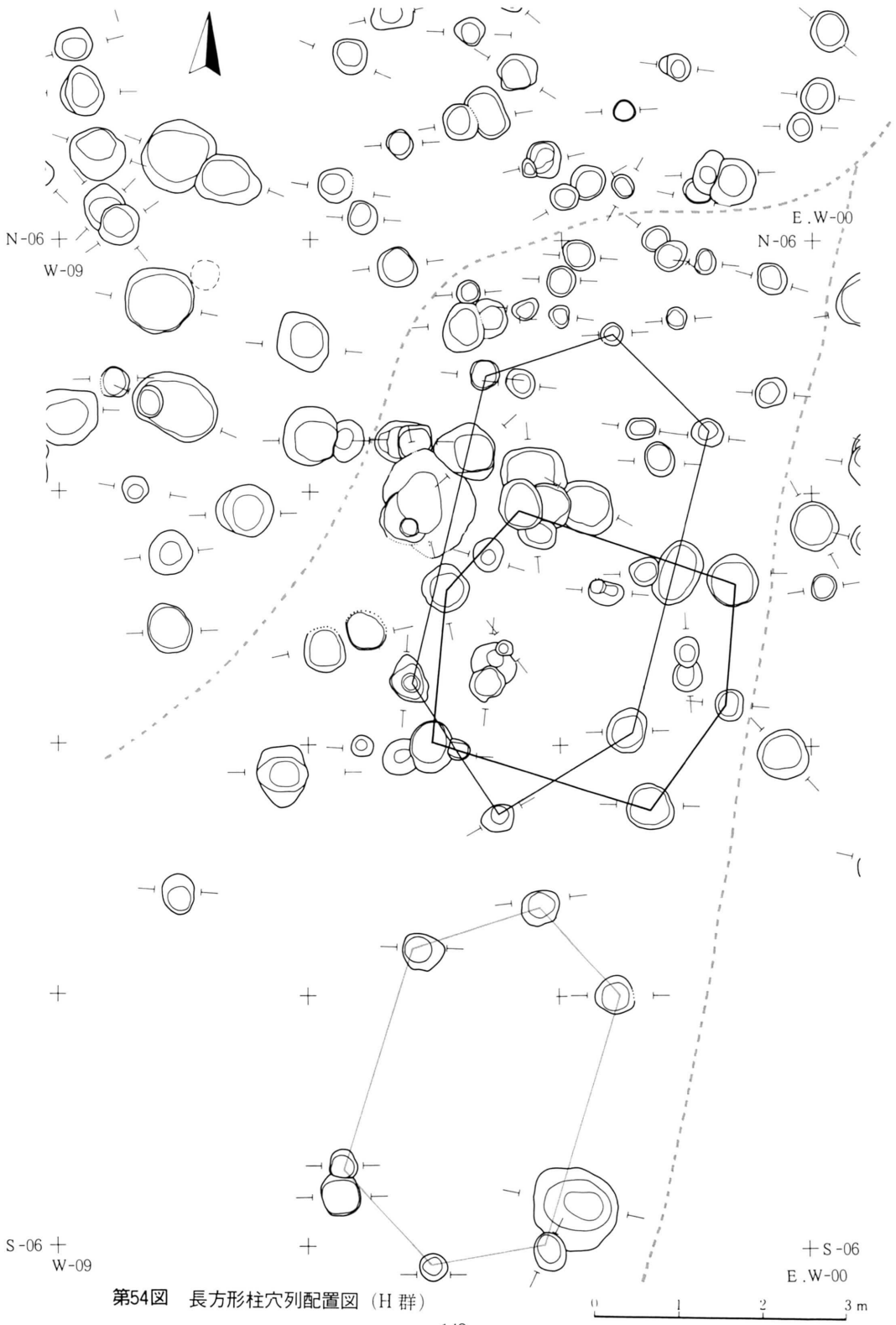
小結：柱穴状ピットH群内からは3単位の柱穴列が確認されており、N-9°-EからN-15°-Eの間に軸方位をもつ。H-2号とH-3号とが平面的に重複するのみで、ピット相互の切り合いはみられない。

〔柱穴状ピットI群〕 I群内からは約108個のピットが検出されており、このなかから最底8単位の柱穴列を確認した。

I-1号：GI 5013・GJ 038・GJ 0311・GI 534・GJ 504・HA 507・GI 501・HA 501の8個のピットで構成されるもので、短辺中央に位置するGI 501・HA 501の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長6.2m、短辺長3.6m、張り出し部の軸長6.7mを計り、N-4°-Eの主（長）軸方位をもつ。6個のピットで柱痕が確認されている。

I-2号：GI 505・GJ 508・HA 504・GI 5311・GJ 534・HA 538の6個と短辺中軸線上のGI 535・(GJ 507)・HB 502の2個とを合わせた8個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。なお、長辺東側の3ピットはいずれもやや東側にずれて位置するGI 5312・GI 537・HA 537の3ピットと重複し、それを切っている。また、短辺南側の2ピットはやや南側にずれて位置するHA 505・HA 533の2ピットを切ってつくられており、これらのピットと対になる短辺北側の2ピットはGI 504・GI 536の2ピットとなる可能性が強い。以上のことから、当柱穴列は3回の建替えが行われており、中軸線上の中央に位置するGJ 507ピットは、上部が焼土で覆われていることからみれば最後に建替えられた柱穴列の構成ピットには含まれない。第一次柱穴列が最も規模が大きく、長辺長7.6m、

— 西田遺跡 —



第54図 長方形柱穴列配置図 (H 群)

短辺長 4.6 m となり、第二次柱穴列が長辺長 6.5 m、短辺長 4.8 m、第三次柱穴列が長辺長 6.5 m、短辺長 4.6 m を計る。いずれも張り出し部の軸長は 8.0 m で、 $N-4^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。第三次柱穴列の 8 ピットのうち 5 個のピットに柱痕が確認されている。

I-3 号：G J 502 ・ G J 535 ・ G J 561 ・ H A 503 ・ H A 532 ・ H A 563 ・ G J 506 ・ G J 567 の 8 個のピットで構成されるもので、短辺中軸線上に乗る G J 506 ・ G J 567 の 2 ピットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長 7.1 m、短辺長 4.4 m、張り出し部の軸長 8.0 m を計り、 $N-85^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。すべてのピットで柱痕が確認されている。

I-4 号：G I 502 ・ G I 532 ・ G I 561 ・ G J 502 ・ G J 535 ・ G J 561 の 6 個と短辺中軸線上に張り出して位置する G I 5014 ・ G I 5610 の 2 個とを合わせた 6 個のピットで構成されるもので、長辺南側の 3 ピットは I-3 号の長辺北側の 3 ピットと重複しており、I-3 号によって破壊されている。規模は長辺長 6.6 m、短辺長 3.7 m、張り出し部の軸長 8.0 m を計り、 $N-85^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。遺存する 5 個のピットのうち 3 個のピットで柱痕が確認されている。

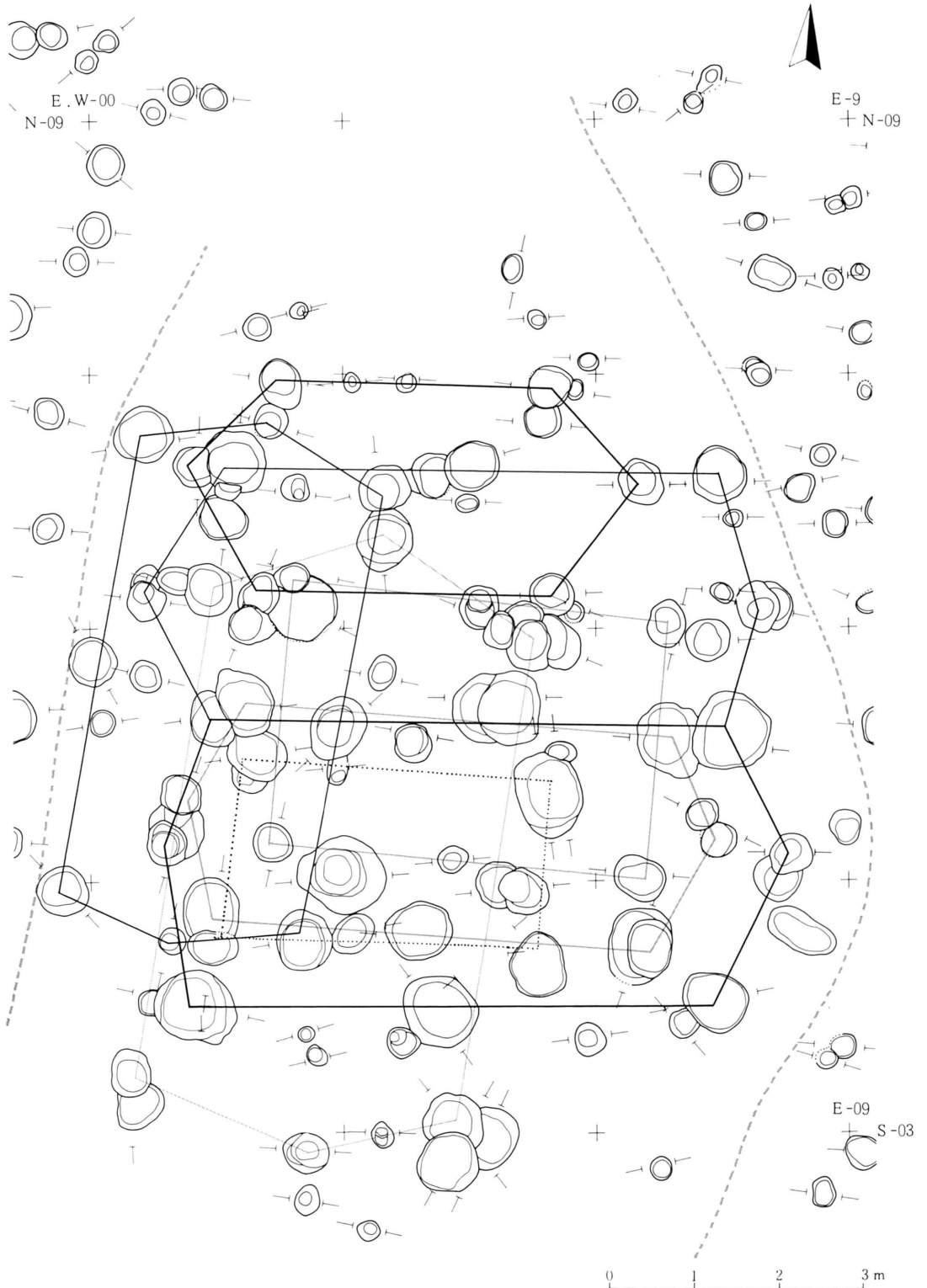
I-5 号：G J 501 ・ G J 531 ・ G J 562 ・ H A 509 ・ H A 535 ・ H A 561 ・ G J 505 ・ G J 565 の 8 個のピットで構成されるもので、短辺中央の 2 ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長 6.0 m、短辺長 3.4 m、張り出し部の軸長 6.9 m を計り、 $N-88^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。8 個のピットのうち 6 個のピットで検出されている。

I-6 号：G I 5010 ・ G I 537 ・ G I 5611 ・ G J 503 ・ G J 533 ・ G J 563 の 6 個のピットで構成される。長辺長 5.0 m、短辺長 3.6 m の長方形を呈し、 $N-89^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。4 個のピットで柱痕が確認されている。

I-7 号：G H 503 ・ G I 5310 ・ G I 508 ・ G I 536 ・ G I 503 ・ G I 562 の 6 個のピットで構成されるもので、短辺中央の 2 ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長 3.9 m、短辺長 3.0 m、張り出し部の軸長 5.9 m を計り、 $N-84^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。4 個のピットで柱痕が確認されている。

I-8 号：G J 509 ・ G J 532 ・ H A 502 ・ H A 531 の 4 個のピットで構成される。規模は長辺長 4.0 m、短辺長 3.2 m を計り、 $N-86^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。2 個のピットで柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピット I 群内からは 8 単位の柱穴列が確認されており、それぞれの軸方位は $N-6^{\circ}-W$ から $N-4^{\circ}-E$ の間に入る。重複関係は以下ようになる。I-1 号はすべての柱穴列と平面的に重複するがピット相互の切り合いはみられない。I-2 号もすべての柱穴列と重複し、しかも計 3 回の建替えが認められるもので、前者の柱穴列は最終形である。いずれも I-3 号・I-5 号にはって切られており、第一次柱穴列は I-7 号と 1 個のピットを共有し、それよりも



第55図 長方形柱穴列配置図 (I群)

旧い。I-3号はI-7号を除くすべての柱穴列と重複するが、ピット間の切り合いのみられるI-2号・I-4号・I-5号・I-7号の4単位の柱穴列を切っている。I-4号はI-8号を除く全柱穴列と平面的に重複し、3個のピットを共有するI-3号に切られている。I-5号はI-7号を除く全柱穴列と重複し、ピットの切り合いがみられるI-3号より旧く、I-2号、I-7号より新しい。I-6号はすべての柱穴列と平面的に重複するが、I-2号の第一次柱穴列とのみピットの切り合いがみられ、それよりも新しい。I-7号はI-3号・I-5号・I-8号を除く柱穴列と平面的に重複するもののI-2号の第一次柱穴列と1個のピットと共有する以外ピットの切り合いがみられず、それよりも新しい。I-8号はI-4号・I-7号を除く全柱穴列と平面的に重複し、ピット間の切り合いがらみてI-3号・I-5号の双方に破壊されている。

〔柱穴状ピットJ群〕 約168個のピットがJ群に含まれ、このなかから7単位の柱穴列が確認されている。

J-1号：G J 625・G J 652・G J 682(未調査)・HA 625・HA 653・HA 681・HA 622の7個のピットが検出されている。短辺中央のHA 622ピットは短辺側柱より張り出して配置されており、もう1個の対になるピットは調査区外に入る。規模は長辺長6.1m、短辺長3.2mを計り、N-70°-Eの主(長)軸方位をもつ。5個のピットで柱痕が確認されている。

J-2号：G I 593・G J 599・HA 624・G I 6211・G J 628・HA 654・G I 622・HA 627の8個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長4.8m、短辺長3.8m、張り出し部の軸長6.6mを計り、N-10°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

J-3号：G I 599・G I 592・G I 624・G J 593・G J 591・G J 627の6個のピットで構成される。長辺長4.8m、短辺長2.9mの長方形を呈し、N-75°-E(長)軸方位をもつ。G I 624ピットを除くすべてのピットで柱痕が確認されている。

J-4号：G H 626・G I 625・G I 621・G G 656・G H 6510・G I 656の6個のピットで構成される。長辺長6.3m、短辺長3.7mの長方形を呈し、N-18°-Wの主(長)軸方位をもつ。5個のピットで柱痕が確認されている。

J-5号：G I 594・G J 598・G I 629・G J 626・G J 596・G J 653の6個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。長辺長4.4m、短辺長3.6m、張り出し部の軸長6.2mを計り、N-76°-Eの主(長)軸方位をもつ。3個のピットで柱痕が検出されている。

J-6号：G H 598・G I 591・G H 624・G I 628・G I 5910・G H 627の6個のピットで構成されるもので、短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。長辺長2.9m、

短辺長 2.6 m、張り出し部の軸長 3.1 mを計り、N-74°-Eの主(長)軸方位をもつ。3個のピットで柱痕が確認されている。

J-7号：GH6511・GH658・GJ651の3個と短辺中軸線上に張り出して位置するGI654ピットとを合わせた4個のピットしか確認されておらず、柱穴列を構成する残りの最底4個のピットは用地外に入る。規模は短辺長が4.1 mを計るほかは不明で、N-69°-Eの主(長)軸方位をもつ。2個のピットで柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピットJ群内からは7単位の柱穴列が確認されている。これらの柱穴列の軸方向はN-69°-EからN-80°-Eの間に入る。J-7号はJ群以外のものとなる可能性をもつが一応ここに一括した。重複関係は次のようになっている。J-1号は平面的にはJ-2号・J-5号と重複するが、ピット間の切り合いはみられない。J-2号はJ-6号とJ-7号を除く全住居跡と重複し、ピットの切り合いをもつJ-5号よりは新しい。J-3号はJ-1号・J-7号を除く全柱穴列と平面的に重複するがピット相互の切り合いは認められない。J-4号はJ-1号以外の柱穴列と重複し、J-7号を切っている。J-5号はJ-6号・J-7号以外のすべての柱穴列と平面的に重複するが、ピット相互の切り合いはJ-2号との間にのみみられ、それより古い。J-6号はJ-3号・J-4号の2単位と重複するもののピットの切り合いはみられない。J-7号はJ-4号と重複し、それよりも古い。

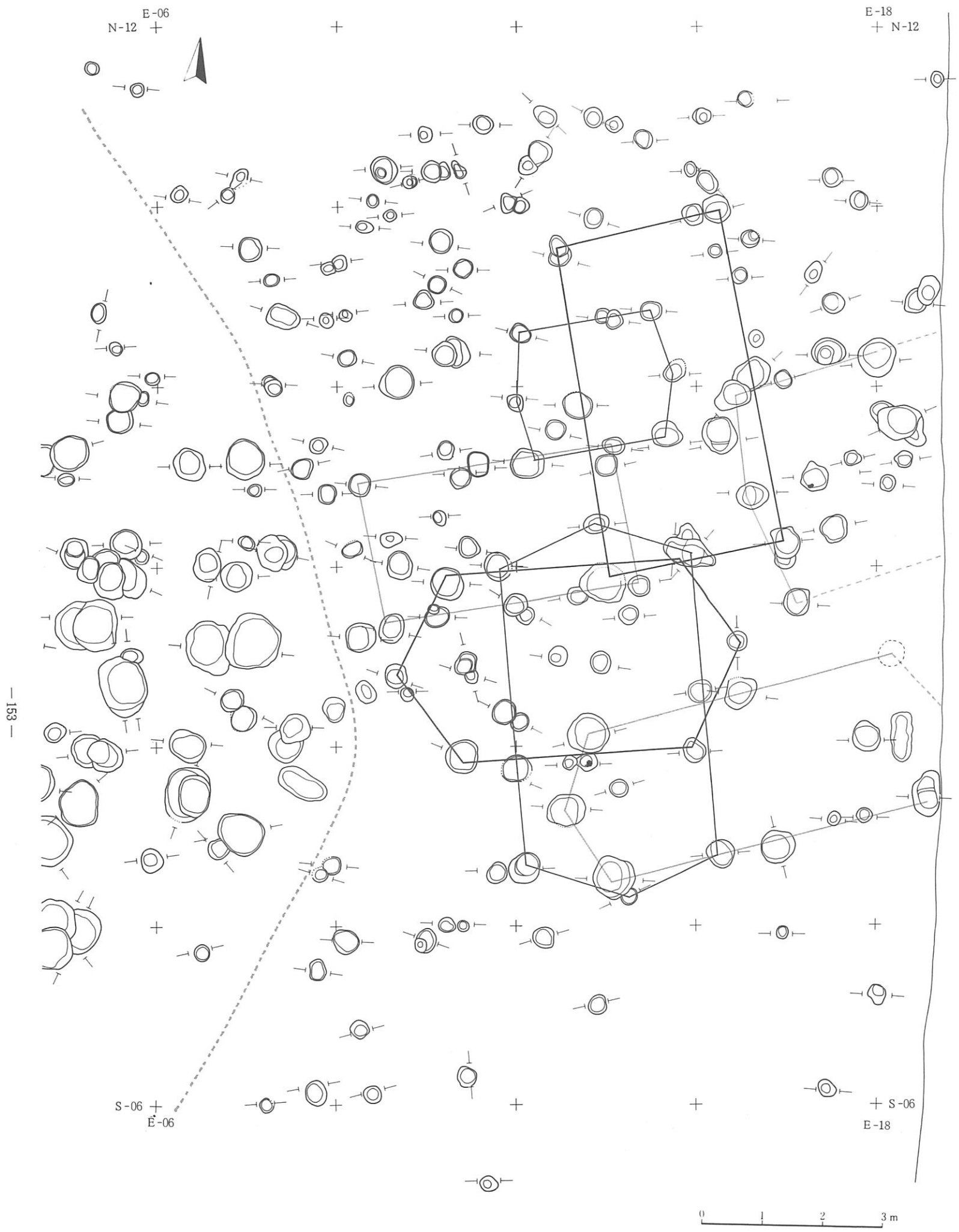
以上、環状ピット群を10群に大別し、そのなかから確認された柱穴列の概要を記述した。その数は53単位に及ぶが、これらのなかには柱穴列の単位構成や“群”の区分などに不明瞭な部分がありかなりあるものと思われる。そこで、個々のピットの断面図はすべて掲載し、その規模も第6表に一括してある。

〔住居域におけるピット群〕 なお、環状ピット群の外側には一定の空白地帯をもって住居跡群が確認されており、この居住区の北端に上記の掘立柱状柱穴列と同様の構造物が若干検出されている。ここでは、明らかに住居跡の柱穴列と区別されるもの限定してその内容を略述する。

h-1号：HC092・HD061・HD092・HD065の4個のピットで構成される。長辺長3.8 m、短辺長2.7 mの長方形を呈し、N-85°-Eの主(長)軸方位をもつ。3個のピットから柱痕が確認されている。

h-2号：HD504・HC531・HD501・HD532・HD502・HD531の6個のピットで構成されるもので、短辺中央のHD502・HD531の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長3.1 m、短辺長2.9 m、張り出し部の軸長4.1 mを計り、N-74°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のピットで柱痕が確認されている。

h-3号：HD561・HD591・HD622・HF565・HF591・HF622の6個と短辺中軸線上に位置するHE533・HE591・HE624の3個とを合わせた9個のピットで構成される総



第56図 長方形柱穴列配置図 (J群)

柱状の構造物である。短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長7.9 m、短辺長5.4 m、張り出し部の軸長9.1 mを計り、N-90°-Eの主(長)軸方位をもつ。

以上の3単位の柱穴列は、軸方位にかなりのばらつきがみられ、北側環状ピット群における柱穴列の軸方位の共通性からみれば、それらと直接対応するものとは言えない。また、このほかに若干の柱穴列が存在するものと思われるが確証に欠けるため除外してある。住居域における柱穴状ピットの断面図も一応作成してあるのでそちらを参照されたい。

第5表 掘立柱状柱穴列一覧表

	タイプ	ピ ッ ト		長辺長(m)	短辺長(m)	張り出し部軸長(m)	長 軸 方 向	新 旧 関 係 (新<旧、旧>新)
		本数	ピ ッ ト 名					
A-1	I	4	FE621・FE651・FF593・FF621	3.5	3.5		N-77°-W	
2	V	9	FF569・FF599・FF622・FF562・FG622・FG561・FG593・FG623・FG592	6.3	3.8	7.2	N-78°-W	
3	Ⅲ	6	FF563・FF597・FG621・FG562・FG5615・FH596	5.4	3.2		N-74°-W	
4	IV(?)	4+(4)	FF681・FG655・FG651・FH681	5.0	不明	不明	N-12°-E	
B-1	Ⅲ	6	FE501・FE531・FE564・FF501・FF531・FF566	6.1	3.0		N-84°-E	<FE561 フラスコピット
2	Ⅲ	6	FD036・FD531・FD562・FF0310・FE532・FE563	7.8	4.1		N-77°-E	
3	Ⅱ	6	FE503・FE5314・FF504・FF508・FF538・FF536	3.6	2.8	4.6	N-82°-E	
4	IV	8	FE504・FF5010・FG502・FE537・FF539・FG531・FE502・FG534	5.2	3.9	5.6	N-14°-W	
C-1	I	4	FF095・FG068・FG032・FF0614	5.0	4.0		N-59°-E	? FE062 フラスコピット、>C-3
2	VI	8	FG091・FF066・FF0611・FF031・FH063・FH061・FG036・FG5012	8.5	5.2		N-57°-E	
3	Ⅲ	6	FF092・FG062・FG0610・FF0617・FF063・FG033	5.3	3.0		N-36°-W	<C-1
4	Ⅱ(?)	5+(1)	FE127・FF094・FD093・FF061・FF0913	4.2	3.8		〃	? FE121 フラスコピット
D ₁ -1	IV	8	FG121・FG151・FH153・FG094・FH123・FI129・FG128・FI152	7.0	4.4	7.8	N-32°-E	<D-6
2	IV	8	FG122・FH128・FH155・FH091・FH099・FI123・FG0910・FI127	5.4	3.4	5.9	〃	
3	IV	7+(1)	FE181・FF157・FG1212・FG152・FG1812・FE183・FG154	7.1	4.2	8.2	N-58°-W	>D-5、<D-4、>FE18住居跡
4	Ⅱ	6	FE152・FF181・FF151・FG1815・FF153・FG1811	5.0	3.5	5.5	N-31°-E	>D-3、>D-5、>FE18住居跡
5	I	4	FF158・FG1816・FF152・FG153	3.7	3.3		N-33°-E	<D-3、<D-4、>FE18住居跡 <FG157 フラスコピット
D ₂ -1	Ⅲ(?)	5+(1)	FI182・FJ182・FI127・FI1512・FJ156	5.5	3.4		N-19°-E	>D-1、>FJ18住居跡
D ₂ -2	I	4	FH1810・FH187・FH151・FI158	4.2	3.4		N-22°-E	? FG18住居跡
D ₂ -3	I	4	FI188・FI1810・FI1511・FJ188	3.4	3.1		N-66°-W	>FJ18住居跡
E-1	V	8+(1)	FJ211・GA211・FJ1810・GA182・GB187・FJ184・GA185・GB214	7.1	4.1	8.3	N-10°-E	<E-2、<E-3、>FJ18住居跡 >FI21住居跡、GA21住居跡

一 西 田 遺 跡 一

	タイプ	ピ ッ ト		長辺 長(m)	短辺 長(m)	張り出 し部軸 長(m)	長 軸 方 向	新 旧 関 係 (新<旧、旧>新)
		本数	ピ ッ ト 名					
E-2	V	9	FJ153・GA152・GB1515・GB189・GA188・FJ1810・ FJ156・GA1516・GC182	6.5	4.2	8.2	N-7°-E	>E-1?E-3、>FJ18住居跡、>FJ21 住居跡、<GA21住居跡、<GB1516フラス コピット、>GB15溝状土壌
3	II	5+(1)	GB186・GB215・GC189・GC213・GC184	4.5	3.9	不明	N-88°-W	>E-1、?E-2
F-1	III	6	GD215・GE213・GE215・GD182・GD188・GE185	5.6	4.1		N-14°-W	
2	III or IV	3+(3)	GD216・GE214・GF215	6.9	不明	不明	N-20°-W	>GF21-1住居跡、>GF21-2住居跡
3	不明	2	GF2110・GG216	不明	~		N-27°-W	>GF21-1住居跡
G-1	V	9	GH121・G1151・G1155・G1091・G11211・GJ121・ GH091・G1126・GJ153	6.5	4.1	7.3	N-34°-E	<G-5
2	V	9	GG123・GH152・G1183・GH092・G1122・GJ151・ GG097・GH122・G1156	7.5	4.3	8.8	N-40°-E	<G-6、>G-8、>GH18住居跡
3	IV	8	GG127・GH155・GH184・GH095・GH123・G1153・ GG125・G1184	6.3	4.1	7.9	N-43°-E	
4	III	6	GH151・G1186・G1182・GH123・G11510・GJ154	6.2	3.6		N-34°-E	>GH18住居跡、>G115住居跡
5	V	9	GG158・GH155(未調査)・G1123・GH187・G11513・ GJ123・GH182・G1152・GJ122	8.3	4.1	10.0	N-50°-W	>G-1
6	II	6	GF151・GG124・GG183・GH153・GG181・GH127	4.6	4.1	5.8	N-52°-W (38°)	>G-2
7	II	6	GG094・GH098・GH062・G1092・GH067・G1097	3.8	3.3	4.5	N-28°-E	
8	II	6	GH093・G11210・G10615・GJ091・GH066・G1095	4.1	3.1	4.7	N-27°-E	>G-2
9	II	6	GG035・GH039・GH0614・GH032・GG063・GH037	3.6	2.7	4.2	N-66°-W	
H-1	II	6	HA063・HB061・HA032・HB064・HA061・HC061	3.2	3.0	4.9	N-9°-E	
2	II	6	G1068・GJ061・GJ032・HA031・GJ062・GJ037	3.6	3.2	4.1	N-15°-E	
3	II	6	G10611・GJ065・G1034・GJ0310・G1038・HA062	4.1	3.0	6.2	N-9°-E	
I-1	IV	8	G15013・GJ038・GJ0311・GJ534・GJ504・HA507・ G1501・HA501	6.2	3.6	6.7	N-4°-E	
2③	IV	8	G1505・GJ508・HA504・G15311・GJ534・HA538・ G1535・(GJ507)・HB502	③6.5	4.6	8.0	~	>I-3、>I-5
②	V	9	G1505・GJ508・HA504・G15312・G1537・HA537・ G1535・GJ507・HB502	②6.5	4.8	8.0	~	
①	V	9	G1504・GJ508・HA505・G1536・GJ534・HA533・ GJ507・HB502	①7.6	4.6	8.0	~	>I-7
3	IV	8	GJ502・GJ535・GJ561・HA503・HA532・HA563・ GJ506・GJ567	7.1	4.4	8.0	N-85°-E	<I-2、<I-4、<I-5、<I-7
4	IV	8	G1502・G1532・G1561・GJ502・GJ535・GJ561・ G15014・G15610	6.6	3.7	8.0	~	>I-3
5	IV	8	GJ501・GJ531・GJ562・HA509・HA535・HA561・ GJ505・GJ565	6.0	3.4	6.9	N-88°-E	>I-3、<I-5、<I-7
6	III	6	G15010・G1537・G15611・GJ503・GJ533・GJ563	5.0	3.6		N-89°-E	<I-2の①
7	II	6	GH503・G15310・G1508・G1536・G1503・G1562	3.9	3.0	5.9	N-84°-E	<I-2の①
8	I	4	GJ509・GJ532・HA502・HA531	4.0	3.2		N-86°-E	>I-4、>I-5
J-1	IV	7+(1)	GJ625・GJ652・GJ682(未調査)・HA625・HA653・ HA681・HA622	6.1	3.2		N-70°-E	
2	IV	8	G1593・GJ599・HA624・G1627・GJ628・HA654・ G1622・HA627	5.6	3.8	6.6	N-10°-W	<J-5
3	III	6	G1599・G1592・G1624・GJ593・GJ591・GJ627	4.8	2.9		N-75°-E	
4	III	6	GH626・G1625・G1621・GG656・GH6510・G1656	6.3	3.7		N-18°-W	<J-7

	タイプ	ピ ッ ト		長辺長(m)	短辺長(m)	張り出し部軸長(m)	長軸方向	新 旧 関 係 (新 < 旧、旧 > 新)
		本数	ピ ッ ト 名					
J-5	II	6	G I 594・G J 598・G I 629・G J 626・G J 596・G J 653	4.4	3.6	6.2	N-76°-E	> J-2
6	II	6	GH598・G I 591・GH624・G I 628・G I 5910・GH627	2.9	2.6	3.1	N-74°-E	
7	IV (?)	4+(4)	GH6511・GH658・G J 651・G I 654	不明	4.1	不明	N-69°-E	> J-4
h-1	I	4	HC 092・HD061・HD065・HD092	3.8	2.7		N-85°-E	
2	II	6	HD504・HC 531・HD501・HD532・HD502・HD531	3.1	2.9	4.1	N-74°-E	
3	V	9	HD561・HD591・HD622・HF 565・HF 591・HF 622・HE 533・HE 591・HE 624	7.9	5.4	9.1	N-90°-E	

土 層 注 記 表

(I) 土 色

混 入 土	基 本 土	黒 褐 色			暗 褐 色		褐 に ぶ い 黄 褐 色 色			黄 明 黄 褐 色 色		
		10Y R 2/2	10Y R 2/3	10Y R 3/2	10Y R 3/3	10Y R 3/4	10Y R 4/3 10Y R 4/4	10Y R 4/6	10Y R 5/3 10Y R 5/4	10Y R 5/6	10Y R 5/8	10Y R 6/6 10Y R 6/8
黒 褐 色	極 少 (1~4%)	1	14	27	40	53	66	79	92	105	118	131
	小 (5~10%)				41	54	67	80	93	106	119	132
	中 (11~25%)				42	55	68	81	94	107	120	133
	多 (26~49%)				43	56	69	82	95	108	121	134
暗 褐 色	極 少	2	15	28	44	57	70	83	96	109	122	135
	小	3	16	29			71	84	97	110	123	136
	中	4	17	30			72	85	98	111	124	137
	多	5	18	31			73	86	99	112	125	138
褐 に ぶ い 黄 褐 色 色	極 少	6	19	32	45	58	74	87	100	113	126	139
	小	7	20	33	46	59				114	127	140
	中	8	21	34	47	60				115	128	141
	多	9	22	35	48	61				116	129	142
黄 明 黄 褐 色 色	極 少	10	23	36	49	62	75	88	101	117	130	143
	小	11	24	37	50	63	76	89	102			
	中	12	25	38	51	64	77	90	103			
	多	13	26	39	52	65	78	91	104			

(II) 土 性

- シルト質壤土: SiL — a
- シルト質埴壤土: SiCL — b
- シルト質埴土: SiC — c
- 砂 壤 土: SL — d
- 砂 質 埴 壤 土: SCL — e
- 砂 質 埴 土: SC — f
- 砂 土: S — g
- 重 埴 土: HC — h

(III) し ま り

- 密(Tight) — T
- やや密 — T'
- 中(Middle) — M
- やや疎 — C'
- 疎(Coarse) — C

(IV) 堆 積 土 の 状 況

- 粉状(極小粒状)堆積土 — P owdary soil
- 粒状(小・中・大粒状)堆積土 — G ranular soil
- 塊状(ブロック状)堆積土 — A ngular soil

(V) 混 入 物

- 焼土(Baked soil) — B 微量 — 1
- 木炭(Charcoal) — C 少量 — 2
- その他 普通 — 3
- 無し 多量 — 4

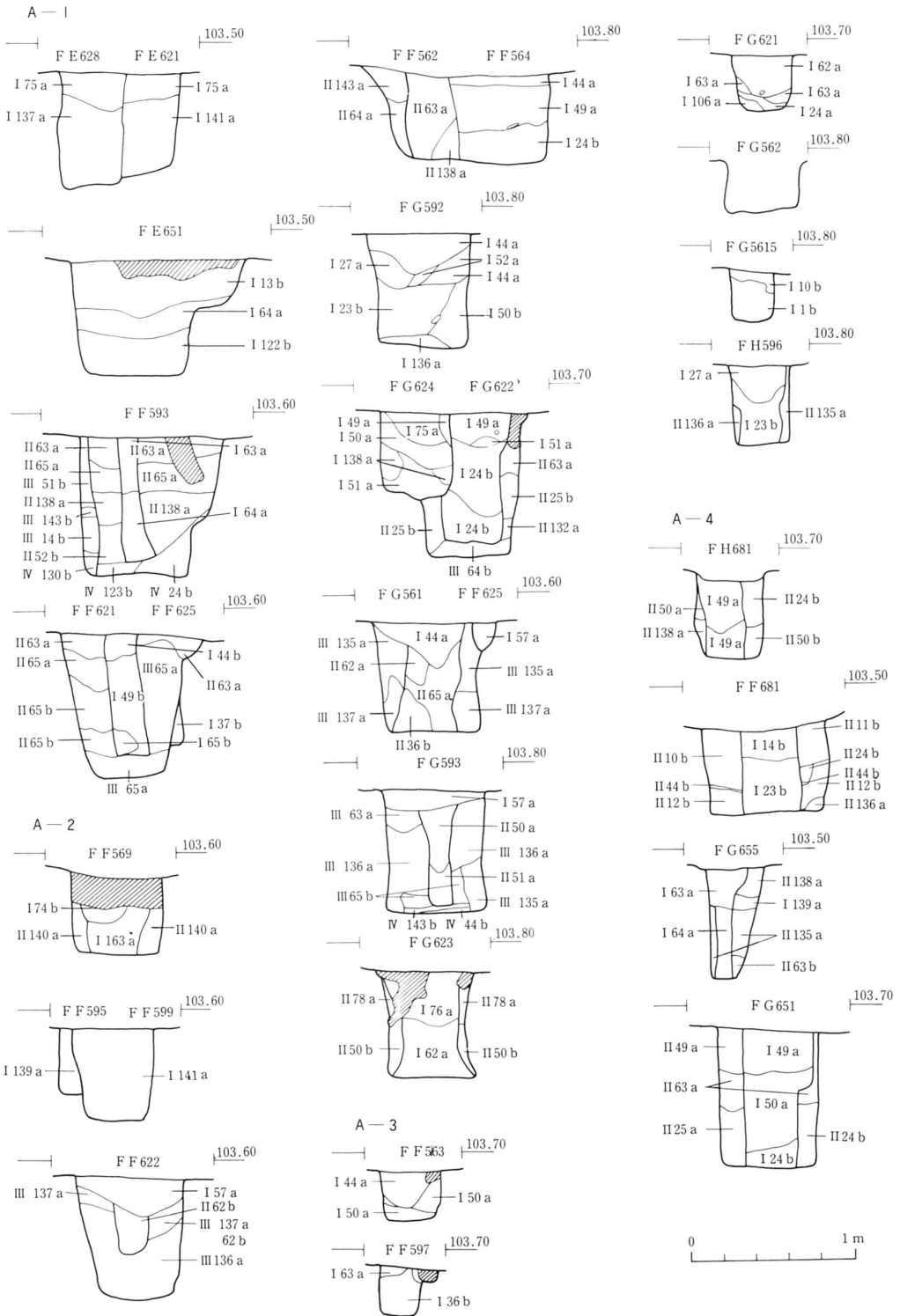
(VI) 層 の 形 成

- 自然堆積: Natural accumulation — N
- 人為堆積: Artificial accumulation — A

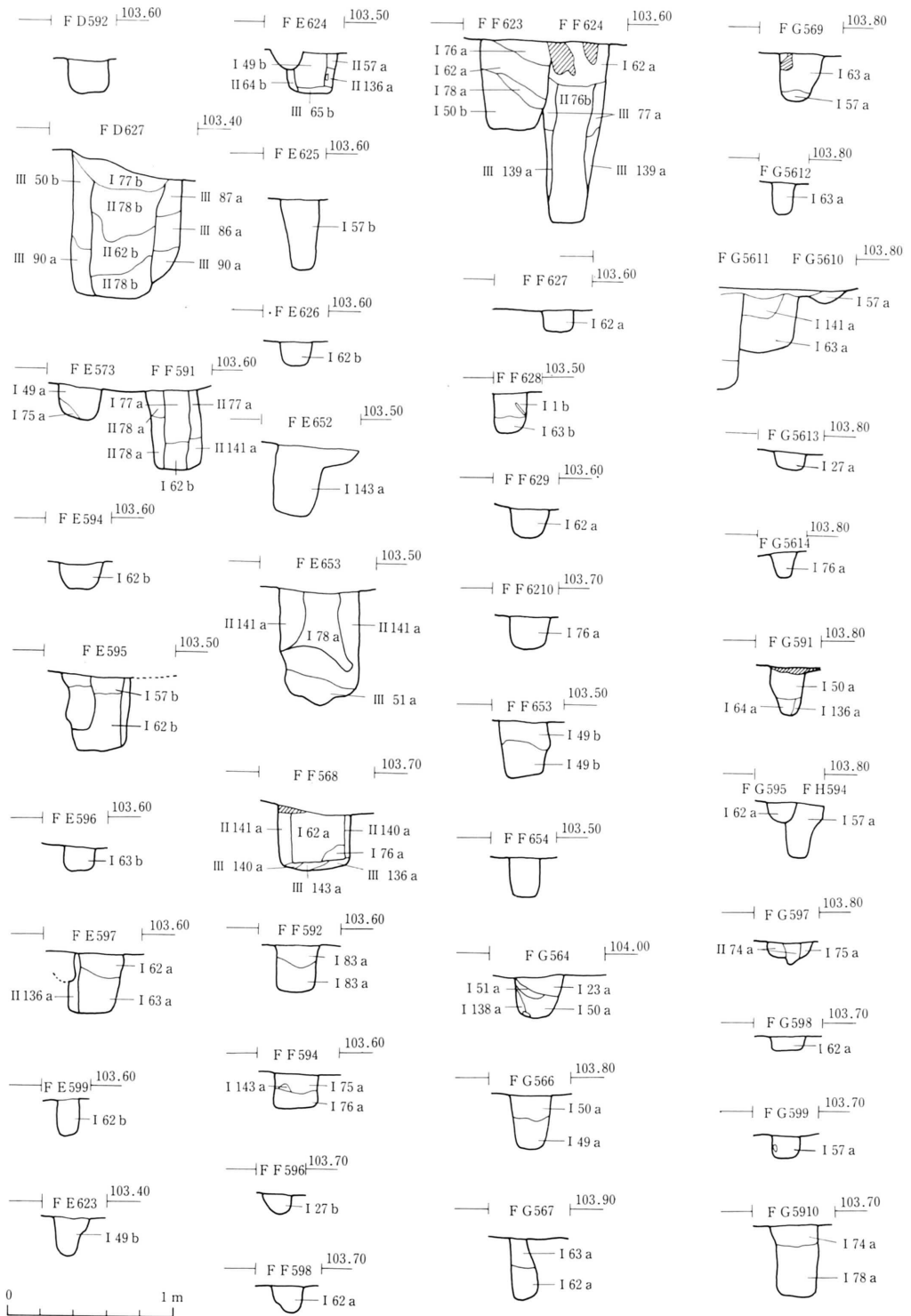
注 第57~101図の土層注記は、スペースの関係で層位・土色・土性の3つの基準のみを表示した。

ex (層位) (土色) (土性)
I 75 a

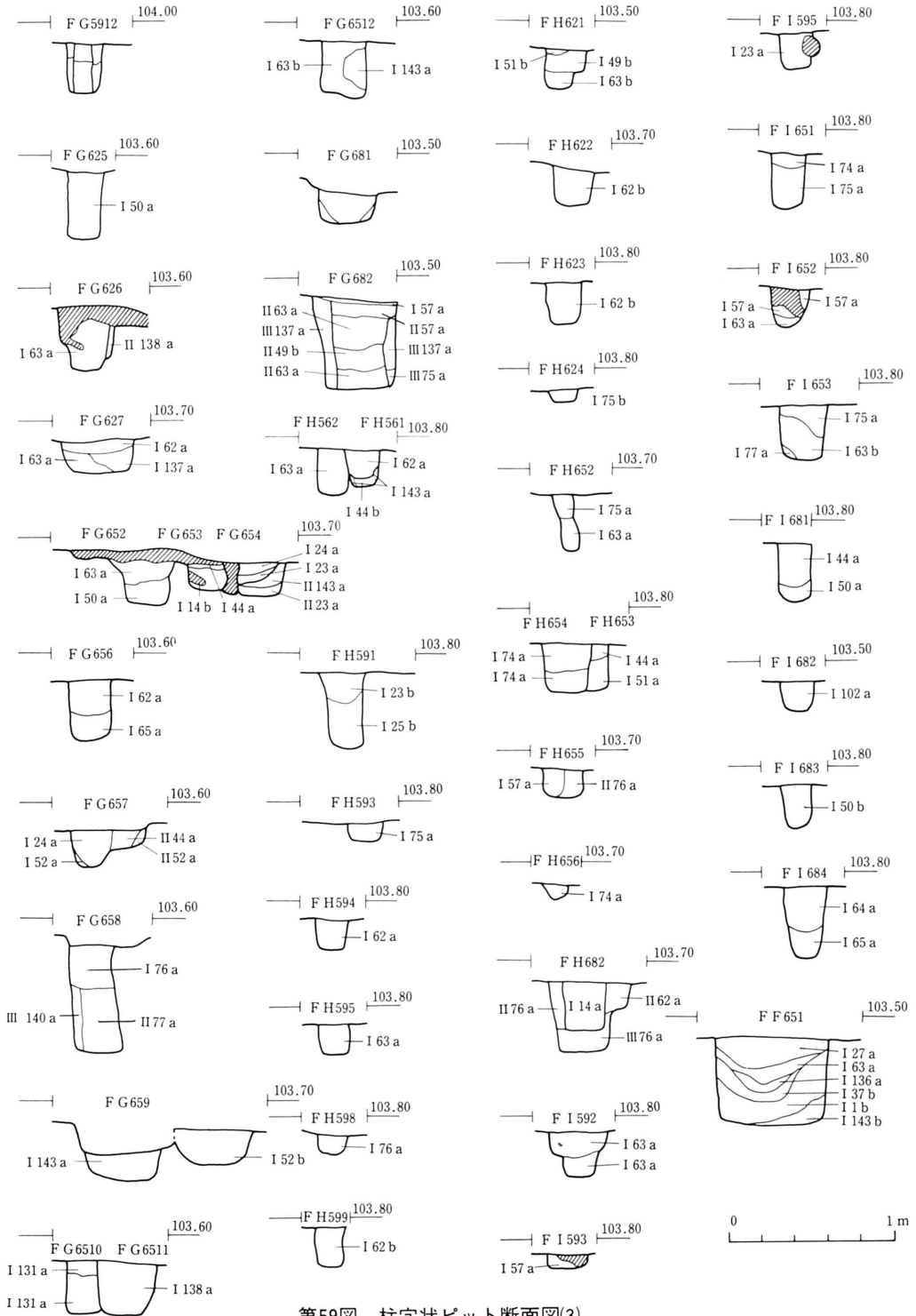
— 西田遺跡 —



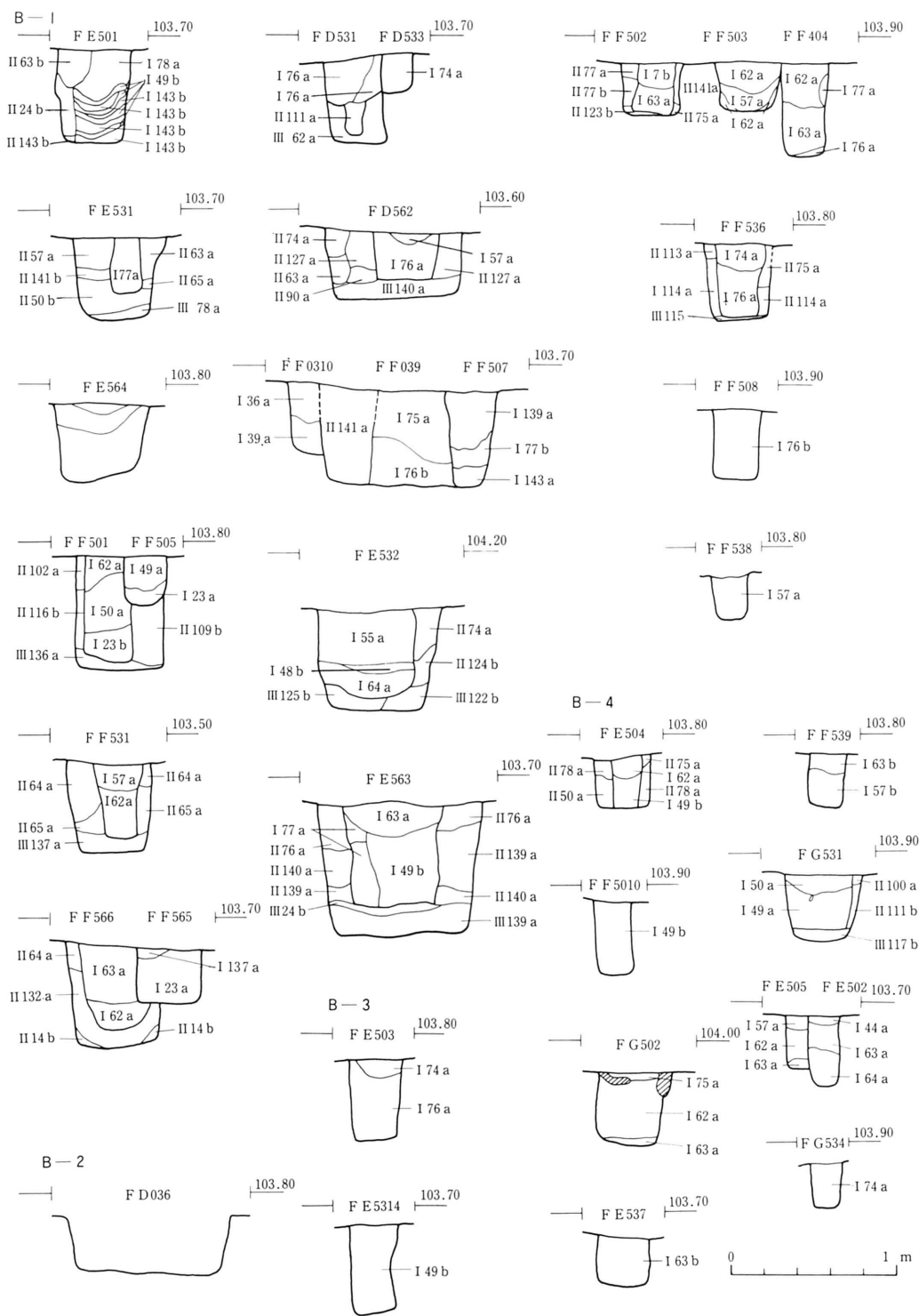
第57図 柱穴状ピット断面図(1)



第58図 柱穴状ピット断面図(2)

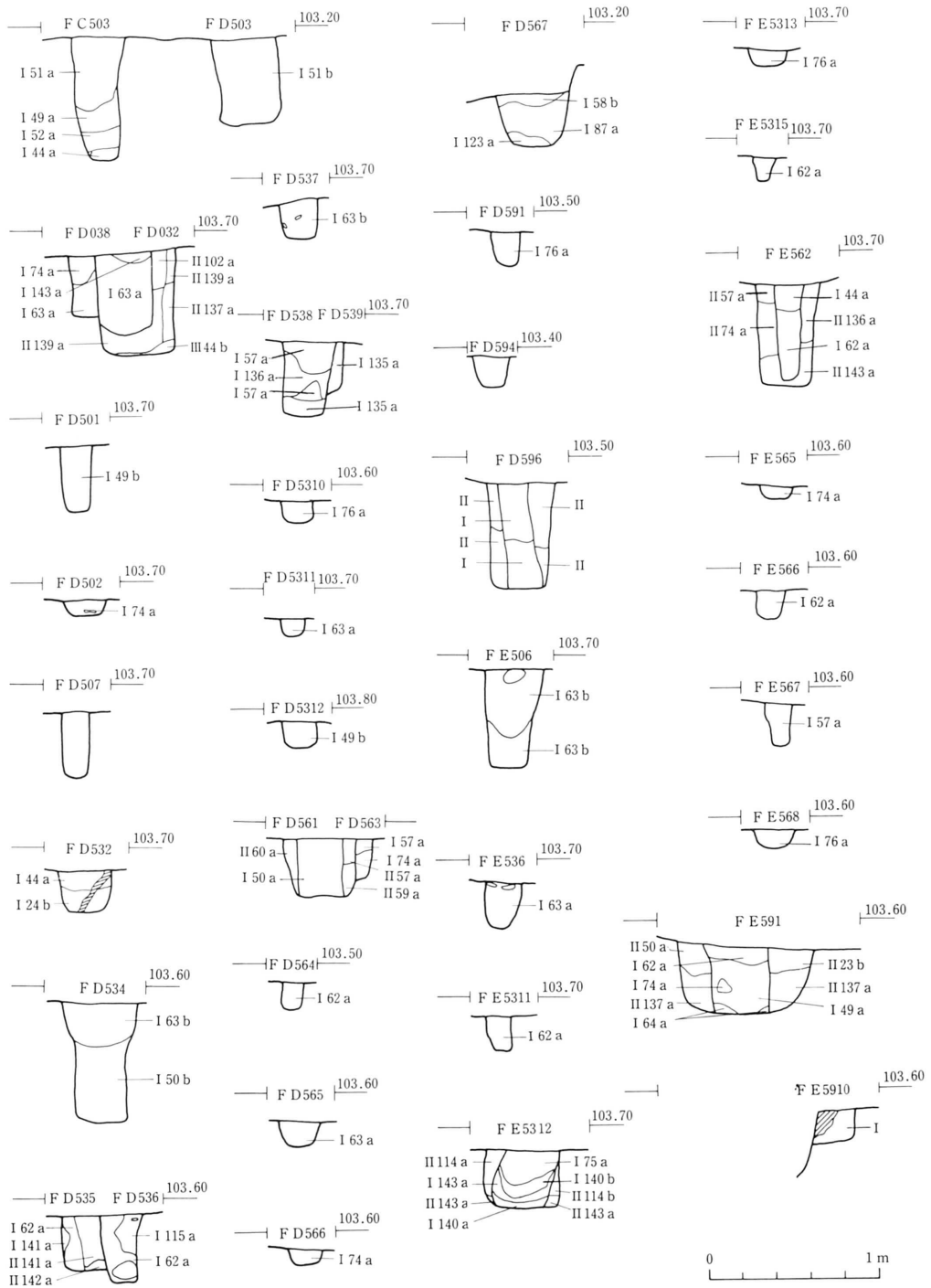


第59図 柱穴状ピット断面図(3)

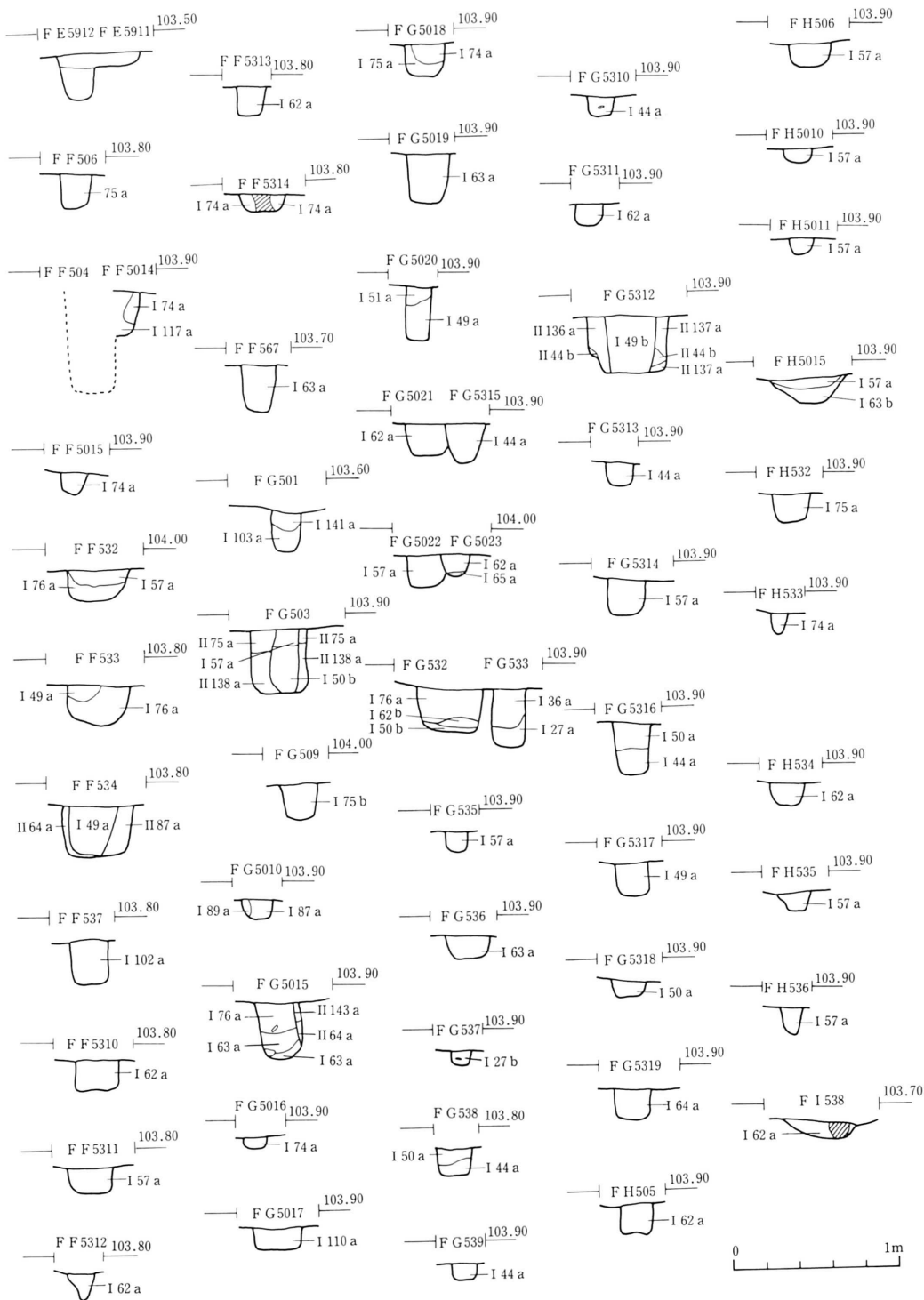


第60図 柱穴状ピット断面図(4)

— 西田遺跡 —



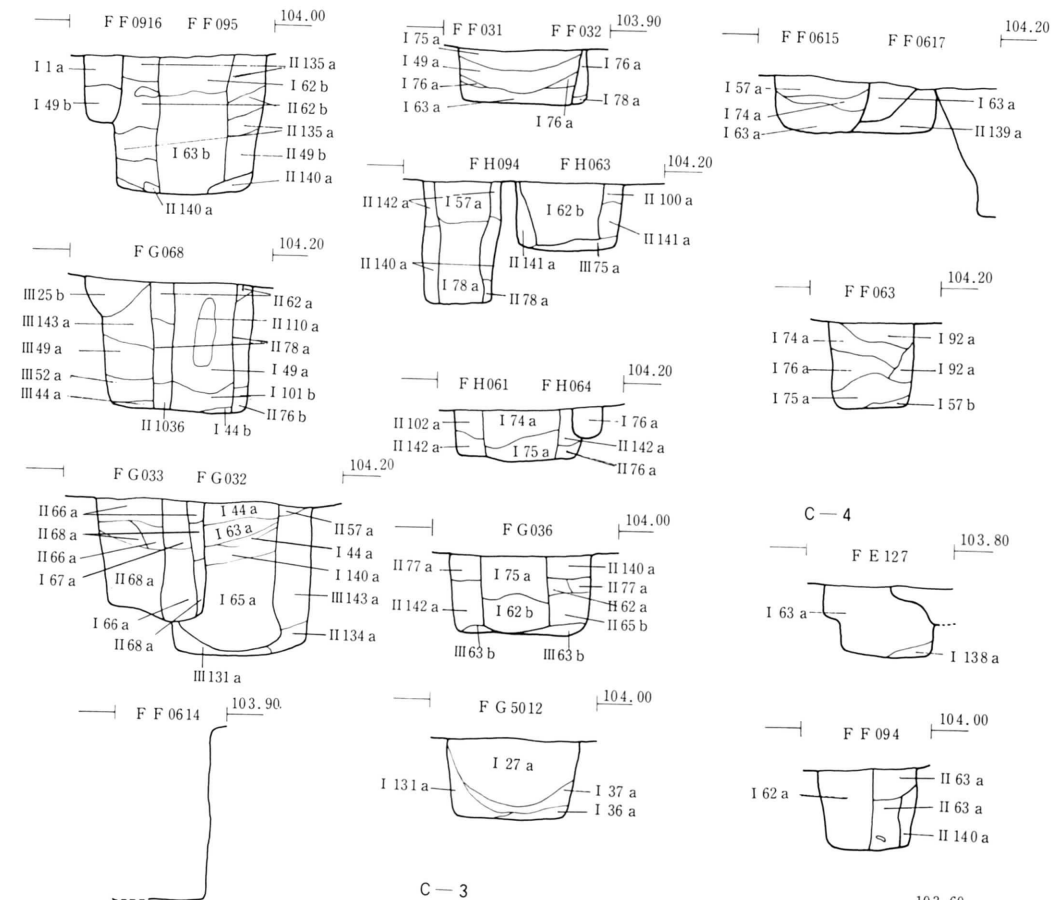
第61図 柱穴状ピット断面図(5)



第62図 柱穴状ピット断面図(6)

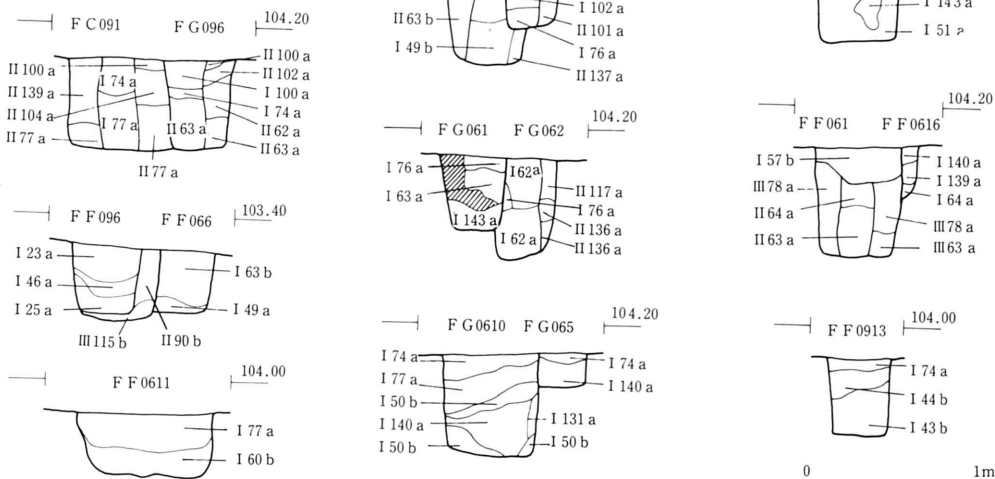
— 西田遺跡 —

C-1

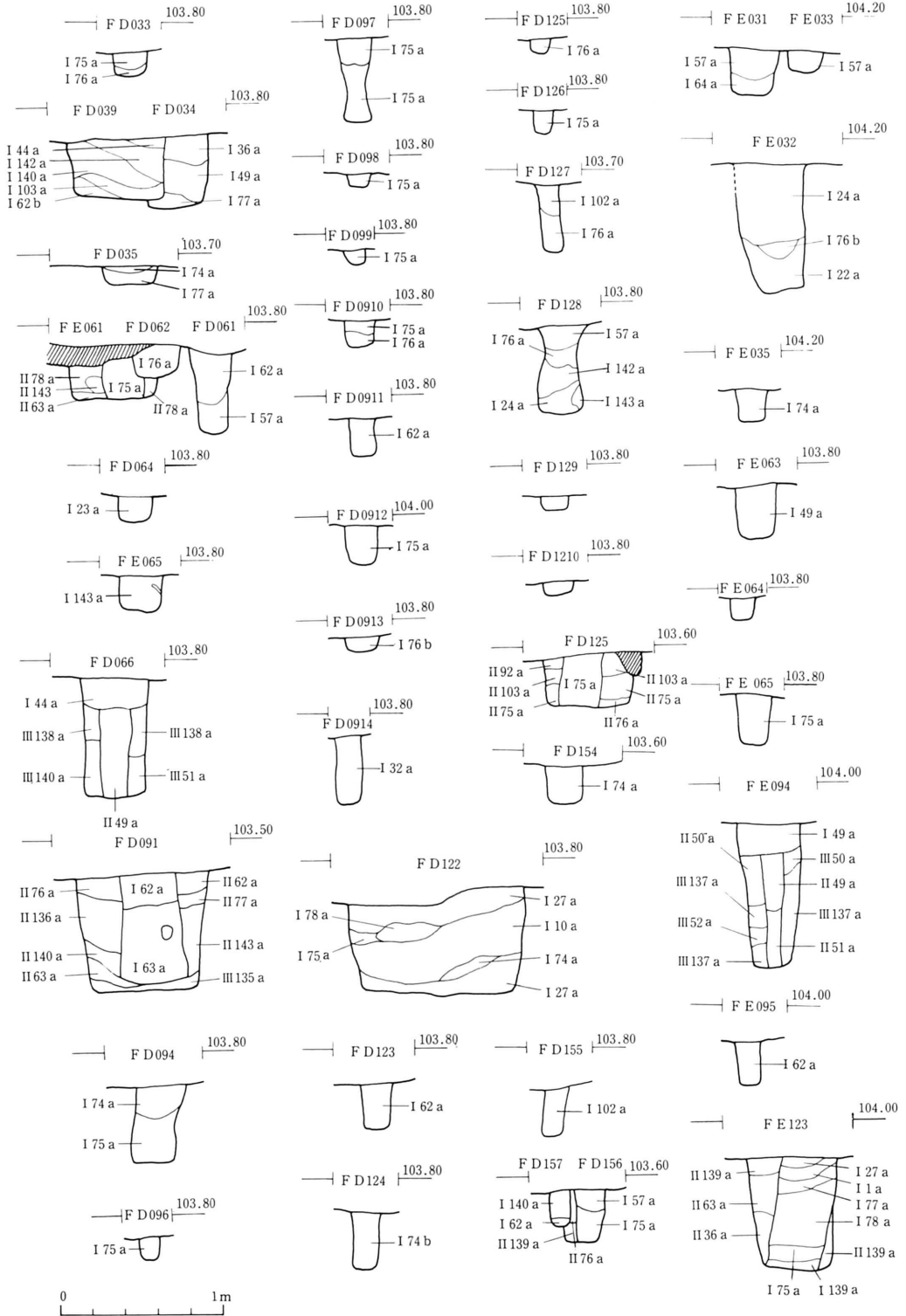


C-3

C-2

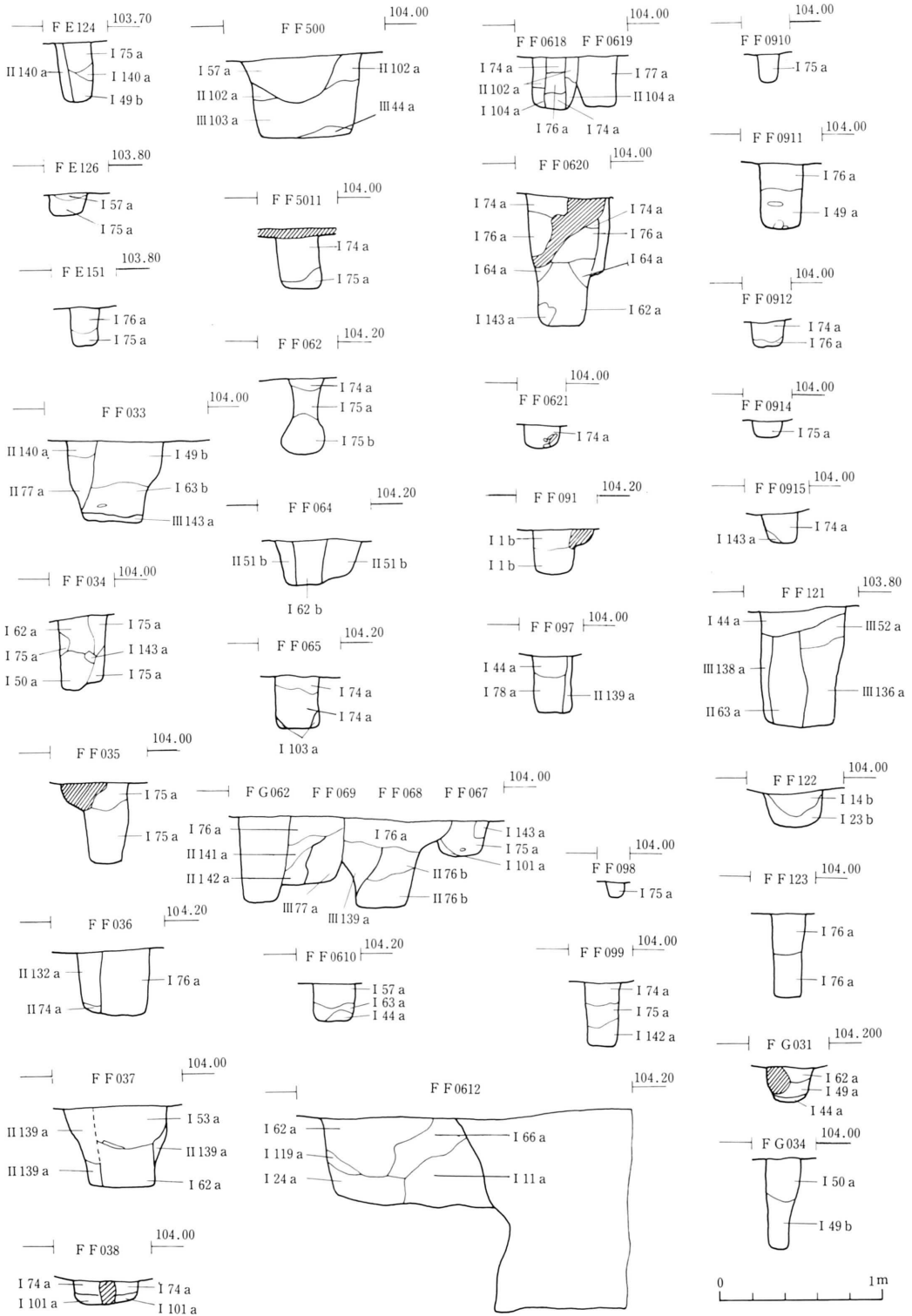


第63図 柱穴状ピット断面図(7)

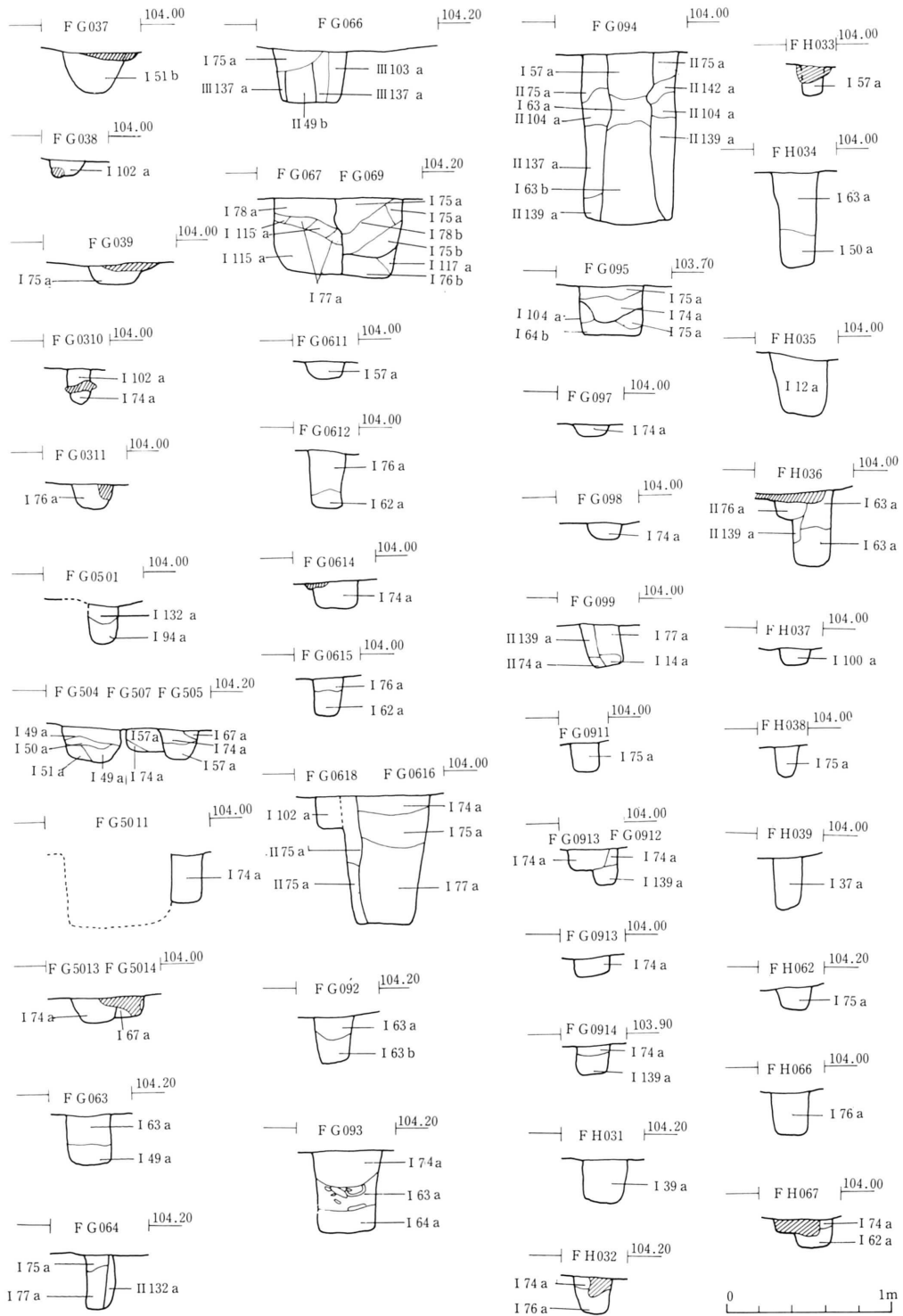


第64図 柱穴状ピット断面図(8)

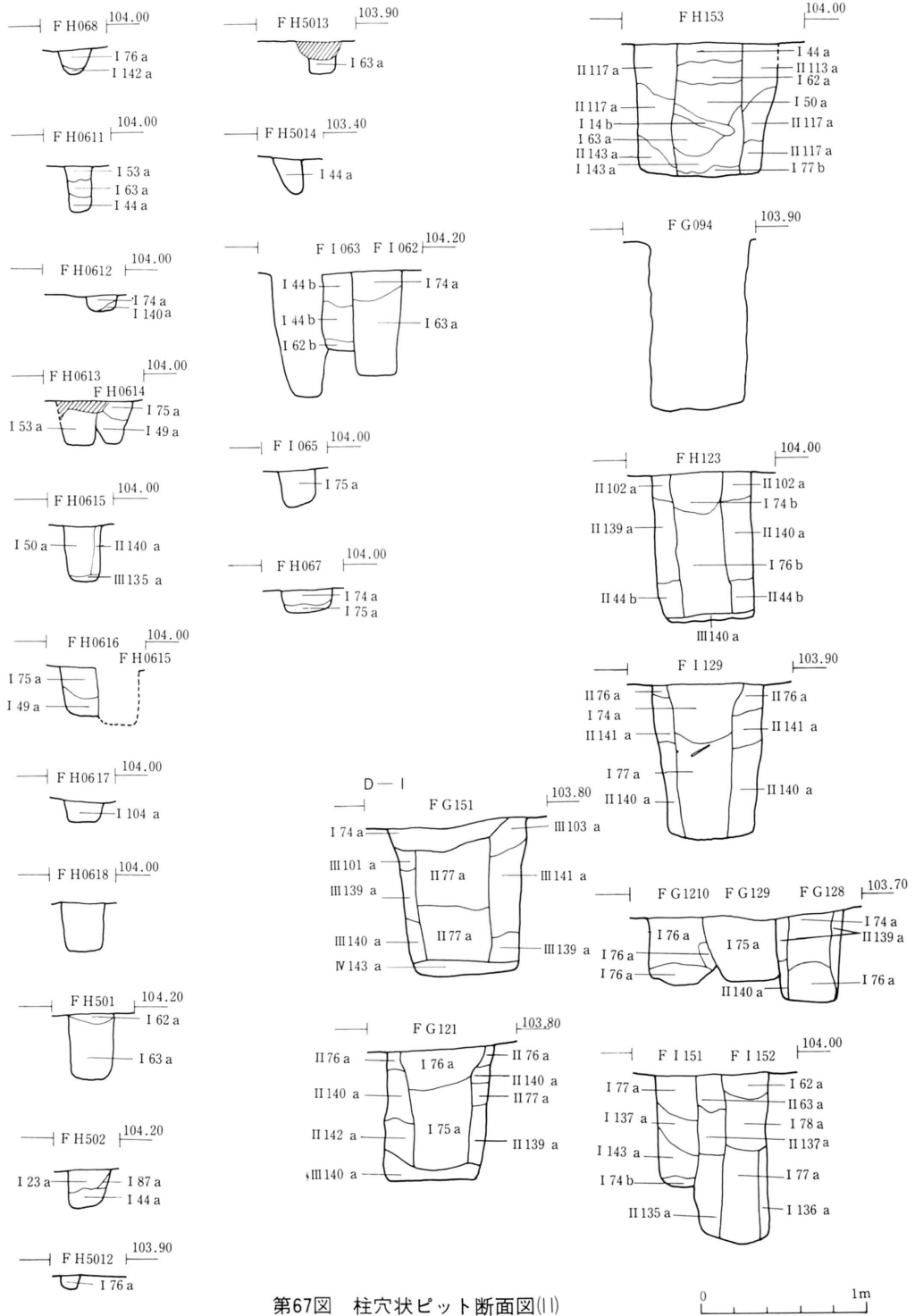
— 西田遺跡 —



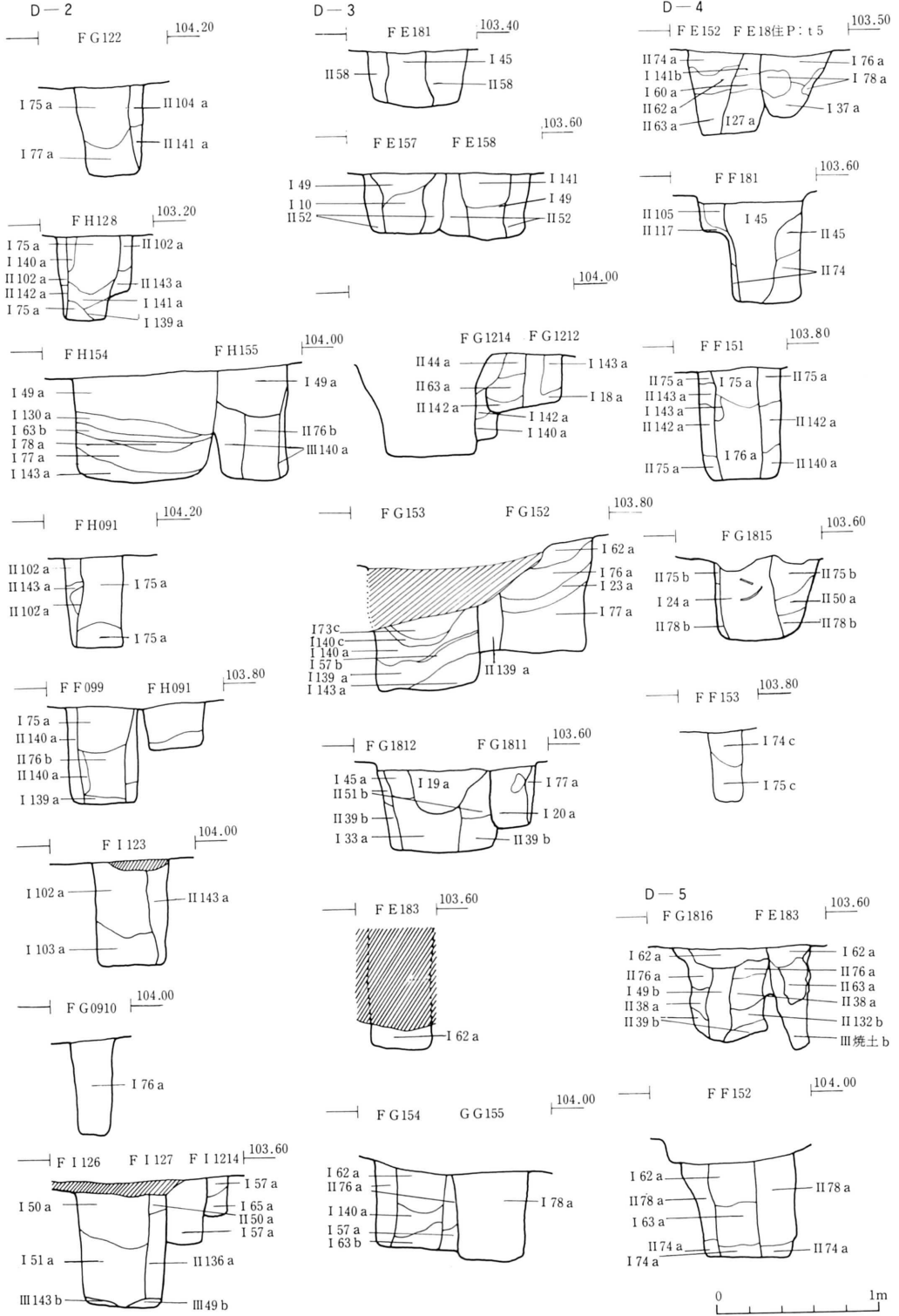
第65図 柱穴状ピット断面図(9)



第66図 柱穴状ピット断面図(10)

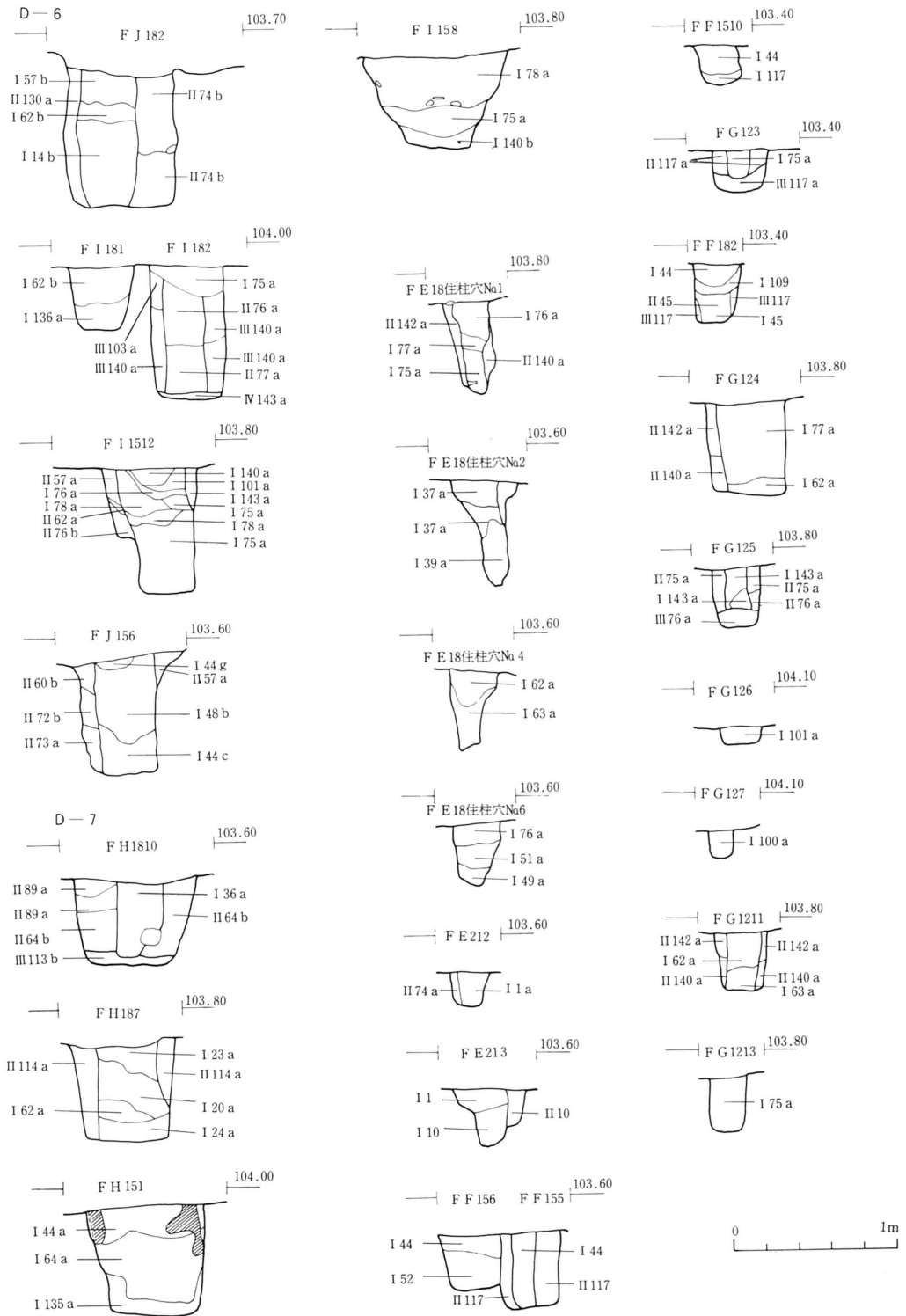


第67図 柱穴状ピット断面図(II)

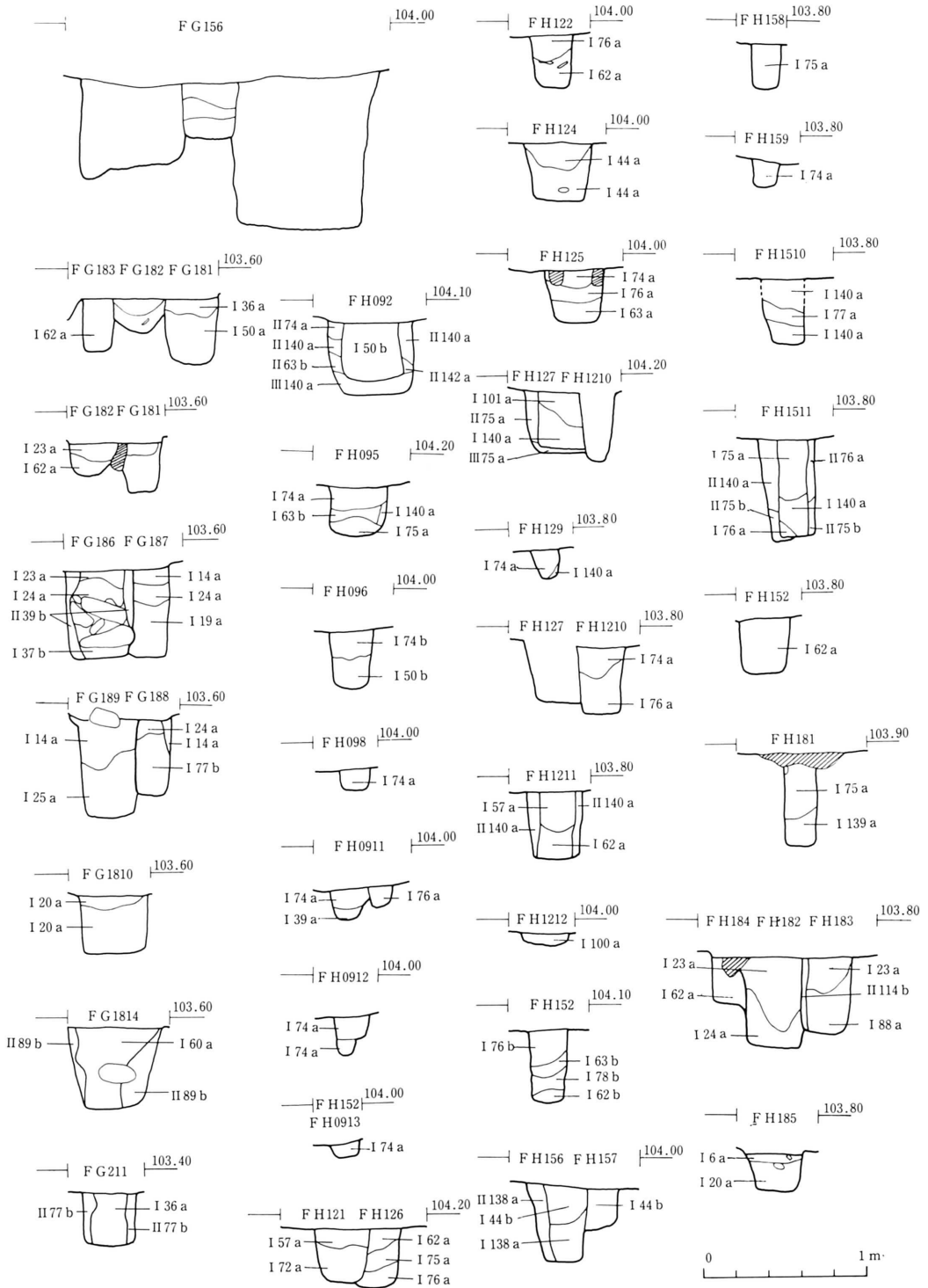


第68図 柱穴状ピット断面図(12)

— 西田遺跡 —

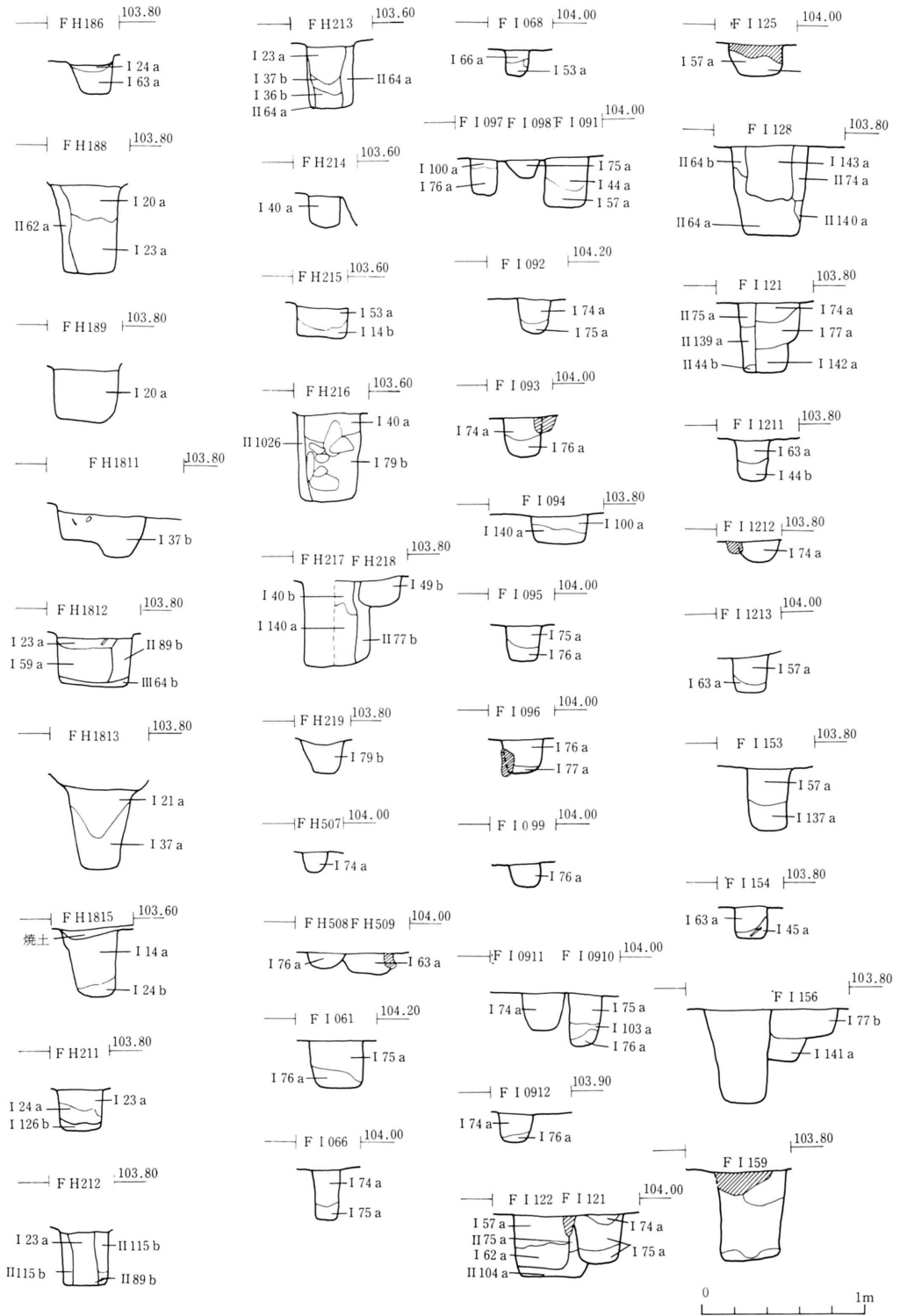


第69図 柱穴状ピット断面図(13)

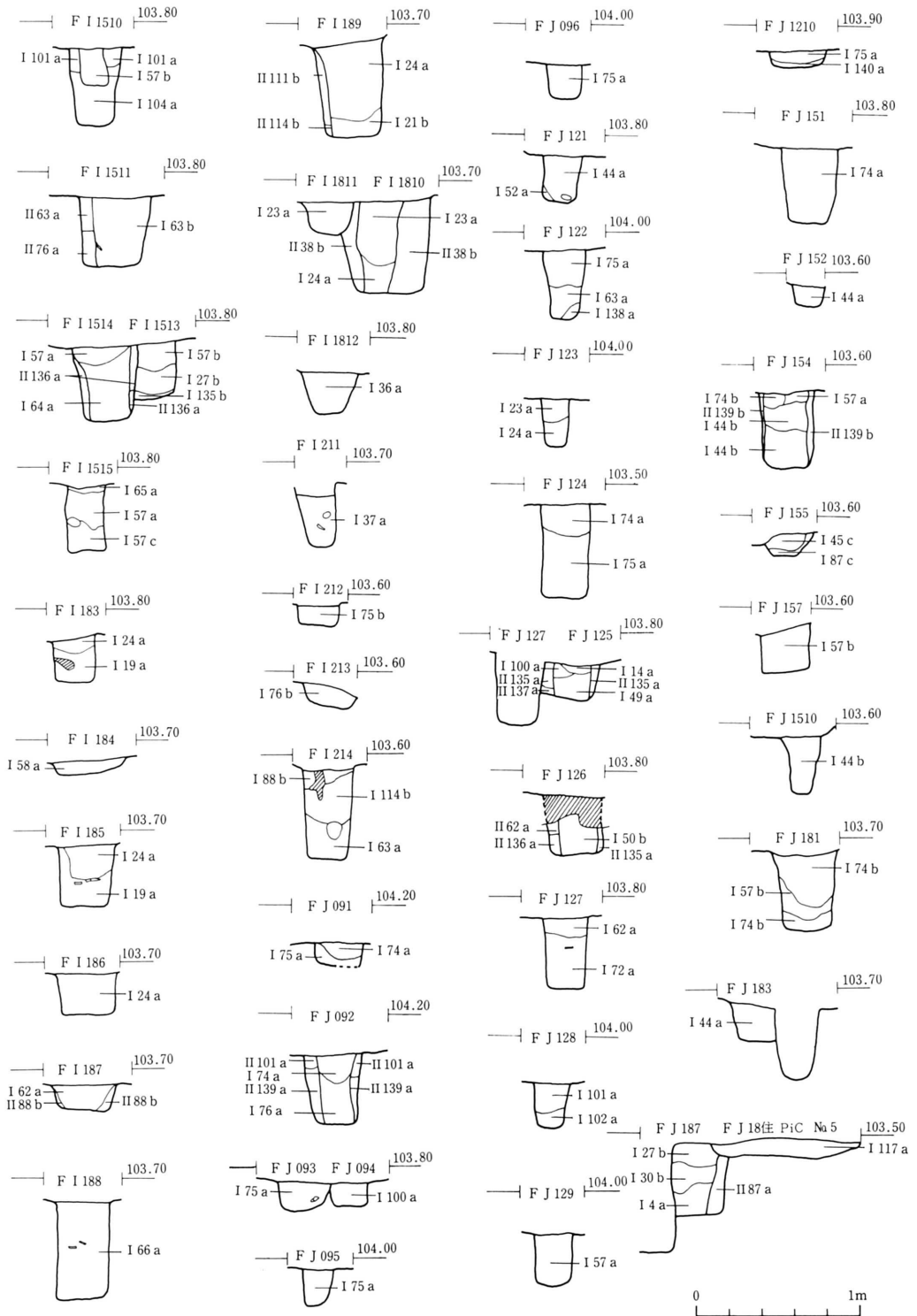


第70図 柱穴状ピット断面図(14)

— 西田遺跡 —

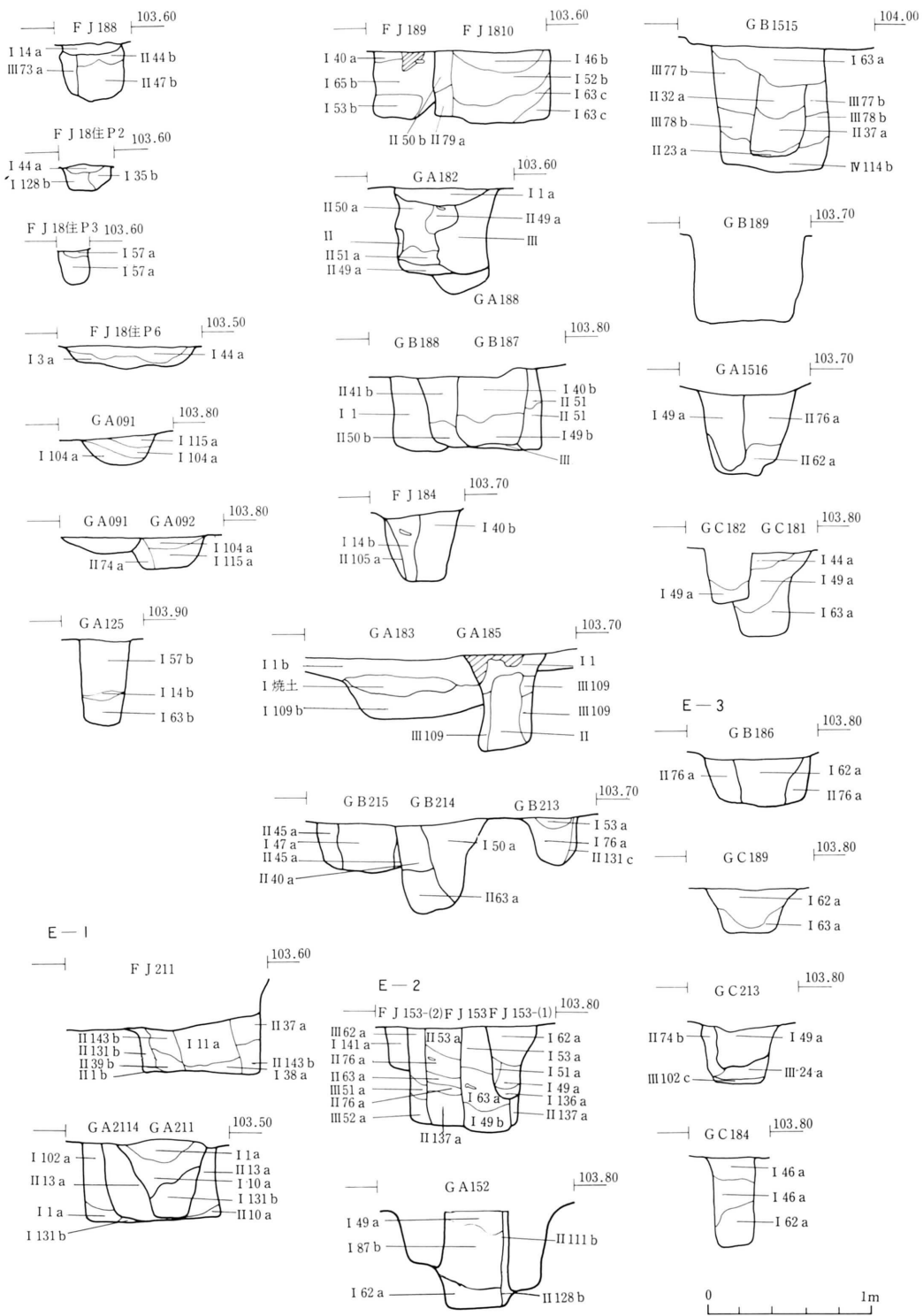


第71図 柱穴状ピット断面図(15)

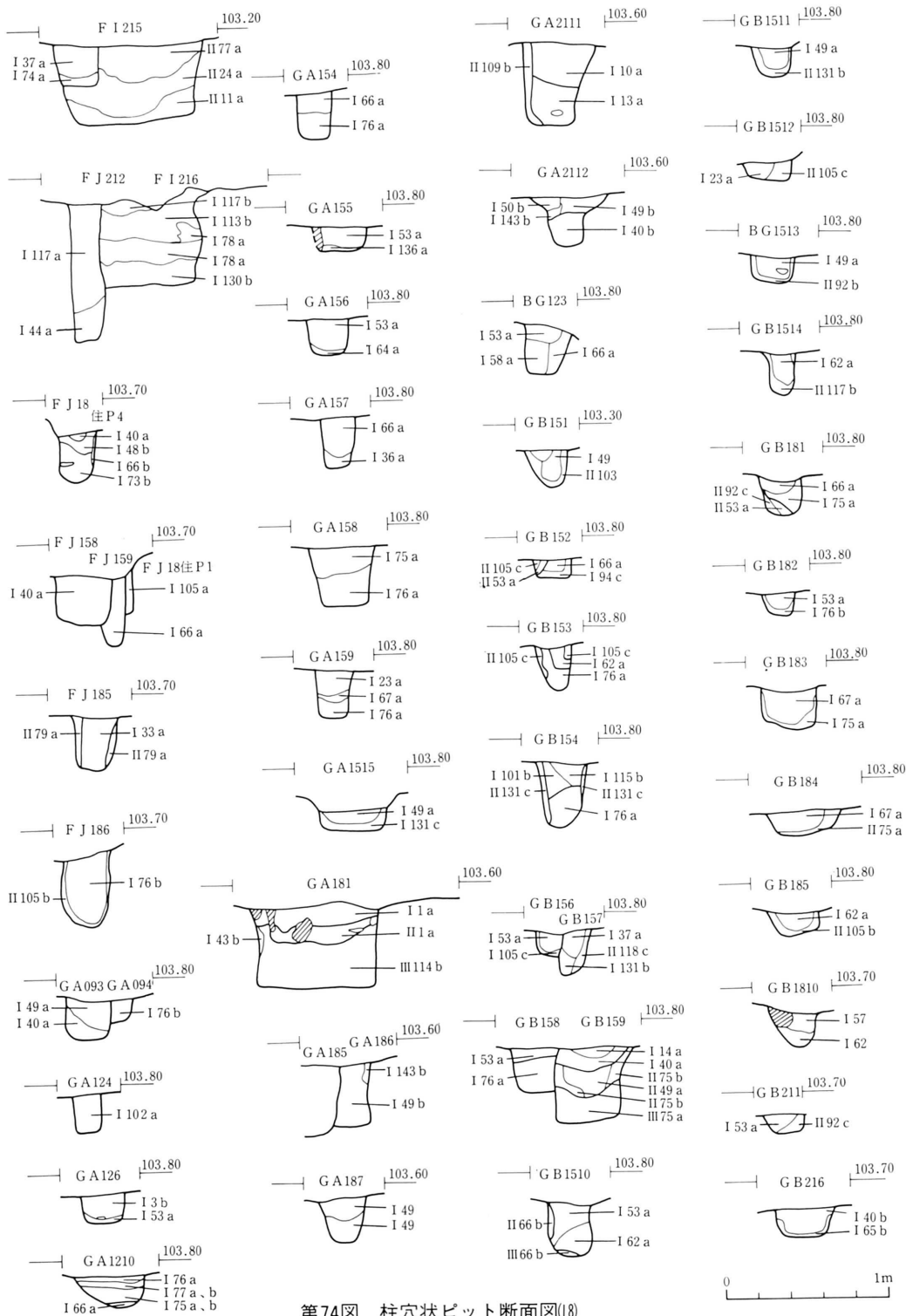


第72図 柱穴状ピット断面図(16)

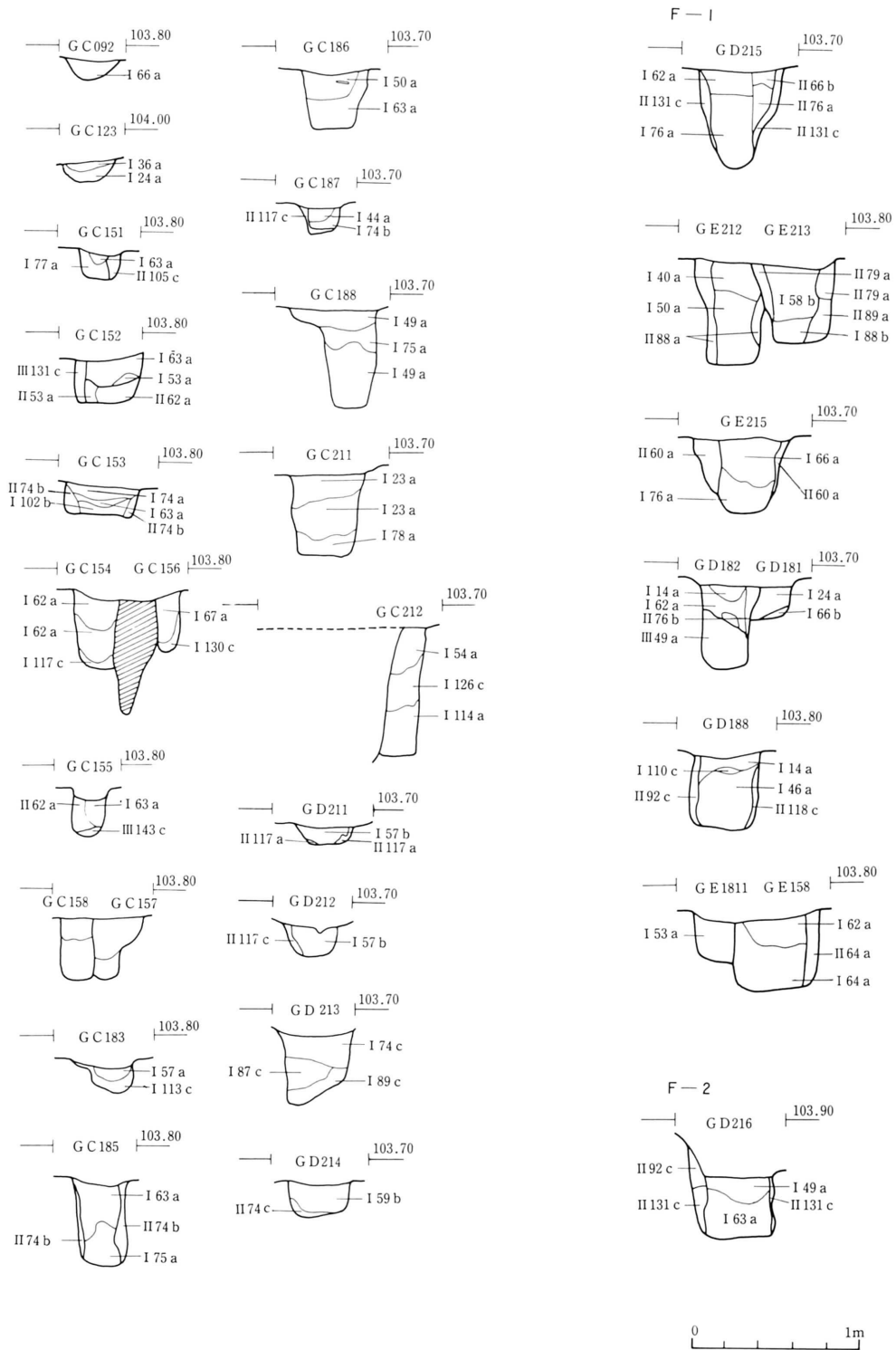
— 西田遺跡 —



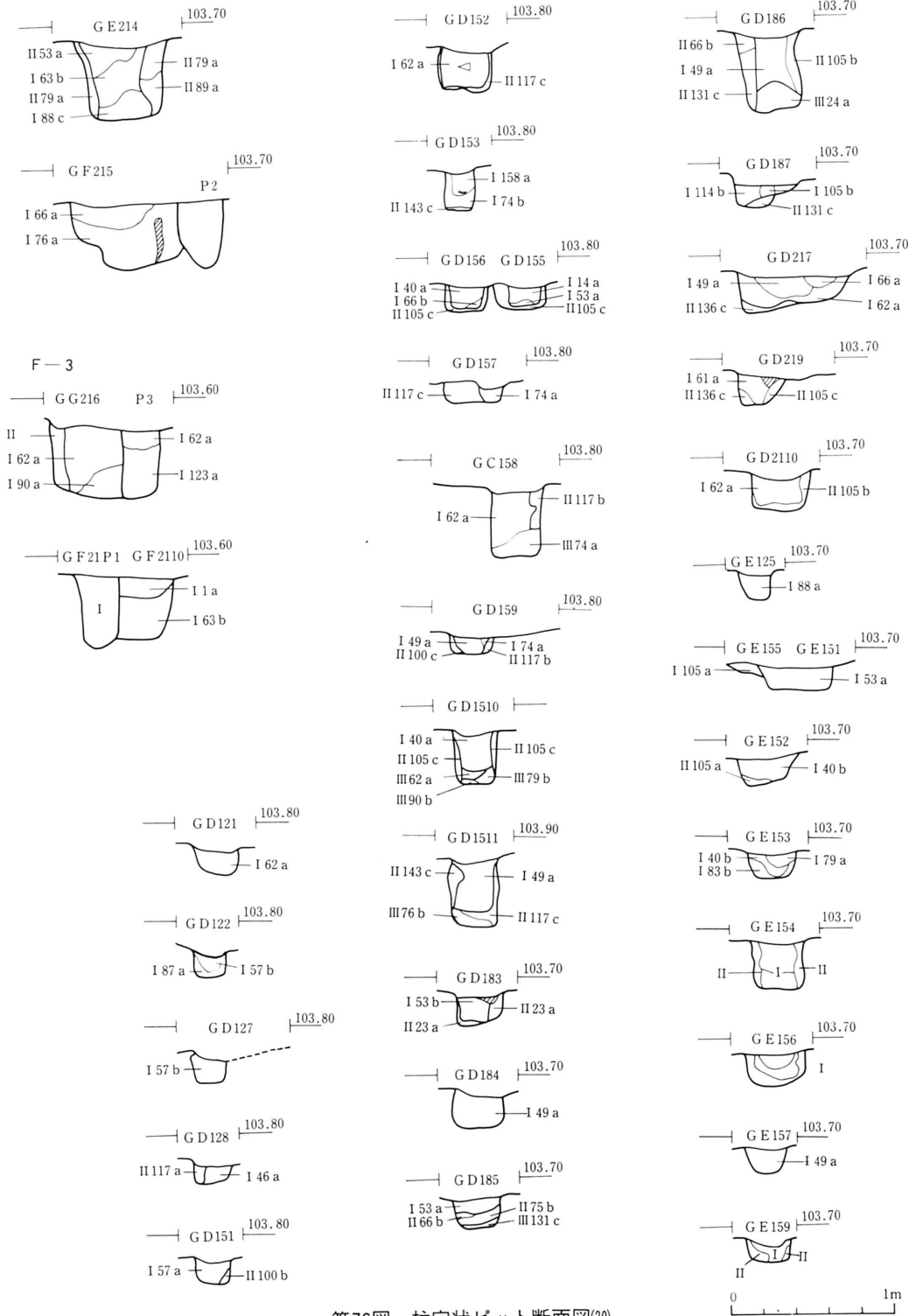
第73図 柱穴状ピット断面図(17)



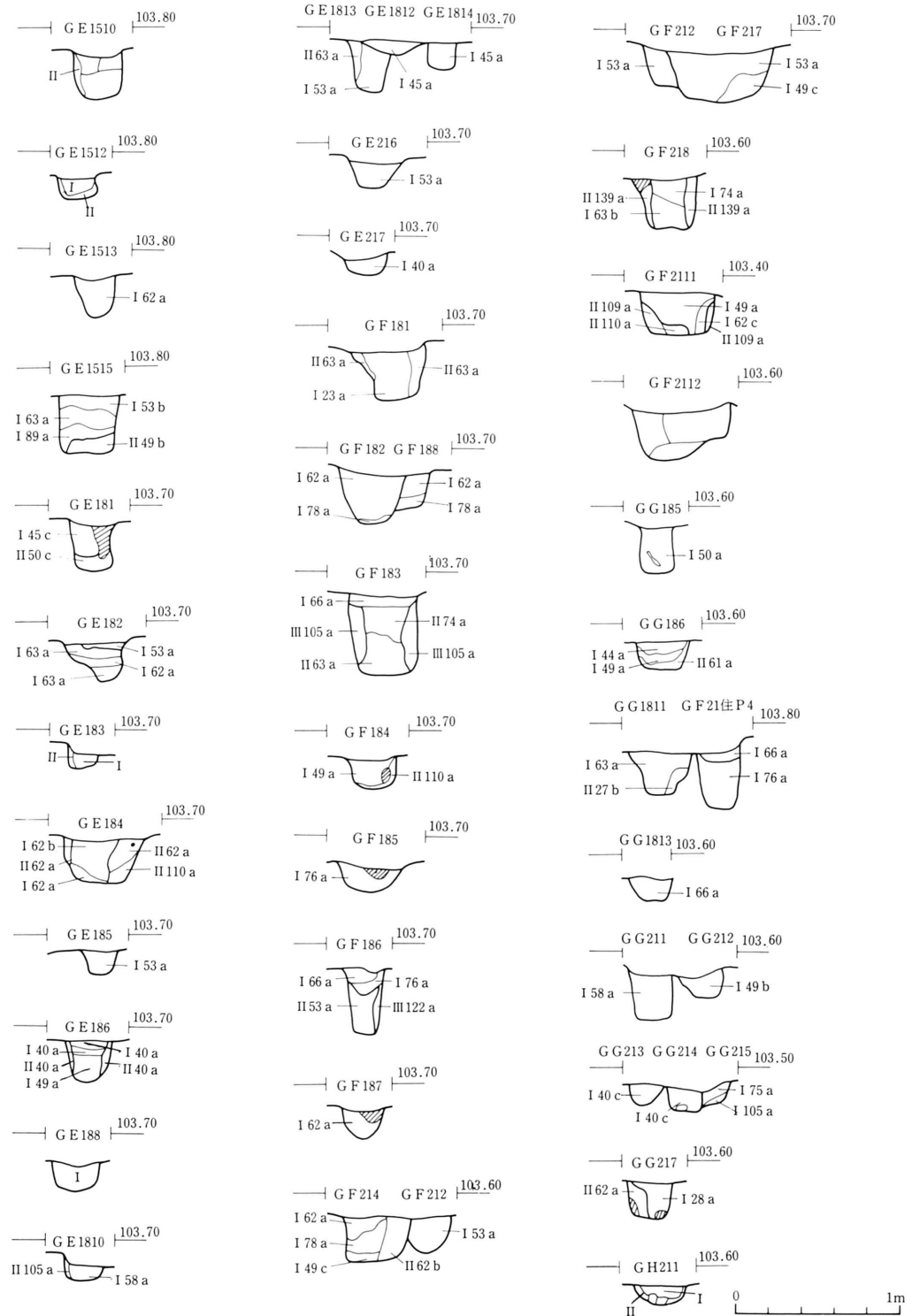
第74図 柱穴状ピット断面図(18)



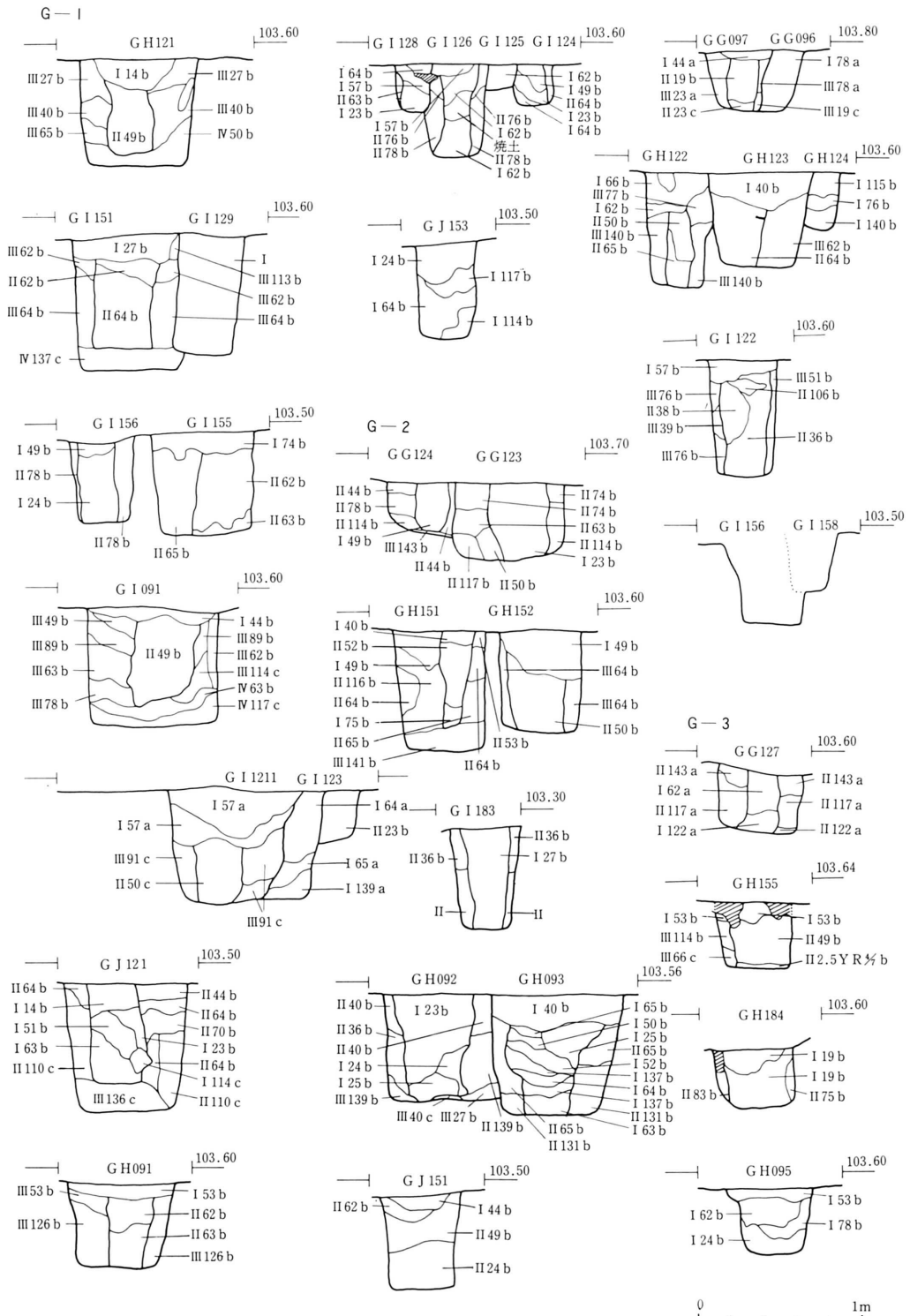
第75図 柱穴状ピット断面図(19)



第76図 柱穴状ピット断面図(20)

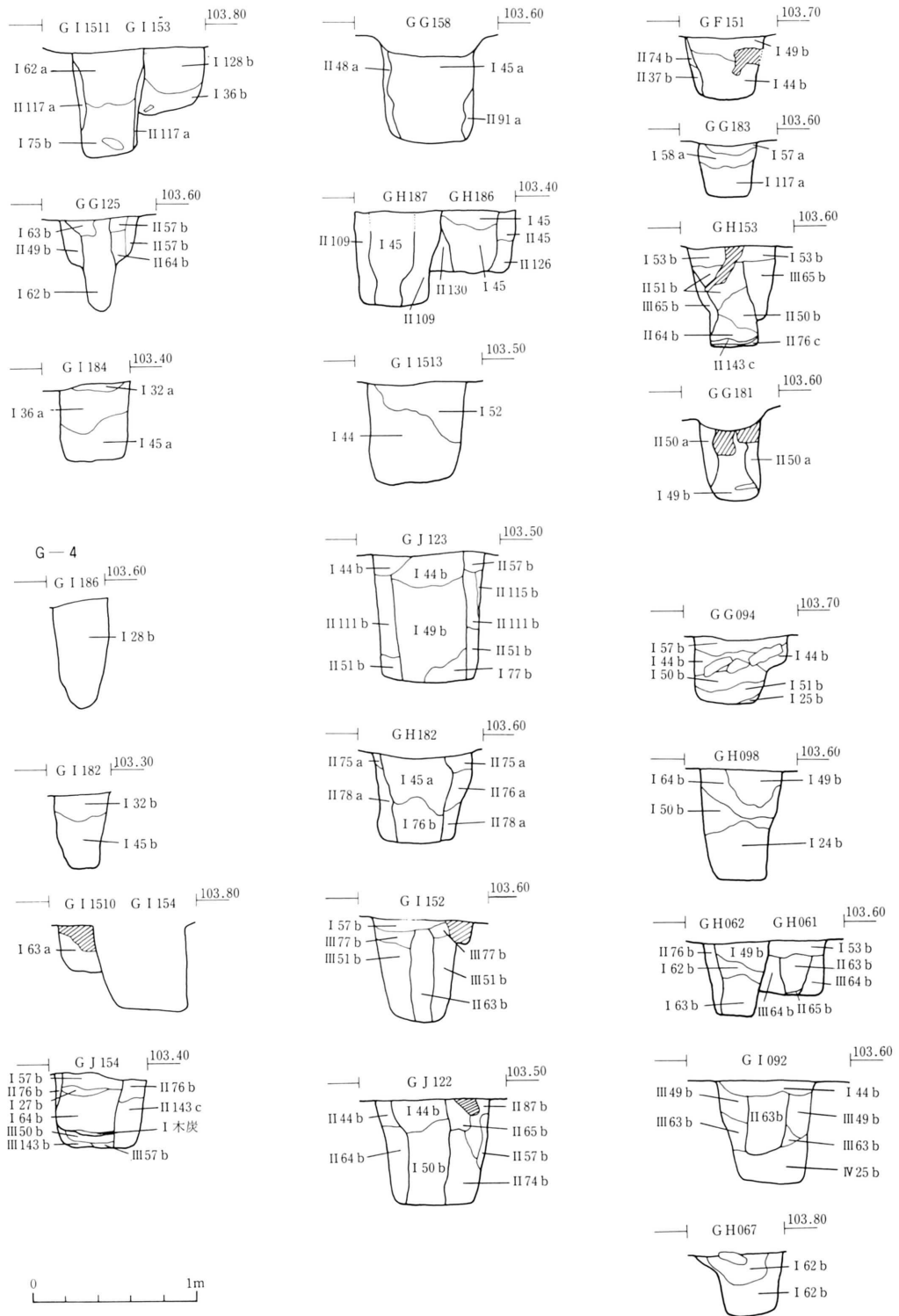


第77図 柱穴状ピット断面図(2)

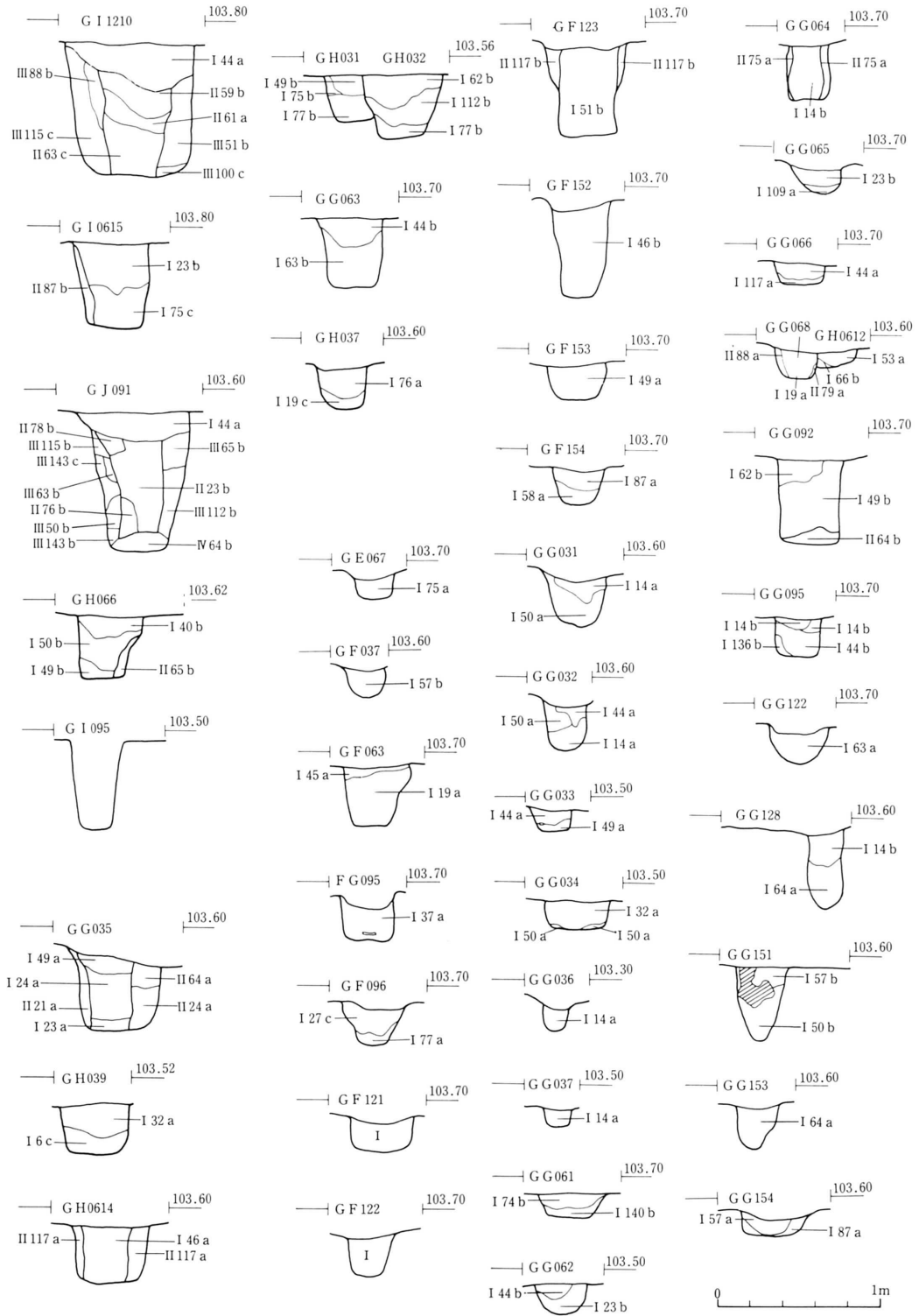


第78図 柱穴状ピット断面図(22)

— 西田遺跡 —

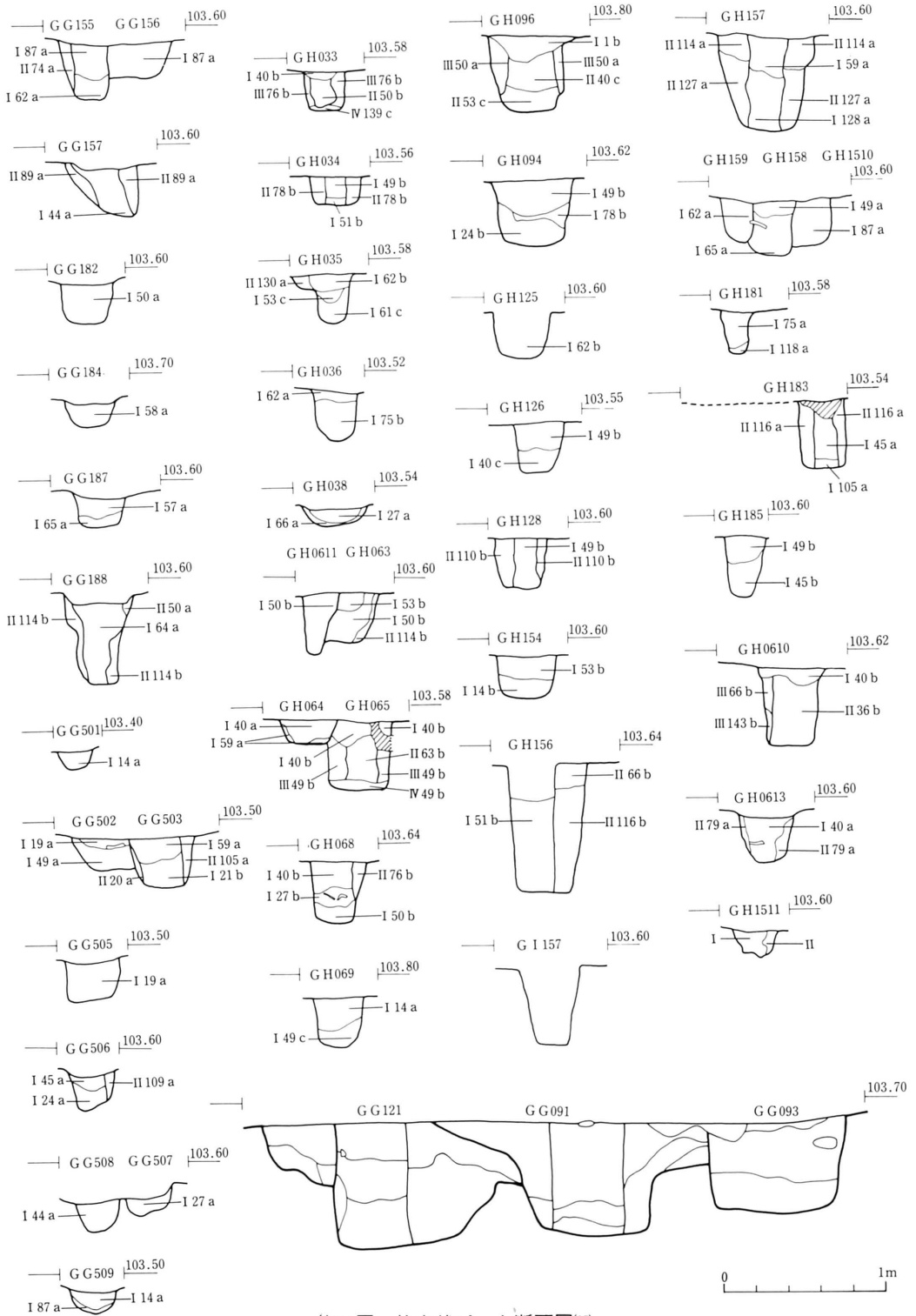


第79図 柱穴状ピット断面図(23)

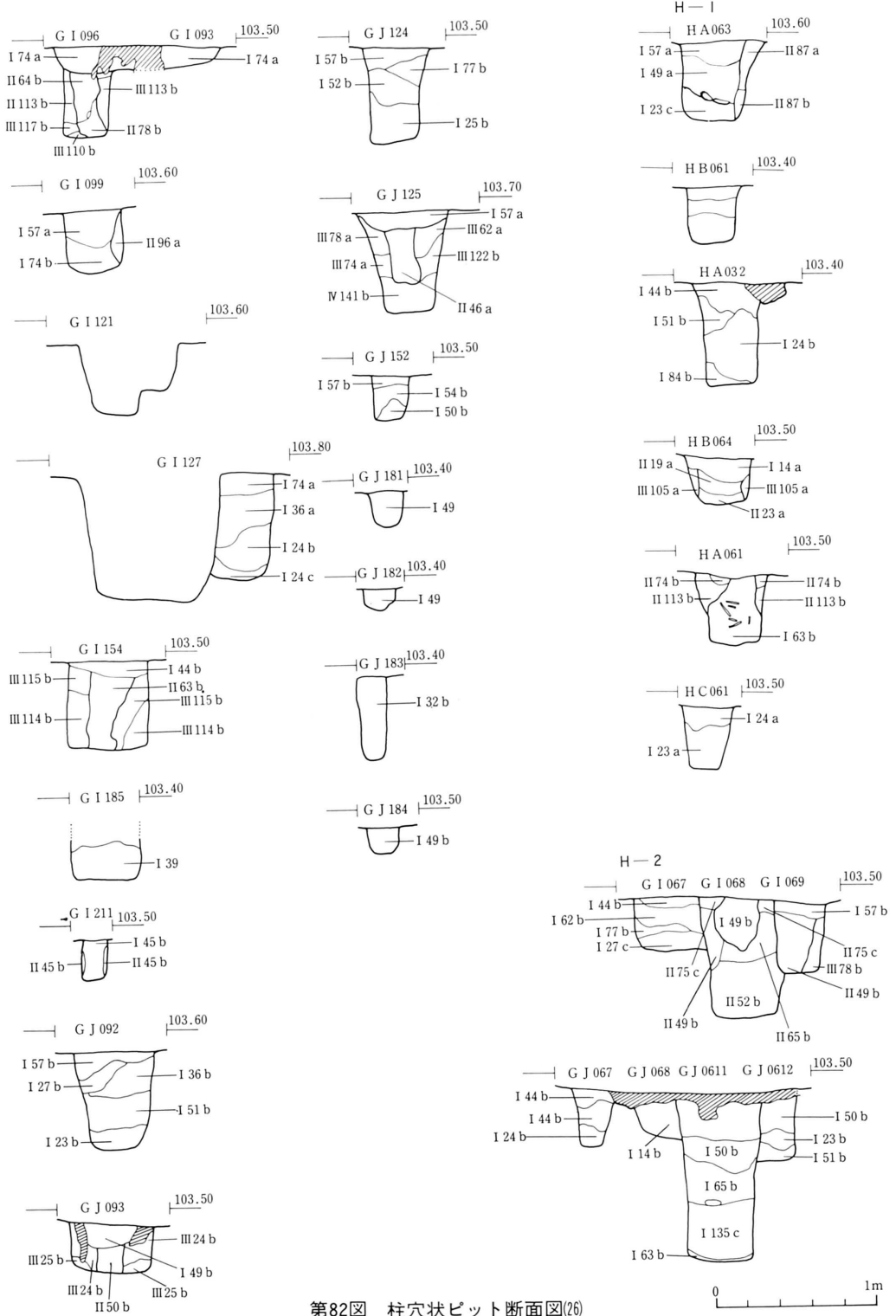


第80図 柱穴状ピット断面図(24)

— 西田遺跡 —

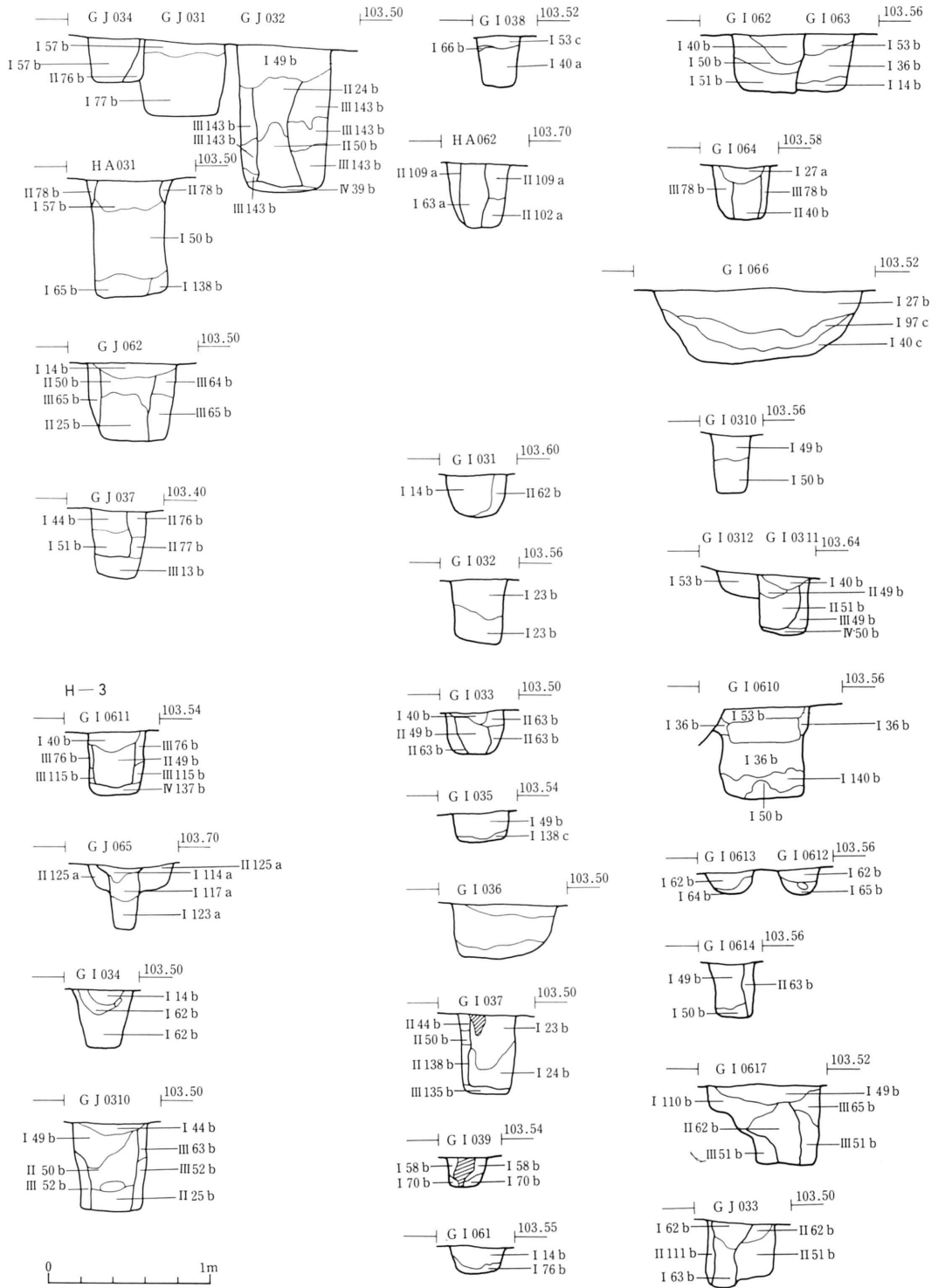


第81図 柱穴状ピット断面図(25)



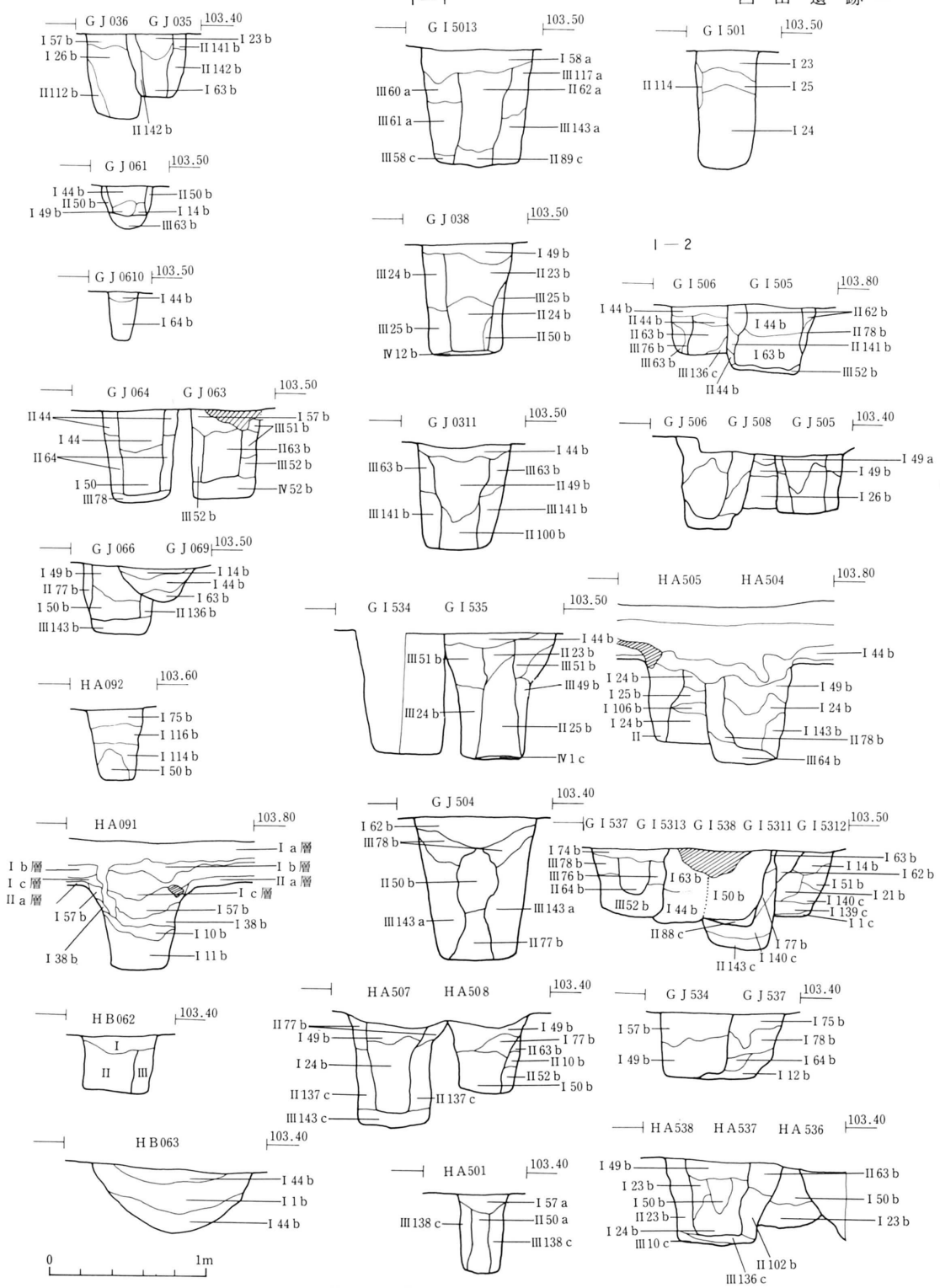
第82図 柱穴状ピット断面図(26)

— 西田遺跡 —



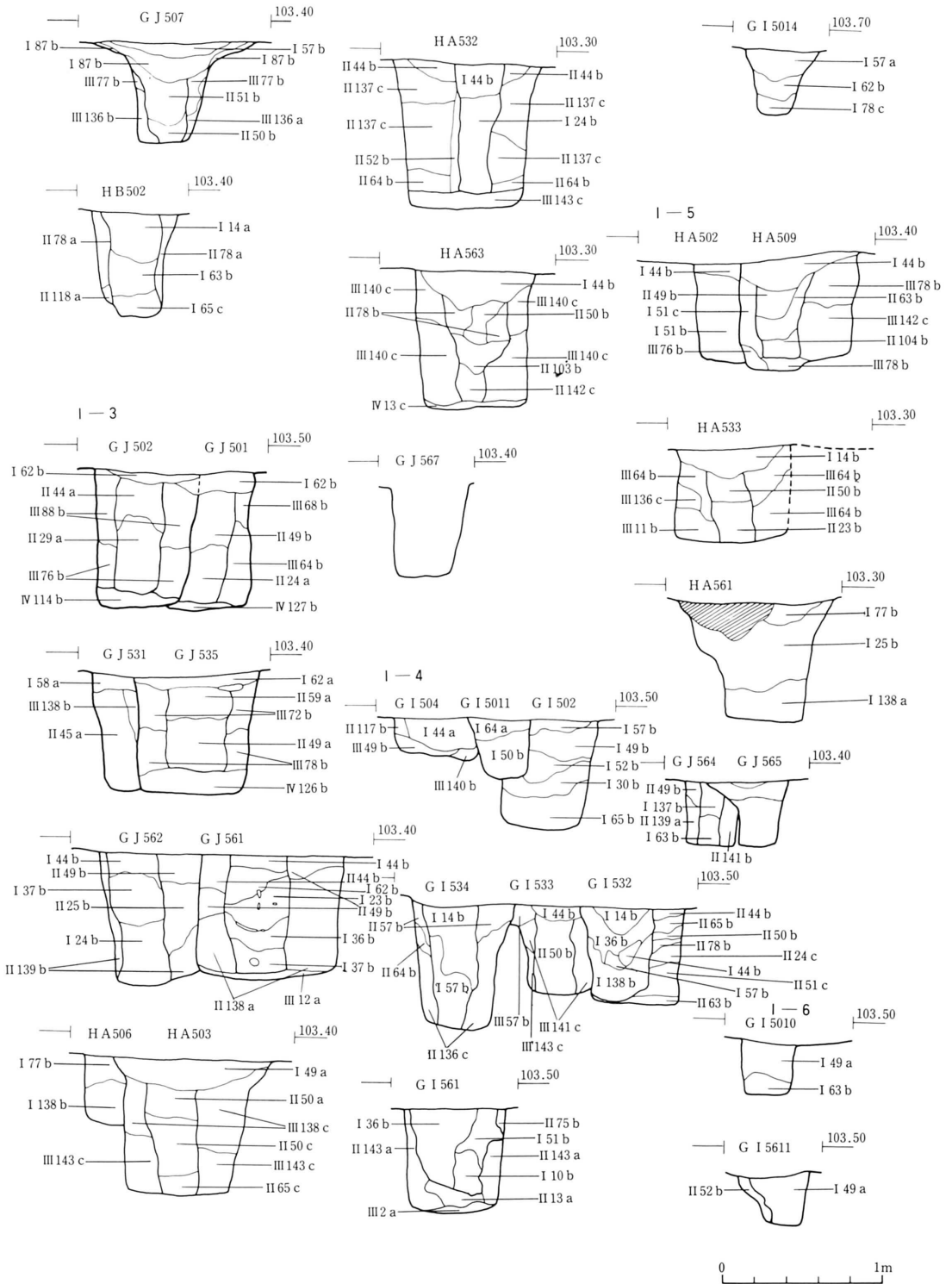
第83図 柱穴状ピット断面図(27)

— 西田遺跡 —

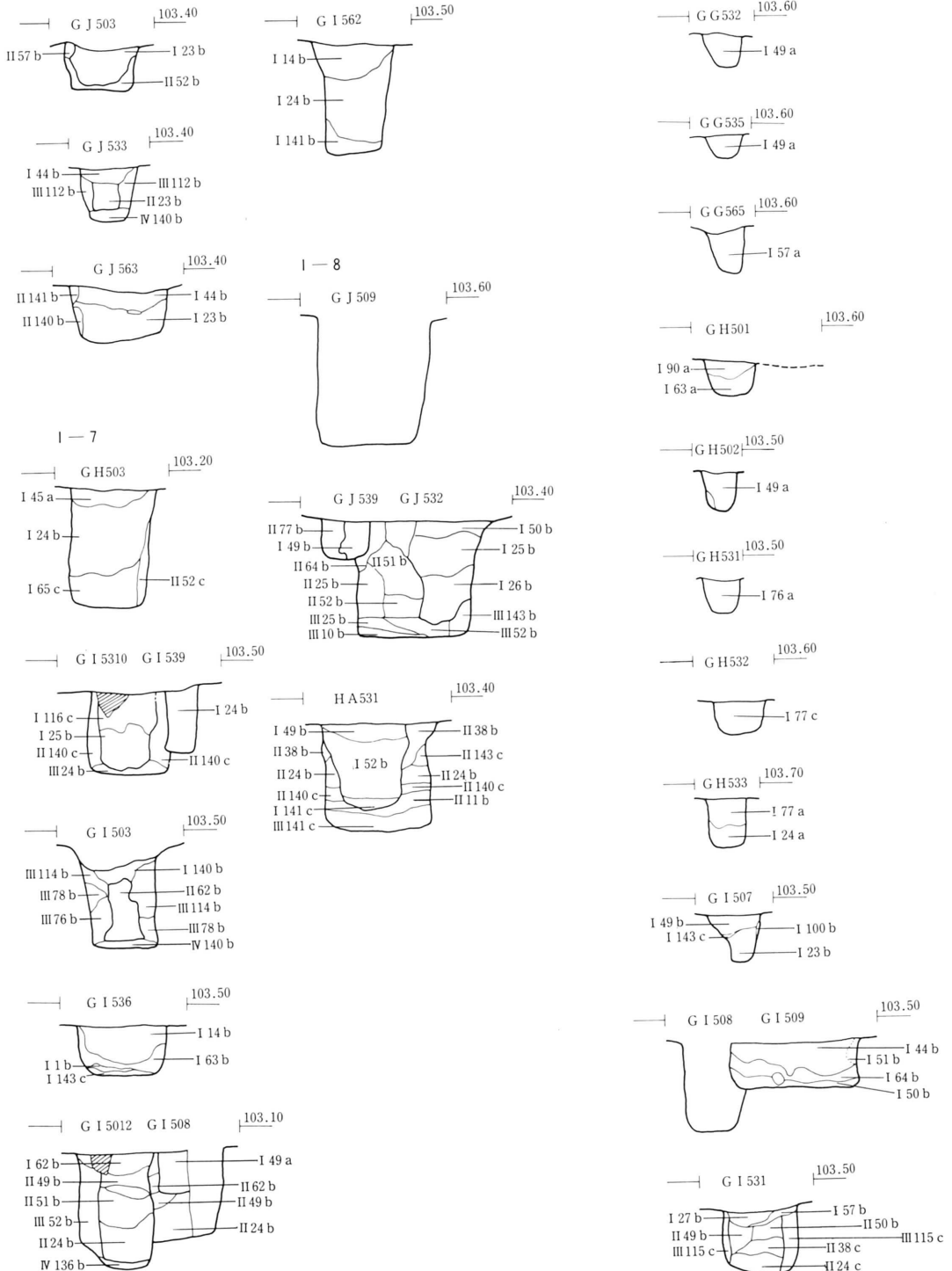


第84図 柱穴状ピット断面図(28)

— 西田遺跡 —

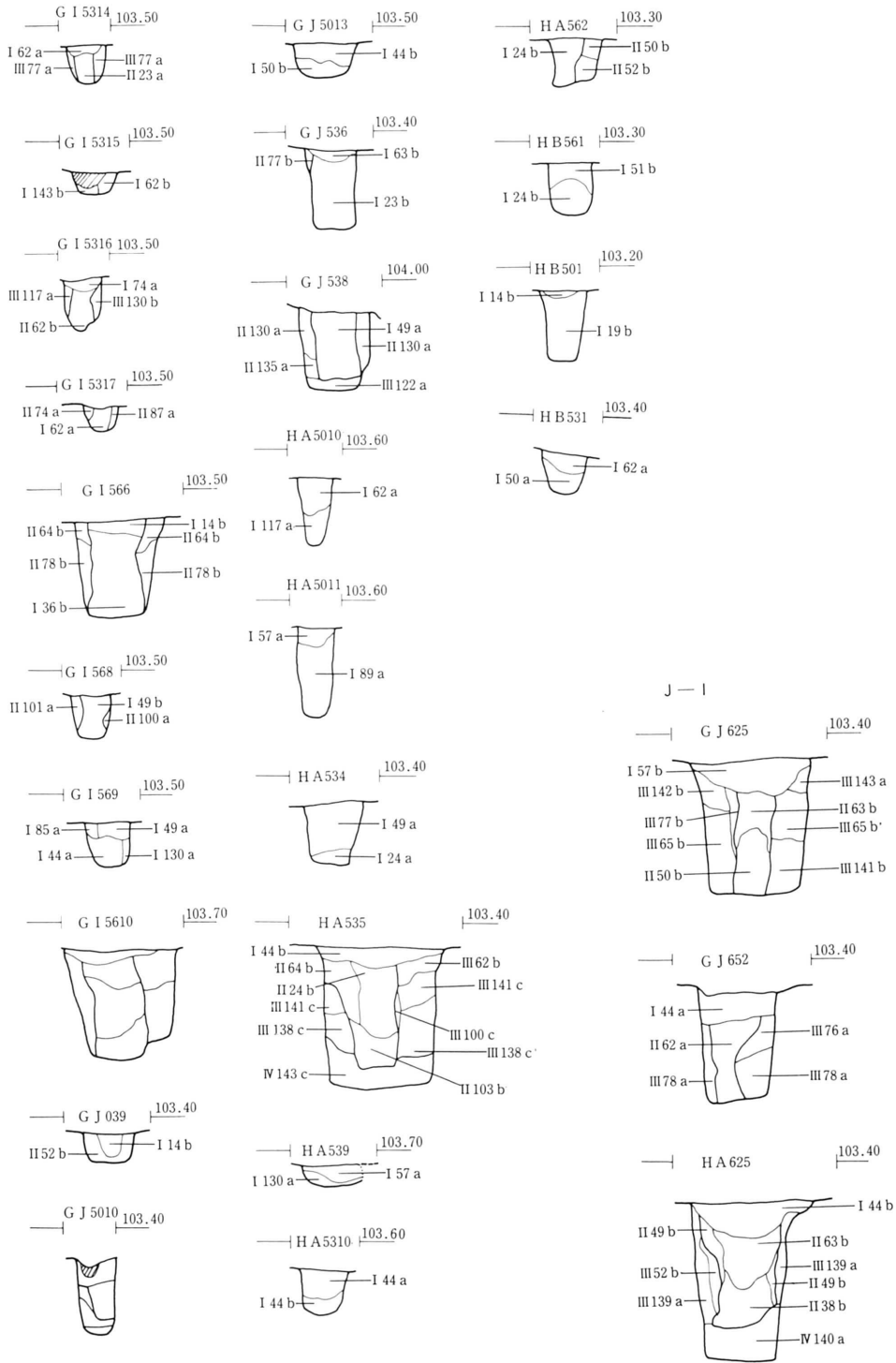


第85図 柱穴状ピット断面図(29)

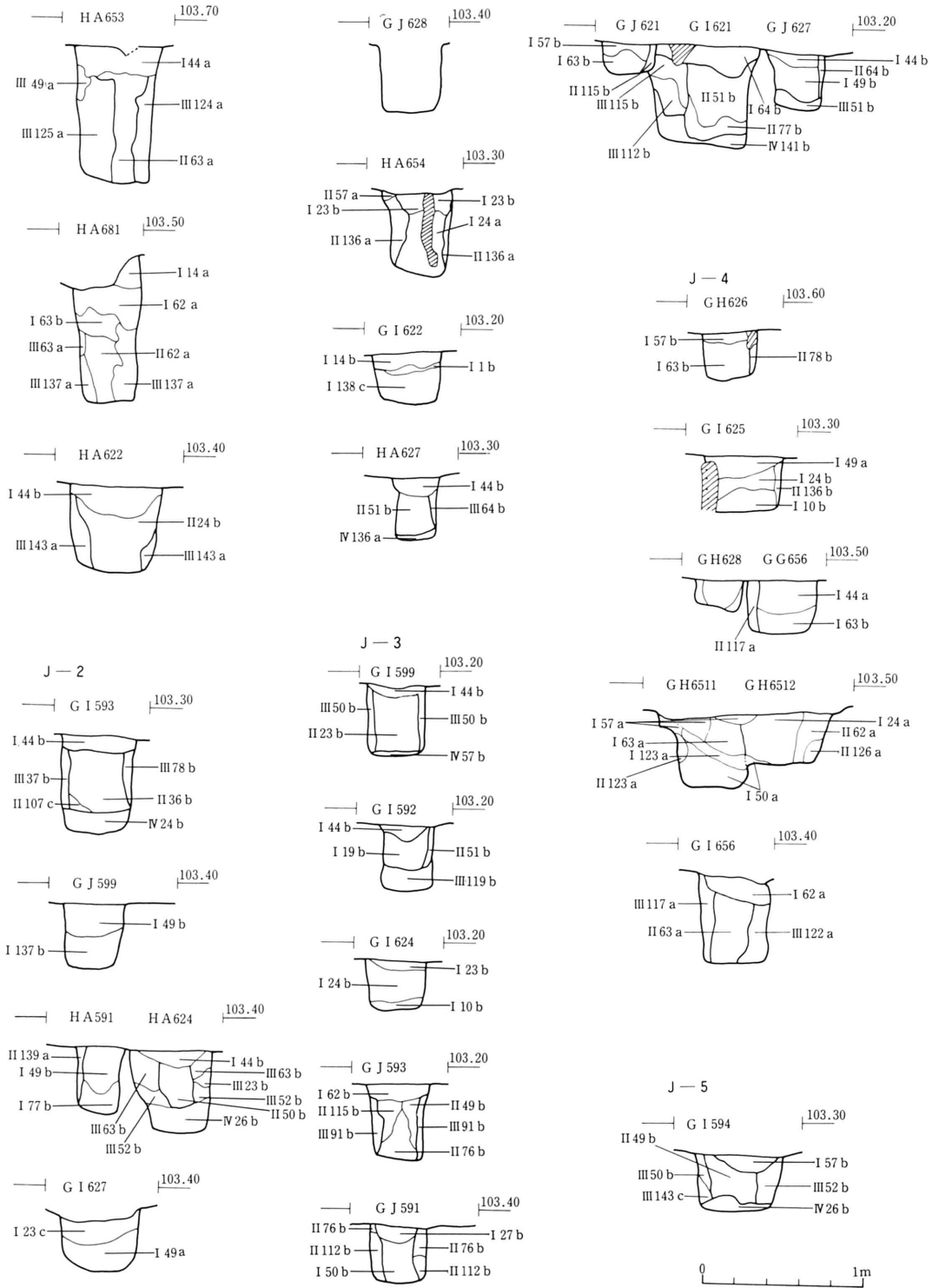


第86図 柱穴状ピット断面図(30)

— 西田遺跡 —

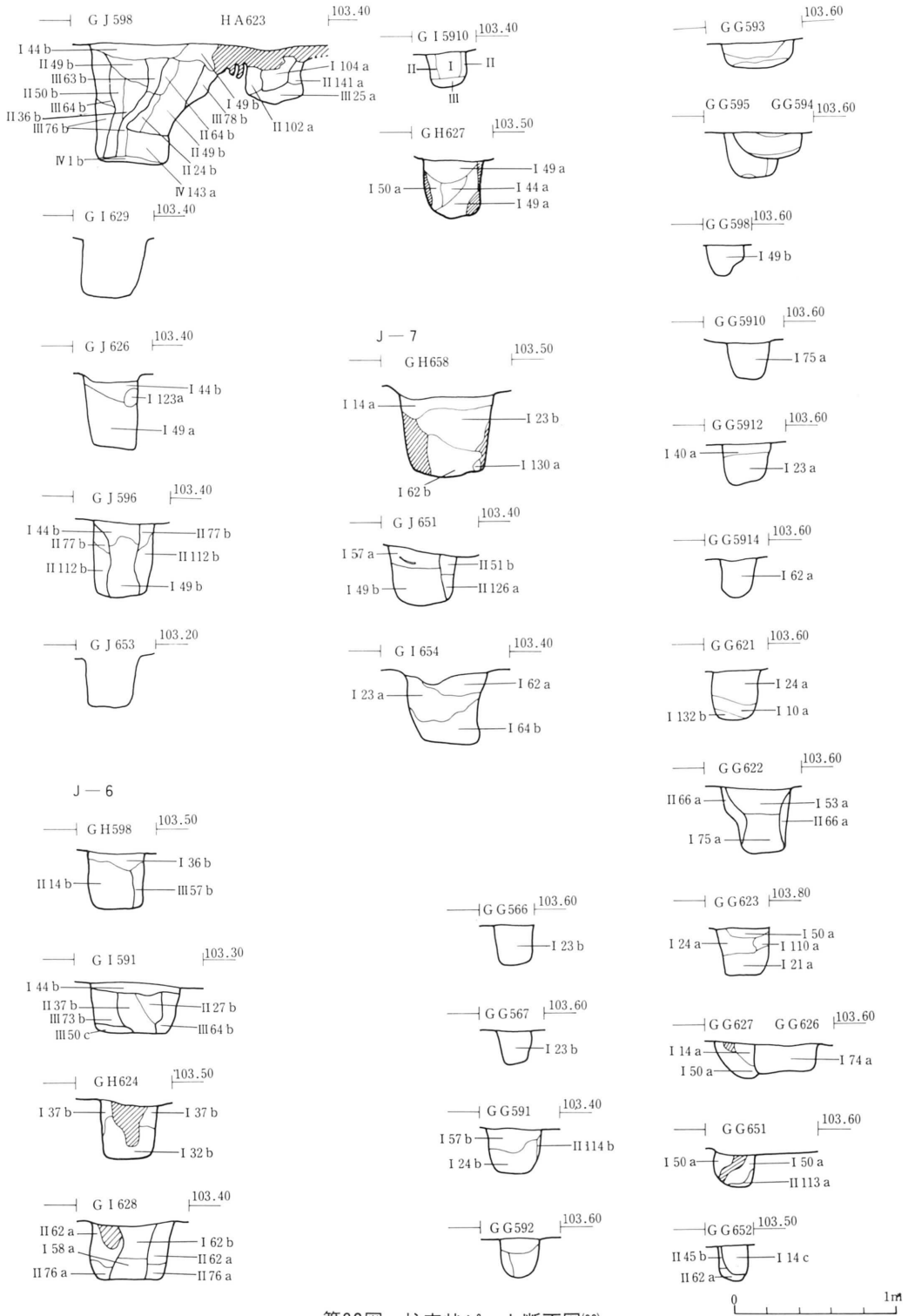


第87図 柱穴状ピット断面図(31)

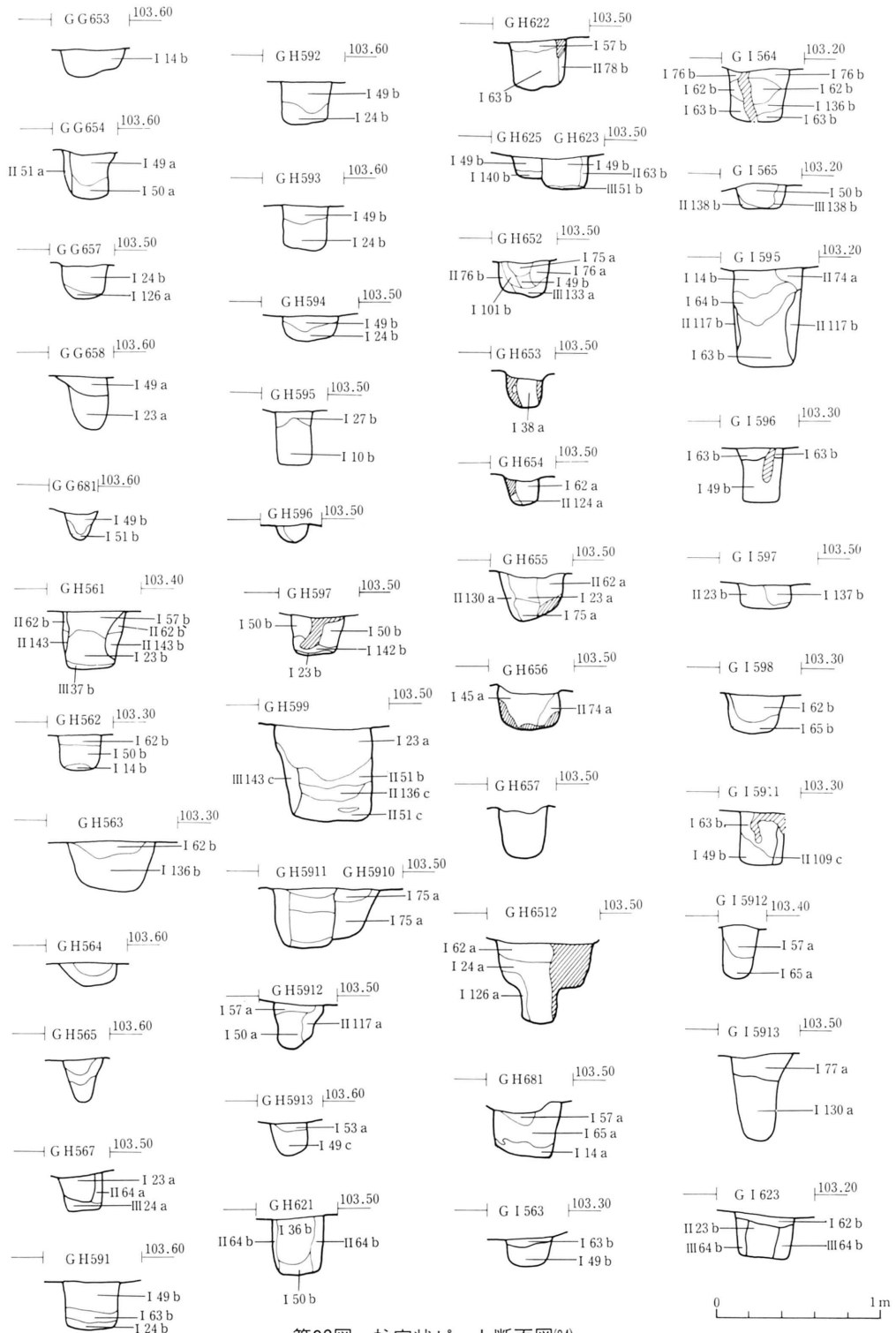


第88図 柱穴状ピット断面図(32)

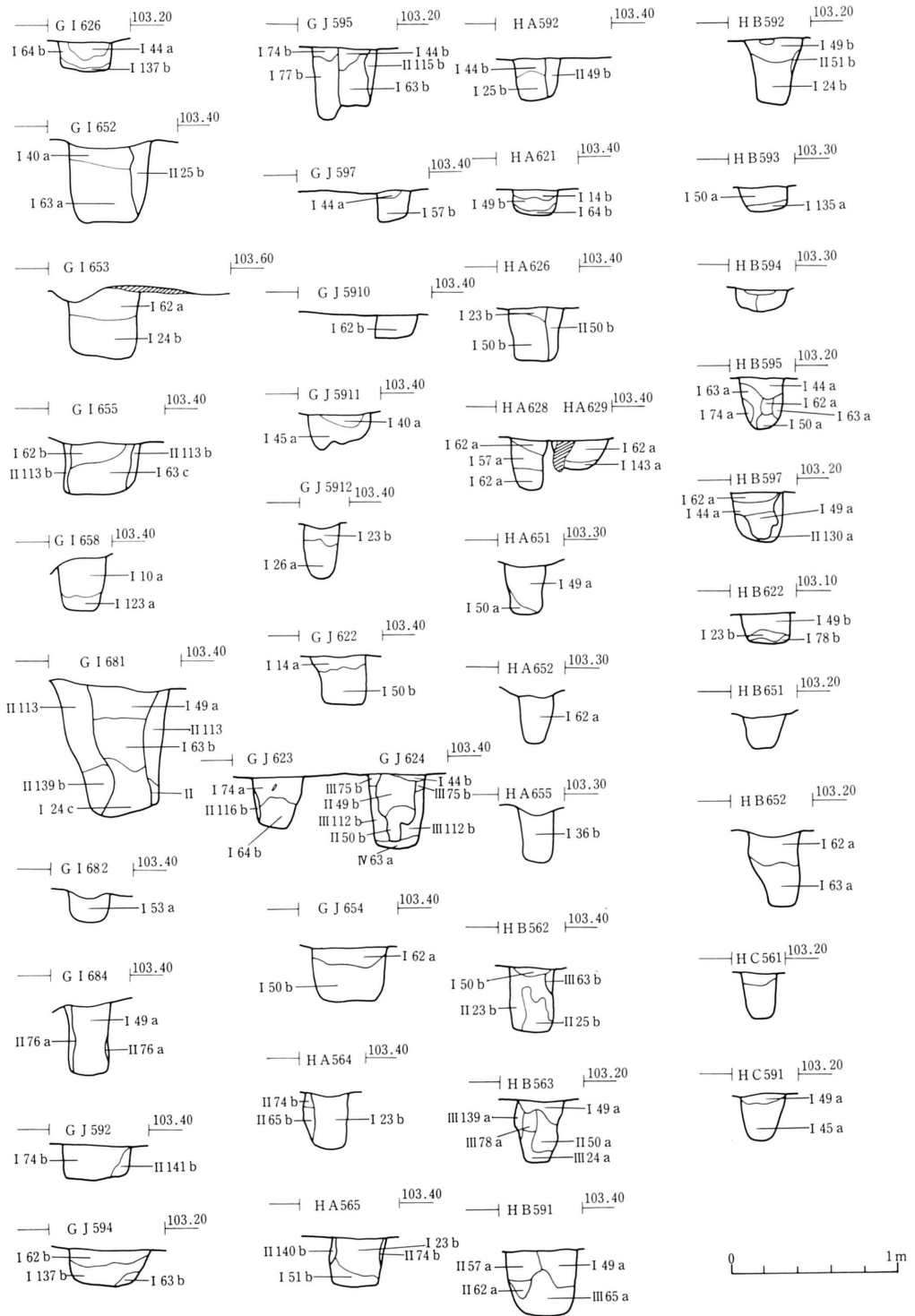
— 西田遺跡 —



第89図 柱穴状ピット断面図(33)



第90図 柱穴状ピット断面図(34)



第91図 柱穴状ピット断面図(35)

第 6 表 環状柱穴列の柱穴規模・重複関係一覧表

A 群 註 重複関係は次の表示で現わす。
 新<旧、旧>新 >、<の記号のないものは重複関係が不明瞭なものである。

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重 複 関 係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重 複 関 係
A 群					
F B 623	25×24×22		F F 597	36×22×20	
651	23×20×8		598	20×18×16	
652	27×25×30		599		<FF 595
653	24×26×25		621	80×70×88	<FF 625
654	40×35×		622	70×64×76	
F C 621	70×52×38		623	40×40×56	<FF 624・FF 626
622	30×28×28		624	44×42×110	>FF 623・FF 626
651	30×28×18		625	(70)×(70)×66	>FF 625
652	(30)×28×8	FC 655	626		FF 623・FF 624
653	24×24×6		627	24×22×14	FF 628・629
654	26×26×12		628	26×20×24	FF 627・629
F D 592	28×26×20		629	28×24×18	FF 627・628
621		FD 62住居跡	6210	28×26×20	
622			6211		FF 593
651		FD 652(F)	651	(74)×72×44	FE 653
F E 591	100×76×40	<FE 5910	653	39×32×34	
593	(32)×(28)×18	FE 598	654	20×18×24	
594			681	80×74×58	
595	46×40×44		F G 561	78×68×66	>FG 563・<FG 5611
596	(20)×(16)×16	<FE 592(F)	562		
597		FE 599	563		FG 56
598		FE 593	564		
599	16×14×22	FF 597	565	28×24×10	<FG 566・FG 5613
621		FE 622・>FE 628	566	28×26×32	>FG 564
622		FE 621・FE 628	567	10×8×36	
623	24×22×24		568		
624			569	28×24×30	
625	(26)×(20)×42	FE 593(F)	5610	-×73×62	
626	24×18×4		5611	(58)×58×38	>FG 561
627			5612	16×16×20	
628		FE 621・622・593(F)	5613	20×20×10	FG 565
651	78×76×70	FE 652・653	5614	16×16×16	
652	32×14×42	FE 651・653	5615	36×28×24	
653	66×48×68	FE 651・652・FF 651	591	30×20×28	
F F 562		>FF 564	592	68×64×68	
563	38×38×30		593	58×20×76	FG 5911
564	(120)×86×54	<FF 562	594	18×(18)×12	>FG 595
568	78×54×39	FF 569	595	24×22×32	<FG 594
569	78×52×46	FF 568	596		FG 597
591	46×34×48	FE 598	597	28×28×14	FG 596
592	32×30×30		598	24×20×8	
593	110×92×82	FF 6211	599	18×16×24	FG 5912
594	30×26×22		5910	32×28×42	
595	(80)×60×56	>FF 599	5911		FG 593
596	18×18×12		5912		

— 西 田 遺 跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FG 5913	20×20×12		FA 592	30×30×15	
621	40×40×34		FB 502	27×25×40	
622	68×68×88	>FG624	503	85×78×45	
623	76×62×66	FG627	504	33×27×55	
624	44×22×42	<FG622	505	70×18×	
625	26×24×40		621	24×24×17	
626	36×30×40		622	18×15×8	
627	44×38×20	FG623	FC 505		
651	72×68×84		506	25×20×	
652		FG653・658・659	531	42×42×52	
653	60×48×18	FG652・654	562	42×38×66	FB56土墳墓
654	36×32×20	FG653	FD 501	20×20×38	FC502
655	44×36×66		502	42×24×10	FC502
656	34×26×36	FG657	503		FC502
657		FG656・6510・6511	504		
658	34×34×66	FG652・659	505		
659	48×34×16	FG652・658	506		
6510	36×22×32	FG657・6511	507	20×16×38	
6511	48×34×32	FG657・6511	531	60×(39)×54	<FD533
6512	28×14×26	重複ピットか	532	46×36×25	
681	44×36×18		533	44×(28)×24	>FD531
682	54×52×54		534	52×46×72	
FH 561	16×14×22	<FH562	535	46×24×32	>FD536
562	16×14×28	>FH561	536	26×16×40	<FD535
563		FH566土墳墓	537	22×22×24	
564			538	30×26×46	<FD539
565			539	(22)×18×32	>FD538
591	34×30×44		5310	20×19×14	
592			5311	16×14×10	
593	22×20×12		5312	25×20×16	
594	20×18×18		561	58×40×34	<FD563
595	20×20×(20)		562	98×84×40	
596	42×38×48		FD 563	24×24×24	>FD561
598	20×20×12		564	20×14×16	
599	18×18×24		565	26×24×15	
622	32×26×22		566	20×20×9	
623	26×22×24		591		
624	24×(24)×10		594		FD593(F)
652	30×(30)×34		595		FD593(F)
653	40×22×30	>FH654	596		FD593(F)
654	40×22×30	<FH653	FE 501	78×48×76	
655	40×26×18		502	18×18×50	<FE505
656	20×18×10		503	42×36×48	
681	40×36×48		504	36×34×32	
682	50×42×42		505	34×32×38	>FE502
			506	36×26×58	
B 群			507		
FA 591	17×16×14		508		

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FE 531	50×48×49		FF 566	50×-×33	<FF565
532		FE5310	567	22×22×28	FE563
536	27×21×27		036	45±×41	
537	42×40×21		039	100±×60	<FF0310 FF0311 FF507
5310		FE532	0310	95±×42	FF036・FF039
5311	20×20×20		0311	54±×67	FF039
5312	48×40×34		FG 501	40×50×44	
5313	22×20×10		502	52×34×38	
5314	32×32×54		503		
5315	14×12×14		506		
562	42×36×60		509	23×23×22	
563	116×100×82		5010	20×20×12	
564		FE561	5015	32×28×34	
565	22×21×8		5016	16×14×7	
566	18×14×16		5017	36×32×12	
567	16×14×24		5018	24×22×19	
568			5019	33×26×30	
5910		>FE591	5020	18×18×32	
5911		FD593・FE5912	5021		FG5315
5912		FE5911	5022		FG5023
FF 501	60×58×68	>FF506	531	48×46×40	
502	42×40×32		532	46×40×26	
503	40×32×30		533	26×18×35	
504	35×28×61	FF5012・5013	534	18×18×14	
506	18×10×22	<FF501	535	16×14×7	
507	38±×60	FF039	536	28×21×14	
508	34×28×42		537	12×10×8	
509	82×73×71		538	23×22×16	
5010	24×24×44		539	17×17×10	
5011	34×30×38		5310	18×18×12	
5012	(12×-×24)	FF504・5012・5013	5311	18×18×13	
5013	21×13×45	FF504・5012	5312	51×44×34	
5014	31×21×60	FF504・5012	5313	20×14×14	
5015	16×16×13		5314	22×18×22	
531	51×50×51		5315	23×20×24	<FG5021
532	36×34×16		5316	23×20×24	
533	37×30×24	FF538	5317	20×20×20	
534	47×39×30	FF535・537	FG 5318	20×18×10	
535	19×18×29	FF534	5319	24×22×18	
536	40×35×46		5320		
537	46×38×26	FF531	FH 504	30×23×14	FH506
538	22×20×20	FF533	505	20×20×16	
539	24×20×19		506	28×26×14	FH504
5310	30×24×18		5010		
5311	33×30×15		5011	22×14×11	
5312	16×12×16		5015	50×40×16	
5313	12×17×17		531		
5314	30×28×19		532	20×16×16	
565	58×54×62	<FF566	533	14×12×12	

— 西 田 遺 跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FH 534	22×16×14	FH503 土墳墓	FE 031	35×31×29	
535	20×20×12		032	43±×76	<FE062
536	14×14×16		033	25×21×13	
537			034	27±×11	<FE062
C 群			035	20×18×21	
FD 033	23×20×14		036	35±×34	
034	43±×43	>FD039	061	70±×34	>FD062
035	32±×12	FD039	063	27×25×33	
039	66±×38	FD034・035	064	16×15×15	
061	32×26×53		065	23×22×31	
062	36±×21	<FE061	066		
063	19×16×7		094	41×37×89	
064	23×21×15		095	19×16×27	
065	27±×22		122	100±×65	FD127 FD128 FE124
066	44×42×74		123	63×57×69	
091	82×74×72		124	24±×37	FE122
092	77×73×26		126	24×19×13	
093	45±×44	FD0912	127	60±×38	
094	39±×48		151	20×18×24	
095	20×14×32		FF 031	68±×19	<FF032
096	15×12×14		032	25±×19	>FF031
097	23×21×52		033	68±×50	FF035
098	15×15×8		034	31×26×43	
099	15×14×9		035	34±×50	FF033
0910	23×19×17		037	63×47×50	
0911	18±×24		038	43×39×14	
0912	21±×25	FD093	0312	57±×21	<FF062・FF034・FF0614
0913	21×19×9		061	54±×59	<FF0616
0914	22×18×41		062	32×25×46	
122	110×40×65		063	45±×46	FF036
123	24×19×28		064	58×54×28	
124	21×18×35		065	30×26×33	
125	16×12×8		066	45±×34	>FF096
126	14×12×15		067	33±×22	>FF068
127	14±×41		068	44±×55	>FF069 <FF067
128	32±×54		069	47±×42	<FF068>FG062>FG061
129	17×16×9		0610	28×25×23	
1210	19×17×8		0611	83±×25	<FE062・FF0614
1211			0612	55±×71	<FE062・FF0613・FF0615
152	67×56×34		0613	30±×41	<FF062・FF0612
153	25×25×30		0614	50±×90	FE062・FF0611・FF0312
154	25±×24		0615	80±×30	<FF0617
155	16±×30		0616	46±×28	>FF061
156	31±×32	>FD157	0617	35±×26	>FF0615
157	16±×22	<FD156	0618	32±×32	<FF0619
182			0619	28±×30	>FF0618
183			0620	52×45×80	
184			0621	23×23×14	
			0622	33×29×24	

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重 複 関 係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重 複 関 係
FF 0623	21 ± × 25	FF096	FG 0610	55 ± × 55	<FG065
091	30 ± × 27		0611	25 × 20 × 10	
092	46 ± × 49	>FF093	0612	23 × 19 × 35	
093	30 ± × 30	<FF092	0614	30 ± × 17	
094	64 × 51 × 43		0615	19 × 17 × 23	
095	79 ± × 74	FF0916 FF096	0616	54 ± × 77	<FG0618
096	50 ± × 40	FF0623 FF066	0617	28 × 25 × 20	
097	27 × 25 × 35		0618	23 ± × 19	>FG0616
098	13 × 12 × 10		091	84 ± × 49	FG096
099	25 × 22 × 40		092	33 × 27 × 28	
0910	20 × 13 × 18		093	47 × 42 × 50	
0911	30 × 28 × 40		094	65 × 55 × 103	
0912	21 × 19 × 16		095	43 × 38 × 30	
0913	35 × 34 × 41	FF0914	096	42 ± × 49	<FG091
0914	19 × 18 × 10	FF0913	097	25 × 20 × 7	
0915	20 ± × 18		098	21 ± × 10	
0916	22 ± × 36	<FF095	099	25 ± × 27	
121	58 × 50 × 73		0911	17 × 16 × 18	
122	43 × 37 × 21		0912	22 ± × 21	>FG0913
123	23 × 22 × 52		0913	21 ± × 11	<FG0912
FG 031	29 ± × 21		0914	21 × 19 × 16	
032	81 ± × 83	>FG033	FH 031	36 × 28 × 26	
033	63 ± × 66	<FG032	032	26 × 23 × 22	
034	23 × 21 × 56		033	15 ± × 19	
035	25 ± ×	FG036	034	32 × 26 × 57	
036	75 ± × 43	FG035	035	35 × 30 × 38	
037	39 × 36 × 24		036	39 × 25 × 46	
038	22 × 17 × 9		037	19 × 14 × 10	FH038
039	32 × 27 × 13		038	17 × 12 × 18	FH037
0310	20 × 15 × 21		039	21 × 16 × 31	
0311	29 ± × 15		0310		
501			0311		
504	38 ± × 20		501	35 × 28 × 40	
505	21 ± × 18	<FG507 FG508	502	31 × 25 × 23	
507	32 ± × 13		507		
508	27 ± ×	>FG505	508		
5011	21 ± × 30	>FG5012	509		
5012	69 ± × 44	<FG5011	5012	30 × 22 × 9	
5013	34 ± × 15	<FG5014	5013	31 ± × 20	
5014	23 ± × 12	>FG5013	5014	23 × 17 × 22	
061	37 ± × 41	<FF069>FG062	061	68 ± × 27	>FH064
062	37 ± × 54	<FF069>FG061	062	22 × 21 × 13	
063	33 × 28 × 31		063	62 ± × 37	FH0619
064	34 × 29 × 33		064	18 ± × 16	<FH061
065	18 ± × 19	>FG0610	066	26 × 23 × 26	
066	37 ± × 32	<FG068	067	28 × 22 × 17	
067	46 ± × 45	FG069	068	23 × 21 × 14	
068	87 ± × 70	FG066 FG067	069	20 × 18 × 40	
069	52 ± × 48	FG067	0611	19 × 17 × 28	

— 西 田 遺 跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FH 0612	18 ± × 9	FH0614	FF 182	29 × 25 × 36	
0613	22 ± × 28	< FH0614	183	17 × 12 × 43	
0614	26 ± × 26	FH0612 FH0613	184	52 × 46 × 52	
0615	23 ± × 34	< FH0616	FG 094	66 × 55 × 106	
0616	27 ± × 29	> FH0615	0910	28 ± × 59	
0617	25 × 22 × 13		121	65 ± × 81	FG1213 FG124
0618	26 × 22 × 29		122	47 × 40 × 55	
0619	27 ± × 32	FH063	123	37 × 33 × 25	
092	52 ± × 46	FH093	124	47 ± × 57	FG1213
093	55 ± × 56	FH092 FH094	125	33 × 30 × 37	
094	37 ± × 66	FH093	126	30 × 26 × 11	
FI 031			127	16 × 14 × 17	
035			128	40 ± × 51	< FG129
036			129	37 ± × 40	> FG128 < FG1210
062	33 ± × 63	< FI 063	1210	46 ± × 42	> FG129
063	35 ± × 46	> FI 062 < FI 064	1211	37 × 30 × 35	
064	46 ± × 70	> FI 063	1212	50 ± × 33	FG1214
065	23 × 21 × 22		1213	25 ± × 35	FG121・124
067	34 × 31 × 14		1214	40 ± × 54	> FG1212
D 群			151	80 ± × 97	> FG156
FE18住pit 1	40 × 30 × 57		152	88 ± × 66	> FG153
pit 2	29 ± × 65	< FG158	153	68 ± × 98	< FG152
pit 3	58 ± × 58	< FG1816	154	45 ± × 56	> FG156 < FG155
pit 4	33 × 30 × 47		155	53 ± × 62	< FG154
pit 5	35 × 30 × 45	< FE152	156	28 ± × 34	< FG151 FG154
pit 6	30 × 27 × 48		158	28 ± × 10	FE18住pit 2
pit 7	17 × 15 × 24		159	27 × 26 × 36	
FE 152	97 × 43 × 52	> FE18住pit 5	181	36 ± × 45	< FG182 FG185
181	70 × 50 × 30		182	38 ± × 20	> FG183 FG185 FG181
182	90 ± × 65		183	26 ± × 35	< FG182
183	35 × 30 × 14		184	14 ± × 24	FG185
212	27 × 24 × 21		185	27 ± × 34	FG184 FG182
213	43 × 19 × 35		186	41 ± × 57	< FG187
FF 151	59 × 50 × 69		187	31 ± × 58	> FG186
152	66 ± × 62	< FG1214	188	37 ± × 49	< FG189 FG1814
153	23 × 21 × 43		189	42 ± × 53	> FG188
154	30 × 28 × 76		1810	52 × 42 × 36	
155	37 × 33 × 45	< FF156	1811	35 ± × 40	< FG1812
156	50 ± × 35	> FF155	1812	77 ± × 54	> FG1811
157	60 ± × 37	< FF158	1814	65 ± × 50	FG188 FH1810
158	58 ± × 41	> FF157	1815	72 × 67 × 43	
159	16 × 15 × 33		1816	68 ± × 57	> FE18住pit 3
1510	32 × 28 × 25		211	36 × 35 × 32	
1511	20 × 17 × 36		FH 091	43 × 38 × 56	
1512	20 × 18 × 12		092	52 ± × 46	FH093
1513	23 × 19 × 65		095	39 × 37 × 30	
1514	34 × 27 × 16		096	30 × 26 × 36	
181	67 × 60 × 62		097	23 × 20 × 17	
			098	23 × 18 × 14	

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FH 099	44×37×61		FH 216	40×38×54	
0910	40×35×28		217	35 ±×55	>FH218
0911	40 ±×19		218	24 ±×17	<FH217
0912	21×19×24		219	28×20×21	
0913	18×12×10		507	20×17×14	
121	42 ±×32	<FH126	508	18 ±×9	<FH509
122	25 ±×32	FH1212	509	32 ±×13	>FH508
123	72×61×90		F I 061	38×33×30	
124	42×34×36		066	17×14×31	
125	35 ±×32		068		
126	45 ±×36	>FH121	091	33 ±×32	
127	46 ±×38	>FH1210	092	19 ±×21	F I 0913
128	47 ±×52		093	29 ±×24	
129	17 ±×18		094	38 ±×	F I 124
1210	35 ±×41	<FH127	095	24×21×22	
1211	35×34×41		096	27×25×20	
1212	31 ±×7	FH122	097	20×17×22	F I 098
151	70 ±×67		098	21×19×11	F I 091・097
152	32×34×45		099	20×17×15	
153	85 ±×80	FH157・1512	0910	23 ±×32	F I 124
154	80 ±×66	<FH155・152	0911	26 ±×24	F I 124
155	49 ±×70	>FH154	0912	20 ±×18	F I 124
156	30 ±×47	<FH157	121	37 ±×30	<F I 122
157	32 ±×25	>FH156	122	55 ±×38	>F I 121
158	22×18×28		123	52×43×65	
159	20×17×18		124	140 ±×43	F I094 F I0910 F I0911 F I0912
1510	35 ±×39		125	40×32×22	
1511	40×35×62		126	54 ±×76	<F I 127
1512	31×28×34		127	27 ±×41	>F I 126 <F I 1214
181	26×20×57		128	40 ±×55	
182	41 ±×58	>FH183<FH184	129	84×67×93	
183	37 ±×50	<FH182	1210	40×30×42	
184	32 ±×31	<FH182	1211	23×18×25	
185	48×39×27		1212	32×24×13	
186	40×30×24		1213	25×22×23	
187	66×56×64		1214	22 ±×24	>F I 127
188	42×35×55		151	39 ±×68	>F I 152
189	42×40×36		152	48 ±×102	<F I 151
1810	38 ±×54	FG1814	153	27 ±×38	
1811	70×48×32		154	22×19×20	
1812	58×46×32		155	28×24×19	
1813	27 ±×57	FH1814	156	40 ±×33	>F I 157
1814	30 ±×	FH1813	157	46 ±×68	<F I 156
1815	41×32×43		158	55 ±×55	F I 159
211	30×25×26		159	35 ±×42	F I 158
212	32×28×35		1510	35×32×47	
213	35×28×40		1511	44×41×43	
214	22×21×19		1512	59×55×77	
215	38×30×21		1513	31 ±×33	>F I 1514

— 西 田 遺 跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
F I 1514	32 ± 45	<F I 1513	F J 183	33 ± 23	>F J 181
1515	32 × 24 × 41		187	46 ± 45	>F J 182 F J 18pit 5
181	46 × 39 × 38		188	42 × 39 × 35	
182	51 × 45 × 82		F J 18住 pit 2	31 × 24 × 17	
183	27 × 25 × 30		pit 3	16 ± 21	F J 182 F J 187
184	43 × 41 × 9		pit 5	53 ± 11	<F J 187
185	40 × 35 × 38		pit 6	82 ± 14	F J 155
186	37 × 32 × 26		GA 091	50 ± 16	<GA 092
187	40 × 36 × 16		092	34 ± 20	>GA 091
188	40 × 35 × 54		125	40 × 30 × 52	
189	43 × 38 × 35		E 群		
1810	55 ± 60	>F I 1811	F I 21住 pit 3		
1811	40 ± 22	<F I 1810	F I 215	101 × 77 × 50	
1812	41 × 34 × 27		216	86 ± 60	>F J 212
211	24 × 22 × 38		F J 18住 pit 4	26 × 23 × 38	
212	29 × 27 × 15		F J 153	73 ± 64	>F J 153-(1)・(F J 153)-(2)
213	30 ± 14		153-(1)	27 ± 44	<F J 153
214	32 × 30 × 59		(2)	22 ± 26	>F J 153
216		F J 212	158	39 ± 48	<F J 159・F J 18住 pit 1
21住 pit 1			159	31 ± 52	>F J 158・F J 18住 pit 1
2			F J 18住 pit 1	16 × 10 × 32	>F J 158・F J 159
F J 068			184	49 × 43 × 43	
091	33 ± 15		185	31 × 21 × 34	
092	48 × 35 × 43		186	34 × 29 × 46	
093	25 ± 18	>F J 094	189	47 ± 41	>F J 1810
094	20 ± 14	<F J 093	1810	94 ± 44	<F J 189
095	20 × 18 × 22		211	80 × 72 × 50	
096	21 × 20 × 20		212	20 ± 87	<F I 216
098			GA 093	29 ± 26	<GA 094
099			094	24 ± 15	>GA 093
121	24 ± 28		124	22 ± 23	
122	31 × 27 × 41		126	31 × 28 × 17	
123	22 × 17 × 29		1210	52 × 33 × 15	
124	37 × 32 × 57		154	28 × 22 × 29	
125	40 ± 22	>F J 127	155	40 ± 15	
126	35 ± 37		156	29 × 26 × 23	
127	28 ± 43	<F J 125	157	25 × 21 × 31	
128	27 × 22 × 28		158	45 × 40 × 36	
129	27 × 24 × 32		159	27 × 23 × 29	
1210	37 × 30 × 10		1515	58 × 52 × 22	
151	35 × 27 × 46		1516	60 × 40 × 55	
152	20 × 15 × 13		181	85 ± 50	<GA 183
154	39 × 24 × 48		182	82 × 66 × 64	
155	24 ± 13	F J 18住 pit 6	183	104 ± 32	>GA 184・GA 181・GA 186・ GA 185・GA 2113
156	66 ± 71		184	39 ± 23	<GA 183
157	30 ± 28	F J 156	185	32 ± 45	<GA 183・GA 186・GA 2113
1510	25 × 19 × 40		186	38 ± 40	>GA 185
181	37 ± 47	<F J 183	187	30 × 27 × 28	
182	70 ± 85	<F J 187 F J 18住 pit 3			

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	
GA 211	36×31×48	<GA2110<GA2114	GC 184	38×34×54	>GC214 >GC214 <GC211 GC212	
2110	74±×43		185	36×34×50		
2111	48×44×51		186	47×41×35		
2112	56×44×31		187	37×31×17		
2113	35±×16		<GA183>GA185	188		58×35×60
2114	32±×49		<GA2110>GA211	189		63×58×28
GB 123	31×29×30			211		46±×49
151	27×25×23			212		45±×76
152	32×31×12			213		50×52×46
153	27×23×29			214		57±
154	35×27×40			GD 211		43×34×13
155	40×30×10			212		33×31×21
156	20±×15		>GB157	213		48×42×46
157	26±×30		<GB156	214		41×34×22
158	31±×27	>GB159				
159	45±×49	<GB158	F 群			
1510	45×36×33		GC 123	27±×12	GC124	
1511	26×25×20		GD 121	30±×17	GD127	
1512	36×30×15		122	29×22×19		
1513	30×29×18		127	30±×21	GD121	
1514	23×20×26		128	25×22×16		
181	30×29×26		151	27×24×16		
182	24×23×15		152	35×34×28		
183	38×36×27		153	22×21×27		
184	55×35×14		155	37×33×15	GD156	
185	39×39×17		156	31×26×17	GD155	
186	70×58×25		157	45×34×13		
187	79±×50	<GB188	158	35×32×45	GD159	
188	40±×47	>GB187	159	30×26×14	GD158	
189	66±×58	GB187 GB1810	1510	29×27×33		
1810	33±×28	GB187 GB189	1511	31×27×43		
211	27×25×12		181	41±×54	<GD182	
212			182	38±×25	>GD181	
213	41×35×24		183	34×25×20		
214	56±×56	<GB215	184	36×34×24		
215	50±×37	>GB214	185	35×30×20		
216	36×34×18		186	38×34×48		
GC 092	34×31×12		187	49×34×20		
151	32×29×17		188	40±×49		
152	44×40×30		215	66×58×61		
153	43×38×18		216	69×53×39		
154	42±×45		217	77×65×25		
155	35×25×29		219	40×29×21		
156	27±×36		2110	39×34×26		
157	27±×36	>GC158	GE 121	33±×40	GE122	
158	27±×36	<GC157	122	95±×23	GE121 GE124	
181	26±×52	>GC182	124	20±×48	GE122	
182	46±×34	<GC181	125	26×22×18		
183	33×27×20		151	33±×15	<GE155	

一 西 田 遺 跡 一

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重 複 関 係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重 複 関 係
GE 152	35 ± × 18		GF 2110	53 ± × 38	>GF 21住柱穴 1
153	33 × 27 × 18		GF 21住柱穴 1	28 ± × 44	<GF 2110
154	31 × 28 × 19		GF 21住柱穴 4	28 × 24 × 36	
155	30 ± × 7	>GE 151	2111	48 × 42 × 26	
156	37 × 36 × 22		2112	35 ±	GF 2113
157	26 × 24 × 17		2113	55 ±	GF 219 GF 2112
158	50 ± × 45	<GE 1811	GG 185	20 × 19 × 32	
159	28 × 27 × 15		186	37 × 32 × 17	
1510	35 × 32 × 30		1811	39 × 26 × 27	
1512	26 × 24 × 15		1813	29 × 26 × 18	
1513	27 × 24 × 25		211	32 × 23 × 32	
1514	32 × 28 × 20		212	27 × 23 × 16	
1515	35 ± × 35		213	28 × 21 × 14	
181	31 × 26 × 31		214	26 ± × 14	<GG 215
182	50 × 37 × 28		215	29 ± × 13	>GG 214
183	18 ± × 15		216	66 ± × 46	>柱穴 3
184	85 × 45 × 28		柱穴 3	× 44	GG 216
185	25 ± × 14		217	31 × 27 × 22	
186	31 × 26 × 26		GH 211	31 × 24 × 12	
187	46 × 30 × 36	GE 189	G 群		
188	32 × 27 × 17		GE 065		
1810	29 × 25 × 15		066		
1811	52 ± × 28	GE 158	067	27 × 25 × 16	
1812	28 ± × 14	<GE 1813	093		
1813	24 ± × 32	>GE 1812	094		
1814	20 ± × 17	GE 1812	095		
1815	25 ± × 4		GF 037	25 × 24 × 20	
212	36 ± × 52	>GE 213	063	43 × 37 × 37	
213	48 ± × 67	<GE 212	095	35 × 32 × 29	
214	57 × 46 × 50		096	39 × 37 × 26	
215	73 × 60 × 45		121	46 × 35 × 22	
216	36 × 33 × 19		122	33 × 31 × 25	
217	28 × 23 × 15		123	50 × 42 × 57	
GF 181	52 × 44 × 35		125	48 × 30 × 19	
182	41 ± × 32	<GF 188	151	52 × 45 × 28	
183	46 × 26 × 50		152	38 × 35 × 60	
184	35 × 30 × 14		153	35 ± × 22	
185	39 × 37 × 17		154	32 × 33 × 21	
186	25 × 21 × 41		GG 031	43 × 38 × 35	
187	27 × 24 × 20		032	32 × 27 × 32	
188	31 ± × 25	>GF 182	033	26 × 24 × 13	
211	20 ±	GF 212	034	40 × 33 × 17	
212	36 ± × 31	>GF 214・GF 211・GF 217	035	50 ± × 51	
214	38 ±	<GF 212	036	19 × 17 × 17	
215	48 ± × 45	<GF 21住柱穴 2 GG 214	037	20 × 16 × 12	
GF 21住柱穴 2	26 ± × 41	<GF 215	061	46 × 42 × 15	
217	37 ± × 31	GF 212	062	30 ± × 19	GG 064
218	47 × 36 × 37		063	44 × 40 × 43	
219	30 ±	GF 2113			

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
GG 064	31 ± × 33	GG062	GH 038	44 × 40 × 10	
065	36 × 30 × 20		039	50 × 44 × 32	
066	31 × 26 × 13		061	62 ± × 34	>GH062
067			062	45 ± × 29	<GH061
068	32 ± × 18	<GH0612	063	45 ± × 21	>GH0611
091		>GG093	064	30 ± × 15	<GH065
092	45 × 43 × 52		065	40 ± × 42	<GH064
093		<GG091 <GG121	066	42 ± × 37	
094	58 × 48 × 40		067	56 × 40 × 28	
095	29 × 28 × 23		068	40 × 35 × 37	
096	40 ± × 37	>GH097	069	36 × 29 × 31	
097	44 ± × 36	<GH096	091	67 × 59 × 51	
098			092	86 ± × 65	>GH093
121		>GG091 >GG093	093	57 ± × 71	<GH092
122	47 × 20 × 18		094	47 ± × 41	GH098
123	60 ± × 47	<GG124	095	60 × 50 × 40	
124	60 ± × 32	>GG123	096	45 × 38 × 47	
125	65 × 27 × 55		098	51 ± × 68	GH094
126			121	68 × 76 × 65	
127	56 ± × 26	GG128	122	58 ± × 69	>GH123
128	29 ± × 45	GG127	123	60 ± × 58	<GH122・<GH124
151	35 ± × 46		124	28 ± × 35	>GH124
153	27 × 23 × 25		125	36 ± × 28	
154	45 × 40 × 15		126	34 × 28 × 31	
155	42 ± × 35	<GG156	128	34 × 29 × 31	
156	43 ± × 21	>GG155	151	65 × 61 × 74	
157	31 ± × 32		152	51 × 49 × 53	
158	73 × 61 × 64		153	62 × 56 × 62	
181	44 × 37 × 54		154	38 × 34 × 26	
182	34 × 31 × 23		155	50 × 43 × 41	
183	37 × 33 × 19		156	55 × 48 × 80	
184	29 × 25 × 15		157	60 × 31 × 57	
187	35 × 31 × 18		158	61 ± × 34	>GH159 GH1510
188	44 × 40 × 56		159	20 ± × 26	<GH158 GH1510
501	25 × 22 × 10		181	26 × 20 × 26	
502	45 ± × 20	>GG503	182	63 ± × 51	GH183
503	33 ± × 31	<GG502	183	34 ± × 42	GH182
505	33 × 30 × 24		184	58 × 50 × 36	
506	30 × 27 × 21		185	28 × 23 × 38	
507	30 × 26 × 10		186	56 ± × 38	>GH187
508	30 × 25 × 19		187	70 ± × 43	<GH186
509	33 × 30 × 13		0610	45 × 40 × 48	
GH 031	28 ± × 29	GH034 >GH032	0611	23 ± × 37	<GH063
032	55 ± × 39	<GH031・GH034	0612	27 ± × 10	>GG068
033	29 × 24 × 24		0613	37 × 32 × 28	
034	36 ± × 17	GH031 GH032	0614	50 × 42 × 35	
035	38 × 30 × 30		1510	40 ± × 29	>GH158
036	26 × 25 × 31		1511	30 × 26 × 15	
037	35 × 31 × 30		211	29 × 24 × 11	

— 西田遺跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	
GH	561		G J	151		
	562			152		
	563			153		
	564	GH566		154		
	565			181		
	566	GH564		182		
	G I	091			183	
		092			184	
		093		<G I 096		
		095				
096		>G I 093				
099						
121						
122						
123		>G I 1211				
124		>G I 125				
125	<G I 124・>G I 126					
126	>G I 128・<G I 125					
127	>G I 151					
128	<G I 126					
129	<G I 151					
151	>G I 129・<G I 127					
152						
153	>G I 1511					
154	<G I 1510					
155						
156	G I 158					
157						
158	G I 156					
182						
183	G I 185・G I 184・G I 186					
184	G I 185・G I 183					
185	G I 183・G I 184					
186	G I 183					
211						
0615						
1210						
1211	<G I 123					
1510	>G I 154					
1511	<G I 153					
1513						
G J	091		H 群	G I	031	
	092				032	
	093				033	
	121				034	
	122				035	
	123				036	
	124				037	
	125				038	
					039	
					061	
		062				
		063				
		064				
		065				
		066				
		067				
		068				
		0310				
		0311				
		0312				
		0610				
		0611				
		0612				
		0613				
		0614				
		0616				
		0617				
		094				
		097				
		G J				
		031				
		032				
		033				
		034				
		035				
		036				
		037				
		061				
		062				
		063				

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
G J 064	49 ± × 59		G I 532	55 ± × 62	<G I 533
065	55 × 40 × 37		533	52 ± × 55	>G I 532 >G I 534
066	40 ± × 43	>G J 069	534	58 ± × 77	<G I 533 >G I 535
067	26 × 24 × 37		535	65 ± × 81	<G I 534
068	41 ± × 29	>G J 0611	536	53 ± × 30	G I 5316 G I 5312 G I 538
069	54 ± × 20	<G J 066 G J 0610	537	47 ± × 43	<G I 5313
0310	53 × 45 × 54		538	23 ± × 65	G I 5313 G I 5311 G I 5312 G I 536
0610	20 ± × 31	G J 069	539	25 ± × 38	<G I 5310
0611	61 ± × 105	<G J 068 • <G J 0612	5310	50 ± × 49	>G I 539
0612	24 ± × 45	>G J 0611	5311	54 ± × 64	G I 5313 G I 538 <G I 5312
0613	45 ± × 45	<G I 068 G I 0616	5312	59 ± × 41	>G I 5311 G I 538 G I 536
HA 031	58 × 54 × 72		5313	44 ± × 47	>G I 537 G I 538 G I 5311
032	46 ± × 65		5314	25 ± × 22	
061	48 × 39 × 42		5315	28 × 21 × 12	
062	40 × 32 × 40		5316	23 ± × 27	G I 536
063	43 × 50 × 50		5317	20 × 24 × 13	
091	73 × 61 × 82		561	63 × 69 × 66	
092	47 × 37 × 46		562	57 × 48 × 66	
HB 061	33 ± × 27	HB 062	566	52 × 49 × 55	
062	51 ± × 36	HB 061	568	23 × 21 × 25	
063	101 ± × 42	HB 064	569	28 × 21 × 25	
064	40 ± × 29	HB 063	5610	68 × 62 × 66	
HC 061	33 × 32 × 38		5611	56 × 44 × 35	
I 群			G J 038	58 × 55 × 71	
GG 532	24 × 22 × 21		039	29 × 31 × 16	
535	23 × 22 × 14		0311	62 × 57 × 66	
565	25 ± × 30		501	77 ± × 86	>G J 502 G J 509
GH 501	33 × 32 × 21		502	65 ± × 85	<G J 509 G J 501
502	23 × 20 × 24		503	49 × 45 × 25	
503	50 ± × 72	G I 501	504	65 ± × 91	G J 5010
531	23 × 20 × 21		505	47 ± × 46	<G J 508
532	34 × 25 × 21		506	50 ± × 59	<G J 508
533	25 × 22 × 30		507	105 × 90 × 62	
G I 501	49 ± × 75	GH 503	508	66 ± × 37	
502	80 ± × 69	G I 503 • >G I 5011	509	70 ± × 79	G J 5011 G J 501 G J 501
503	47 ± × 52	G I 502	5010	22 ± × 44	G J 504
504	52 ± × 24	>G I 5011	5011	45 ± × 62	G J 509
505	62 ± × 44	<G I 506	5013	40 × 35 × 20	
506	33 ± × 31	>G I 505 G I 5014	531	68 ± × 76	G J 535 G J 538
507	34 × 32 × 29		532	78 ± × 71	G J 535 G J 539
508	46 ± × 54	>G I 5012 G I 5010 >G I 509	533	37 × 30 × 32	
509	80 ± × 28	G I 5010 <G I 508 G I 5012	534	55 ± × 42	<G J 537
5010	33 ± × 32		535	85 ± × 77	<G J 531 G J 532
5011	30 ± × 35	<G I 502 <G I 504	536	43 × 31 × 44	
5012	472 × 71	<G I 508 >G I 509	537	53 ± × 42	>G J 534
5013	72 × 64 × 75		538	47 ± × 45	G J 531
5014	45 ± × 41	G I 506	539	31 ± × 23	<G J 532
531	45 ± × 37	5310	561	90 ± × 78	<G J 562
			562	82 ± × 83	>G J 561